平成三〇年度　学　修　要　項

福岡大学医学部医学科

福　岡　大　学

七　隈　校　舎・	福岡市城南区七隈8－19－1	☎(092)871－6631㈹	〒814－0180
医　学　部・	福岡市城南区七隈7－45－1	☎(092)801－1011㈹	〒814－0180
福岡大学病院・	福岡市城南区七隈7－45－1	☎(092)801－1011㈹	〒814－0180
福岡大学筑紫病院・	筑紫野市俗明院1－1－1	☎(092)921－1011㈹	〒818－8502
福岡大学博多駅クリニック・	福岡市博多区博多駅中央街9－1 KITTE 博多８階	☎(092)435－1011	〒812－0012
附属大濠中学校・	福岡市中央区六本松1－12－1	☎(092)712－5828㈹	〒810－0044
附属大濠高等学校・	福岡市中央区六本松1－12－1	☎(092)771－0731㈹	〒810－0044
附属若葉高等学校・	福岡市中央区荒戸3－4－62	☎(092)771－1981㈹	〒810－0062
東京事務所・	東京都港区虎ノ門2－9－14 郵政福祉虎ノ門第1ビル4階	☎(03)3501－6629	〒105－0001

平成30年度

学　修　要　項

福岡大学医学部医学科

平成30年度

学　修　要　項

授業時間表

全学部	1時限	9：00～10：30
	2時限	10：40～12：10
	3時限	13：00～14：30
	4時限	14：40～16：10
	5時限	16：20～17：50
	6時限	18：00～19：30

福　岡　大　学

目　　次

学生便覧（規程集） …… 1
授業時間割 …… 17
平成30年度学費等納入金表 …… 22
オフィス・アワー …… 23

第１学年講義要目
解剖学Ⅰ …… 27
医学概論Ⅰ …… 32
医学概論Ⅰ（研究室配属） …… 35
生化学 …… 38
医学入門 …… 47
医学生のための生命科学 …… 50
医学概論Ⅱ …… 53
医学概論Ⅱ（看護・BSL実習） …… 55
医学概論Ⅱ（心肺蘇生実習） …… 57
医学概論Ⅱ（研究室紹介） …… 59

第２学年講義要目
組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学 …… 63
免疫学 …… 69
一般・神経生理学 …… 73
グローバル人材演習 …… 79
生化学実習・演習 …… 82
解剖学Ⅱ …… 85
微生物学 …… 91
臓器・病態生理学 …… 98
組織細胞生物学各論 …… 105
寄生虫学 …… 110
臨床医学入門Ⅰ …… 113
薬理学Ⅰ …… 115
研究室配属 …… 118

第３学年講義要目
薬理学Ⅱ …… 123
病理学総論 …… 129
公衆衛生学 …… 134
臨床医学入門Ⅱ …… 141
臨床医学入門Ⅱ（地域医療体験・BSL実習） …… 145
内分泌・代謝病学 …… 148
病理学各論 …… 153
放射線科学 …… 161
呼吸器病学 …… 164
消化器病学 …… 167
腎臓・膠原病学 …… 173
皮膚科学 …… 176
眼科学 …… 179
感染症学 …… 182
形成外科学 …… 187
歯科口腔外科学 …… 189

第４学年講義要目
脳神経病学 …… 195
精神医学 …… 201
医療情報社会学 …… 208
法医学 …… 211
CBT演習 …… 215
循環器病学 …… 218
麻酔科学 …… 221
泌尿器科学 …… 223
検査診断学 …… 227
耳鼻咽喉科学 …… 229
救命救急医学 …… 232
症候・病態学演習 …… 235
産科婦人科学 …… 239
小児医学 …… 245
腫瘍・輸血・血液学 …… 249
再生・移植医学 …… 255
整形外科学 …… 257
臨床修練入門（診断学実習概説） …… 263
臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習） …… 267
臨床修練入門（BSL） …… 269

第５学年講義要目
臨床修練Ⅰ …… 273
統合講義 …… 274

第６学年講義要目
臨床修練Ⅱ …… 281
領域別集中講義Ⅰ …… 286
領域別集中講義Ⅱ …… 296
領域別集中講義Ⅲ …… 304
総合講義 …… 321

研究室配属集合場所
講義予定表

医師になる君たちへ

医学部長　朔　　啓二郎

「学は道にいたる門なり。此門をとをりて道にいたる也。しかれば学は門なり、家にあらず」。

上記文は柳生宗矩の兵法家伝書にある名言ですが、これがアカデミアの世界だと以前より感じています。医学生の時期は知的社会への登竜門です。成長のためのハードルを無理なく越えるために、一般的、普遍的、常識的内容を感知して、教養を身につけていく、まさにその時なのです。医師になる実感を持つ、また、その気持ちを涵養する時です。医学は大変幅が広く、且つ専門性が要求される学問です。従って、良い医師（良医）とは何ぞやとの質問に誰も直ぐに答えられません。また、個々人の目標やゴールのセットアップによって大きな違いが生まれます。近年、医療にも様々な職種が創出されています。この多様化された社会で、皆さんは、すべての分野を広く浅く、しかも確実な知識でもって判断する必要があります。基礎医学から臨床医学、地域医療から最先端医療、大きな枠組みで確実な知識と実践が求められているのです。従って、全体を大雑把に見渡せる感覚やベストワンの選択肢を選ぶ能力が必要になってきます。

６年間の学部生活で何を目標にするか、ただ単にカリキュラムをこなして卒業して国家試験に合格する、これは最低の条件であって、付加価値をどこにどう存在させるかを考えてください。教育を受け、資格を獲得するための受動的６年間でなく、active な医学生を目指してください。そのような学習態度を引き出すには、学問や自然・生命に対する敬意・畏敬の念を常に感じ学習することです。このことを忘れないようにしてください。基本的な理解や確実な知識からしか疑問は生じてこないし、疑問がなければヒトは進化しません。疑問を感じずに丸暗記の一人学問は必要ない、時代遅れの手法です。

今からの社会は、どこにいても試されます。常に小テストを受ける感覚、また学年の終わりには、各科試験、Ｍ４での共用試験［Computer Based Testing: CBT、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE)］、Ｍ５からの診療参加型臨床実習（Clinical Clerkship)、Ｍ６での卒業のための領域別集中講義試験、卒業時 OSCE（Post Clinical Clerkship OSCE: Post-CC OSCE)、総合試験、模擬試験等があります。しかし、そのストレスをはねのける力を養ってください。いつも試されているといった態度で学問に臨んでください。私たち教員も、臨場感のある生命や医学の実践的教育を目指します。医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実など、常に改革しています。医学教育カリキュラムは、教員と学生、お互いのコミュニケーションが重要です。また、グループ学習や多職種連携を通してヒトと交わることによって得られる多くのものを医学生に要求しています。一人での知識や勉学では得られないアートの世界が求められていることを理解してください。医学科のカリキュラムは、医学教育ワークショップ、カリキュラム検討委員会、医師国家試験対策、学生班別会議、医学教育検討委員会、教務委員会および全体会議を通して話し合われ、良医の育成に向け、体系的かつ段階的な教育カリキュラムの編成を行っています。アウトカム基盤型教育を取り入れ、「FU-RIGHT」プロジェクトがスタートしたばかりです。［FU-RIGHT: Relationship, Intelligence, Gentleness, Health, Teaching を学修成果として、頭文字をとって FU（福岡大学）–RIGHT とニックネームをつけました］。カリキュラム実施方針の適切性は、毎回の教務委員会および医学科教授会議で確認し、卒業評価判定に関しても様々な検証をしています。また、父兄会、父兄後援会等を通して、皆さんのご父兄にも連絡をしています。

福岡大学医学部の学生諸君には、命の大切さを学ぶ精神を基軸に、礼節をもって、努力することを望んでいます。医師になる君たちへ、医学生としての右肩上がりの成長を期待しています。

福岡大学の医学教育理念と
カリキュラム

教務委員　髙　松　　泰

福岡大学医学部は、「人間性豊かな臨床医の育成」「地域社会への医療奉仕」「重点的総合研究体系の確立」という理念のもとに1972年に設立されました。医学科ではこの理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを教育の目的としています。

これらの目的を達成するためには学生自身が病める人と共にある医師像について常に考え、医師になるという明確な目的意識を持って学生生活を送る事が大切です。

医師には医学知識はもとより、患者中心の医療の実践、信頼される人間関係を構築する能力、課題探求・解決能力、安全性への配慮などが求められています。

このような社会の要請に対して本学科では、６年一貫の学部教育を大きく一般教養教育・臨床前医学教育（基礎医学・社会医学・臨床医学)･ 臨床実習の３期間に分けています。

第１学年では一般教養科目の修得と並行して、専門教育の導入が行なわれます。医学入門において医学を学ぶにあたって必要な基本姿勢や、将来医師になった場合の心構えや医療現場での様々の課題について、その多面性・社会性について理解し、将来医療人になるための使命感を醸成していきます。また、医学概論Ⅰ／Ⅱで、コミュニケーション能力の向上や生命倫理、医療情報などに関する基本事項を学びます。さらに、医学・医療をより深く考え、積極的に学習する意欲・専門医学学修能力を培うことを目的に、基礎研究室配属、看護実習、心肺蘇生実習など臨床現場体験を実施しています。また、第１学年から基礎医学（解剖学、生化学）の先取り学習を導入し、第２学年以降の専門基礎医学教育への橋渡しとします。

第２学年および第３学年前半で学ぶ基礎医学科目は、将来どのような分野に進むにしろ必須の学問です。医学は一つ一つ知識の積み重ねであり、基礎医学の知識のないところに臨床医学を積み上げることは出来ません。科学の進歩を受けて、基礎医学の内容は膨大且つ高度でありますので、授業時間内に集中して理解することは最も効果的な学習方法です。「学修要項」の該当する項目やキーワードに予め目を通し、余裕を持って授業に参加するなど心がけて下さい。また第２学年のグローバル人材演習では、医師に求められる英語力の修得のため、医学英語の基礎を e-learning により学びます。

第２学年の基礎医学科目内で実施される PBL テュートリアルでは、自ら問題を発見し、自己学習とグループ討論により問題を解決する能力、将来の基礎医学・社会医学の若い担い手の萌芽的育成を目指しています。平成29年度から、約1ヶ月間、医学部内の各研究室に配属され、研究の楽しさを学ぶことにより、リサーチマインドの養成をめざします。

第３学年の前半ではいよいよ臨床医学の入門講義としての地域医療体験・看護実習などの実習も始まります。第３学年後半および第４学年にわたる臨床医学科目は、臓器別統合講義が取り入れられています。臨床科目と基礎科目の有機的統合、臓器・機能別集中配置などにより、より効率よく

修得ができるようにカリキュラムが工夫されています。この時期に第３学年前半までに学習した内容をよく復習し、併せて疾病の病態生理を十分に理解しておくことが重要であり、これらの知識が第５学年における臨床実習の効果を大きく左右します。
　臨床医学入門Ⅱでは臨床実習に備えて、第３学年から医療面接や診断学などの臨床技能教育を取り入れています。

　第４学年終了時には、２つの全国共用試験、すなわちコンピュータを用いた総合的知識を評価する試験であるシービーティー（CBT；Computer Based Testing）と基本的診療能力と態度を評価する客観的臨床能力試験のオスキー（OSCE；Objective Structured Clinical Examination）とにより臨床実習に必要な知識・技能・態度が備わっているかどうかを判定します。この２つの試験に合格するとStudent Doctorとして病棟実習をすることが可能となり、学年末よりクリニカルクラークシップが開始されます。

　第５学年の48週はクリニカルクラークシップ（診療参加型臨床修練）が実施され、病棟、外来、検査室などで直接診療にチームの一員として参加することにより、基本的診療技能・患者中心の視点に立脚した医療態度・問題解決能力・コミュニケーション能力を習得します。また、統合講義では基礎と臨床の教室が、一コマの授業枠で協力して講義を行うことにより今までの系統講義で学んだ知識やクリニカルクラークシップを通じて得た医療現場の知識を統合的に整理・理解してもらうことが可能となります。

　第６学年では、領域別集中講義と選択性クリニカルクラークシップで基礎から臨床医学までの医学知識と技能の総仕上げを行います。領域別集中講義には、実力を自己評価するために国家試験形式での客観試験が実施されます。選択性クリニカルクラークシップは希望診療科での15週間のクリニカルクラークシップを原則とし、チーム医療に加わることで第５学年よりもさらに主体的に診療に参加して学びます。

　医師国家試験は医師法９条に基づいて、医師として医療に第一歩を踏み出すに際し、卒業時に具有すべき医学及び公衆衛生に関する知識・技能について行われます。また将来、医学・医療を自主的に学び続ける能力を判断するものであり、自分自身の力で越えなければならない関門であります。このことを少しでも早く自覚して計画的に学習を進めることが重要です。講義や実習に積極的に参加して、知識を総括し、整理しましょう。また、図書館、自習室、医学情報センターの資料、あるいは視聴覚教育システムなどを大いに活用し、思う存分学習に徹して下さい。

　進級には、学年制がとられています。もし、実力が学年の評価基準に到達していないと判断された場合や、不正な手段で進級を企てた場合などには、その学年全ての科目を再履修（留年）しなければなりません。

　医師には万人の信頼に値する立派な人格と教養が望まれます。この６年間に教師との豊かなふれあいや友人達との絆を通して、人間愛に裏付けられた医学的素養を培い、日進月歩の医学をたゆまず研鑽し続ける事の出来る生涯学習の基本を身に付けて、希望に満ちた将来への道を着実に歩んで欲しいと思います。

学修要項について

学修要項は福岡大学医学部医学科における６年間の学部教育の基本を示したものです。

最初に医学部長からのメッセージ、医学教育の理念とともに、大学学則・履修規程・成績考査規程のうちから医学科に関連した部分の抜粋が記載されています。引き続き、全学年の年間を通じた授業科目の配置が表示されています。更に学年毎に履修する総ての科目について、担当教員、到達目標、コンピテンシー、学習方略・事前事後学習の方法、成績評価および方法、教科書及び参考書が示されています。

Ⅰ　担当教員名

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome)

到達目標は、その科目を学ぶにあたり、期待される成果や到達すべき目標を概念的に示したものです。これにより学年全体のカリキュラムの中で、どのような位置を占める科目であるかが判るでしょう。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

コンピテンシーは到達目標を達成するために修得すべき具体的な内容、つまりその科目を修得すれば学習者は「何が出来るようになるか」という事について記載したものです。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

学習方略は授業がどのような形態、あるいはメディアを使用してなされるかを示したもので、学習者が授業の準備や予習、復習をする際に有用です。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

科目の修得状況をどのように評価するか、到達目標に達しているか否かを判定する方法と基準が示されており、到達度に従って進級判定がなされます。

Ⅵ．教科書

教科書は原則として購入する事が望ましいものをあげています。

Ⅶ．参考書・文献

参考書は図書館などに備えてあるので、判らない点がある場合や、更に詳しく知りたい時に参照して下さい。

科目毎にこれらを確認し、また各講義時間の講義項目やキーワード表を、講義の目次として利用すると授業内容がよく把握できます。

信頼される医師として医学、医療に携わるには、終生にわたる研鑽が必要で、卒前教育はその第一歩です。６年間で、知識・技能・態度を確実に学習出来るように学修要項を有効に使ってください。学修要項の内容はインターネットで医学科ホームページの中の教育・カリキュラムにアクセスすれば見ることができますので活用してください。

FU-RIGHT
卒業時学修成果について

医学教育推進講座　安　元　佐　和

福岡大学医学部医学科では、医学生が卒業時に達成しなければならない学修成果を定めました。これは、福岡大学医学部医学科の教育プログラムを学修成果基盤型医学教育（Outcome-Based Education: OBE）に移行するにあたって設定されたものです。OBE は、医学教育のグローバルスタンダードであり、福岡大学の医学部医学科も、この医学教育の国際基準に合致したプログラムづくりを目指しています。福岡大学医学部医学科の使命は、医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い地域社会に貢献する医師の育成です。

卒業時学修成果は、６つのコンピテンス領域から構成されます。

Ⅰ. プロフェッショナリズム
Ⅱ. 医学的知識
Ⅲ. 診療技術・患者ケア
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力

このⅠ～Ⅵの領域にそれぞれに到達すべきコンピテンシーの細目が挙げられています。（次ページ参照のこと）

OBE は学習者中心の学修プログラムであり、これらのコンピテンスの獲得のため、各科目の到達目標、学習方略が計画され、コンピテンシー到達度の評価法が明記されます。福岡大学医学部医学科の学生が、卒業時の学修成果を達成するためには、学生の能動的な学習への取り組みが必須であり、教員はファシリテーターとして皆さんの学習を支援します。

これからの社会が求める医師は、グローバルな視野を持ち、安全で適切な患者中心の医療を提供できる総合臨床実践能力を持つ必要があります。そのために今後も、教員のみならず医学生、社会からの多くの意見を取り入れ、さらに福岡大学の医学部医学科教育カリキュラムの改善、学習環境の整備を図っていきます。

学生の皆さんが、この学修プログラムに積極的に参加し、学修成果に到達できるよう、より一層の努力をすることを期待しています。

Fukuoka University FU Medicine RIGHT
Relationship Intelligence Gentleness Health Teaching

福岡大学医学部医学科の使命（ミッション）

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学修成果（アウトカム）

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

❶ 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
❷ 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
❸ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
❹ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域（Ⅰ～Ⅵ）ごとのコンピテンシー（43項目）により達成されます。

Ⅰ プロフェッショナリズム

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。

1. 医療者として法的責任、規則を遵守できる。
2. 生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。
3. 他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。
4. 患者の個人情報保護を遵守できる。
5. 多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。
6. 患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。
7. 医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。
8. 患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。

Ⅱ 医学的知識

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。

1. 正常構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理、行動
4. 病因、構造と機能の異常
5. 診断、治療
6. 医療安全
7. 疫学、予防、公衆衛生
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療経済

Ⅲ 診療技術・患者ケア

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。

1. 患者から病歴を的確に聴取できる。
2. 成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。
3. 患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。
4. 診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Based Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。
6. 患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。
7. POS (Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。
8. 患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。

Ⅳ コミュニケーションとチーム医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。

1. 患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。
2. 多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。
3. 他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。
4. 患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。
5. 医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。

Ⅴ グローバルな視野と地域医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。

1. 医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。
2. 地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。
3. 行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。
4. 地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。
5. 海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。
6. 国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。

Ⅵ 科学的探究心と自律学習能力

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

1. 基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。
2. 最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。
3. ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。
4. 未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。
5. 自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。
6. 診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。
7. 学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。

（2017.5.10）

平成30年度　学　　年　　暦

日	曜	4　月
1	日	学年始め　入学式・新入生歓迎会
2	月	1年 ガイダンス（教務・学生部関係） 2～4年 前期授業・試験開始　5年 臨床修練Ⅰ開始 6年 領域別集中講義Ⅰ・試験開始
3	火	1年　制限科目登録 4～6年　男子定期健康診断
4	水	1年　履修登録（WEB） 4～6年　女子定期健康診断
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	1年　前期授業開始
11	水	
12	木	
13	金	6年　領域別集中講義Ⅰ・試験終了
14	土	1年　フレッシュマンキャンプ 5年　統合講義
15	日	
16	月	6年　領域別集中講義Ⅱ・試験開始
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	1年　女子定期健康診断(4/25～27, 5/7～11)
26	木	
27	金	6年　領域別集中講義Ⅱ・試験終了
28	土	
29	日	昭和の日
30	月	1年　休日授業日

日	曜	5　月
1	火	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）開始
2	水	
3	木	憲法記念日
4	金	みどりの日
5	土	こどもの日
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	第47期　新入生歓迎会
11	金	
12	土	1年　授業日（木曜日の授業） 5年　統合講義
13	日	啓明大学派遣（26日まで）
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	2・3年　男子定期健康診断
18	金	2・3年　女子定期健康診断
19	土	
20	日	
21	月	創立記念日
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅰ期）終了
26	土	5年　統合講義
27	日	
28	月	1年　男子定期健康診断（5/28～6/6） 6年　臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）開始
29	火	
30	水	
31	木	

日	曜	6　月
1	金	
2	土	1年　授業日（金曜日の授業）
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	6年　第1回模擬試験
12	火	
13	水	第70回　西医体結団式
14	木	
15	金	
16	土	5年　統合講義
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅱ期）終了
23	土	
24	日	啓明大学受入（7/7まで）
25	月	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）開始
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	6年　父母懇談会

日	曜	7　月
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	海の日 1年　休日授業日
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅲ期）終了
21	土	5年　統合講義 地方父母懇談会（長崎）
22	日	
23	月	3・4年　前期授業・試験終了 6年　臨床修練Ⅱ（Ⅳ期）開始
24	火	3・4年　夏季休業開始
25	水	
26	木	
27	金	2年　前期授業・試験終了
28	土	2年　夏季休業開始
29	日	
30	月	
31	火	

日	曜	8　月
1	水	第70回 西医体（主管校・三重大学）8/17まで
2	木	
3	金	5年　夏季休業前臨床修練Ⅰ終了
4	土	オープンキャンパス 1・5年　夏季休業開始
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	6年　臨床修練Ⅱ（Ⅳ期）終了
11	土	山の日 6年　夏季休業開始
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	4年　夏季休業終了
22	水	4年　後期授業・試験開始
23	木	3年　夏季休業終了 6年　領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）
24	金	3年　後期授業・試験開始
25	土	
26	日	5年　夏季休業終了
27	月	5年　臨床修練Ⅰ再開 2・6年　夏季休業終了
28	火	2年　後期授業・試験開始 6年　領域別集中講義Ⅱ再試験（予定）
29	水	
30	木	6年　Post-CC OSCE
31	金	1年　前期成績発表開始（WEB）

日	曜	9　月
1	土	
2	日	
3	月	1年　医学概論Ⅱ（看護・BSL実習）開始
4	火	6年　第2回模擬試験
5	水	
6	木	
7	金	1年　医学概論Ⅱ（看護・BSL実習）終了
8	土	第49回　医学部長杯争奪ソフトボール大会
9	日	
10	月	6年　領域別集中講義Ⅲ・試験開始
11	火	
12	水	
13	木	1年　夏季休業終了
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	敬老の日 1年　休日授業日
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	秋分の日
24	月	振替休日 1年　休日授業日
25	火	
26	水	医学部愛好会幹部研修会
27	木	
28	金	
29	土	5年　統合講義
30	日	

平成30年度　学　　年　　暦

日	曜	10　　月
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	5年　模擬試験
7	日	
8	月	体育の日
9	火	
10	水	6年 領域別集中講義Ⅲ・試験終了
11	木	
12	金	
13	土	5年　統合講義
14	日	第43回 医学部長杯争奪バレーボール大会
15	月	
16	火	
17	水	6年　領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）
18	木	
19	金	
20	土	第45回慰霊祭
21	日	
22	月	6年　総合講義
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	5年　統合講義
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

日	曜	11　　月
1	木	
2	金	第38回　医学祭（5日まで）
3	土	文化の日
4	日	
5	月	
6	火	6年　第3回模擬試験
7	水	
8	木	4年　CBT ネット模試
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	父母後援会総会 入学試験（附属推薦） 5年　統合講義
18	日	
19	月	
20	火	6年　総合試験Ⅰ
21	水	
22	木	
23	金	勤労感謝の日 1年　休日授業日
24	土	
25	日	入学試験（A方式・地域枠推薦）
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	

日	曜	12　　月
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	6年　成績発表1
7	金	
8	土	5年　統合講義
9	日	
10	月	6年　総合試験Ⅱ
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	M4　CBT
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	西医体福大支部総会
20	木	6年　成績発表2
21	金	2,3年　冬季休業前授業終了 5年　冬期休業前臨床修練Ⅰ終了 6年　冬期休業開始
22	土	2・3・5年　冬期休業開始
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日 1年　休日授業日
25	火	4年　冬季休業前授業終了 4年　成績発表1
26	水	1年　冬季休業前授業終了 4年　冬期休業開始
27	木	1年　冬期休業開始
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

日	曜	1　　月
1	火	元旦
2	水	
3	木	
4	金	1年　冬季休業終了
5	土	
6	日	2・4・5年　冬季休業終了
7	月	2年 後期授業・試験再開 3・6年 冬期休業終了　4年 追・再試験開始 5年 臨床修練Ⅰ再開
8	火	3年　後期授業・試験再開 6年　第4回模擬試験
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	5年　統合講義
13	日	
14	月	成人の日
15	火	
16	水	1年　後期授業終了
17	木	1年　後期試験開始
18	金	4年　追・再試験終了
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	5年　統合講義
27	日	
28	月	3年　後期授業・試験終了
29	火	1年　後期試験終了
30	水	
31	木	

日	曜	2　　月
1	金	
2	土	入学試験（系統別）
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	4年 OSCE / 2年 体験 2年 後期授業・試験終了
8	金	
9	土	第113回医師国家試験（予定）
10	日	
11	月	建国記念の日
12	火	
13	水	
14	木	入学試験（面接）
15	金	1年　後期成績発表1 2・3年　成績発表1 4年　成績発表2
16	土	2・3年　追・再試験開始 1年　追・再試験開始 （2/16～22　医学科専門教育科目 2/23～2/28　共通教育科目）
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	5年　BSL 試験
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	1年　追・再試験終了

日	曜	3　　月
1	金	
2	土	
3	日	
4	月	2・3年　追・再試験終了
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	臨床修練Ⅰ開始前ガイダンス Student Doctor・白衣授与式
10	日	
11	月	4年　BSL 開始
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	1年　後期成績発表2（WEB） 2・3年　成績発表2 5年　成績発表
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	卒業式・謝恩会
20	水	
21	木	春分の日
22	金	5年　臨床修練Ⅰ終了
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	次年度ガイダンス（予定）
29	金	4年　BSL 終了
30	土	
31	日	学年終了

学生便覧（規程集）

福岡大学学則（抜粋）

第１章　総　　則

第１節　目　　的

第１条　本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の規定に基づき、人文、法律、経済、商学、理学、工学、医学、薬学及びスポーツ科学に関する専門的研究及び教授を行い、学識深く教養高き人材を養成することを目的とする。

２　第２条第１項に定める各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

⑻　医学部は、人間性に富み高度な知識と技能を備えた人材を育成し、地域社会の多様なニーズに応え、医療・看護を通して人類の福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、医療専門職としての豊かな教養と高い倫理観を有し、生命の尊厳に基づいた患者中心の医療・看護を実践できる医療人及び高度な専門的知識により広く医学・看護学の発展に貢献できる研究者を養成することを目的とする。

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

第２節　組 織 等

第２条　本学に人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部及びスポーツ科学部を置く。

２　人文学部に文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科、法学部に法律学科及び経営法学科、経済学部に経済学科及び産業経済学科、商学部に商学科、経営学科及び貿易学科、商学部第二部に商学科、理学部に応用数学科、物理科学科、化学科及び地球圏科学科、工学部に機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科及び建築学科、医学部に医学科及び看護学科、薬学部に薬学科、スポーツ科学部にスポーツ科学科及び健康運動科学科を置く。

第10条　本学の医学部に附属病院を置く。

２　附属病院に関する規程は、別にこれを定める。

第２章　履　　修

第１節　修業年限、学年、学期及び休業日

第12条　修業年限は、４年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部については、６年とする。

２　学生は、８年を超えて在学することができない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、12年を超えて在学することができない。

３　前項の規定のほか、医学部医学科及び薬学部にあっては、同一学年に在学できる年数は２年を限度とする。ただし、医学部医学科にあって、同一学年に２年在学した後に退学し又は除籍された者が、退学し又は除籍された学年への再入学を許可された場合には、再入学を許可された学年に限り、さらに１年を限度として在学することができる。

第13条　学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第14条　学年を２期に分け、学年の始めから９月13日までを前期とし、９月14日から学年の終わりまでを後期とする。

第15条　休業日は、次のとおりとする。

⑴　日　曜　日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

⑶　春 季 休 業　４月１日から４月７日まで

⑷　夏 季 休 業　８月４日から９月13日まで

⑸　冬 季 休 業　12月27日から翌年１月４日まで

２　学長は、教授会の議を経て前項に定める休業日を変更することができる。

３　第１項に定めるほか、学長は特に必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

４　第１項に定める休業日であっても、教授会が教育上必要と認める場合には、学長は、教務委員会の議を経て、授業を行うことを決定することができる。

第２節　定員、入学、転入学、編入学、転部・転科、留学、休学、退学、除籍、復学及び再入学

第16条　入学を許可する時期は、学年の始めとする。

第25条　学生が病気その他のやむを得ない理由で長期にわたり欠席しようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、休学することができる。ただし、入学年度の前期については、原則として休学することができない。

２　休学の１期間は、当該年度内の前期、後期又は１年間とする。ただし、医学部医学科及び薬学部は、原則として当該年度１年間とする。

３　休学の開始の時期は、前期又は後期の始めとする。

４　休学は、通算して４年を超えることができない。

５　休学期間は、在学期間に算入しない。

第26条　学生が結核性その他感染性の疾患により療養の必要ありと認められるときは、学長は、教授会の議を経て、これに休学を命ずることがある。

第27条　休学している者は、休学期間満了までに復学、休学又は退学のいずれかの所定の手続をしなければならない。

第27条の２　休学している者が復学をしようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、復学することができる。

２　復学の時期は、学期の始めとする。

第28条　学生が退学しようとするときは、その理由を具し、保証人連署をもって、学長に届け出るものとする。ただし、疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

第29条　学長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して除籍を行う。

⑴　授業料等納入金を納入しない者

⑵　成績不振等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当の理由がなく、出席が常でない者

⑷　死亡した者

⑸　休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続きも行わない者

第30条　退学した者が再入学を願い出たときは、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

２　再入学を願い出た者には、必要に応じて学力検査、面接を行う。

３　前２項の規定は、除籍された者が再入学を願い出た場合に、これを準用する。

４　前３項に基づく再入学の取扱いについては、別にこれを定める。

第３節　教　育　課　程

第31条　学部・学科の授業科目及び単位・時間数は、次の表に掲げるとおりとする。

（※印は必修科目、△印は選択必修科目とする。）

医学部医学科

分野		科目	授業科目（単位）
共通教育科目	総合教養科目（109単位）	人文科学	哲学A(2)　哲学B(2)　論理学A(2)　論理学B(2) 倫理学A(2)　倫理学B(2)　宗教学A(2)　宗教学B(2) 日本史A(2)　日本史B(2)　東洋史A(2)　東洋史B(2) 西洋史A(2)　西洋史B(2)　日本文学A(2)　日本文学B(2) 中国文学A(2)　中国文学B(2)　西洋文学A(2)　西洋文学B(2)
		社会科学	法学A(2)　法学B(2)　日本国憲法(2)　政治学A(2) 政治学B(2)　経済学A(2)　経済学B(2)　商学A(2) 商学B(2)　社会学A(2)　社会学B(2)　教育論A(2) 教育論B(2)　地理学A(2)　地理学B(2)　心理学A(2) 心理学B(2)　文化人類学A(2)　文化人類学B(2)
		自然科学	△数学入門(2)　△統計入門(2)　△化学入門(2)　△生体の化学(2) ※化学実験(1)　△物理科学入門(2)　△物理の世界(2)　※物理学実験(1) ※ミクロの生物科学(2)　※マクロの生物科学(2)　※生物学実験(1)
		総合系列科目	地球環境(2)　生命・健康と医療(2)　国際化と日本(2) 科学・技術・情報と社会(2)　文化と教育(2) 現代を生きる(2)
	外国語科目（34単位）	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ(4)　海外英語研修(2) ※インターミディエイト・イングリッシュ(4)
		第2	△ドイツ語Ⅰ(4)　△フランス語Ⅰ(4)　△中国語Ⅰ(4) △朝鮮語Ⅰ(4)　△スペイン語Ⅰ(4)　△ロシア語Ⅰ(4)
	保健体育科目（2単位）		※生涯スポーツ演習(2)
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち医学部教授会が適当と認める科目

分野	科目	授業科目（単位数及び時間数）
専門教育科目 必修 {18単位 4,746時間}		医学概論Ⅰ（3単位）　医学概論Ⅱ（3単位）　医学生のための生命科学（2単位） 医学入門（2単位）　解剖学Ⅰ（4単位）　生化学（4単位） 組織細胞生物学総論・遺伝子・発生学（99時間）　組織細胞生物学各論（60時間）　解剖学Ⅱ（120時間） 一般・神経生理学（75時間）　臓器・病態生理学（111時間）　生化学実習・演習（24時間） 免疫学（48時間）　微生物学（102時間）　寄生虫学（30時間） 研究室配属（142時間）　薬理学Ⅰ（21時間）　臨床医学入門Ⅰ（30時間） グローバル人材演習（39時間）　薬理学Ⅱ（87時間）　呼吸器病学（45時間） 病理学総論（63時間）　病理学各論（111時間）　公衆衛生学（112時間） 臨床医学入門Ⅱ（82時間）　腎臓・膠原病学（42時間）　内分泌・代謝病学（51時間） 消化器病学（84時間）　眼科学（36時間）　皮膚科学（30時間） 放射線科学（30時間）　感染症学（18時間）　歯科口腔外科学（18時間） 形成外科学（18時間）　法医学（49時間）　精神医学（42時間） 産科婦人科学（57時間）　整形外科学（42時間）　小児医学（57時間） 泌尿器科学（33時間）　脳神経病学（60時間）　循環器病学（51時間） 検査診断学（24時間）　麻酔科学（18時間）　救命救急医学（24時間） 症候・病態学演習（55時間）　腫瘍・輸血・血液学（48時間）　医療情報社会学（22時間） 臨床修練入門（232時間）　再生・移植医学（15時間）　耳鼻咽喉科学（36時間） CBT演習（66時間）　臨床修練Ⅰ（1,320時間）　統合講義（18時間） 臨床修練Ⅱ（517時間）　総合講義（22時間）　領域別集中講義Ⅰ（45時間） 領域別集中講義Ⅱ（45時間）　領域別集中講義Ⅲ（120時間）

2　前項に掲げる授業科目のほかに学部留学生の授業科目として日本語（8単位）を置く。

3　第1項のほかに自由履修単位として換算できる授業科目は、次のうちから学部が指定するものとする。

⑴　共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目のうち卒業に必要な単位数を超えて修得した科目

⑵　関連教育科目

⑶　その他、教授会が適当と認める科目

４　第１項及び第２項に掲げる授業科目のほかに随意科目を設けることができる。随意科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

第32条　各授業科目の単位は、次の各基準による。

⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験、実習及び実技等については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　前３号の規定にかかわらず卒業論文、卒業演習、卒業計画等の授業科目については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

２　医学部医学科の専門教育科目については、前項の規定にかかわらず、修得すべき単位に相当する授業時間の履修をもって単位の修得に代えることができる。

第34条

８　医学部医学科の学生は、各学年ごとにその学年の専門教育科目の全科目を修得しなければ次の学年に進級できない。また、第４学年においては、これに加えて全国共用試験（臨床実習開始前の学生評価のための共用試験）において一定以上の成績を修めなければ次の学年に進級できない。

９　医学部各学科の学生が修得しなければならない単位数、時間数は次のとおりとする。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業及び進級に必要な修得単位数に算入しない。

⑴　医学科は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目から６単位以上、自然科学から15単位以上、計21単位以上、外国語科目として第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目として２単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位と4,746時間を修得しなければならない。

第４節　学習修了の認定及び卒業

第35条　各授業科目の学習修了の認定は、試験等によるものとし、成績の評価は60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

２　60点以上の成績の評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。

第36条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

第36条の２　定期試験は、各学期末にこれを行う。ただし、医学部医学科の時間制の授業科目について所定の期日に行う場合も同様に取扱う。

第37条　病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けることのできなかった者に対しては、成績考査規程の定めるところにより追試験を行うことがある。

第37条の３　医学部及び薬学部の学生に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第38条　学士の学位の授与は、本学の人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部看護学科及びスポーツ科学部にあっては４年以上、医学部医学科及び薬学部にあっては６年以上在学し、所定の授業科目を履修して、所定の課程を修め、卒業と認める者に対し、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

２　前項の学位記の様式は別に定め、卒業証書を兼ねるものとする。

第39条　第36条に定める試験の実施及び成績の評価に関する規程は、別にこれを定める。

第５節　賞　　罰

第40条　学業成績並びに品行の特に優秀な者、その他業績顕著な者は、これを表彰することがある。

第41条　本学の規則に違反し、学内の秩序を乱し、又は学生の本分に反する者は、学長が定める手続に基づき、これを懲戒する。

２　前項の規定による懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対してこれを行うことができる。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第６節　授業料その他諸納入金

第42条　学生は、別表Ｉの⑵に定めるところに従い、授業料等納入金を納入しなければならない。

第45条　授業料等納入金は、次のとおり分割して徴収する。ただし、第１期分納入時に全納することを妨げない。

第１期分	毎年４月 30 日まで（ただし、新入生に限り別に定める。）
第２期分	毎年９月 30 日まで

第46条　授業料等納入金を定められた期日までに完納しなかった者は、除籍する。

第47条　授業料等納入金及び受講料に関する細部については、別に定める。

附　則

この学則は、平成30年４月１日から施行する。

福岡大学学科履修規程（抜粋）

第１章　総　　則

第１条　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科目の履修

第２条

８　　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

【医学科】

- ⑴共通教育科目
  - 総合教養科目
    - 人文科学
    - 社会科学
    - 総合系列科目
    - ……６単位以上
    - 自然科学……15単位以上
    - 計21単位以上
  - 外国語科目
    - 第１外国語……８単位
    - 第２外国語……４単位以上
  - 保健体育科目……２単位
- ⑵専門教育科目……18単位と4,746時間
- 総計53単位以上と4,746時間

（注）単位互換科目については、その修得単位数を卒業要件 53 単位以上と 4,746 時間のなかに算入しない。また、進級する場合に必要な修得単位数についても同様とする。

第５条

８　　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。

ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

附　則

この規程は、平成30年４月１日から施行する。

福岡大学成績考査規程（抜粋）

第１条　試験の実施及び成績考査については、学則第35条から第39条までの規定及びこの成績考査規程の定めるところによる。

第２条　試験は、次の各号のいずれかの方法によるものとする。

⑴　試験時に筆記により行うもの

⑵　教務委員会が認めた方法により行うもの

第２条の２　各授業科目の成績は、試験により評価する。ただし、平素の学習状況を考慮することができる。

２　前項本文の規定にかかわらず、教授会等において、演習、演習及び論文、実習、実験、実技その他これに準ずるものと認められた授業科目又はその開講期間内に適正な成績評価を行うことが可能であると認められた授業科目の成績については、試験によらず、これを評価することができる。

３　開講期間が通年の授業科目の成績を評価するときは、各学期の成績を考慮する。

４　合格点の成績評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。ただし、授業料等納入金又は受講料を納入していない者には、単位を与えない。

第３条　次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

⑴　試験を受けようとする科目をその学年において登録していないとき。

⑵　定められた期日までに授業料等納入金及び受講料を完納していないとき。

⑶　受験中に学生証を所持していないとき。

⑷　試験開始後20分以上遅刻したとき。

２　前項の規定により、試験を受けなかった授業科目は無効とする。

第３条の２　医学部医学科の時間制の授業科目については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として試験を受けることができない。

第４条　成績の評価は点数をもってするが、成績通知には評点又は秀(A)、優(B)、良(C)、可(D)、不可(F)、放棄(H)の評語をもってする。

２　成績標語は、次の基準によるものとする。

⑴　秀(A)　100点から90点まで　　⑵　優(B)　89点から80点まで

⑶　良(C)　79点から70点まで　　⑷　可(D)　69点から60点まで

⑸　不可(F)　59点以下　　⑹　放棄(H)　試験放棄

３　可(D)以上を合格とし、不可(F)は不合格とする。

４　第２項に規定する成績評価については、合否のみの成績評価を除き、次の各号に掲げるところに従い所定のGP評点を与える。

⑴　100点から90点まで＝4.0　　⑵　89点から80点まで＝3.0

⑶　79点から70点まで＝2.0　　⑷　69点から60点まで＝1.0

⑸　59点以下及び試験放棄＝0.0

５　履修した各授業科目の単位数にそれぞれの前項で規定するGP評点を乗じ、その総和を総履修単位数で除したものを、GPA評価とする。ただし、本学における授業科目の履修とみなして単位を認定した授業科目については、GPA評価の対象としない。

第５条　受験中に不正行為を行った者に対しては、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目を放棄とみなす。

２　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第５条の２　受験中に答案を持ち出した者に対しては、その受験科目を放棄とみなす。

２　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第６条　病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受験することができなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。

２　追試験の願出は、所定の書式により、病気の場合には医師の診断書を、病気以外のやむを得ない理由の場合には証明書を添え、定期試験終了後５日以内に学生課に提出しなければならない。

第７条　追試験は、定期試験終了後本学が定める日に１回だけ行う。

第８条　追試験を受験した者の評価は、80点を限度とする。ただし、情状によりこの制限を免除し、又は緩和することがある。

第９条　合格点の成績評価を得た科目は再履修することができない。

第10条　授業科目の再履修により合格点を得た場合は、その合格点をもって以前の不合格点に代える。

第11条　追試験の受験料は１科目につき2,000円とする。ただし、情状によりこれを減額又は免除することがある。

２　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

第12条　次の者に対しては、本人の願出により当該年度に受験した定期試験の科目について、学年末に再試験を行うことがある。(⑴～⑶、⑸、⑹省略)

⑷　医学部医学科の学生にして、不合格の成績評価を得た者。ただし、単位制の科目については、15単位以内とする。第３学年及び第４学年の専門教育科目については、その学年の科目数の60％以内とする。(追試験の結果、不合格点を得た科目を含む。)

第13条　３　医学部医学科学生の再試験の願出は、成績発表後所定の期日までに、願書を医学部事務課に提出しなければならない。

第14条　再試験の得点は、60点を限度とする。

第15条　再試験の受験料は１単位につき1,000円とする。ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目は、１科目につき4,000円とする。

２　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

附　則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

成績評価に関する問い合わせ制度の実施について

厳格な成績評価を実施するための取り組みのひとつとして、自分の成績評価に疑問がある場合、学部事務室を窓口として問い合わせる事ができる制度を設けています。

皆さんが所属する学部事務室に申し出れば、皆さんに代わって事務室から科目責任者に問い合わせをおこない、その結果をお知らせします。

なお、この制度は授業担当者との評点の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するものではありません。

２学年以降の試験に関する内規および補足

平成30年４月１日 改正

⑴ 前期に授業が開始され後期まで続く科目においては前期および後期終了時に試験を行う。前期・後期の中途に終了する科目については、それぞれの科目終了後に試験を行う。上記各試験の再試験は、すべて学年末のみに行う。

⑵ 進級は学則によって規定された科目についての試験および実習の成績から総合的に判定する。

⑶ 福岡大学成績考査規程第３条の２に基づき、次のとおり定める。

① 出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない科目でも本試験受験は認めるが、全科目合格が原則である。ただし、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない科目の本試験不合格科目が１科目のみの場合は、再試験受験資格の有無を教授会で審議し決定する。

② 第２学年以降の学生が、医学部医学科の時間制の授業科目を欠席したときは、欠席日より起算して３日以内に所定の届出書に必要書類を添えて医学部長に提出しなければならない。ただし、連続して欠席した場合は、最後に欠席した日より起算する。

⑷ 第４学年においては、次のとおり進級判定する。

① 前項に定めるもののほか全国共用試験（CBT、OSCE）の成績を加えて進級判定する。
なお、CBTの成績評価は、70％以上（四捨五入なし）を合格とする。但し、70％未満であっても、合格者と同等もしくは同等以上のIRT値の者は合格とする。

② 全国模擬試験を受験すること。

③ CBT演習については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として全国共用試験（CBT）再試験を受けることができない。

⑸ 第５学年においては、進級判定を次のとおり行う。

① 臨床修練Ⅰを履修し、各科の実習評価において、全科から合格の評価を受けること。
但し、F判定は不合格としD判定が複数ある場合も教授会で審議のうえ進級を認めない場合がある。

② 全国模擬試験を受験すること。

③ 統合講義を履修し、合格の評価を受けていること。合格の要件は、原則全ての講義に出席することとする。

④ BSL試験成績並びに全国模擬試験成績を総合的に判断して進級判定する。判定基準は教授会で審議し決定する。BSL試験の再試験は行わない。

⑹ 第６学年においては、卒業判定を次のとおり行う。

① 臨床修練Ⅱを終え合格の評価を受けていること。

② 総合講義については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として総合試験Ⅱを受けることができない。（授業を行った時間数に、質疑応答の時間数は含まない。）

③ 領域別集中講義試験Ⅰ～Ⅲにおいては、原則としてⅠ～Ⅲ全てに合格しなければ総合試験を受けることができない。なお、領域別集中講義試験の成績評価は、本試験および再試験ともに60点以上を合格とする。

④ 領域別集中講義Ⅰ～Ⅲについては、領域別ごとの出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として再試験を受けることができない。

⑤ 全国模擬試験を受験すること。

⑥ 総合試験成績で卒業判定する。総合試験の出題基準は国家試験に準ずる。判定基準は教授会で審議し決定する。

⑦ Post−CC OSCEで合格の評価を受けていること。

⑧ 補習合宿が実施された場合、対象となった学生は必ず参加すること。

第４条別表

学年別授業科目表

※印は必修
△印は選択必修

医学部医学科

			第１学年 授業科目	単位	第２学年 授業科目	時間数
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2		
			哲学B	2		
			論理学A	2		
			論理学B	2		
			倫理学A	2		
			倫理学B	2		
			宗教学A	2		
			宗教学B	2		
			日本史A	2		
			日本史B	2		
			東洋史A	2		
			東洋史B	2		
			西洋史A	2		
			西洋史B	2		
			日本文学A	2		
			日本文学B	2		
			中国文学A	2		
			中国文学B	2		
			西洋文学A	2		
			西洋文学B	2		
		社会科学	法学A	2		
			法学B	2		
			日本国憲法	2		
			政治学A	2		
			政治学B	2		
			経済学A	2		
			経済学B	2		
			商学A	2		
			商学B	2		
			社会学A	2		
			社会学B	2		
			教育論A	2		
			教育論B	2		
			地理学A	2		
			地理学B	2		
			心理学A	2		
			心理学B	2		
			文化人類学A	2		
			文化人類学B	2		
		自然科学	△数学入門	2		
			△統計入門	2		
			△化学入門	2		
			△生体の化学	2		
			※化学実験	1		
			△物理科学入門	2		
			△物理の世界	2		
			※物理学実験	1		
			※ミクロの生物科学	2		
			※マクロの生物科学	2		
			※生物学実験	1		
		総合系列科目	地球環境	2		
			生命・健康と医療	2		
			国際化と日本	2		
			科学・技術・情報と社会	2		
			文化と教育	2		
			現代を生きる	2		
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1		
			※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1		
			海外英語研修	2		
		第2	△{ドイツ語ⅠA	2		
			△{ドイツ語ⅠB	2		
			△{フランス語ⅠA	2		
			△{フランス語ⅠB	2		
			△{中国語ⅠA	2		
			△{中国語ⅠB	2		
			△{朝鮮語ⅠA	2		
			△{朝鮮語ⅠB	2		
			△{スペイン語ⅠA	2		
			△{スペイン語ⅠB	2		
			△{ロシア語ⅠA	2		
			△{ロシア語ⅠB	2		
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1		
			※生涯スポーツ演習Ⅱ	1		
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち医学部教授会が適当と認める科目			
専門教育科目			※医学概論Ⅰ	3	※組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	99
			※医学概論Ⅱ	3	※組織細胞生物学各論	60
			※医学生のための生命科学	2	※解剖学Ⅱ	120
			※医学入門	2	※一般・神経生理学	75
			※解剖学Ⅰ	4	※臓器・病態生理学	111
			※生化学	4	※生化学実習・演習	24
					※免疫学	48
					※微生物学	102
					※寄生虫学	30
					※研究室配属	142
					※薬理学Ⅰ	21
					※臨床医学入門Ⅰ	30
					※グローバル人材演習	39

第４条別表

学年別授業科目表

医学部医学科

	第３学年		第４学年		第５学年		第６学年	
	授業科目	時間	授業科目	時間	授業科目	時間	授業科目	時間
専門教育科目（必修）	薬理学Ⅱ	87	法医学	49	臨床修練Ⅰ	1,320	臨床修練Ⅱ	517
	病理学総論	63	精神医学	42	統合講義	18	領域別集中講義Ⅰ	45
	病理学各論	111	産科婦人科学	57			領域別集中講義Ⅱ	45
	公衆衛生学	112	整形外科学	42			領域別集中講義Ⅲ	120
	臨床医学入門Ⅱ	82	小児医学	57			総合講義	22
	腎臓･膠原病学	42	泌尿器科学	33				
	内分泌･代謝病学	51	脳神経病学	60				
	消化器病学	84	循環器病学	51				
	眼科学	36	麻酔科学	18				
	皮膚科学	30	救命救急医学	24				
	放射線科学	30	検査診断学	24				
	感染症学	18	腫瘍･輸血･血液学	48				
	歯科口腔外科学	18	医療情報社会学	22				
	形成外科学	18	症候・病態学演習	55				
	呼吸器病学	45	再生・移植医学	15				
			耳鼻咽喉科学	36				
			臨床修練入門	232				
			ＣＢＴ演習	66				
履修すべき時間		827時間		931時間		1,338時間		749時間

（注）授業科目、時間数については変更することがある。

平成30年度より全学年に適用

医学　カリキュラム・ツリー

各学年における修得目標

共通教育科目

（必修）フレッシュマン・イングリッシュⅠ～Ⅳ
インターミディエイト・イングリッシュⅠ～Ⅳ
マクロの生物科学・ミクロの生物科学
物理学実験・生物学実験・化学実験
生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ

（選択必修）第2外国語A・B、自然科学科目

（選択）人文・社会科学科目・総合系列科目

専門教育科目（　　）は科目名、すべて必修科目

M1

基礎医学（解剖学Ⅰ、生化学、医学生のための生命科学）
早期臨床教育（医学概論Ⅰ、医学概論Ⅱ、医学入門）

↓

M2

基礎医学（組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学、組織細胞生物学各論、微生物学、寄生虫学、一般・神経生理学、臓器・病態生理学、グローバル人材演習、薬理学Ⅰ、免疫学、臨床医学入門Ⅰ、生化学実習・演習、解剖学Ⅱ）

↓

M3

基礎医学（薬理学Ⅱ、病理学総論、病理学各論、公衆衛生学）、
臨床医学（臨床医学入門Ⅱ、内分泌・代謝病学、消化器病学、呼吸器病学、感染症学、放射線科学、腎臓・膠原病学、皮膚科学、眼科学、形成外科学、歯科口腔外科学）

↓

M4

基礎医学（法医学）、臨床医学（脳神経病学、泌尿器科学、精神医学、耳鼻咽喉科学、救命救急医学、医療情報社会学、麻酔科学、腫瘍・輸血・血液学、整形外科学、症候・病態学演習、臨床修練入門
産科婦人科学、検査診断学、小児医学、循環器病学、再生・移植医学、CBT演習）

↓

医学系大学間共用試験 CBT・OSCE

早期臨床体験

基礎医学の修得

人格形成、プロフェッショナリズムの涵養
アクティブ・ラーニングの実践
研究マインドの涵養

臨床医学知識の修得

M5
M6

●プロフェッショナリズム
●生命倫理に基づいた医療
●コミニュケーション能力、臨床知識・臨床技能（診察、検査、診断、治療）の向上
●チーム医療の実践
●グローバルな視野と地域医療
●科学的探求心と自律学修能

ステューデントドクター

M4学期末よりスタート

診療参加型臨床実習

M5（臨床修練Ⅰ）M6（臨床修練Ⅱ）

M5（統合講義）

M6（領域別集中講義Ⅰ～Ⅲ）
M6（総合講義）

→ PCC-OSCEによる
臨床実習評価〈客観評価〉

ディプロマ・ポリシー（卒業時アウトカム）の達成

○福岡大学における再入学の取扱いに関する規程

（平成12年３月１日制定）

改正　平成27年４月１日

（目的）

第１条　学則第30条に定める再入学の取扱いについては、同条に定めるほか、この規程による。

（再入学の許可）

第２条　本学を退学し又は除籍された者については、本条及び第６条の規定するところに従って、その入学時から起算して８年（医学部医学科及び薬学部にあっては12年）を超えない限り、学長は、退学し又は除籍された時点において所属する学部への再入学を許可することができる。ただし、入学時から起算して８年（医学部医学科及び薬学部にあっては12年）を超えない者であっても、再入学後において、学則第12条２項に定める在学年限内に卒業することができない者については、再入学を許可しない。

２　入学辞退者及び科目未登録等により就学の意思がないものとして除籍された者については、再入学を許可しないものとする。

３　学則第41条の規定に基づいて退学の処分を受けた者については、特に反省が顕著であると認められない限り、再入学を許可しないものとする。

４　再入学した者が退学し又は除籍された場合において、再度の再入学は許可しないものとする。

５　２年次以降の学年に編入学又は転入学した者の再入学については、第１項に規定する期間に関し、別にこれを定める。

（再入学の時期）

第３条　再入学の時期は、４月とする。

２　再入学をしようとする者は、所定の期日までに必要な書類を学長に提出するものとする。

（年次・学籍番号等の決定）

第４条　再入学者の年次（又は学年）、在学年数、既修得科目及び単位数等の取扱いについては、教授会の議を経て、学長が決定する。

２　再入学者については、前項により決定された年次（又は学年）において付与される学籍番号を使用する。

（授業料等納入金）

第５条　再入学に必要な授業料等納入金については、別にこれを定める。

（教育課程）

第６条　再入学者に対し、第４条第１項により決定された年次（又は学年）における教育課程を適用する。ただし、既修得科目及び単位数等については、その当該教育課程において必要な授業科目が開設されていない場合、教授会は、他の授業科目の履修をもってその授業科目の履修に替えることができる。

（医学部医学科に関する特則）

第７条　医学部医学科にあって、同一学年に２年（平成13年度以前の入学生については３年）在学し

た者が退学し除籍された場合には、第２条に定めるほか、その者が退学し又は除籍された時点における学年の全授業科目について学則第53条に定める科目等履修生として履修し単位及び時間を修得したときに限り、学長は、再入学を許可することができる。ただし、科目等履修生として履修することのできる期間は１年を限度とする。

2　前項に規定する再入学の場合において、再入学者の学年については、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

医学部医学科開講科目（試験科目）一覧表

	6月	7月	9月	11月	12月	1月
一学年		生化学 解剖学Ⅰ				生化学 医学生のための生命科学 解剖学Ⅰ
二学年		免疫学 組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学 （8月） 一般・神経生理学 微生物学			薬理学Ⅰ 寄生虫学 組織細胞生物学各論 微生物学 臓器・病態生理学	
三学年	（5月） 病理学総論	薬理学Ⅱ 内分泌・代謝病学 （8月） 病理学各論	放射線科学	公衆衛生学 腎臓・膠原病学 呼吸器病学 病理学各論 皮膚科学 消化器病学		消化器病学 感染症学 形成外科学 歯科口腔外科学 眼科学
四学年	（5月） 医療情報社会学 精神医学 脳神経病学	循環器病学 泌尿器科学 耳鼻咽喉科学 麻酔科学 救命救急医学 検査診断学		産科婦人科学 症候・病態学演習 法医学 再生・移植医学 小児医学 整形外科学	腫瘍・輸血・血液学 全国共用試験(CBT)	（2月） 全国共用試験(OSCE)
五学年						（2月） BSL試験
六学年	領域別集中講義 （4月） 第1試験 循環器病学 内分泌・代謝病学 腎臓・膠原病学 消化器病学 腫瘍・輸血・血液・感染症学 第2試験 呼吸器病学 脳神経病学 産科婦人科学 小児医学	（8月） Post-CC OSCE	（10月） 第3試験 精神医学 放射線科学・臨床検査医学 眼科学 皮膚科学・形成外科学 整形外科学 麻酔科学・救命救急医学 泌尿器科学 耳鼻咽喉・口腔系 公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	総合試験Ⅰ	総合試験Ⅱ	

（注）　の1学年は通年科目の前期試験、2、3学年は中間試験を示す。

◎授業時間割（全学年）

◎学費等納入金表

◎オフィス・アワー

M1

曜日	時限	前期 4月	5月	6月	7月	
月	1	解剖学Ⅰ（骨学講義・骨学実習含む）				前期試験
	2					
	3	医学概論Ⅰ				
	4	生化学　※水曜日４限の一部でも実施				
	5					
火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ				
	2	第２外国語ⅠA				
	3	人文・社会科学科目 / 数学入門 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	4	人文・社会科学科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	5	人文・社会科学科目				
水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ				
	2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	3	医学入門（先端医療　ザ・プロフェッショナル）				
	4	医学概論Ⅰ（研究室配属）　※一部、生化学				
	5	人文・社会科学科目				
木	1	人文・社会科学科目 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ				
	3	ミクロの生物科学				
	4	物理学実験 / 生物学実験				
	5					
金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ				
	2	第２外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）				
	3	人文・社会科学科目 / 化学入門 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	4	人文・社会科学科目				
	5	人文・社会科学科目				

曜日	時限	後期 9月	10月	11月	12月	1月	
月	1	医学概論Ⅱ（看護・BSL実習）	解剖学Ⅰ（中枢神経解剖学含む）				後期試験
	2						
	3		医学生のための生命科学				
	4		生化学　※水曜日４限の一部でも実施				
	5						
火	1		インターミディエイト・イングリッシュⅠ				
	2		第２外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）				
	3		人文・社会科学科目 / 生体の化学 / 生涯スポーツ演習Ⅰ				
	4		人文・社会・総合系列科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	5		人文・社会科学科目				
水	1		インターミディエイト・イングリッシュⅡ				
	2		人文・社会科学科目 / 物理の世界 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	3		医学概論Ⅱ				
	4		医学概論Ⅱ（心肺蘇生 / 研究室紹介）　※一部、生化学				
	5		人文・社会・総合系列科目				
木	1		人文・社会科学科目 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	2		インターミディエイト・イングリッシュⅢ				
	3		マクロの生物科学				
	4		物理学実験 / 生物学実験				
	5						
金	1		インターミディエイト・イングリッシュⅣ				
	2		第２外国語ⅠB				
	3		人文・社会科学科目 / 統計入門 / 生涯スポーツ演習Ⅱ				
	4		化学実験				
	5						

M2

曜日	時限	前期 4月 2	9	16	23	30	5月 7	14	21	28	6月 4	11	18	25	7月 2	9	16	23	30	8月 6	13	20	27
月	1	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学				振替休日	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学										海の日			夏休み 7/28～8/27			
	2																						
	3																						
	4																						
	5																						
火	1	免疫学									微生物学												
	2																						
	3	一般・神経生理学												組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学									
	4																						
	5																						
水	1	一般・神経生理学																					
	2																						
	3		グローバル人材演習																				
	4																						
	5																						
木	1	免疫学				憲法記念日	免疫学				微生物学	免疫	微生物学				試験（免疫学）	試験（細胞生物）					
	2																						
	3	生化学実習・演習					生化学実習・演習					生化学実習・演習											
	4																						
	5																						
金	1	解剖学II				みどりの日	解剖学II																
	2																						
	3																						
	4																						
	5																						

曜日	時限	後期 9月 3	10	17	24	10月 1	8	15	22	29	11月 5	12	19	26	12月 3	10	17	24	31	1月 7	14	21	28	2月 4	11	18	25	3月 4
月	1	微生物		敬老の日	振替休日	微生物	体育の日	微生物学			医学祭	微生物学					試験（微生物）	振替休日	冬休み 12/22～1/6	研究室配属	成人の日				建国記念の日	追再試験 2/16～3/4		
	2																											
	3	臓器・病態生理学				臓器・病態生理学		臓器・病態生理学				臓器・病態生理学																
	4																											
	5																											
火	1	試験（一般生理）		臓器・病態生理学																								
	2																											
	3			組織細胞生物学各論																								
	4																											
	5																											
水	1			微生物学											試験（薬理学I）		試験（寄生虫）											
	2																											
	3	臓器・病態生理学				薬理学I							臓器・病態生理学															
	4																											
	5																											
木	1	組織細胞生物学各論							寄生虫学														研究発表会	（OSCE体験）				
	2																											
	3	寄生虫学							微生物学																			
	4																											
	5																											
金	1	中間試験（微生物）	臓器・病態生理学								医学祭	臓器・病態生理学		勤労感謝の日			試験（細胞各論）	試験（病態生理）					研究発表会					
	2														臨医入													
	3		臨床医学入門I									臨床医学入門I																
	4																											
	5																											

M3

曜日	時限	前期 4月 2	9	16	23	30	5月 7	14	21	28	6月 4	11	18	25	7月 2	9	16	23	8月 30	6	13	20
月	1	薬理学Ⅱ				振替休日	薬理学Ⅱ		内分泌・代謝	試験（病理学総論）実習試験	内分泌・代謝病学				試験（薬理学Ⅱ）	臨床医学入門Ⅱ（地域医療体験実習）	海の日	試験（内分泌・代謝）	夏休み 7/24～8/23			
月	2	薬理学Ⅱ					薬理学Ⅱ				薬理学Ⅱ											
月	3	薬理学Ⅱ					薬理学Ⅱ				薬理学Ⅱ											
月	4	薬理学Ⅱ					薬理学Ⅱ				薬理学Ⅱ											
月	5																					
火	1	病理学総論					病理学各論				病理学各論						実習発表					
火	2	病理学総論					病理学各論				病理学各論						看護実習					
火	3	病理学総論					病理学各論				病理学各論											
火	4	病理学総論					病理学各論				病理学各論											
火	5																					
水	1	公衆衛生学					公衆衛生学実習（保健所等）				公衆衛生学		内分泌代謝病学				看護実習					
水	2	公衆衛生学					公衆衛生学実習（保健所等）				公衆衛生学		内分泌代謝病学									
水	3	臨床医学入門Ⅱ					公衆衛生学実習（保健所等）				公衆衛生学		内分泌代謝病学									
水	4	臨床医学入門Ⅱ					公衆衛生学実習（保健所等）				公衆衛生学		内分泌代謝病学									
水	5																					
木	1	薬理学Ⅱ				憲法記念日	薬理学Ⅱ		公衆衛生学実習（保健所等）		公衆衛生学		内分泌代謝病学				BSL実習					
木	2	薬理学Ⅱ				憲法記念日	薬理学Ⅱ		公衆衛生学実習（保健所等）		公衆衛生学		内分泌代謝病学				BSL実習					
木	3	薬理学Ⅱ				憲法記念日	薬理学Ⅱ		公衆衛生学実習（保健所等）		公衆衛生学		内分泌代謝病学				BSL実習					
木	4	薬理学Ⅱ				憲法記念日	薬理学Ⅱ		公衆衛生学実習（保健所等）		公衆衛生学		内分泌代謝病学				BSL実習					
木	5										※											
金	1	病理学総論				みどりの日	病理学総論	病理各論	公衆衛生学		病理学各論		病理学各論				発表			中間試験（病理各論）		
金	2	病理学総論				みどりの日	病理学総論	病理各論	公衆衛生学		病理学各論		病理学各論				発表			中間試験（病理各論）		
金	3	病理学総論				みどりの日	病理学総論	病理各論	公衆衛生学		病理学各論		病理学各論				発表			中間試験（病理各論）		
金	4	病理学総論				みどりの日	病理学総論	病理各論	公衆衛生学		病理学各論		病理学各論				発表			中間試験（病理各論）		
金	5																					

曜日	時限	後期 9月 27	3	10	17	24	10月 1	8	15	22	29	11月 5	12	19	26	12月 3	10	17	24	31	1月 7	14	21	28	2月 4	11	18	25	3月 4
月	1	放射線科学		消化器		敬老の日	消化器	体育の日	消化器病学			医学祭		試験（呼吸器）	試験（病理学各論）実習試験	消化器病学			振替休日			成人の日	試験（感染症）	試験（眼科）		建国記念の日		追再試験 2/16～3/4	
月	2	放射線科学		腎臓		敬老の日	腎臓	体育の日	腎臓・膠原病学			医学祭		試験（呼吸器）	試験（病理学各論）実習試験	感染症学			振替休日			成人の日	試験（感染症）	試験（眼科）		建国記念の日		追再試験 2/16～3/4	
月	3	放射線科学		腎臓		敬老の日	腎臓	体育の日	腎臓・膠原病学			医学祭		試験（呼吸器）	試験（病理学各論）実習試験	感染症学			振替休日			成人の日	試験（感染症）	試験（眼科）		建国記念の日		追再試験 2/16～3/4	
月	4	放射線科学		腎臓		敬老の日	腎臓	体育の日	腎臓・膠原病学			医学祭		試験（呼吸器）	試験（病理学各論）実習試験	感染症学			振替休日			成人の日	試験（感染症）	試験（眼科）		建国記念の日		追再試験 2/16～3/4	
月	5																												
火	1	放射線科学	試験（放射線）	腎臓・膠原病学						消化器病学		病理学各論				眼科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学								
火	2	放射線科学	試験（放射線）	腎臓・膠原病学						消化器病学		病理学各論				感染症学			冬休み 12/22～1/7										
火	3	放射線科学	試験（放射線）	皮膚科学							消化器病学	病理学各論				感染症学			冬休み 12/22～1/7										
火	4	放射線科学	試験（放射線）	皮膚科学							消化器病学	病理学各論				感染症学			冬休み 12/22～1/7										
火	5																												
水	1	放射線科学	呼吸器病学							皮膚科学			試験（公衆衛生学）		試験（皮膚科）	形成外科学			冬休み 12/22～1/7				試験（形成）						
水	2	放射線科学	呼吸器病学							皮膚科学			試験（公衆衛生学）		試験（皮膚科）	形成外科学			冬休み 12/22～1/7				試験（形成）						
水	3	放射線科学	消化器病学										試験（公衆衛生学）		試験（皮膚科）	歯科口腔外科学			冬休み 12/22～1/7				試験（形成）						
水	4	放射線科学	消化器病学										試験（公衆衛生学）		試験（皮膚科）	歯科口腔外科学			冬休み 12/22～1/7				試験（形成）						
水	5																												
木	1	放射線科学	消化器病学								腎臓・膠原病学					形成外科学			冬休み 12/22～1/7										
木	2	放射線科学	消化器病学								腎臓・膠原病学					形成外科学			冬休み 12/22～1/7										
木	3	放射線科学	呼吸器病学								消化器病学					眼科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学								
木	4	放射線科学	呼吸器病学								消化器病学					眼科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学								
木	5																												
金	1	放射線科学	病理学各論								医学祭		試験（腎臓）	勤労感謝の日	中間試験（消化器）	眼科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学	試験（消化器）	試験（歯科口）						
金	2	放射線科学	病理学各論								医学祭		試験（腎臓）	勤労感謝の日	中間試験（消化器）	眼科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学	試験（消化器）	試験（歯科口）						
金	3	放射線科学	病理学各論								医学祭		試験（腎臓）	勤労感謝の日	中間試験（消化器）	歯科口腔外科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学	試験（消化器）	試験（歯科口）						
金	4	放射線科学	病理学各論								医学祭		試験（腎臓）	勤労感謝の日	中間試験（消化器）	歯科口腔外科学			冬休み 12/22～1/7		眼科学	試験（消化器）	試験（歯科口）						
金	5																												

※ 地域医療体験実習オリエンテーション

授業時間割

M4

曜日	時限	前期 4月 2	9	16	23	30	5月 7	14	21	28	6月 4	11	18	25	7月 2	9	16	23	30	8月 6	13	20
月	1	脳神経病学				振替休日	脳神経病学		試験(精神医)		泌尿器科学					試験(循環器)	海の日	試験(検査診断)	夏休み 7/24〜8/21			
	2																					
	3	精神医学					精神医				耳鼻咽喉科学											
	4																					
	5																					
火	1	医療情報社会学					脳神経病学				耳鼻咽喉科学						試験(麻酔科学)					
	2																					
	3	精神医学									救命救急医学											
	4																					
	5																					
水	1	法医学							試験(脳神経)		法医学					試験(泌尿器)						
	2	CBT演習									CBT演習											
	3	脳神経病学									麻酔科学											
	4																					
	5																					
木	1	精神医学				憲法記念日			泌尿器科学						救命救急医学							
	2																					
	3	医療情報社会学			脳神経				循環器病学													
	4																					
	5																					
金	1	脳神経病学				みどりの日		試験(医情社学)			検査診断学					試験(耳鼻科)	試験(救命)					
	2																					
	3	循環器病学									循環器病学											
	4																					
	5																					

時限	後期 9月 27	3	10	17	24	10月 1	8	15	22	29	11月 5	12	19	26	12月 3	10	17	24	31	1月 7	14	21	28	2月 4	11	18	25	3月 4	11	18	25
1	産科婦人科学			敬老の日	振替休日	産科婦人科学	体育の日	腫瘍・輸血・血液学			医学祭	腫瘍・輸血・血液学	試験(症候病態学)	試験(再生移植)	試験(腫瘍血)	CBT演習	臨床修練入門	振替休日		追再試験 1/7〜1/18	成人の日	臨床修練入門(診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習)			建国記念の日				臨床修練入門(BSL)		
2						小児医学						小児医学																			
3	小児医学							小児医学																							
4																															
5																															
1	整形外科学														CBT演習		臨床修練入門														
2																															
3	腫瘍・輸血・血液学																														
4																															
5																															
法医学 1	法医学													試験(小児医学)	CBT演習		臨床修練入門		冬休み 12/26〜1/6												
CBT演習 2	CBT演習																														
症候 3	症候・病態学演習								法医学																						
4																															
5																															
産科婦人科学 1	産婦人科学					整形外科学				CBT模試			試験(法医)		CBT演習		臨床修練入門							OSCE							
2																															
小児医学 3	小児医学																														
4																															
5																															
症候 1	症候・病態学演習									医学祭	再生移植	試験(産婦人)	勤労感謝の日	試験(整形外)	CBT演習	CBT本試験	臨床修練入門														
2																															
産科婦人科学 3	産科婦人科学						再生移植																								
4																															
5																															

M6

曜日	時限	前期 4月 2	9	16	23	30	5月 7	14	21	28	6月 4	11	18	25	7月 2	9	16	23	30	8月 6	13	20	27
月	1	循環器病学	腫瘍・輸血・血液・感染症学	呼吸器病学	小児医学	振替休日	クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期	第一回全国模擬試験			クリニカルクラークシップⅢ期		海の日	クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
月	2	循環器病学	腫瘍・輸血・血液・感染症学	呼吸器病学	小児医学	振替休日	クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期	第一回全国模擬試験			クリニカルクラークシップⅢ期		海の日	クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
月	3	循環器病学	腫瘍・輸血・血液・感染症学	呼吸器病学	小児医学	振替休日	クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期	第一回全国模擬試験			クリニカルクラークシップⅢ期		海の日	クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
月	4	循環器病学	腫瘍・輸血・血液・感染症学	呼吸器病学	小児医学	振替休日	クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期	第一回全国模擬試験			クリニカルクラークシップⅢ期		海の日	クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
月	5	循環器病学	腫瘍・輸血・血液・感染症学	呼吸器病学	小児医学	振替休日	クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期	第一回全国模擬試験			クリニカルクラークシップⅢ期		海の日	クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
火	1	内分泌・代謝病学		脳神経病学			クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
火	2	内分泌・代謝病学		脳神経病学			クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
火	3	内分泌・代謝病学		脳神経病学			クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
火	4	内分泌・代謝病学		脳神経病学			クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
火	5	内分泌・代謝病学		脳神経病学			クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
水	1	腎臓・膠原病学					クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
水	2	腎臓・膠原病学					クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
水	3	腎臓・膠原病学					クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
水	4	腎臓・膠原病学					クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
水	5	腎臓・膠原病学					クリニカルクラークシップⅠ期				クリニカルクラークシップⅡ期				クリニカルクラークシップⅢ期			クリニカルクラークシップⅣ期			夏休み 8/11〜8/27		
木	1	消化器病学		産科婦人科学	領域別集中講義Ⅱ試験	憲法記念日																領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	Post—CC OSCE
木	2	消化器病学		産科婦人科学	領域別集中講義Ⅱ試験	憲法記念日																領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	Post—CC OSCE
木	3	消化器病学		産科婦人科学	領域別集中講義Ⅱ試験	憲法記念日																領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	Post—CC OSCE
木	4	消化器病学		産科婦人科学	領域別集中講義Ⅱ試験	憲法記念日																領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	Post—CC OSCE
木	5	消化器病学		産科婦人科学	領域別集中講義Ⅱ試験	憲法記念日																領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	Post—CC OSCE
金	1	腫瘍	領域別集中講義Ⅰ試験	小児医学		みどりの日																	
金	2	腫瘍	領域別集中講義Ⅰ試験	小児医学		みどりの日																	
金	3	腫瘍	領域別集中講義Ⅰ試験	小児医学		みどりの日																	
金	4	腫瘍	領域別集中講義Ⅰ試験	小児医学		みどりの日																	
金	5	腫瘍	領域別集中講義Ⅰ試験	小児医学		みどりの日																	

曜日	時限	後期 9月 3	10	17	24	10月 1	8	15	22	29	11月 5	12	19	26	12月 3	10	17	24	31	1月 7	14	21	28	2月 4	11	18	25	3月 4	11
月	1		精神医学	敬老の日	振替休日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	体育の日		総合講義							総合試験Ⅱ		振替休日	冬休み 12/21〜1/7		成人の日				建国記念の日				
月	2		精神医学	敬老の日	振替休日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	体育の日		総合講義							総合試験Ⅱ		振替休日	冬休み 12/21〜1/7		成人の日				建国記念の日				
月	3		精神医学	敬老の日	振替休日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	体育の日		総合講義							総合試験Ⅱ		振替休日	冬休み 12/21〜1/7		成人の日				建国記念の日				
月	4		精神医学	敬老の日	振替休日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	体育の日		総合講義							総合試験Ⅱ		振替休日	冬休み 12/21〜1/7		成人の日				建国記念の日				
月	5		精神医学	敬老の日	振替休日	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント	体育の日		総合講義							総合試験Ⅱ		振替休日	冬休み 12/21〜1/7		成人の日				建国記念の日				
火	1	第二回全国模擬試験	放射線科学・臨床検査医学	整形外科学	耳鼻咽喉・口腔系		領域別集中講義Ⅲ試験	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）			第三回全国模擬試験		総合試験Ⅰ							第四回全国模擬試験									
火	2	第二回全国模擬試験	放射線科学・臨床検査医学	整形外科学	耳鼻咽喉・口腔系		領域別集中講義Ⅲ試験	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）			第三回全国模擬試験		総合試験Ⅰ							第四回全国模擬試験									
火	3	第二回全国模擬試験	放射線科学・臨床検査医学	整形外科学	耳鼻咽喉・口腔系		領域別集中講義Ⅲ試験	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）			第三回全国模擬試験		総合試験Ⅰ							第四回全国模擬試験									
火	4	第二回全国模擬試験	放射線科学・臨床検査医学	整形外科学	耳鼻咽喉・口腔系		領域別集中講義Ⅲ試験	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）			第三回全国模擬試験		総合試験Ⅰ							第四回全国模擬試験									
火	5	第二回全国模擬試験	放射線科学・臨床検査医学	整形外科学	耳鼻咽喉・口腔系		領域別集中講義Ⅲ試験	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）			第三回全国模擬試験		総合試験Ⅰ							第四回全国模擬試験									
水	1		眼科学	麻酔科学・救命救急医学	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント																								
水	2		眼科学	麻酔科学・救命救急医学	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント																								
水	3		眼科学	麻酔科学・救命救急医学	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント																								
水	4		眼科学	麻酔科学・救命救急医学	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント																								
水	5		眼科学	麻酔科学・救命救急医学	公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント																								
木	1		皮膚科学・形成外科学	泌尿器科学		領域別集中講義Ⅲ試験				文化の日			勤労感謝の日																
木	2		皮膚科学・形成外科学	泌尿器科学		領域別集中講義Ⅲ試験				文化の日			勤労感謝の日																
木	3		皮膚科学・形成外科学	泌尿器科学		領域別集中講義Ⅲ試験				文化の日			勤労感謝の日																
木	4		皮膚科学・形成外科学	泌尿器科学		領域別集中講義Ⅲ試験				文化の日			勤労感謝の日																
木	5		皮膚科学・形成外科学	泌尿器科学		領域別集中講義Ⅲ試験				文化の日			勤労感謝の日																
金	1																												
金	2																												
金	3																												
金	4																												
金	5																												

授業時間割

平成30年度　学費等納入金表

医学部医学科

（単位：円）

区分		合計	学生納付金					委託徴収金							
			入学金	特別教育充実費	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学健組合入会金	学健組合費	卒業記念アルバム代	小計
30年度	年額	9,626,710	1,000,000	4,000,000	3,912,000	688,000	9,600,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
入学	1期	7,326,710	1,000,000	4,000,000	1,956,000	344,000	7,300,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
（1年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
29年度	年額	7,125,610		2,500,000	3,912,000	688,000	7,100,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
入学	1期	4,825,610		2,500,000	1,956,000	344,000	4,800,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
（2年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
28年度	年額	7,125,610		2,500,000	3,912,000	688,000	7,100,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
入学	1期	4,825,610		2,500,000	1,956,000	344,000	4,800,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
（3年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
27年度	年額	4,626,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
入学	1期	2,326,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
（4年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
26年度	年額	4,617,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500			5,610		3,000		17,110
入学	1期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
（5年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0
25年度	年額	4,617,110			3,912,000	688,000	4,600,000	8,500			5,610		3,000		17,110
入学	1期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
（6年）	2期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								0

1．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
2．７年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

オフィス・アワー

※オフィス・アワーについては、授業・診療・手術・会議・出張等で不在の時を除きます。

科目名	科目責任者	研究室 (内線)	オフィス・アワー	備　　考
M2 グローバル人材演習 M4 腫瘍・輸血・血液学 M5 臨床修練Ⅰ M5 統合講義 M6 領域別集中講義Ⅰ (腫瘍・輸血・血液・感染症学) M6 臨床修練Ⅱ M6 総合講義	髙松　　泰	腫瘍・血液・感染症内科学 (3345)	金曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること nagamori@adm.fukuoka-u.ac.jp
M3 感染症学	髙田　　徹	感染制御部 (3345)	火曜日 16：30 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること takattol@cis.fukuoka-u.ac.jp
M3 内分泌・代謝病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (内分泌・代謝病学)	柳瀬　敏彦	内分泌・糖尿病内科学 (3645)	木曜日 12：10 ～ 13：00 土曜日 10：00 ～ 12：00	事前にアポイントを取ること
M3 臨床医学入門Ⅱ M4 循環器病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (循環器病学)	三浦伸一郎	心臓・血管内科学 NO.402 (3366)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 消化器病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (消化器病学)	向坂彰太郎	消化器内科学 (3355)	月曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 腎臓・膠原病学 M6 領域別集中講義Ⅰ (腎臓・膠原病学)	中島　　衡	腎臓・膠原病内科学 (3370)	火曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M4 脳神経病学 M6 領域別集中講義Ⅱ (脳神経病学)	坪井　義夫	神経内科学 (3520)	金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M3 呼吸器病学 M4 臨床修練入門 M6 領域別集中講義Ⅱ (呼吸器病学)	藤田　昌樹	呼吸器内科学 (3376)	月～金 17：30 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M4 精神医学 M6 領域別集中講義Ⅲ (精神医学)	川嵜　弘詔	精神医学 (3380)	火曜日 17：00 ～ 19：00	事前にアポイントを取ること hkawasaki@fukuoka-u.ac.jp
M4 小児医学 M6 領域別集中講義Ⅱ (小児医学)	廣瀬　伸一	小児科学 NO.520 (3390)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 皮膚科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (皮膚科学・形成外科学)	今福　信一	皮膚科学 (3405)	水曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M3 放射線科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (放射線科学・臨床検査医学)	吉満　研吾	放射線医学 (3415)	木曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること kengo@fukuoka-u.ac.jp
M4 整形外科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (整形外科学)	山本　卓明	整形外科学 NO.1222 (3465)	水曜日 12：10 ～ 13：00 金曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 形成外科学	大慈弥裕之	形成外科学 (2391)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M3 眼科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (眼科学)	内尾　英一	眼科学 (3470)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M4 耳鼻咽喉科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (耳鼻咽喉・口腔系)	坂田　俊文	耳鼻咽喉科学 (3485)	水曜日 17：00 ～ 17：30 金曜日 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M4 泌尿器科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (泌尿器科学)	田中　正利	泌尿器科学 NO.307 (3490)	火曜日 16：30 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること

科目名	科目責任者	研究室 (内線)	オフィス・アワー	備　　考
M4 産科婦人科学 M6 領域別集中講義Ⅱ (産科婦人科学)	宮本　新吾	産科婦人科学　NO.317 (3500)	月曜日 16：10 ～ 17：00 金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 麻酔科学 M6 領域別集中講義Ⅲ (麻酔科学・救命救急医学)	山浦　　健	麻酔科学 (3515)	火曜日 16：10 ～ 17：00 金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M3 歯科口腔外科学	近藤　誠二	歯科口腔外科学 (3530)	月～金 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 検査診断学	松永　　彰	臨床検査医学 (3545)	月曜日 16：30 ～ 17：30 金曜日 16：30 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M4 救命救急医学	石倉　宏恭	救命救急医学 (2925)	水曜日 12：10 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M1 解剖学Ⅰ M2 解剖学Ⅱ	立花　克郎	解剖学 (3200)	月曜日 12：10 ～ 13：00 火曜日 16：10 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M1 医学生のための生命科学 M2 組織細胞生物学総論・ 遺伝子・発生学 M2 組織細胞生物学各論	白澤　専二	細胞生物学 (3255)	水曜日 16：30 ～ 17：00 木曜日 16：30 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M2 一般・神経生理学 M2 臓器・病態生理学	井上　隆司	生理学 (3225)	木曜日 12：10 ～ 12：40 17：00 ～ 17：30	事前にアポイントを取ること
M1 生化学 M2 生化学実習・演習 M2 研究室配属	安永晋一郎	生化学 (3247)	水曜日 16：30 ～ 17：30	在室時は随時可 但し、長時間の時は事前に アポイントを取ること
M2 薬理学Ⅰ M3 薬理学Ⅱ	岩本　隆宏	薬理学 (3260)	水曜日 12：20 ～ 12：50	事前にアポイントを取ること
M3 病理学総論 M3 病理学各論	竹下　盛重	病理学 (3270)	月曜日 12：10 ～ 12：40	事前にアポイントを取ること
M2 免疫学 M2 微生物学 M2 寄生虫学	廣松　賢治	微生物・免疫学 (3295)	火曜日 16：10 ～ 17：00 金曜日 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 再生・移植医学	小玉　正太	再生・移植医学 (3631)	火曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M1 医学入門 M3 公衆衛生学 M6 領域別集中講義Ⅲ (公衆衛生学・法医学・ セーフティマネージメント)	有馬　久富	衛生・公衆衛生学 NO.1504 (3315)	水曜日 12：10 ～ 13：00 16：10 ～ 17：00	事前にアポイントを取ること
M4 法医学	久保　真一	法医学 (3335)	火曜日 17：00 ～ 18：00 金曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること kuboshin@fukuoka-u.ac.jp
M4 医療情報社会学	志村　英生	医療情報部 病院本館西別館４階 (2065)	火曜日 12：30 ～ 13：00	事前にアポイントを取ること
M4 症候・病態学演習	鍋島　茂樹	総合診療部 (2784)	月曜日 17：00 ～ 18：00 火曜日 17：00 ～ 18：00	事前にアポイントを取ること
M1 医学概論Ⅰ M1 医学概論Ⅱ M2 臨床医学入門Ⅰ M4 CBT 演習	安元　佐和	医学教育推進講座 (3621)	月曜日 17：00 ～ 18：00 火曜日 16：10 ～ 18：00	

第 1 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M1】		解剖学Ⅰ	医学概論Ⅰ	医学概論Ⅰ（研究室配属）	生化学	医学入門	医学生のための生命科学	医学概論Ⅱ	医学概論Ⅱ（看護・BSL実習）	医学概論Ⅱ（心肺蘇生実習）	医学概論Ⅱ（研究室紹介）
Ⅰ. プロフェッショナリズム											
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。											
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	D	D	D	D	D	D	C/D	D	D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	D	C	C	C	C	C	C/D	C	C
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	F	D	F	F	F	F	D	D	F	F
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	F	D	F	F	F	F	F	D	F	F
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C	D	F	F	F	F	F	D	D	F
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C	C	D	C	C	C	D	D	C	D
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C	C	F	C	C	C	C	C	C	F
Ⅱ. 医学的知識											
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。											
1	正常構造と機能	D	F	F	D	D	F	F	F	D	F
2	発達、成長、加齢、死	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	心理、行動	F	C	F	F	F	D	D	C	F	F
4	病因、構造と機能の異常	D	D	F	D	D	D	F	F	F	F
5	診断、治療	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F
6	医療安全	C	F	F	F	F	F	F	D	C/D	F
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	保健・医療・福祉制度	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
9	医療経済	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅲ. 診療技術・患者ケア											
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。											
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	C	F	F	F	F	F	C	F	F
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療											
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。											
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	D	F	F	F	F	F	C	F	F
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	D	F	F	F	F	F	D	F	F
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療											
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。											
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力											
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。											
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	F	F	F	F	D	F	F	F	F	D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	F	C/D	F	F	F	D	C/D	F	F	F
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	F	C	D	F	D	F	C	F	F	D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	F	C	F	F	F	F	C	C	F	D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	F	D	D	F	D	F	E	F	F	F
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C	C	F	F	F	F	C	C	F	F

解　剖　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

解　剖　学	教　　授	立　花　克　郎（科目責任者）
	講　　師	フェリル　ロリト
	〃	遠　藤　日富美
	助　　教	入　江　　豊（副責任者）
	〃	千々岩　芳　朗
耳鼻咽喉科学	教　　授	坂　田　俊　文
	非常勤講師	福　田　孝　一（熊本大学大学院生命科学研究部形態構築学分野教授）
	〃	小　川　皓　一

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

⑴　臨床医学を修得していく上で基礎となる正常な人体の形態・構造・機能を理解する。

⑵　人体骨学実習を通して、形態学的思考方法や観察眼を養い、自学自習の精神を身に付ける。

⑶　「生命の尊厳」、「医の倫理」を直視し、医学を学ぶにふさわしい態度、高いレベルのモラルを習得する。

⑷　グループ学習の意義を理解し、グループの中での協調性、積極性と責任をはたす態度を身につけ、他の学生と意見交換ができる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

肉眼解剖学的構造については；

⑴　骨の基本構造と人の骨格の概要を説明できる。

⑵　人の骨格を構成する各骨の主要構造の名称を日本語・英語で書ける。

⑶　頭蓋を構成する骨の構造を説明できる。

⑷　筋、靭帯、循環器、末梢神経、内臓、感覚器の概要を示すことができる。

⑸　上記に基づき、身体の各部位の構造を局所解剖学的に説明することができる。
　さらに構造面から機能を説明できる。

⑹　体表から主な器官の位置と形態を指し示すことができる。

⑺　生体の構造と位置関係について、三次元的に再構築することが出来、X線写真、CT、MRIといった画像の理解に結びつけることができる。

⑻　人体を構成する器官とその主要な部位名を英語で書くことができる。

中枢神経系の構造については；

⑴　脳・脊髄の構成・構造を説明できる。

⑵　中枢神経各部位の機能を説明でき、さらに各部の統合的機能を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　講義（通常講義・視聴覚コンピューター教材使用講義）に出席し、重要な事項を把握する。

⑵　毎週、講義前半の小テストを受ける。講義予定範囲を確認し、同範囲の肉眼的構造を把握すると共に機能及び臨床医学的意義を理解する。

⑶　教科書・実習テキスト・配布シラバスなどで予習をする。
⑷　骨学実習を行い、知識を確認するとともに、不明な点はその場で教科書、iPad などで調べる。
⑸　骨学実習は小グループで行う。グループ討論を通して実習手順を決め、必要に応じ観察部位をスケッチする。
⑹　実習中に担当教員から学習方法について指導を受ける。
⑺　実習に参加し、医学生としての問題意識を自覚し、生命の尊厳や医の倫理について考える。
⑻　Team based learning, PBL テュートリアルでは学生は小グループに分かれ、グループへ与えられた課題に取り組み、学習成果を発表する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

⑴　前期試験、後期試験（マルチプルチョイス方式または記述式）。
⑵　必要に応じて、実習試験、口頭試問、小テストを行う。
⑶　実習の記録、team based learning, PBL テュートリアルの課題に対するレポートを提出させ、評価を行う。
⑷　年間を通しての学習姿勢・実習態度・成果、出席状況も評価の対象とする。
⑸　最終成績評価は前期試験：後期試験：上記⑵、⑶、⑷＝3.5：3.5：3の比率で行う。

Ⅵ．**教科書**

（必須）解剖トレーニングノート　第６版　竹内修二　医学教育出版
（必須）臨床のための解剖学　Keith L. Moore　訳　佐藤達夫　MEDSi
（必須）臨床神経解剖学　原著第６版　訳 井出 千束、杉本 哲夫　医歯薬出版株式会社

Ⅶ．**参考書・文献**

（推薦）寺田春水、他：骨学実習の手びき　第４版　南山堂
（推薦）相磯貞和　訳：ネッター解剖学アトラス　原著第６版　南江堂
（推薦）山下　廣　訳：グラント解剖学図譜　第７版　医学書院
（推薦）横地千仞　訳：Rohen 解剖学カラーアトラス　第８版　医学書院
（推薦）坂井建雄　訳：ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖　カラーアトラス　1・2　MEDSi
（推薦）森　於菟、他：分担解剖学　金原出版
（推薦）伊藤　隆：解剖学講義　第３版　南山堂
（推薦）松村譲兒：イラスト解剖学　第９版　中外医学社
（推薦）塩田浩平　訳：グレイ解剖学　原著第３版　エルゼビアジャパン
（推薦）佐藤達夫　訳：人体解剖カラーアトラス　R. T. Hutchings　原著第７版　南江堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	16	月	1	立花	A-1	1)	解剖学序論 1	医学の歴史、医療倫理、生命倫理	講義
2				2	〃	C-2	2)	解剖学序論 2	臨床解剖学とは、医学用語	〃
3		23	月	1	入江	D-4	1)	骨学 1	骨学総論、関節・靭帯学総論、筋学総論	〃
4				2	〃	D-4	1)	骨学 2	上肢帯・自由上肢の骨、胸郭、脊柱、骨盤、下肢帯・下肢の骨	〃
5		30	月	1	〃	D-4	1)	骨学 3	〃	課題学習
6				2	〃	D-4	1)	骨学 4	〃	〃
7	5	7	月	1	立花	D-4	1)	骨学 5	脳頭蓋、顔面頭蓋	講義
8				2	〃	D-4	1)	骨学 6	〃	〃
9		14	月	1	全員 非常勤講師 小川	D-4	1)	骨学実習	標本を用いた実習	実習
10				2	〃	D-4	1)	〃	〃	〃
11		21	月	1	〃	D-4	1)	〃	〃	〃
12				2	〃	D-4	1)	〃	〃	〃
13		28	月	1	立花	D-5	1)①⑤⑥⑦⑨	解剖学総論 1	心血管系、リンパ系	講義
14				2	〃	D-5	1)①⑤⑥⑦⑨	解剖学総論 2	〃	〃
15	6	4	月	1	遠藤	D-2	1)(1)①②⑤(2)	解剖学総論 3	神経系	〃
16				2	入江	F-2	5)①②	解剖学総論 4	解剖学と画像診断、レントゲン、CT、MRI、US入門	〃
17		11	月	1	立花	D-6 D-11	1)①～④ 1)①	胸部 1	胸郭、胸壁の筋・血管・神経、肺、胸膜	〃
18				2	〃	D-6 D-11	1)①～④ 1)①	胸部 2	〃	〃
19		18	月	1	〃	D-5	1)①～⑥⑫	胸部 3	心臓、大血管、縦隔	〃
20				2	〃	D-5	1)①～⑥⑫	胸部 4	〃	〃
21		25	月	1	〃	D-7	1)①～⑨	腹部 1	腹壁の筋・血管・神経、腹膜腔	〃
22				2	〃	D-7	1)①～⑨	腹部 2	〃	〃
23	7	2	月	1	〃	D-7	1)①～⑨	腹部 3	腹部内臓、血管系	〃
24				2	〃	D-7	1)①～⑨	腹部 4	〃	〃
25		9	月	1	遠藤	D-8	1)②	腹部 5	横隔膜、腎臓、副腎、後腹壁	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
26	7	9	月	2	遠藤	D-8	1)②	腹部 6	横隔膜、腎臓、副腎、後腹壁	講義
27		16	月	1	立花	D-7	①～⑨	腹部 7	腹部まとめ 1	課題学習
28				2	〃	D-7	①～⑨	腹部 8	腹部まとめ 2	〃
29		23	月	1	遠藤	D-9 D-4	1) ①～⑦ 1)⑤	骨盤と会陰 1	骨盤壁、骨盤内臓	講義
30				2	〃	D-9 D-4	1) ①～⑦ 1)⑤	骨盤と会陰 2	〃	〃
31	9	17	月	1	〃	D-9	1) ①～⑦	骨盤と会陰 3	〃	課題学習
32				2	〃	D-9	1) ①～⑦	骨盤と会陰 4	〃	〃
33		24	月	1	〃	D-9	1) ①～⑦	骨盤と会陰 5	骨盤と会陰まとめ 1	〃
34				2	〃	D-9	1) ①～⑦	骨盤と会陰 6	骨盤と会陰まとめ 2	〃
35	10	1	月	1	入江	D-2 D-4	1) (1) ①～③ 1)③	背部 1	脊椎と脊柱	講義
36				2	〃	D-2 D-4	1) (2) 1)③	背部 2	〃	〃
37		15	月	1	〃	D-4	1)	下肢 1	殿部・大腿の筋・血管・神経	〃
38				2	〃	D-4	1)	下肢 2	下腿・足の筋・血管・神経・関節	〃
39		22	月	1	〃	D-4	1)	上肢 1	上肢帯・上腕の筋・血管・神経	〃
40				2	〃	D-4	1)	上肢 2	〃	〃
41		29	月	1	〃	D-4	1)	上肢 3	前腕・手の筋・血管・神経・関節	〃
42				2	〃	D-4	1)	上肢 4	〃	〃
43	11	12	月	1	フェリル	D-14	1)	頭頸部 1	顔面	〃
44				2	〃	D-14	1)	頭頸部 2	脳神経、脳	〃
45		19	月	1	坂田	D-14	1)	頭頸部 3	鼻腔、平衡聴覚器、頸部の内臓、咽頭、喉頭	〃
46				2	〃	D-14	1)	頭頸部 4	〃	〃
47		26	月	1	フェリル	D-13	1)	頭頸部 5	視覚器、口腔の筋、頭部の血管・神経	〃
48				2	〃	D-13	1)	頭頸部 6	〃	〃
49	12	3	月	1	立花	D-2	1)	中枢神経 1	総論、大脳、小脳、大脳皮質 1	〃
50				2	〃	D-2	1)	中枢神経 2	脳血管、髄液、脳幹、脳室	〃
51		10	月	1	非常勤講師 福田	D-2	1)	中枢神経 3	脊髄・脳幹の内部構造、脳神経核	〃
52				2	〃	D-2	1)	中枢神経 4	脊髄・脳幹の内部構造、脳神経核	〃
53		17	月	1	〃	D-2	1)	中枢神経 5	小脳の機能解剖、視床	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
54	12	17	月	2	非常勤講師 福田	D-2	1)	中枢神経 6	小脳の機能解剖、視床	講義
55		24	月	1	遠藤	D-2	1)	中枢神経 7	総論、大脳、小脳、大脳皮質 2	課題学習
56				2	〃	D-2	1)	中枢神経 8	脳血管、髄液、脳幹、脳室 2	〃
57	1	7	月	1	非常勤講師 福田	D-2	1)	中枢神経 9	大脳皮質、大脳辺縁系	講義
58				2	〃	D-2	1)(7)	中枢神経10	〃	〃
59		15	火	1	〃	D-2	1)(7)	中枢神経11	視床、視床下部、広汎投射系	〃
60				2	〃	D-2	1)(7)	中枢神経12	〃	〃

医　学　概　論　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和	（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二	（副責任者）
	講　　師	田　中　　崇	（副担任）
精神医学	教　　授	川　嵜　弘　詔	
	臨床心理士	矢　野　里　佳	
脳神経外科学	教　　授	井　上　　亨	
総合医学研究センター	教　　授	出　石　宗　仁	
衛生・公衆衛生学	教　　授	有　馬　久　富	（主担任）
〃	講　　師	辻　　雅　善	（副担任）
麻酔科学	教　　授	山　浦　　健	（主副担任）
解剖学	講　　師	遠　藤　日富美	（副担任）
細胞生物学	准　教　授	三　角　佳　生	（　〃　）
〃	講　　師	石　倉　周　平	（　〃　）
生理学	講　　師	本　田　　啓	（　〃　）
病理学	講　　師	濵　田　義　浩	（　〃　）
〃	〃	林　　博　之	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．生命倫理・医療倫理について、基本的事項を理解する。

2．医師としてのプロフェッショナリズムを認識し、自尊心を持つとともに多様な他者の考えを尊重する態度を身につける。

3．医療面接や身体診察の実習を通し、患者中心の医療を理解し、コミュニケーション能力を養うことができる。

4．TBL（Team based learning）を通して、コミュニケーション、チーム貢献、プレゼンテーション能力を習得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　医師のプロフェッショナリズムとは何かを討論し、医学生に必要な倫理観を理解し説明することができる。

⑵　代表的な症候の鑑別すべき疾患の臨床症状、身体所見を説明し、病歴シナリオを作成できる。

⑶　医療面接のロールプレイで患者役を経験し、患者の心理的な反応を疑似体験し医療者のあるべき姿を考えることができる。

⑷　TBL での学習で役割分担に貢献し、全体でのプレゼンテーションの資料を作成できる。

⑸　模擬患者と医療面接ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　各学生に与えられた課題について個人で学習し、チーム内で討論する（TBL）。
　　司会、記録、発表を全員が経験する。

⑵　医療面接のビデオや講義をもとに、課題の疾患の病歴シナリオを作成し、チーム内で患者役と医師役をロールプレイする。
⑶　模擬患者との医療面接を経験し、患者の心理について理解する。
⑷　医療人としてふさわしい態度、言葉遣いを習得する。
⑸　服装、身なりを整える。
⑹　課題についての予習、チーム内討論と課題作成を行う。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況（2/3以上の出席を必須とする）、課題及びチーム内討論、発表の内容、貢献度、態度などについて自己評価、ピア評価、教員による総合評価を行う。

Ⅵ．教科書

⑴　福岡大学医学部　編：診断学テキストブック（プリント配布）

Ⅶ．参考書・文献

⑴　福井次矢　奈良信雄　編：内科診断学　第三版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	16	月	3	安元 八尋・田中	A-2	2)	医学概論	医学教育モデル・コア・カリキュラム成人学習　学習成果基盤型	講義
2		23	月	3	井上	A-1		プロフェッショナリズム1	福岡大学病院の理念 医の倫理	〃
3		30	月	3	安元 八尋・田中	A-1		〃	〃	課題学習
4	5	7	月	3	〃	A-1		プロフェッショナリズム2	医学生の倫理 患者中心の医療　安全	講義・TBL
5		14	月	3	〃	A-1		プロフェッショナリズム3	医学生とプロフェッショナリズム	〃
6		21	月	3	〃	A-1		プロフェッショナリズム4	チームによる発表	全体発表
7		28	月	3	川嵜 （矢野）	A-4	1)2)	プロフェッショナリズム5	内田クレペリン精神作業検査	講義・実習
8	6	4	月	3	〃	A-4	1)2)	プロフェッショナリズム6	〃	〃
9		11	月	3	安元 八尋・田中	A-4 F-1	1)2) 16)	コミュニケーション1	胸痛　医療面接　課題	講義・TBL
10		18	月	3	〃	A-4 F-1	1)2) 16)	コミュニケーション2	課題討論・病歴シナリオ作成	〃
11		25	月	3	〃	A-4	1)2)	コミュニケーション3	医療面接　ロール・プレイ	〃
12	7	2	月	3	〃	A-4	1)2)	コミュニケーション4	〃	全体発表
13		9	月	3	安元 八尋・田中 全員	A-4	1)2)	コミュニケーション5	医療面接　模擬患者	実習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	7	16	月	3	安元 八尋・田中 全員	A-4	1)2)	コミュニケーション5	医療面接　模擬患者	課題学習
15		23	月	3	〃	A-1		プロフェッショナリズム7	まとめ	全体発表

※9月13日(木)3・4限は医学部医学科・看護学科、薬学部、スポーツ科学部の三学部合同コミュニケーション学習をします。詳細については講義内で告知します。

医学概論Ⅰ（研究室配属）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　授	安元佐和（科目責任者）
	准教授	八尋英二（副責任者）
総合医学研究センター	教　授	出石宗仁
再生・移植医学	教　授	小玉正太（実務責任者）
解剖学	教　授	立花克郎
細胞生物学	教　授	白澤専二
生理学	教　授	井上隆司
生化学	教　授	安永晋一郎
薬理学	教　授	岩本隆宏
微生物・免疫学	教　授	廣松賢治
衛生・公衆衛生学	教　授	有馬久富
法医学	教　授	久保真一

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医学部基礎医学・社会医学系研究室に配属し、基礎医学の実際に触れることができる。
2．基礎医学で実際に行われている医学研究に接し、自主的学習が主体である大学教育への入口として、知的活動への動機づけを高め、理論的な思考法と適切な自己表現能力を身につける。
3．医学・医療に関する学習を受験勉強での暗記中心の学習から脱却し、『病気と医科学』をテーマとして自ら疑問を持ち、調べ、その内容の真偽制を吟味して、科学的に問題を解決しようとする成人型の学習態度を身につける。
4．各教室をローテーションすることで、広く基礎系研究の概要を理解する。
5．学生間、学生と担当教員の良好な人間関係の構築を行い、今後６年間の医学教育の礎を形成する。
6．２年生以降の基礎専門医学教育へ困難なく対応できるような「橋渡し」の機会とする。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　課題に関する分野別講義の内容を理解できる。
⑵　課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。
⑶　課題に関して学生や教員と討論できる。
⑷　課題に関するレポートを作成し発表ができる。
⑸　課題に関して新たな問題点を指摘できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．研究室配属

水曜日４限に、１グループ12名程度の学生班が前半・後半40分ずつで、各基礎医学・社会医学系10講座に配属され、研究室見学、演習などを行う。各講座の教員から、研究室の特徴や研究内容のトピックスについて紹介があり、第２学年での「研究室配属」への準備、事前の学習法について、学生からの質問や相談を受ける。

２．研究室紹介（基礎第１講義室）

１の研究室配属以外の講座から、２学年の「研究室配属」についての研究室紹介が行われ、学生と質疑応答を行う。

事前学習：到達目標を把握して臨む。

事後学習：体験した研究室で新たに出た疑問点について自分で調べる。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席、態度等により評価する。必要があればレポートなどを参考とする。

Ⅵ．教科書

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ．参考書・文献

必要に応じ、各講座から情報提供する。

講座名	第１日集合場所
解剖学	医学部研究棟別館１階　解剖学 資料室（1118）
細胞生物学	医学部研究棟別館１階　細胞生物学 セミナー室（1134）
生理学	医学部研究棟別館１階　生理学 四研（1104）
生化学	医学部研究棟本館４階　ゼミナール室（455）
薬理学	医学部研究棟本館５階　薬理学セミナー室（542）
微生物・免疫学	医学部研究棟本館３階　微生物・免疫学 総合研究室（348）
再生・移植医学	医学部研究棟本館３階　ゼミナール室（355）
衛生・公衆衛生学	医学部研究棟別館５階　衛生・公衆衛生学 四研（1504）
法医学	医学部研究棟本館５階　法医学セミナー室（548）
医学教育推進講座	医学情報センター４階　医学教育推進講座　安元教授室（3406）

名札は配布後から着用すること。
巻末の集合場所 案内図を参照すること。（P.325～329）

〈研究室配属〉

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態	解剖学	細胞生物学	生理学	生化学	薬理学	微生物・免疫学	再生・移植医学	衛生・公衆衛生学	法医学	医学教育推進講座
1	4	18	水	4	全員	各研究室毎に提示される	リサーチマインドの涵養、専門基礎医学教育修学法の確立など詳細は各研究室毎に提示される。	グループ演習	【前半】1班【後半】6班	【前半】6班【後半】1班	【前半】2班【後半】7班	【前半】7班【後半】2班	【前半】3班【後半】8班	【前半】8班【後半】3班	【前半】4班【後半】9班	【前半】9班【後半】4班	【前半】5班【後半】10班	【前半】10班【後半】5班
2	5	2	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】5班【後半】10班	【前半】10班【後半】5班	【前半】1班【後半】6班	【前半】6班【後半】1班	【前半】2班【後半】7班	【前半】7班【後半】2班	【前半】3班【後半】8班	【前半】8班【後半】3班	【前半】4班【後半】9班	【前半】9班【後半】4班
3		16	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】4班【後半】9班	【前半】9班【後半】4班	【前半】5班【後半】10班	【前半】10班【後半】5班	【前半】1班【後半】6班	【前半】6班【後半】1班	【前半】2班【後半】7班	【前半】7班【後半】2班	【前半】3班【後半】8班	【前半】8班【後半】3班
4		30	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】3班【後半】8班	【前半】8班【後半】3班	【前半】4班【後半】9班	【前半】9班【後半】4班	【前半】5班【後半】10班	【前半】10班【後半】5班	【前半】1班【後半】6班	【前半】6班【後半】1班	【前半】2班【後半】7班	【前半】7班【後半】2班
5	6	6	水	4	〃	〃	〃	〃	【前半】2班【後半】7班	【前半】7班【後半】2班	【前半】3班【後半】8班	【前半】8班【後半】3班	【前半】4班【後半】9班	【前半】9班【後半】4班	【前半】5班【後半】10班	【前半】10班【後半】5班	【前半】1班【後半】6班	【前半】6班【後半】1班

【前半】　14:40分～15:20分
休憩10分
【後半】　15:30分～16:10分

〈研究室紹介〉

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態
6	6	20	水	4	全員	研究室紹介①	リサーチマインド・生涯学習	講義
7	7	4	水	4	〃	研究室紹介②	〃	〃
8		18	水	4	〃	研究室紹介③	〃	〃

研究室紹介①　腫瘍・血液・感染症内科学、内分泌・糖尿病内科学、心臓・血管内科学、消化器内科学、呼吸器内科学
研究室紹介②　腎臓・膠原病内科学、神経内科学、精神医学、小児科学、皮膚科学
研究室紹介③　放射線医学、消化器外科学、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学、心臓血管外科学、脳神経外科学

生　　化　　学

Ⅰ．担当教員名

生　化　学　　教　　授　　安　永　晋一郎（科目責任者）
　　講　　師　　芝　口　浩　智（副責任者）
　　〃　　白　須　直　人

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

生体は、外部からの物質摂取により体成分の合成やエネルギーの獲得を行うことで健全な生活を営んでいる。その正常な代謝過程を知ることなしに人体に起きる病態を理解し取り組むことは不可能である。また近年の分子生物学の飛躍的発展により分子レベルでの代謝の理解が不可欠となっている。生化学では、解剖学、組織細胞生物学総論・各論、遺伝学、発生学で学習する細胞の基本構造や各組織・臓器の構成と位置関係、そして一般・神経生理学、臓器・病態生理学で学習する各臓器の生理学機能に先行して、生化学的機能すなわち生体物質の代謝について理解し修得する。さらには、他の基礎医学、臨床医学とのつながりを意識した統合的理解を身につける。

具体的には、まず、外部から摂取する栄養素とそのエネルギー変化について知る。次に生体を構成する低分子および高分子物質を把握しその機能を理解する。つづいて、生体物質の代謝と代謝異常の動態を把握するとともに、主な臓器の代謝機能とその異常を修得する。その上で、実際の臨床では生化学的知識がどのように利用されているかを理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．栄養素とエネルギーについて
　１）栄養素と栄養所要量について説明する。
　２）基礎代謝と特異動的作用について説明する。
　３）栄養異常について、その概略を説明する。
　４）標準自由エネルギー変化と高エネルギー化合物について説明する。
　５）生体酸化還元とクエン酸回路、電子伝達系（呼吸鎖）について説明する。
　６）酸化的リン酸化、基質準位リン酸化および化学的浸透圧説について説明する。
　７）フリーラジカルの発生と作用を説明する。

２．生体高分子の構造と機能について
　１）核酸の構造と機能を説明する。
　２）糖質（炭水化物）の基本的な構造と機能を説明する。
　３）脂質の基本的な構造と機能を説明する。
　４）タンパク質の基本的な構造と機能を説明する。

３．生体物質の代謝について
　１）酵素の機能と調節について説明する。
　２）核酸の代謝について
　　ａ．ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明する。
　　ｂ．核酸の主な代謝異常を説明する。

３）タンパク質の代謝について
ａ．タンパク質の合成と分解を説明する。
ｂ．アミノ酸の異化と尿素合成の経路を説明する。
ｃ．アミノ酸の主な代謝異常を説明する。
ｄ．ヘム・ポルフィリンの代謝を説明する。
４）糖質（炭水化物）の代謝について
ａ．解糖の経路と調節機構を説明する。
ｂ．五炭糖リン酸経路の意義を説明する。
ｃ．糖新生の経路と調節機構を説明する。
ｄ．グリコーゲンの合成と分解の経路を説明する。
ｅ．糖質の主な代謝異常を説明する。
５）脂質の代謝について
ａ．リポタンパク質の構造と代謝を説明する。
ｂ．脂質の合成と分解を説明する。
ｃ．空腹時（飢餓）、食後（過食時）と運動時における代謝を説明する。
ｄ．脂質の主な代謝異常を説明する。
６）ビタミンの代謝について
ａ．ビタミンの種類と機能を説明する。
ｂ．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明する。
ｃ．抗酸化ビタミンのフリーラジカル捕捉作用を説明する。
７）無機質の代謝について
ａ．無機質の代謝を説明する。
ｂ．無機質の主な代謝異常を説明する。
４．組織・臓器の代謝について
１）主な臓器の代謝機能を説明する。
２）主な臓器の代謝異常を説明する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義
担当教員が、指定教科書を利用しながら当日のテーマについて講義するので、これに出席し、主体性をもって参加する。また、学生と担当教員がそれぞれマイクを持ち、当日のテーマについて質疑・応答および討論が繰り返されるので、これに参加する。

２．テュートリアル
グループ毎に CBT 問題演習課題を学習し、その成果を発表・討論する。

〈事前事後学習の方法〉

１．指定した教科書の該当項目を事前に読んでおく。**（必須）**
２．講義内容を教科書に基づいてフォローし、メモや書き込みをする。
３．毎回授業の最後に５～10分間で小テストを実施するので、学修要項のキーワードとともに復習しておく。
４．講義後教科書を通読し、講義に基づき重要事項を整理して各章のつながりを系統的に理解する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．前期講義内容全般について、前期試験期間に客観試験を実施する。（中間試験）

２．前期後期内容全般について、後期試験期間に客観試験を実施する。（本試験）

３．以上の採点に基づく結果の総合評価で合否を判定する。

４．合格点に達しないものは再試験を受験する。

Ⅵ．**教科書**

１．安永晋一郎　編：モデル・コア・カリキュラム対応　医用生化学−生体物質の代謝と異常−2018年版　福岡大学医学部生化学講座　2018

Ⅶ．**参考書・文献**

１．川嵜敏祐　監：レーニンジャーの新生化学　第６版　廣川書店　2015

２．入村達郎、岡山博人、清水孝雄　監：ストライヤー生化学　第７版　東京化学同人　2013

３．清水孝雄　監：イラストレイテッド ハーパー・生化学（原書30版）　丸善出版　2016

４．他の基礎医学・臨床医学で使われている教科書

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	11	水	4	安永・白須	C-1	1)(1)②〜⑤⑦(2)①〜③	生化学序論と栄養1	イントロダクション、細胞、組織、臓器(器官)、細胞周期、細胞死、アポトーシス、ゲノム、遺伝子、疾患、がん	講義
2		16	月	4	安永	C-2	5)⑯	生化学序論と栄養2	生化学的検査、検体、三大栄養素、五大栄養素、熱量(カロリー)、三大栄養素の代謝経路と相互変換、三大栄養素の化学的特徴、食事摂取基準、推定エネルギー必要量、基礎代謝、基礎代謝基準値、栄養素の推奨量、運動エネルギー消費量、健康日本２１、食事バランスガイド	〃
						D-12	1)⑧⑨			
						F-1	4)			
3				5	〃	C-2	5)⑯	生化学序論と栄養3	栄養異常、体格指数(BMI)、標準体重、栄養不足、栄養過剰・肥満、メタボリックシンドローム、食事療法、CBT問題演習１	講義・テュートリアル
4		23	月	4	芝口	C-2	5)③	生体エネルギーと生体酸化１	生体エネルギー、標準自由エネルギー変化、発エルゴン反応、吸エルゴン反応、高エネルギー化、CoA、アセチルCoA、基質準位のリン酸化	講義
5				5	〃	C-2	5)③④	生体エネルギーと生体酸化２	電子伝達系、電子伝達体、酸化還元電位、酸化還元酵素、CoQ、酸化的リン酸化、化学浸透圧説	〃
6		25	水	4	安永・芝口	C-2	5)⑭	生体エネルギーと生体酸化３	グリセロールリン酸シャトル、リンゴ酸-アスパラギン酸シャトル、活性酸素、過酸化脂質、ラジカルスカベンジャー、活性酸素分解酵素、CBT問題演習２	講義・テュートリアル
7		30	月	4	安永			学習範囲の総復習	中間試験に備えて学習範囲の総復習	課題学習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
8	4	30	月	5	安永			学習範囲の総復習	中間試験に備えて学習範囲の総復習	課題学習
9	5	7	月	4	芝口	C-1	1)(2)④～⑥	核酸の基礎１	ヌクレオチド、ヌクレオシド、プリン塩基、ピリミジン塩基、核酸の分類、DNA、RNA、遺伝子、ゲノム、エクソン、イントロン、遺伝子の発現	講義
10				5	〃	C-1	1)(2)④～⑥	核酸の基礎２	核酸の精製、遺伝子組換え、DNAシークエンシング、PCR、サザンブロット、ノーザンブロット、DNAマイクロアレイ、遺伝子多型	〃
11		9	水	4	〃	C-2	5)⑬	核酸の代謝とその異常１	核酸代謝の概要、核酸の消化と吸収、デノボ経路、サルベージ経路、プリンヌクレオチドの代謝、ピリミジンヌクレオチドの代謝、デオキシリボヌクレオチドの合成、ヌクレオチド補酵素	〃
12		14	月	4	安永	C-4	3)④	核酸の代謝とその異常２	ヌクレオチド合成阻害剤、5-FU、MTX、核酸代謝異常、痛風、レシュ・ナイハン症候群、ADA欠損症、CBT問題演習３	講義・テュートリアル
13				5	芝口	C-2	5)⑩	タンパク質の基礎１	アミノ酸、必須アミノ酸、ペプチド結合、タンパク質の分類、タンパク質の機能、一次構造、二次構造、三次構造、四次構造、αヘリックス、βシート	講義
14		21	月	4	〃	C-2	5)⑩	タンパク質の基礎２	タンパク質の精製と分析、ゲルクロマトグラフィー、イオン交換クロマトグラフィー、アフィニティクロマトグラフィー、電気泳動法、ウェスタンブロット法、質量分析法	〃
15				5	〃	C-2	5)①	タンパク質の基礎３	酵素タンパク質、補酵素、触媒、基質特異性、活性化エネルギー、酵素活性、基質濃度、ミカエリス・メンテン式、温度、pH、アロステリック修飾因子、化学修飾	〃
16		23	水	4	安永・芝口	C-2	5)①	タンパク質の基礎４	酵素阻害剤、アイソザイム、CBT問題演習４	講義・テュートリアル
17		28	月	4	安永	D-12	1)①～④	タンパク質の基礎５	情報伝達タンパク質、ペプチドホルモン、アミンホルモン、松果体ホルモン、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン	講義
18				5	〃	D-12	1)⑤～⑦	タンパク質の基礎６	膵臓ホルモン、消化管ホルモン、副腎ホルモン、心臓ホルモン、神経ペプチド、サイトカイン、成長因子、受容体タンパク質、リガンド、細胞膜受容体、細胞内受容体	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
19	6	4	月	4	安永	C-2	3)(1)	タンパク質の基礎7	細胞内シグナル伝達分子、構造維持タンパク質、静的構成成分、細胞外基質、細胞骨格、細胞膜の裏打ち構造、染色体構造、ヒストン、細胞接着タンパク質、細胞接着分子	講義
20				5	〃	C-2	1)(2)	タンパク質の基礎8	収縮作用タンパク質、アクチン、ミオシン、血漿輸送タンパク質、アルブミン、トランスフェリン、セルロプラスミン、ヘモグロビン、膜輸送タンパク質、輸送体、GLUT、SGLT、イオンチャネル、イオンポンプ	〃
21		11	月	4	〃	C-2	1)(1)②③	タンパク質の基礎9	生体防御タンパク質、HLA、T細胞受容体、抗体、補体、Toll様受容体、血液凝固・線溶系タンパク質、血液凝固因子、ユビキチン、オートファジー	〃
						D-1	1)⑤			
22				5	〃	C-2	3)(3)	タンパク質の基礎10	熱ショックタンパク質、プリオン、モータータンパク質、急性期タンパク質、ムチン、アンジオテンシン、浸透圧維持タンパク質、緩衝作用タンパク質	〃
						C-3	2)(1)④(2)①②			
						D-1	1)⑧			
23		13	水	4	安永・芝口	D-5	1)⑬	タンパク質の基礎11	CBT問題演習５	テュートリアル
						D-8	1)⑦			
24		18	月	4	安永	C-1	1)(2)⑤	タンパク質の代謝とその異常１	タンパク質代謝の概要、タンパク質の消化と吸収、タンパク質の生合成、プロモーター、エンハンサー、エピジェネティクス	講義
						C-2	5)⑩			
25				5	〃	C-2	5)⑩	タンパク質の代謝とその異常２	アミノ酸代謝の概要、アミノ酸の分解、アミノ基の代謝、アンモニア、尿素回路、炭素骨格の代謝、アミノ酸の合成	〃
26		25	月	4	〃	C-2	5)⑫	タンパク質の代謝とその異常３	アミノ酸から各種窒素化合物の合成、生体アミン、クレアチン、クレアチニン、甲状腺ホルモン、ポルフィリン、ヘム、ヘモグロビン、ビリルビン、グルタチオン、一酸化窒素、コリン	〃
27				5	〃	C-4	3)②	タンパク質の代謝とその異常４	タンパク質代謝異常、多発性骨髄腫、Mタンパク質、ベンス・ジョーンズタンパク、慢性肝不全、低アルブミン血症、アンモニア、フィッシャー比、アミロイドーシス、アミロイド、コンゴレッド染色	〃
						D-8	3)(3)②③			
28		27	水	4	安永・芝口	C-4	3)②	タンパク質の代謝とその異常５	アミノ酸代謝異常、フェニルケトン尿症、ホモシスチン尿症、メープルシロップ尿症、尿素サイクル異常症、高アンモニア血症、有機酸代謝異常症、有機酸血症、有機酸尿症、ビリルビンの代謝異常、高ビリルビン血症、黄疸、新生児黄疸、ポルフィリン症、新生児マススクリーニング	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
29	7	2	月	4	安永	C-4	3)②	タンパク質の代謝とその異常６	CBT問題演習６	テュートリアル
30				5	芝口	C-2	5)②⑤〜⑦	糖質の基礎１	糖質の分類、糖質の機能、単糖、アルドース、ケトース、立体異性体、アノマー、エピマー、グリコシド性-OH、グリコシド結合、配糖体	講義
31		9	月	4	〃	C-2	5)②⑤〜⑦	糖質の基礎２	棟酸、糖アルコール、アミノ糖、デオキシ糖、オリゴ糖、還元性二糖、非還元性二糖	〃
32				5	〃	C-2	5)②⑤〜⑦	糖質の基礎３	多糖、デンプン、デキストリン、グリコーゲン、セルロース、寒天、複合糖質、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、ヘパリン、糖タンパク質、糖脂質、血液型物質	〃
33		11	水	4	安永・芝口	C-2	5)①	糖質の代謝とその異常１	糖質代謝の概要、糖質の消化と吸収、解糖系、嫌気的解糖、パスツール効果、ワールブルク効果、アルコール発酵、律速酵素、五炭糖リン酸経路、ヌクレオチド、$NADP^+$、グルクロン酸経路、UDP-グルコース、糖ヌクレオチド、グルクロン酸抱合、ビリルビンジグルクロニド	〃
34		16	月	4	安永			学習範囲の総復習	中間試験に備えて学習範囲の総復習	課題学習
35				5	〃			〃	〃	〃
36		23	月	4	〃	C-2	5)⑦	糖質の代謝とその異常２	糖新生、コリ回路、グルコース・アラニン回路、その他の単糖の代謝、ガラクトース代謝、マンノース代謝、フルクトース代謝、グリコーゲン合成、グリコーゲン分解、ホスホリラーゼ、ホスホリラーゼキナーゼ、糖代謝によるATPの生成、グリセロールリン酸シャトル、リンゴ酸-アスパラギン酸シャトル、熱効率	講義
37				5	〃	C-2	5)⑤⑥	糖質の代謝とその異常３	グリコシレーション、糖転移酵素、グリケーション、アマドリ化合物、HbA_{1c}、GA、終末糖化産物(AGE)、1,5-AG、糖質代謝異常、先天性糖代謝異常症、ラクトース不耐症、ガラクトース血症、糖原病、フォンギールケ病、ポンペ病	〃
38	9	17	月	4	〃			学習範囲の総復習	学習範囲の総復習・予習	課題学習
39				5	〃			〃	〃	〃
40		24	月	4	〃			〃	〃	〃
41				5	〃			〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
42	10	1	月	4	安永	C-2	5)③④	糖質の代謝とその異常４	糖尿病、インスリン、高血糖症、糖尿、ケトン症、アシドーシス、１型糖尿病、２型糖尿病、ペットボトル症候群、低血糖症、インスリノーマ、複合糖質の代謝異常、ムコ多糖症、ハーラー症候群、ハンター症候群、グリコプロテイン代謝異常症	講義
						C-4	3)①			
43				5	〃	C-4	3)①	糖質の代謝とその異常５	CBT問題演習７	テュートリアル
44		15	月	4	白須	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎１	脂質の分類、脂質の機能、脂肪酸	講義
45				5	〃	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎２	飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、EPA、DHA、必須脂肪酸、エイコサノイド	〃
46		22	月	4	〃	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎３	単純脂質、中性脂肪、TG、DG、MG	〃
47				5	〃	C-2	5)⑧⑨	脂質の基礎４	複合脂質、リン脂質、糖脂質、リポポリサッカライド、ステロイド、コレステロール、胆汁酸、プロビタミンD、ステロイドホルモン	〃
48		24	水	4	安永・白須	C-2	5)⑨	脂質代謝とその異常1	脂質代謝の概要、血漿リポタンパク質、カイロミクロン、VLDL、IDL、LDL、HDL、脂質の消化と吸収、カイロミクロン系、VLDL-LDL系、HDL系、中性脂肪の加水分解、中性脂肪の生合成	〃
49		29	月	4	安永	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常2	一般経路、腸経路、β酸化、ケトン体とケトーシス、脂肪酸の生合成、脂肪酸合成酵素(FAS)、アシルキャリアータンパク質(ACP)、アセチルCoAカルボキシラーゼ（ACC）	〃
50				5	〃	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常3	リン脂質の代謝、ホスホリパーゼ、アラキドン酸カスケード、細胞内シグナル伝達、イノシトールリン脂質、DG、IP_3、スフィンゴ糖脂質の代謝	〃
51	11	12	月	4	〃	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常4	ステロイドの代謝、コレステロール合成、スタチン、胆汁酸、ステロイドホルモン	〃
52				5	〃	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常5	脂質代謝異常、高脂血症、低脂血症、脂肪酸代謝異常症、脂質蓄積症、G_{M2}ガングリオシドーシス、ゴーシェ病、ファブリー病	〃
53		14	水	4	安永・白須	C-2	5)⑧	脂質代謝とその異常6	CBT問題演習８	テュートリアル
						C-4	3)③			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
54	11	19	月	4	白須	C-2	5)⑮	ビタミン１	ビタミンの歴史、ビタミンの種類、水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、ビタミンの所要量、ビタミンB_1、TPP、ビタミンB_2、FAD、FMN、グルタチオン、ナイアシン、NAD^+、$NADP^+$	講義
						C-4	3)⑤			
55				5	〃	C-2	5)⑮	ビタミン２	ビタミンB_6、PLP、PMP、ビタミンB_{12}、Ado-B_{12}、CH_3-B_{12}、葉酸、C_1単位、THF、パントテン酸、CoA、ACP、ビオチン、アビジン、ビタミンC、コラーゲン代謝	〃
						C-4	3)⑤			
56		26	月	4	〃	C-2	5)⑮	ビタミン３	ビタミンA、レチノイド、ビタミンD、カルシフェロール、ビタミンE、トコフェロール、ビタミンK、Gla化、PIVKA-Ⅱ	〃
						C-4	3)⑤			
57				5	安永	C-2	5)⑮	ビタミン４	CBT問題演習９	テュートリアル
						C-4	3)⑤			
58		28	水	4	白須	C-2	1)(1) 3)(4)①② 5)⑮	水・無機質代謝とその異常１	水代謝の概要、水代謝の調節、細胞内液、細胞外液、電解質組成、電解質の役割、酸塩基平衡、アニオンギャップ、膜電位、体液浸透圧、無機質代謝の概要	講義
						C-4	3)⑤			
						D-8	1)① ③～⑥			
59	12	3	月	4	〃	C-2	5)⑮	水・無機質代謝とその異常２	無機質の分布と機能、Na、K、Ca、Mg、P、S、Cl、Fe、Cu、Mn、I、Co、Zn、Se、Mo、F、Cr	〃
60				5	安永	C-4	3)⑤	水・無機質代謝とその異常３	無機質代謝異常、脱水、浮腫、高Na血症、低Na血症、高K血症、低K血症、高Ca血症、低Ca血症、高P血症、低P血症、鉄代謝異常、鉄欠乏性貧血、銅代謝異常、亜鉛欠乏	〃
						D-8	3)(3)①②			
61		5	水	4	安永・白須	C-4	3)⑤	水・無機質代謝とその異常４	CBT問題演習10	テュートリアル
						D-8	3)(3)①②			
62		10	月	4	安永	D-7	1) ⑥～⑩ ⑫	主な臓器・組織の代謝機能とその異常1	消化器系、消化管、消化酵素、消化管ホルモン、胆汁酸、肝臓、胆汁色素、黄疸、糖原病、糖尿病	講義
63				5	〃	D-7	1)①	主な臓器・組織の代謝機能とその異常２	アルコール代謝、逸脱酵素、膵臓、外分泌、内分泌	〃
64		17	月	4	〃	D-5	1)②⑫	主な臓器・組織の代謝機能とその異常３	筋骨格系、骨格筋、クレアチンリン酸、クレアチンキナーゼアイソザイム、骨、コラーゲン、Ca代謝	〃
						D-6	1)⑥⑨			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
65	12	17	月	5	安永	D-5	1)⑫	主な臓器・組織の代謝機能とその異常４	循環器系、心筋、心筋トロポニン、心筋ミオシン軽鎖Ⅰ、H-FABP、血管、VEGF、FGF、呼吸器系、肺サーファクタント、SP-A、SP-D、KL-6	講義
						D-8	1)③～⑦ 2)②			
66		19	水	4	安永・白須	D-2	1)(1)①③④	主な臓器・組織の代謝機能とその異常５	腎・泌尿器系、クレアチニンクリアランス、タンパク尿、ベンスジョーンズンパク質、エリスロポエチン、レニン、生殖器系、精巣、前立腺特異抗原、卵巣、脳神経系、血液脳関門、神経伝達物質	〃
						D-9	1)⑧ 2)(2)①			
67		24	月	4	安永			学習範囲の総復習	期末試験に備えて学習範囲の総復習	課題学習
68				5	〃			〃	〃	〃
69	1	7	月	4	〃	D-1	1)②③⑤～⑧	主な臓器・組織の代謝機能とその異常６	血液・造血器・免疫系、造血幹細胞、赤血球、2,3-BPG、貧血、PK欠損症、G6PDH欠損症、ヘモグロビン異常症、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血	講義
70				5	〃	C-3	2)(1)①②	主な臓器・組織の代謝機能とその異常７	白血球、自然免疫、獲得免疫、遺伝子再構成、モノクローナル抗体、細胞性免疫、NK細胞、パーフォリン、グランザイム、フローサイトメーター	〃
						D-12	1)①～⑦			
71		9	水	4	安永・白須	D-12	1)①②⑨	主な臓器・組織の代謝機能とその異常８	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板、内分泌系、ホルモン、結合組織、脂肪組織、アディポサイトカイン、平滑筋	〃
72		15	火	4	安永	C-2	5)①～⑦⑩～⑬⑯	総括１	生化学全般	〃
73				5	〃	C-2	5)⑧⑨⑭⑮	総括２	生化学全般	〃
						C-4	3)①～⑤			

医学入門（先端医療　ザ・プロフェッショナル）

Ⅰ．担当教員名

衛生・公衆衛生学	教　授	有　馬　久　富	（科目責任者）
麻 酔 科 学	教　授	山　浦　　健	（副責任者）
総合医学研究センター	教　授	朔　　啓二郎	
形成外科学	教　授	大慈弥　裕　之	
脳神経外科学	教　授	井　上　　亨	
救命救急医学	教　授	石　倉　宏　恭	
精 神 医 学	教　授	川　嵜　弘　詔	
再生・移植医学	教　授	小　玉　正　太	
感染制御部	教　授	髙　田　　徹	
腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙　松　　泰	
総合診療部	教　授	鍋　島　茂　樹	
消化器外科学	教　授	長谷川　　傑	
産科婦人科学	教　授	宮　本　新　吾	
心臓血管外科学	教　授	和　田　秀　一	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

医学部医学科に入学した初年次に、福岡大学病院で行われている先端医療の現場から講師を迎え、自由闊達な意見交換を行い、医学を学ぶにあたって必要な基本姿勢や、将来医師になった場合の心構えや医療現場での様々の課題について、その多面性・社会性について理解し、将来医療人になるための使命感を醸成していく。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．将来の医療人としての大切な心構えを説明できる。
2．医療人・医学研究者の魅力とやりがいについて説明できる。
3．医学・医療の進歩における医学研究の重要性を説明できる。
4．高度専門医療とプライマリ・ケアについて、意義、必要性等を説明できる。
5．医療現場での様々な課題を列挙できる。
6．チーム医療の重要性について説明できる。
7．地域医療の重要性について説明できる。
8．将来の理想の医療人への道（キャリアデザイン）を考え、今から必要なことが何かを列挙できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

担当教員が、それぞれの専門医療の現場から見た将来のキャリアデザインに必要な事柄を講義時間内に熱く語るので、これに出席し積極的に質問をし、議論を通して理解を深める。

各授業について次回講義までに、ポートフォリオ（この講義で私が学んだこと、考えたことなどに関するレポート）を提出する。

〈事前事後学習の方法〉

１．学修要項のキーワードについて、事前学習して講義に臨む。

２．講義・講演内容、授業中の討論を振り返り、学んだこと、考えたこと、更に調べたことなどをポートフォリオ（レポート）に作成する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況、授業態度、ポートフォリオ（レポート）などを総合的に判断する。

評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

必要時、各担当者から講義の中で紹介する。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	11	水	3	有馬	B-1	3)	エビデンスはどうやって作られるのか	根拠に基づいた医療＜EBM＞脳出血、臨床研究	講義
2		18	水	3	川嵜	C-5	1)～4) 6)～8)	医師・患者関係におけるコミュニケーション技術	脳科学、サイコセラピー、医療人としての感性、コミュニケーション、行動科学	〃
3		25	水	3	鍋島	B-1	4)～8)	総合診療医からのメッセージ	内科診断学、ウィリアム・オスラー、プライマリ・ケア、家庭医療	〃
						B-2	1)2)			
						B-3				
4	5	2	水	3	朔	G-3	4)	心臓救急最前線	急性冠症候群、AED、胸骨圧迫、心肺蘇生法	〃
5		9	水	3	山浦	F-2	9)10)	手術医療	外科的治療、周期的管理、麻酔	〃
6		16	水	3	髙松	E-3	1)	がんを知り、がんと向き合う	腫瘍の病態・症候、抗腫瘍薬の適応・有害事象、エンド・オブ・ライフケア	〃
						E-9	1)			
						F-2	8)			
						A-1	1)～3)			
7		23	水	3	石倉	A-7	1)2)	医療の原点－救命救急－	救急医療、集中治療管理、災害医療、重症病態	〃
						B-1	7)～9)			
						E-5	1)～3)			
8		30	水	3	小玉	F-2	12)13)	再生医療	再生医療、細胞移植	〃
						A-8	1)			
9	6	6	水	3	長谷川	D-7	4)(3)	大腸癌治療の最前線	大腸癌、内視鏡手術、ロボット支援手術	〃
10		13	水	3	宮本	A-8	1)	基礎から臨床への橋渡し研究	少子化対策を目指した臨床研究	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	6	20	水	3	大慈弥	E-3	3)	形成外科と抗加齢医学	再建外科、マイクロサージャリー、乳房再建、抗加齢医学、健康長寿、美容医療	講義
						E-7	1)～4)			
						E-8	1)			
						G-2	37)			
						G-3	1)～4)			
12		27	水	3	和田	D-5	4)(2)(4)(7)	心臓手術の歴史と未来；どのように始まり、どこに向かうのか	心臓手術、歴史、過去、未来	〃
13	7	4	水	3	井上	A-4	2)	君が外科医になる日	外科、脳神経外科	〃
14		11	水	3	髙田	E-2	1) 2) 4)(2)(4)(5)	感染と感染症～ヒトと微生物との深遠な関係～	感染症、院内感染、性感染症、新興・再興感染症	〃
15		18	水	3	有馬			キャリア・デザイン	15年後の理想の医療人への道を想起し、１年次の今から何が必要かを考える	〃

医学生のための生命科学

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学　教　　授　白　澤　専　二（科目責任者）
　　准　教　授　角　田　俊　之（副責任者）
　　講　　師　石　倉　周　平
　　〃　　土　井　佳　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

ヒトの体は種々の組織器官から成り立ち、また各組織器官は種々の機能を持った生命活動の基本単位である細胞より成り立っている。病気は、これらの細胞内・細胞間・組織間のネットワークで形成された“ホメオスターシス”が破綻した状態として捉えることができる。本科目では、医学の理解の大前提となる生命の本質的存在であるゲノム、そして生命体の基本構成単位である細胞の基本構造と機能について学習・修得し、さらに生命科学の重要性を生活習慣病、癌、自己免疫疾患などの各種疾患を題材として理解する。生命科学の基本的知識と疾患の病因と機序を学び、人体の各器官の構造と機能、さらに全身におよぶ生理的変化等の総合的な理解へとつなげる能力を養う。また、レポート課題等により、医学的および生物学的な最新の知識等を含めた重要事項を抽出し、自主性と積極性を持って、統合・整理することに努める。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．生命科学と医療の結びつきを理解する。
2．基礎医学を理解する重要性を認識する。
3．ゲノム、遺伝情報、遺伝子発現の分子メカニズムについて理解する。
4．細胞膜と細胞内小器官の構造と機能を理解する。
5．糖質・蛋白質・脂質代謝、ATP 産生過程について理解する。
6．分子間、細胞間、組織間ネットワークの存在と意義を理解する。
7．細胞の増殖・分化・アポトーシスについて理解する。
8．幹細胞、iPS 細胞、ES 細胞の概念を理解する。
9．受精卵から各種器官が形成される過程を理解する。
10．癌、自己免疫疾患、メタボリックシンドロームについて概念を理解する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．講義：教科書、スライド、板書によって行われる講義を聴講する。復習を十分に行う。また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
2．レポート提出：課題に対してレポートを提出する。

〈事前事後学習の方法〉

・Moodle に掲載している講義資料を事前にプリントアウトして、講義概要を確認してくること。
・講義後は、必ず講義内容に関する範囲の指定教科書を読んで理解を深めること。
・授業時に示す課題（ゲノム、膜と小器官、細胞周期と癌、免疫担当細胞、物質・エネルギー代謝とメタボリックシンドローム、幹細胞）について、レポートを作成し提出すること。
・興味が持てた題材に関して、自分自身で掘り下げて学習すること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．期末試験：教科書、講義内容およびレポート課題に関して筆記試験を行う。

２．レポート：採点結果を総合評価に加味する。

３．１、２をもって総合的に評価する。

Ⅵ．**教科書**

１．生命科学　羊土社

Ⅶ．**参考書・文献**

１．組織細胞生物学　南江堂

２．内科学　朝倉書店

３．免疫生物学　南江堂

４．標準生理学　医学書院

５．ラングマン人体発生学　メディカル・サイエンス・インターナショナル

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	17	月	3	白澤・角田	C-1		生命科学－１	教科書１・２・３章予習、章末問題を解く	課題学習
2		24	月	3	〃	C-1		生命科学－２	教科書４・５・６章予習、章末問題を解く	〃
3	10	1	月	3	〃	C-1	1)(1) 1)(2) 2)(1)	生命科学と医療	生命科学、基礎研究と臨床、オーダーメイド医療、再生医療、分子標的療法、VINDICATE+P、教科書１章	講義
4		15	月	3	白澤・石倉	C-1	1)(2)	遺伝情報・遺伝子発現調節－１	教科書２・３・４章	〃
5		22	月	3	〃	C-4	1)	遺伝情報・遺伝子発現調節－２	多因子疾患、遺伝子多型、SNP、HLA、エピゲノム、クロマチンリモデリング、RNA干渉、miRNA	〃
6		29	月	3	〃	C-1	1)(1)	細胞膜・細胞内小器官・細胞骨格－１	教科書５・６章	〃
7	11	12	月	3	〃	C-2	1)(1)	細胞膜・細胞内小器官・細胞骨格－２	イオンチャネル、トランスポーター、膜電位、酸塩基平衡、電解質代謝	〃
8		19	月	3	〃	C-2	3)(1)	細胞周期・シグナル伝達	教科書９・10章	〃
9		26	月	3	白澤・角田	C-4 E-3	2) 1)①②	癌	癌遺伝子、癌抑制遺伝子、多段階発癌、RB、p53、K-Ras、Bcl-2、アポトーシス	〃
10	12	3	月	3	白澤・土井	C-3	2)(1) 2)(2) 2)(3) 2)(4)	血液細胞・免疫担当細胞・自己免疫疾患	赤血球、血小板、好中球、好酸球、好塩基球、単球、T細胞、B細胞、抗原提示細胞、HLA、TCR、Th1、Th2、Th17、Treg、自然リンパ球	〃
11		10	月	3	〃	C-2	5)	生体構成物質・代謝・生体エネルギー	教科書１・７・８章	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	12	17	月	3	白澤・角田	C-2	5)	糖質代謝・脂質代謝・メタボリックシンドローム・糖尿病－1	解糖系、β酸化、酸化的リン酸化、ATP合成	講義
13		24	月	3	白澤・土井	C-2		生命科学－３	教科書１－10章復習	課題学習
14	1	7	月	3	白澤・角田	C-2	5)	糖質代謝・脂質代謝・メタボリックシンドローム・糖尿病－2	AMPK、メトホルミン、血中リポ蛋白質、必須脂肪酸、COX、5-LOX、アディポカイン、インスリン、インクレチン、GLP-1	講義
15		15	火	3	白澤・土井	C-2	4)	発生学総論・再生医療	ES細胞、組織幹細胞、iPS細胞、外胚葉・中胚葉・内胚葉	〃

医　学　概　論　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者）
	講　　師	田　中　　崇
	非常勤講師	石　井　美　栄（福岡市西区保健福祉センター　所長）
再生・移植医学	教　　授	小　玉　正　太
法　医　学	教　　授	久　保　真　一
循環器内科	講　　師	西　川　宏　明（西新病院）
心臓血管外科学	教　　授	和　田　秀　一
救命救急センター	講　　師	喜多村　泰　輔
医学系研究・生命医療倫理部門	准　教　授	今　泉　　聡
臨床医学研究センター	教　　授	志　村　英　生
総合医学研究センター	教　　授	田　村　和　夫
人　文　学　部 教育・臨床心理学科	教　　授	徳　永　　豊
教育開発支援機構	准　教　授	須　長　一　幸

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．将来の医療人になるために必要な、生命・医療の倫理を理解し、倫理的原則に基づき行動できる。
2．情報社会で必要な情報セキュリティー、医療情報倫理について理解し行動できる。
3．パーソナルコンピュータを自由に扱える技術を習得する。
4．医療人（基礎医学、社会医学、臨床医学、国際医療）へのキャリアパスを理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　医療人としての倫理・使命について説明できる。
⑵　医学情報、診療情報の取扱いに関する注意事項、取扱い方について説明できる。
⑶　PC 周辺機器について概説できる。
⑷　アプリケーションの役割の違いを説明できる。
⑸　ファイル形式（拡張子）からどのような内容か推測できる。
⑹　Excel、Word、PowerPoint を使いこなすことができる。
⑺　ネットワークの構成を概説でき、実際に利用できる。
⑻　ハッキング・コンピューターウイルスの危険性について概説できる。
⑼　医事法など医療関係法規について説明できる。
⑽　自分の将来の医療人としての夢を語り、キャリアパスを想起できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　担当教員が当日のテーマについて講義か PC を用いた演習を実施するので、これに出席し、実際に PC 演習を行う。随時学習項目のレポートを作成する。
⑵　プリントや資料によりレポートをデータ、及びプリントアウトして提出させる。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況（2/3以上の出席を必須とする）、課題、発表の内容、貢献度、看護・BSL実習、心肺蘇生実習、基礎研究室配属の全てを合わせ総合的に評価する。

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

必要時、各担当者が講義の中で紹介する。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	19	水	3	今泉	A-1 B-3	1)	医の倫理と生命倫理	ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言 職業倫理指針、医師憲章 臨床倫理、研究倫理	講義
2		26	水	3	久保	A-1	2)3)	患者の権利、医師の責務	リスボン宣言　自己決定権 インフォームド・コンセント 医師と法	〃
3	10	3	水	3	田村	A-1 A-2 A-3		プロフェッショナリズム	William Osler　医学の歴史、全人的医療、リベラルアーツ	〃
4		10	水	3	徳永	B-4		行動科学1 社会科学	多様性、バイアス(偏見)、障害	〃
5		17	水	3	須長	B-4		行動科学Ⅱ 社会と医学	医療社会学、人類学	講義/TBL
6		24	水	3	安元・八尋	C-5	1)2)	行動科学Ⅲ 人の行動と心理	行動の成り立ち、動機付け、行動変容	〃
7		31	水	3	志村	A-2	2)	アカデミックスキルⅠ	ファイル管理、ワード文書編集、ネットリテラシー、電子メール・SNS	PC
8	11	7	水	3	〃	B-2	2)	情報セキュリティ・倫理	医療情報　電子カルテ、個人情報	講義
9		14	水	3	安元	C-5	4)	行動科学Ⅳ ストレス	ストレスマネージメント コーピング	講義/TBL
10		21	水	3	安元・田中	A-2	2)	アカデミックスキルⅡ	ファイル管理、エクセル、表計算	PC
11		28	水	3	安元・八尋	A-2	2)	アカデミックスキルⅢ	パワーポイント　Vision Board プレゼンテーション	〃
12	12	5	水	3	小玉・和田	A-9	1)	医師のキャリアパスⅠ	海外留学　生涯学習	講義
13		12	水	3	喜多村・西川	A-9	1)	医師のキャリアパスⅡ	臨床専門医　救命救急医 心臓カテーテル	〃
14		19	水	3	非常勤講師 石井	A-9	1)	医師のキャリアパスⅢ	行政医師　男女共同参画	〃
15	1	9	水	3	安元・八尋	A-2	2)	行動科学	まとめ	〃

医学概論Ⅱ（看護・BSL 実習）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者・実務責任者）
	講　　師	田　中　　崇
総合医学研究センター	教　　授	出　石　宗　仁
看　護　部	看護部長	中　川　朋　子
	教育担当師長	山　﨑　智　美

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．医療現場の体験実習を通して、患者の入院生活や心理を理解する。
２．医療の現場を見学し、チーム医療を理解する。
３．BSL 見学から医療者プロフェッショナリズムを理解する。
４．臨床実習前に身につけておくべき自己の課題を考えることができる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　患者の入院生活や環境を説明できる。
⑵　入院生活の心理状態の多様性を説明できる。
⑶　医療チームを構成する異なる職種の医療スタッフ３名以上（医師・看護師以外）にインタビューし、役割を説明できる。
⑷　プライバシー保護について考え、患者の権利について説明できる。
⑸　医学生に必要な態度について説明できる。
⑹　医療現場の体験から得られた自己の学習目標を設定できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　実習は下記の日程で、福岡大学病院、筑紫病院の各病棟で行う。
⑵　実習上の諸注意を厳守する。
⑶　オリエンテーション時から白衣を着用し、名札をつける。
⑷　実習の意義を理解し、注意事項を確認して参加する。終了後は他のグループの発表も参考にして、広く医療現場に対する理解を深めるとともに、自己の学習目標の設定に役立てる。

日　程

月　　日	午　　前	午　　後
９月３日㈪	８：45　集合 ９：00～　オリエンテーション 場所：臨床大講堂 司会：科目責任者 （１年生主担任、学部長 教務委員、病院長、看護部長、 副看護部長、医学教育推進講座）	13：00～ 病棟オリエンテーション 院内見学（各部署）
４日㈫ ５日㈬ ６日㈭	８：30～17：00　病棟実習（看護実習 A・B）（BSL C） ８：30～17：00　病棟実習（看護実習 A・C）（BSL B） ８：30～17：00　病棟実習（看護実習 B・C）（BSL A）	
９月７日㈮	ポートフォリオ、発表スライド作成	成果発表会（基礎第１講義室）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

実習への参加態度、ポートフォリオ、看護師・M5学生・患者を含めた360°評価。

実習上の諸注意

１．実習態度

１）病院は、患者の療養、生活の場であることを理解して行動する。
２）医学科の学生であることを自覚し、節度ある謙虚で真摯な態度をとる。
３）５分前行動を厳守する。
４）欠席、遅刻はしない。（欠席・遅刻する場合は、医学部事務課に連絡する）
５）実習の開始・終了時は、病棟師長に挨拶をする。
６）私語や私的な行動を慎み、学生間では、姓名を呼ぶ。
７）実習で関わる人々に対して、状況に応じた挨拶、言葉遣いを心がける。
８）病院内の移動は、原則として、エレベーターを使用しない。
９）デイルームや外来などのソファーに座らない。
10）医療器具や患者の物品を破損させたり等、トラブルが発生した際は、すみやかに病棟師長に報告する。

２．服装・身だしなみ・携帯品

１）ケーシー白衣・黒のスラックス（スカートやジーンズ、ワークパンツ、ワイドパンツ、足首が見える丈のものは禁止）・名札を着用する。
２）白の無地のＴシャツ（色柄禁止）靴下は黒を着用し、ケーシー白衣はアイロンをかけ、しわのないようにする。
３）靴は清潔で音の出ない黒の無地のスニーカー（ハイカット・サンダル・クロックス・革靴禁止）を選ぶ。
４）髪型、髪の色などにも配慮し、長髪は束ねる。（茶髪禁止）
５）化粧は華美にしない。（つけまつげ禁止）
６）爪は切り、ネイル・マニキュアはしない。
７）指輪、アクセサリーはつけない。
８）香水・整髪料など匂いの強いものは避ける。
９）ヒゲはきちんと剃る。

３．個人情報の取り扱い

１）患者に関する個人情報・実習中に知り得た情報は一切口外しない。
２）実習中にとったメモなどは、置き忘れや紛失がないようにする。（患者情報はメモをとらない）

４．その他

１）病院内では、携帯電話は使用しない。病棟内に持ち込まない。
２）病院内・敷地内では、全ての場所で禁煙を厳守する。
３）規則正しい食生活と十分な睡眠を心がけ体調を整える。
　体調不良時は、すみやかに報告する。
４）病棟への持ち込みはファイルなど必要最低限にする。（手荷物・部活動の道具等の持込不可）
　ロッカーの借用については、前日までに医学部事務課で手続きを行うこと。
５）ポートフォリオの記入は病棟では行わない。（PC 教室やゼミ室等を利用する）

医学概論Ⅱ（心肺蘇生実習）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者）
救命救急センター	講　　師	喜多村　泰　輔（実務責任者）
手　術　部	助　　教	杉　村　朋　子（実務担当者）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．一次救命処置の重要性を理解する。

２．一次救命処置を習得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．一次救命処置の各手技を正しく実施できる。

⑴　安全確認と感染防御を正しく実施できる。

⑵　意識の確認を正しく実施できる。

⑶　人を呼んで「ヒト」「モノ」「AED」を集めることができる。

⑷　呼吸と脈の確認を正しく実施できる。

⑸　胸骨圧迫の位置、角度、速さ、深さ、圧迫解除を正しく実施できる。

⑹　胸骨圧迫をたえまなく実施できる。

⑺　頭部後屈あご先挙上法による気道確保を正しく実施できる。

⑻　口対口人工呼吸を正しく実施できる。

⑼　AED（自動体外式除細動器）を正しく使用できる。

２．一次救命処置の手順を正しく実施できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

１．一次救命処置に関する講義。

２．講師によるデモンストレーション。

３．シミュレーターを使用した実習。

４．１班25名程度にグループ分け。グループ編成及び実習日程は次頁に記載。

５．動きやすい服装。（スカート不可）運動靴

〈事前事後学習の方法〉

実習したことをよく復習して体得すること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

一次救命処置の実施試験を以下の要領で行う。

試験内容は一次救命処置マニュアルに提示したチェック項目に従って行う。

試験結果によっては再試験を行う。

Ⅵ．教科書

特になし。

Ⅶ. 参考書・文献

JRC 蘇生ガイドライン2015オンライン版
http://jrc.umin.ac.jp/pdf/20151016/1_BLS.pdf

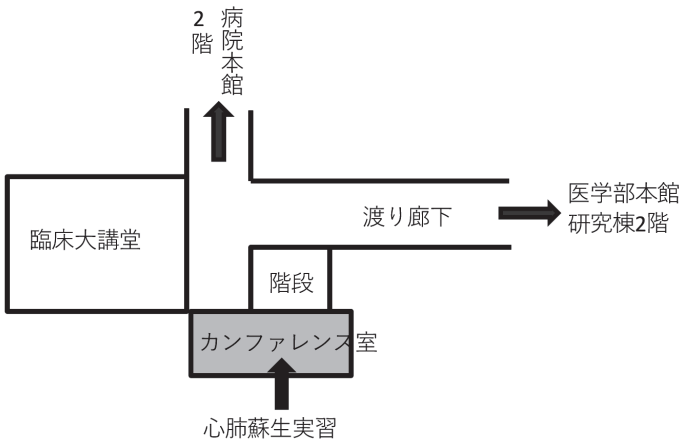
No.	月	日	曜	限	担当者	項　　目	キーワード	授業形態
1	9	19	水	4	喜多村	心　肺　蘇　生　法	心肺停止、一次救命処置	講義・実習
2		26	水	4	杉　村	〃	〃	〃
3	10	3	水	4	喜多村	〃	〃	〃
4		10	水	4	杉　村	〃	〃	〃
5		17	水	4	喜多村	〃	〃	〃

・場所：病院本館２Ｆ　カンファレンス室　（医学部本館との渡り廊下近く）（下記）
・軽い運動ができる服装で参加して下さい。（スカートは不可、運動靴着用）
・指定の実習日に病欠などで休んだ場合は、他の日に参加して下さい。

※標記科目のグループ分け及び実習日程は、下記のとおりとします。

【９月19日（水）】４限　研究室配属の1・2班
【９月26日（水）】４限　研究室配属の3・4班
【10月３日（水）】４限　研究室配属の5・6班
【10月10日（水）】４限　研究室配属の7・8班
【10月17日（水）】４限　研究室配属の9・10班

※実習のない４日間は９月29日（土）３学部協働コミュニケーション学習に振り替える



医学概論Ⅱ（研究室紹介）

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　授	安元佐和（科目責任者）
	准教授	八尋英二（副責任者）
総合医学研究センター	教　授	出石宗仁
再生・移植医学	教　授	小玉正太（実務責任者）
整形外科学	教　授	山本卓明
形成外科学	教　授	大慈弥裕之
眼科学	教　授	内尾英一
耳鼻咽喉科学	教　授	坂田俊文
泌尿器科学	教　授	田中正利
産科婦人科学	教　授	宮本新吾
麻酔科学	教　授	山浦　健
歯科口腔外科学	教　授	近藤誠二
臨床検査医学	教　授	松永　彰
救命救急医学	教　授	石倉宏恭
病理学	教　授	竹下盛重
臨床医学研究センター	教　授	向野利寛（筑紫病院）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．基礎医学・社会医学・臨床医学の研究室で行われている研究の概要を理解できる。

２．２学年の「研究室配属」で配属される研究室での研究内容に興味を持ち、配属前に、事前に関連する分野について調べることができる。

３．「研究室配属」で希望する研究室と事前に連絡を取り、研究内容の打ち合わせなどで、医学研究者としての態度を身につける。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　課題に関する分野別講義の内容を理解できる。

⑵　課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。

⑶　課題に関して学生や教員と討論できる。

⑷　課題に関するレポートを作成し発表ができる。

⑸　課題に関して新たな問題点を指摘できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

２学年の「研究室配属」についての研究室紹介が行われ、学生と質疑応答を行う。

事前学習：事前に研究室の概要をホームページ等で調べておく。

事後学習：興味を持った研究室について「研究室配属」の希望を出すための情報を収集する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席、態度等により評価する。必要があればレポートなどを参考とする。

Ⅵ. 教科書

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ. 参考書・文献

必要に応じ、各講座から情報提供する。

No.	月	日	曜	限	担当者	項目	キーワード	授業形態
	9	19	水	4	心肺蘇生実習実施期間 ※詳細に関しては、P57、58を参照ください。			
		26	水	4				
	10	3	水	4				
		10	水	4				
		17	水	4				
1		31	水	4	全員	研究室紹介④	リサーチマインド・生涯学習	講義
2	11	7	水	4	〃	研究室紹介⑤	〃	〃
3		21	水	4	〃	研究室紹介⑥	〃	〃
4	12	12	水	4	〃	プレゼンテーション	Vision Bord	全体発表

研究室紹介④　整形外科学、形成外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、泌尿器科学
研究室紹介⑤　産科婦人科学、麻酔科学、歯科口腔外科学、臨床検査医学、救命救急医学
研究室紹介⑥　病理学、筑紫病院

第 2 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M2】		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	免疫学	一般・神経生理学	グローバル人材演習	生化学実習・演習	解剖学Ⅱ	微生物学	臓器・病態生理学	組織細胞生物学各論	寄生虫学	臨床医学入門Ⅰ	薬理学Ⅰ	研究室配属
Ⅰ. プロフェッショナリズム														
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。														
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
Ⅱ. 医学的知識														
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。														
1	正常構造と機能	D	D	D	F	C/D	D	D	D	D	D	F	C/D	F
2	発達、成長、加齢、死	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	心理、行動	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	D	F
4	病因、構造と機能の異常	D	D	D	F	F	F	D	F	D	D	F	F	F
5	診断、治療	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F
6	医療安全	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	保健・医療・福祉制度	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
9	医療経済	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅲ. 診療技術・患者ケア														
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。														
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C/D	F	F
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C/D	F	F
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	F	F	F	D	F	F	F	F	F	F	D	F	F
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	F
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療														
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。														
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	B	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療														
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。														
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	F	C	F	F	F	F	F	F	C	F	F
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力														
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。														
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	F	F	C/D	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C/D	F	C/D
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	F	C/D	C/D	F	C	D	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	F	F	F	F	C/D	C/D	F	C/D	C/D	F	C	C	C/D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	C	C	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	F	F	F	C	C/D	C	F	C	C	F	C	C	C/D

組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学	教　　授	白　澤　専　二（科目責任者）
	准　教　授	上　原　清　子（副責任者）
	〃	三　角　佳　生
	〃	角　田　俊　之
	講　　師	石　倉　周　平
	〃	小　柳　　緑
	〃	土　井　佳　子
	助　　教	田　中　陽　子
	非常勤講師	中　林　一　彦（国立成育医療研究センター研究所室長）
	〃	山　本　　健（久留米大学医学部医化学講座教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

生命の最も重要な構成要素はゲノムであり、ゲノムの本質はDNAである。一方、生命活動の基本単位は細胞であり、細胞が有機的・機能的に集合して組織・器官が作られ、最終的にヒトとしての個体が形作られる。ヒト疾患を理解するには、これらのゲノム・細胞・組織の構造と機能を習得することが必要不可欠である。組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学では、細胞・組織の基本的な構造・機能と遺伝情報であるゲノム・遺伝子の発現制御、遺伝様式およびゲノムの多型性を理解する。さらに、配偶子の接合から各器官および個体が形成される発生過程を理解し、生命体としてのヒトの理解へとつなげる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．細胞の全体像を図示し、小器官の構造と機能を説明できる。
2．生体膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。
3．細胞膜を介する分泌と吸収の過程および細胞内輸送システムを説明できる。
4．細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。
5．上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。
6．結合組織を構成する細胞と細胞間質を説明できる。
7．軟骨と骨組織の構造的特徴について、構成する細胞と基質の特徴を関連づけて説明できる。
8．骨髄の構造、造血幹細胞、末梢血細胞の種類と構造的特徴および機能を説明できる。
9．筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
10．神経細胞・神経組織の構造、脳神経、脳神経節、脳神経核、大脳基底核、視床、伝導路について概説できる。
11．真核細胞のゲノムと遺伝子の構造を説明できる。
12．DNAの複製・修復、RNA干渉、miRNAを説明できる。
13．DNAからRNAを経てタンパク質合成に至る遺伝情報の変換過程を説明できる。
14．プロモーター、転写因子などによる遺伝子発現の調節、エピジェネティックなゲノム制御機構を説明できる。

15. 組換え実験の基本、PCR 法を概説できる。
16. 細胞周期、有糸分裂、減数分裂の各過程を概説できる。
17. 単一遺伝子疾患、多因子疾患、遺伝子多型、遺伝子頻度について概説できる。
18. 細胞の増殖・分化・アポトーシスについて概説できる。
19. がん遺伝子、がん抑制遺伝子、がん化の分子機構について概説できる。
20. オーダーメイド医療・個別化医療について概説できる。
21. 細胞における分子レベルでのシグナリングについて理解する。
22. 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の概要を説明できる。
23. 三層性胚盤の形成と役割を概説できる。
24. 胚内体腔の形成について概説できる。
25. 心臓脈管系の形成過程を概説できる。
26. 消化器・呼吸器系の形成過程を概説できる。
27. 尿生殖器系の形成過程を概説できる。
28. 頭・頚部の形成とその神経支配を概説できる。
29. 神経系の形成過程を概説できる。
30. 主要な神経伝導路を概説できる。
31. 自己学習・グループ学習・討論のそれぞれの長所を理解する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

1．講義：教科書、スライド、板書によって行われる講義を聴講する。予習と復習を十分する。教科書にそって講義は行うので、必ず指定教科書を持参し、また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
2．顕微鏡実習：各人が顕微鏡を用い、用意された標本を観察し、スケッチする。毎回実習終了時に、スケッチした内容をレポートとして提出する。
3．テュートリアル：自己学習・グループ学習を積極的に行い、発表・討論に臨む。
4．Moodle にあげている講義資料を事前にプリントアウトして、講義概要を確認してくること。
5．講義後は、必ず講義内容に関する範囲の指定教科書を読んで理解を深めること。
6．キーワードを自分自身で整理して理解を深めること。
7．組織像に関しては、実習後に、指定アトラスを利用して復習し理解を深めること。
8．期末試験前に、写真を利用した知識確認テストを行うので、日頃より学習を積み重ねること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

1．実習レポート：採点結果を総合評価に加味する。
2．テュートリアル：参加姿勢・発表・討論を総合的に評価する。
3．期末試験前組織知識確認テスト
4．期末試験：講義および実習内容について筆記試験を行う。
5．１～４を総合的に評価し、判定する。

Ⅵ．**教科書**

1．組織細胞生物学　南江堂
2．ラングマン人体発生学　メディカル・サイエンス・インターナショナル

Ⅶ. 参考書・文献

内科学　朝倉書店

カラーアトラス機能組織学　医歯薬出版株式会社

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	2	月	1	白澤・石倉	C-1	1)(1) 1)(2) 2)(1)	細胞と生命	生命、進化、個体発生、細胞、組織・器官、ゲノム・遺伝子	講義
2				2	〃	C-2	1)(1) 3)(1)	生体膜と機能局在	リン脂質二重層、膜タンパク質、細胞膜、シグナル伝達、受容体、輸送体	〃
3				3	〃	C-2	1) 5)	細胞小器官	核、小胞体、リボソーム、ゴルジ装置、リソソーム、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、プロテアソーム、オートファジー、クラスリン、Redox、シトクロムC、Bcl-2、Bax、ペントースリン酸経路	〃
4				4	〃	C-2	1)(1) 1)(2)	分泌・吸収・細胞骨格	エキソサイトーシス、エンドサイトーシス、微小管、アクチンフィラメント、中間フィラメント、モーター蛋白、中心子	〃
5		9	月	1	〃	C-1	1)(2)	細胞分裂	細胞周期、サイクリン、ユビキチン、APC/C、RB遺伝子、抗癌剤の作用	〃
6				2	〃	C-2 C-4	3)(1) 2)	シグナリング・分子細胞生物学的解析法	レセプター、リガンド、シグナルカスケード、増殖・分化・アポトーシス、カスパーゼ、癌細胞、老化、免疫染色、サザン法、ノザン法、ウェスタン法、PCR法、flow cytometry	〃
7				3	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－1	扁平上皮、円柱上皮、移行上皮、細胞の極性、基底膜、密着結合、接着結合、ギャップ結合、接着分子、カドヘリン、インテグリン、線毛、微絨毛	〃
8				4	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－2	部分分泌、離出分泌、全分泌、腺組織の分類、外分泌腺、内分泌腺	〃
9		16	月	1	全員	C-2	2)(1)	上皮組織－3	各種上皮	実習
10				2	〃	C-2	2)(1)	上皮組織－4	腺上皮	〃
11				3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	結合組織－1	膠原線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、コラーゲン、プロテオグリカン、グリコサミノグリカン、脂肪細胞、肥満細胞、大食細胞、形質細胞、アディポサカイン、レプチン、アディポネクチン、TNF-α、AMPK、UCP1、COX	講義
12				4	〃	C-2	2)(1)	軟骨組織－1	硝子軟骨、弾性軟骨、線維軟骨、軟骨細胞	〃
13		23	月	1	全員	C-2	2)(1)	結合組織－2	膠様組織（臍帯）、細網組織（リンパ節）、疎生結合組織	実習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	4	23	月	2	全員	C-2	2)(1)	軟骨組織－2	硝子軟骨、弾性軟骨、線維性軟骨、軟骨細胞、軟骨基質	実習
15				3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	骨組織－1	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、膜性骨化、軟骨性骨化、骨端軟骨板、カルシトニン、ビタミンD3、M-CSF、RANK、RANKL、PTH、骨基質、緻密骨、海綿骨	講義
16				4	〃	C-2	2)(1)	血液－1	赤血球、白血球、血小板、骨髄、好中球、好酸球、好塩基球、単球、T細胞、B細胞、巨核球、HSC、凝固・線溶系、組織因子、t-PA、DIC	〃
17	5	7	月	1	全員	C-2	2)(1)	骨組織－2	長骨、骨膜、骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨基質、骨層板、ハバース管、骨の発生	実習
18				2	〃	C-2	2)(1)	血液－2	血液塗抹標本、骨髄（赤芽球、骨髄球、巨核球）	〃
19				3	白澤・石倉	C-2	2)(1)	筋組織－1	平滑筋、骨格筋、心筋、筋節、Ｉ帯、A帯、Ｚ線、筋線維、アクチン／ミオシン-フィラメント、筋紡錘、トロポニン、筋小胞体、T細管、介在板、暗小体、RyR、γ-環、脂質ラフト、カベオラ	講義
20				4	〃	C-2	2)(1) 3)(2)	神経組織－1	神経細胞、軸索、髄鞘、シナプス、小膠細胞、星状膠細胞、稀突起膠細胞、シュワン細胞、血液脳関門、上衣細胞、アルツハイマー病、多発性硬化症	〃
21		14	月	1	全員	C-2	2)(1)	筋組織－2	平滑筋、骨格筋、横紋筋、筋紡錘、心筋	実習
22				2	〃	C-2	2)(1)	神経組織－2	脊髄神経節、軸索、髄鞘、神経細胞、膠細胞	〃
23				3	白澤・角田	D-2	1)(1) ①②⑤	神経組織－3	発生、大脳、小脳、脊髄、脈絡叢、白質、灰白質、脳脊髄液、髄膜	講義
24				4	〃	D-2	1)(1) ①～③ 1)(2) ①～③ 1)(3) ①～③	神経組織－4	神経核、脳神経、錐体路、脊髄視床路、後索-内側毛帯系、視床特殊核、大脳基底核、歯状核	〃
25		21	月	1	非常勤講師 中林	C-1	1)(2)	遺伝－1	ゲノム、遺伝子、染色体、DNA、RNA、二重らせん、ヒストン、転写、クロマチン、プロモーター、エクソン、イントロン	〃
26				2	〃	C-4	1)	遺伝－2	コドン、セントラルドグマ、翻訳、RNA干渉、DNA複製、DNA修復、エピゲノム制御	〃
27				3	非常勤講師 山本	E-1	1)	遺伝－3	常染色体優性遺伝性疾患、常染色体劣性遺伝性疾患、伴性遺伝、遺伝子頻度	〃
28				4	〃	C-4	1)	遺伝－4	遺伝子多型、多因子疾患、SNP	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
29	5	28	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学発生学－1		テュートリアル
30				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－2		〃
31				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－3		〃
32				4	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－4		〃
33	6	4	月	1	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－5		〃
34				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－6		〃
35				3	白澤・石倉			組織細胞生物学総括－1		講義
36				4	白澤・角田			組織細胞生物学総括－2		〃
37		11	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－7		テュートリアル
38				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－8		〃
39				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－9		〃
40				4	白澤・角田			発生学総論－1	発生学総論復習	講義
41		12	火	3	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－10		テュートリアル
42				4	白澤・角田			発生学総論－2	発生学総論復習	講義
43		18	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－11		テュートリアル
44				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－12		〃
45				3	白澤・角田			遺伝－5	遺伝学復習	講義
46				4	〃			遺伝－6	遺伝学復習	〃
47		19	火	3	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－13		テュートリアル
48				4	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－14		〃
49		25	月	1	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－15		〃
50				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－16		〃
51				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－17		〃
52				4	白澤・角田			発生学各論－1	発生学各論復習	講義
53		26	火	3	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学－18		テュートリアル
54				4	白澤・角田			発生学各論－2	発生学各論復習	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
55	7	2	月	1	全員	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学−19		テュートリアル
56				2	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学−20		〃
57				3	〃	C-2	4)	細胞生物学・遺伝学・発生学−21		〃
58				4	白澤・角田			発生学各論−３	発生学各論復習	講義
59		3	火	3	〃			発生学総括−１		〃
60				4	〃			発生学総括−２		〃
61		9	月	1	白澤			総括−１		〃
62				2	〃			総括−２		〃
63				3	〃			総括−３		〃
64				4	〃			総括−４		〃
65		10	火	3	〃			細胞･組織図試験−１		試験・講義
66				4	〃			細胞･組織図試験−２		〃
		26	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

免　　疫　　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　　授	廣　松　賢　治（科目責任者）
	講　　師	石　井　一　成（副責任者）
	〃	副　島　利　紀
	助　　教	伊　藤　竜　太
	〃	仇　　斌
	〃	栗　原　悠　介
	〃	清　水　章　文
	〃	佐　藤　絵　美
	非常勤講師	原　田　　守（島根大学医学部微生物・免疫学教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

免疫系の機構を分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、主な自己免疫疾患、アレルギー性疾患、先天性および後天性免疫不全症候群とがんに対する免疫系の反応を理解する。将来臨床医として必要な生体防御の考え方を習得し、種々の疾患の病態の理解やその治療に役立てれるようにする。特に、様々な細菌、真菌、ウイルス、寄生虫などの病原微生物による感染症の病態を理解するために必要な免疫学的基礎知識の習得を目指す。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1）自然免疫と獲得免疫の特徴、違いを説明できる。
2）液性免疫、細胞性免疫の特徴、違いを説明できる。
3）免疫応答にかかわる臓器、細胞群を説明できる。
4）ＭＨＣクラスⅠとクラスⅡの基本構造、抗原提示経路の特徴、違いを説明できる。
5）免疫グロブリンとＴ細胞抗原レセプターの構造、多様性獲得機構と反応様式を説明できる。
6）免疫学的寛容（中枢性・末梢性）の機構とその破綻を説明できる。
7）抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を概説できる。
8）Th1 ／ Th2 ／ Th17　Ｔ細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる．
9）病原微生物に対する感染防御機構と予防ワクチンの意味を説明できる。
10）アレルギー発症の機序を概説できる。
11）ガン免疫に関わる細胞性機序を概説できる。
12）先天性免疫不全、後天性免疫不全症候群を概説できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1）系統講義
2）テュートリアル学習（課題シートを基に自学自習、グループ討論を行う）
3）指定教科書や参考書・プリントをよく読みこむこと

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１）本試験

２）テュートリアル課題に対するポートフォリオ

３）本試験：ポートフォリオ＝９：１

Ⅵ．**教科書**

Abbas, A. K. et al（松島綱治　他　訳）：分子細胞免疫学　エルゼビア・ジャパン

Ⅶ．**参考書・文献**

Levinson, W.: Review of Medical Microbiology and Immunology．McGraw・Hill

笹月健彦　監訳：カラー図説　免疫　感染症と炎症性疾患における免疫応答　メディカル・サイエンス・インターナショナル

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	3	火	1	廣松	C-2	3)(3)	免疫学　イントロダクション	生体防御防御機構、体液性免疫、細胞性免疫、補体系、NK細胞、好中球、マクロファージ、樹状細胞、T細胞、B細胞、抗体	講義
						C-3	2)(1)			
2				2	〃	D-1	1)①②④⑦	自然免疫と獲得性免疫	Toll様受容体（Toll-like receptor）、抗原提示、リンパ節、胸腺、骨髄	〃
						C-3	2)(1)①②④			
						E-2	3)①②		LPS（エンドトキシン）、サイトカイン、発熱、ショック	
3		5	木	1	〃	C-3	2)(1)(2)	免疫系の抗原認識	抗原認識-特異性、多様性、メモリー、トレランス、免疫グロブリン（抗体）/B細胞抗原受容体（BCR）の構造、抗原認識	〃
4				2	〃	C-3	2)(2)	〃	T細胞抗原受容体（TCR）の構造、主要組織適合性遺伝子複合体（MHC）、抗原提示細胞（樹状細胞、マクロファージ、B細胞）	〃
5		10	火	1	〃	C-3	2)(2)	T細胞に対する抗原提示	MHCクラスⅠ・Ⅱ抗原提示経路・CDIシステム（NKT細胞）	〃
6				2	〃	C-3	2)(2)	〃	樹状細胞によるナイーブT細胞への抗原提示、リンパ球の循環、活性化T細胞への抗原提示	〃
7		12	木	1	〃	C-3	2)(2)(3)①～③	T細胞抗原レセプター・免疫グロブリンの多様性の機構	抗原レセプター遺伝子座の生殖細胞系構成、遺伝子の再構成	〃
8				2	〃	C-3	2)(2)	〃	免疫グロブリン、アイソタイプ（クラス）スイッチ、affinity maturation、胚中心	〃
9		17	火	1	〃	C-3	2)(2)	T細胞胸腺内分化	positive selection-self MHC restriction拘束性、negative selection　胸腺内トレランス・末梢トレランス（アナジー regulatory T細胞）	〃
10				2	〃	D-1	1)④	〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	4	19	木	1	廣松	C-3	2)(3)	T細胞の活性化	ナイーブT細胞の活性化ー樹状細胞、シグナル１／シグナル２【補助刺激-B71/2-CD28】、アナジー、CTLA4分子	講義
12				2	〃	C-3	2)(3)	〃	〃	〃
13		24	火	1	〃	C-3	2)(3)②③	細胞性免疫のエフェクター機構	CD4ヘルパーT細胞(Th1／Th2／Th17)、活性化マクロファージの機能	〃
14				2	仇	C-3	2)(3)②③	〃	regulatory T細胞・CD8細胞障害性T細胞	〃
15		26	木	1	廣松	C-3	2)(1)	液性免疫のエフェクター機構	トキシンの中和、オプソニン化、ADCC、FcR、補体活性化	〃
16				2	〃	C-3	2)(2)②(3)②③	〃	B細胞活性化-T/B interaction-アイソタイプ・スイッチ、affinity maturation、T依存性抗原、T非依存性抗原、conjugate vaccine	〃
17	5	1	火	1	全員	C-3	2)(2)	テュートリアル課題学習	MHCクラスⅠとクラスⅡの基本構造、抗原提示経路の違い	テュートリアル
18				2	〃	C-3	2)(2)	〃	免疫グロブリンとT細胞抗原レセプターの構造と反応様式の違い、T細胞抗原受容体ー多様性獲得の機構	〃
19		8	火	1	廣松	C-3	2)(4)①1)(2)①②	微生物に対する免疫	細胞外寄生性病原体に対する免疫応答、ウイルスに対する免疫応答	講義
20				2	栗原	C-3	2)(4)①④	〃	細胞内寄生性病原体に対する免疫応答	〃
21		10	木	1	廣松	C-3 E-4	2)(4)④ 2)①3)(6)	アレルギー発症の機序	Coombs分類、Ⅰ型アレルギー、好酸球、マスト細胞、アナフィラキシー・ショック	〃
22				2	〃	C-3 E-4	2)(4)④ 2)①3)(6)	〃	〃	〃
23		15	火	1	〃	C-3	2)(4)④	〃	Coombs分類、Ⅱ型、Ⅲ型アレルギー、Ⅳ型アレルギー	〃
24				2	〃	C-3 E-4	2)(4)③ 3)(3)	自己免疫疾患の基礎	全身性自己免疫病、臓器特異的自己免疫病、ループス腎炎、Th1、Th2、Th17	〃
25		17	木	1	全員	C-3	1)(2)2)(3)②③	テュートリアル課題学習	自然免疫系のサイトカイン	テュートリアル
26				2	〃	C-3	1)(2)2)(3)②③	〃	獲得免疫系のサイトカイン	〃
27		22	火	1	非常勤講師 原田	C-3	2)(2)③(4)⑤	特別講義	腫瘍(がん)に対する免疫応答の機序	講義
28				2	〃	C-3	2)(2)③(4)⑤	〃	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
29	5	24	木	1	廣松	C-3	2)(4)②	免疫不全	先天性免疫不全	講義
						E-4	3)(7)			
30				2	〃	C-3	2)(4)②	〃	後天性免疫不全	〃
31	6	7	木	1	全員	C-3	2)(4)	テュートリアル課題学習	感染免疫・アレルギー	テュートリアル
32				2	〃	C-3	2)(4)	〃	〃	〃
	7	19	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

一般・神経生理学

Ⅰ．担当教員名

生　理　学	教　　授	井　上　隆　司（科目責任者）
	准　教　授	上　原　　明（副責任者）
	講　　師	沼　田　朋　大
	〃	本　田　　啓
	〃	倉原(海)　　琳
	〃	市　川　　純
	〃	内　田　俊　毅
	助　　教	胡　　耀　鵬

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

生理学は、個体がどのようにして種々の「活動」を行うのか、すなわち、いかにして食物を食べ、いかにして動き、いかにして環境の変化に適応し、いかにして新しい世代を生み出すかなど、その「仕組み」（原理・機序）を、生体を構成する全ての「階層」（レベル）に亘って包括的に理解することを目的としています。言い換えれば、分子、細胞、組織、器官、個体、環境の各階層における「働き」（機能）の発現・調節の仕組みを知るのみならず、それらがどのように「統合」され、個体の活動として実現しているのかを理解するのが究極の目的です。そのためには、まず、それぞれの階層における働きの作動原理を学ぶ必要があります。

その準備として、前期の最初では、以下の１～６の到達目標に述べられている、細胞機能の発現に関わる種々の「一般原理」を勉強します。次に、生体全体を統合的に調節している「神経系」の成り立ちや働きについて学びます。

１．生体の恒常性維持やリズム形成に関わる基本原理を理解する。
２．細胞内外の物理化学的環境とその活動を支えるエネルギーの流れを理解する。
３．細胞膜におけるイオン・物質輸送の機序を理解する。
４．細胞の電気的情報伝達の機序を理解する。
５．細胞内・細胞間の化学的情報伝達の様式を理解する。
６．骨格筋、心筋、平滑筋の収縮発生・調節を例として、そこに電気的・化学的情報伝達がどのように関わっているか、考え方を修得する。
７．自律神経による内臓機能調節の仕組みを理解する。
８．感覚神経による外部刺激受容・伝達と脳による感覚情報統合の機序を理解する。
９．運動神経による反射調節と脳による随意運動調節の機序を理解する。
10．脳による高次統合機能や情動・本能行動の発現・調節の機序を理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．細胞の微細構造と細胞内小器官の役割について説明できる。
２．細胞の内外環境における物理化学的因子と細胞の活動を支えるエネルギーの流れについて説明できる。

３．細胞膜の構造と機能をイオン透過性、物質輸送から説明できる。
４．細胞内液・外液のイオン組成から静止膜電位の成因を説明できる。
５．細胞膜を介する能動・受動輸送の機序を説明できる。
６．細胞膜のイオンチャネル、ポンプの機能とその制御機構を説明できる。
７．興奮性細胞の膜興奮生成過程をイオンチャネルの時間的活性変化から説明できる。
８．神経軸索内の興奮伝播機構を説明できる。
９．生理活性物質の受容体結合から細胞内情報伝達までの情報の流れを説明できる。
10．シナプス伝達の種類（促進性、抑制性）と機能、及びその統合と可塑性について説明できる。
11．交感神経、副交感神経末端からの遊離物質の種類とその作用を概説できる。
12．内臓性求心路（臓器感覚）と関連痛を説明できる。
13．神経筋接合部と遊離物質による終板電位の発生を説明できる。
14．骨格筋の収縮過程、筋疲労、筋麻痺、筋無力症の病因、筋弛緩剤の作用機序を概説できる。
15．骨格筋、心筋、平滑筋の収縮、弛緩機構の違いを対比して説明できる。
16．表在感覚（温、冷、触、圧、痛覚）の受容と伝導路、及び機能を説明できる。
17．深部感覚の受容と伝導路、及び筋紡錘、腱器官の働きを説明できる。
18．視覚情報の受容機構と伝導路を説明できる。
19．対光反射、輻輳反射の機能について説明できる。
20．屈折異常と調節障害を説明できる。
21．視力と視力検査の原理を説明できる。
22．色覚と色覚異常を説明できる。
23．網膜電図と臨床的意義を説明できる。
24．聴覚受容と伝導路を説明できる。
25．伝音性難聴、感音性難聴を伝音機構、感音機構から説明できる。
26．音の強さの単位を説明できる。
27．味覚、嗅覚の受容の仕組みと伝導路を説明できる。
28．平衡感覚機能を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。
29．主な脳内神経伝達物質とその作用を説明できる。
30．大脳皮質の運動野・錐体路系と随意運動との関連を説明できる。
31．小脳、大脳基底核の機能を協調運動と関連させて説明できる。
32．運動失調、不随意運動の起こり方を概説できる。
33．脊髄反射（伸張反射、屈曲反射）、脳幹を介する反射の種類と機序、意義を説明できる。
34．主な病的反射の起こり方とその意義を説明できる。
35．視床下部の中枢（満腹・摂食・体温・浸透圧調節等）を概説できる。
36．覚醒と睡眠、学習と記憶について説明できる。
37．連合野の高次機能を説明できる。
38．大脳辺縁系の情動行動、本能行動中枢を説明できる。
39．神経系の諸機能検査法の原理を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義に出席する。

２．テュートリアルで個人学習とグループ学習の違いや意義を理解する。

３．テーマ別グループ学習で理解を深める。

４．講義テキストで復習する。

５．参考書で予習、復習する。

６．テーマ別グループ学習や小テストの結果から、間違った点を理解する。

７．理解できない点を教員に質問する。

〈事前事後学習の方法〉

１．シラバスに記載されている学習項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。

２．配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。

３．理解不足の点について参考書で調べ、必要ならば講義担当者へ質問すること。

４．テーマ別グループ学習やテュートリアル学習の内容について、講義テキスト・参考書で復習すること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況（原則として、テュートリアルは全て出席のこと。）

２．小テスト・テーマ別グループ学習・テュートリアル

３．中間試験・期末試験成績

Ⅵ．**教科書**

特に指定しない。配布した講義テキストに従って授業を進める。

Ⅶ．**参考書・文献**

Moodle の講義資料

大地陸男　著：生理学テキスト　第７版　文光堂　2013

小澤瀞司・福田康一郎　監修：標準生理学　第８版　医学書院　2014

坂井建雄・河原克雅　総編集：カラー図解　人体の正常構造と機能〔全10巻縮刷版〕 第３版　日本医事新報社　2017

Ganong, W. F. 原著、岡田泰伸　監訳：ギャノング生理学　原書24版　丸善出版　2014

Guyton, A. C., Hall, J. E. 原著、御手洗玄洋　総監訳：ガイトン生理学　原著第11版　エルゼビア・ジャパン　2010

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	3	火	3	井上隆	C-1	1)(1)	一般生理1(イントロダクション・細胞の構造と機能)	生体システム、ホメオスタシス、生体膜、細胞骨格、細胞内小器官、生体内高分子	講義
						C-1	2)(1)			
						C-2	3)			
2				4	〃	C-2	5)②③④⑯	一般生理2(細胞とエネルギー)	酸化還元反応、高エネルギー化合物	〃
3		4	水	1	〃	C-2	1)(1)	一般生理3(細胞内外の物理化学的環境)	イオン、電解質、浸透圧、体液、酸塩基平衡	〃
						C-2	3)(4)			
						D-8	1)⑥			
						D-8	3)(2)			
4				2	〃	C-2	1)(1)②③④	一般生理4(細胞内外の物質輸送)	イオンチャネル、トランスポーター、一次・二次能動輸送、エンドサイトーシス・エキソサイトーシス	〃
5		10	火	3	本田	C-2	3)(1)	一般生理5(細胞内情報伝達)	細胞膜受容体、G蛋白質、効果器、セカンドメッセンジャー、チロシンキナーゼ、細胞内受容体、転写因子	〃
6				4	〃	C-1	1)(1)⑦	一般生理6(細胞間情報伝達)	インテグリン、接着分子、ギャップジャンクション、サイトカイン	〃
7		11	水	1	〃	C-2	3)(4)①～③	一般生理7(細胞間・臓器間情報伝達)	内分泌系、自己分泌系・傍分泌系	〃
						D-12	1)①			
8				2	沼田	C-2	1)(1)①②	細胞の興奮と伝導1	イオン透過性、ドナンの膜平衡、平衡電位、静止膜電位	〃
							3)(2)①			
9		17	火	3	〃	C-2	3)(2)①②	細胞の興奮と伝導2	活動電位、膜電流、分極、閾値、イオンチャネルの活性化・不活性化	〃
10				4	〃	C-2	3)(2)①②	細胞の興奮と伝導3	局所電流、興奮伝播、伝導速度、不応期、跳躍伝導、細胞間伝導	〃
11		18	水	1	〃	C-2	1)(1)②	細胞の興奮と伝導4	イオンチャネルの構造と機能、遺伝子とその異常	〃
							3)(2)①			
						D-2	4)(6)③			
12				2	〃	C-2	3)(2)②	興奮伝達機構(シナプス)	電気的シナプス、化学的シナプス、神経伝達物質、シナプス電位	〃
13		24	火	3	倉原(海)・井上隆	C-2	3)(2)②	神経筋接合部	運動神経、骨格筋、アセチルコリン、ニコチン受容体、終板電位、重症筋無力症	〃
14				4	〃	C-2	2)(1)⑤3)(1)	骨格筋	骨格筋の種類と特徴、骨格筋における興奮収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	〃
						D-2	4)(6)①③			
15		25	水	1	〃	C-2	2)(1)⑤3)(1)	心筋	心筋の構造と特徴、興奮収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
16	4	25	水	2	倉原(海)・井上隆	C-2	2)(1)⑤ 3)(1)	平滑筋	平滑筋の構造と特徴、興奮収縮連関、受容体収縮連関、収縮の分子機構、機能異常・病態	講義
17	5	1	火	3	井上隆					補講・中間試験
18				4	〃	C-2 D-2	2)(1)④ 3)(2) 1)(1)① (2)① (6)① (7)① 2)②	神経系概論	神経系の発生、体性神経系と自律神経系、脳神経、脊髄神経、脊髄・脳幹の構造、皮膚分節と筋節、神経回路、反射	講義
19		2	水	1	市川	D-2	1)(7) ①②	自律神経1	遠心性神経、交感神経、副交感神経、交感神経節、二重神経支配、神経緊張	〃
20				2	〃	D-2	1)(7) ①②	自律神経2	神経伝達物質と受容体、内臓反射、自律神経中枢と臓器系への作用	〃
21		8	火	3	上原明	C-2 D-2	3)(2) ①④ 1)(6)	体性感覚1	体性感覚総論（感覚受容体、起動電位等）	〃
22				4	〃	D-2	1)(6)	体性感覚2	表在知覚、深部知覚、感覚伝導路、内臓感覚	〃
23		9	水	1	〃	D-2	1)(6)	体性感覚3	痛覚	〃
24				2	〃	D-2	1)(6)	視覚1	視覚総論、明暗視、色覚	〃
25		15	火	3	〃	D-2	1)(6)	視覚2	視覚情報処理、視覚路の障害	〃
26				4	〃	D-2	1)(6)	視覚3	視覚中枢、視覚異常	〃
27		16	水	1	〃	D-2	1)(6)	味覚・嗅覚	刺激受容機構、情報伝達機構、中枢情報処理機構	〃
28				2	〃	D-2	1)(6)	平衡感覚	平衡と運動の知覚、前庭機能障害、前庭反射	〃
29		22	火	3	全員			個人・グループ学習		テュートリアル
30				4	〃			〃		〃
31		23	水	1	上原明	D-2	1)(6)	聴覚1	聴覚総論、外耳、中耳	講義
32				2	〃	D-2 D-14	1)(6) 3)(1)	聴覚2	内耳、聴覚情報処理、聴覚路、難聴	〃
33		29	火	3	全員			個人・グループ学習		テュートリアル
34				4	〃			〃		〃
35		30	水	1	井上隆	C-2 D-2	3)(2) 1)(1)② ⑤	中枢神経系1（運動制御）	中枢神経系総論、脊髄、筋紡錘、腱器官、脊髄反射、運動性上下行路	講義
36				2	〃	D-2	1)(3)	中枢神経系2（運動制御）	脳幹、神経結合、体性運動反射	〃
37	6	5	火	3	全員			個人・グループ学習		テュートリアル
38				4	〃			〃		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
39	6	6	水	1	井上隆	D-2	1)(5)②③ 3)(1)③ 4)(2)③④⑤	中枢神経系３（運動制御）	小脳、神経回路、運動機能・姿勢調節と障害、大脳基底核、運動機能調節、運動失調	講義
40				2	〃	D-2	1)(5)①	中枢神経系４（高次機能）	大脳皮質、運動中枢、運動性入出路、運動機能調節	〃
41		13	水	1	〃	D-2	1)(1)③④ (4)①② 2) 3)(3)	中枢神経系５（高次機能）	大脳皮質の区分と一般構造、神経結合、中枢神経系の伝達物質、高次機能局在、高次機能検査法（脳波等）	〃
42				2	〃	D-2	1)(4)③	中枢神経系６（高次機能）	睡眠と覚醒、意識、学習と記憶	〃
43		20	水	1	〃	D-2	1)(7)②③	中枢神経系７（高次機能）	視床下部、大脳辺縁系	〃
44				2	全員			テーマ別グループ学習	前期の内容について	演習
45		27	水	1	〃			〃	〃	〃
46				2	〃			〃	〃	〃
47	7	4	水	1	〃			〃	〃	〃
48				2	〃			〃	〃	〃
49		11	水	1	〃			〃	〃	〃
50				2	井上隆			前期のまとめ		講義
	8	28	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

グローバル人材演習

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（科目責任者）
医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（副責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二
	講　　師	田　中　　崇
	非常勤講師	伊　藤　大　樹（あおばクリニック院長）
小児科学	教　　授	廣　瀬　伸　一
総合医学研究センター	教　　授	出　石　宗　仁
国際センター	准　教　授	佐々木　有　紀
解　剖　学	講　　師	フェリル　ロリト
法　医　学	助　　教	ウォーターズ　ブライアン
生　理　学	助　　教	胡　　耀　　鵬

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．医学、医療のグローバル化に対応できるために、必要な医学英単語を習得する。

2．医学研究のための英語論文の読み方、書き方、スライド作成、プレゼンテーションの基本を理解する。

3．英語による医療面接の基礎（医療コミュニケーション、病歴聴取）を理解できる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　基本的な英語の医学専門用語を理解し、医療コミュニケーションに使う事ができる。

⑵　医学論文の記載法、英語でのプレゼンテーションの構成を理解できる。

⑶　１分間の英語のプレゼンテーションのスライド作成し、発表できる。

⑷　外国人模擬患者から、英語で病歴聴取を実践できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　e-learning による英語の医学用語の演習　※PC 用イヤホンを各自持参すること。

⑵　英語講師との個別指導（自己紹介、Vision Board）

⑶　講義：論文の構成、英語のプレゼンテーション

⑷　英語の医療面接　TBL ロールプレイ、英語の模擬患者との医療面接

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況（2/3 以上の出席を必須とする）TBL での態度　英語プレゼンテーション　英語医療面接

Ⅵ．教科書

⑴　医学・医療系学生のための総合医学英語テキスト　Step1　日本医学英語教育学会　編
メジカルビュー社　￥2,800＋税

Ⅶ．参考書・文献

⑴　日本医学英語検定試験３・４級教本　日本医学英語教育学会　編　メジカルビュー社
￥3,600＋税

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	11	水	3	全員	A9	1)	・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング ・Private lesson	語　彙: Head, Upper part of body, Lower part of body ●Spell Out 1 リーディング：Hot, Cold, It's a Matter of Taste, Smokers Start Early, A Lesson in Caring, But I'm not Tired	e-learning （PC教室） ・ T B L
2				4	〃			〃	語　彙: Nervous system & Sensory system, Circulatory system, Respiratory system & Endocrine system, Digestive system, Urinary system & Reproductive system, Musculoskeletal system, Body fluid & Miscellaneous ●Spell Out 2 リーディング：One Bad Bug! (1)(2)(3)	〃
3		18	水	3	〃			・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング リスニング ・Private lesson	語　彙: Respiratory Internal Medicine & Otolaryngology (1) (2), Circulatory Internal Medicine リーディング：Scientists Clone Pigs! (1)(2)(3) ●Confirmation Test1 リスニング：Angina Ⅰ & Ⅱ	〃
4				4	〃			〃	語彙: Digestive Internal Medicine(1)(2)(3) リーディング：Attacking Asthma(1)(2) リスニング：Common cold Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	〃
5		25	水	3	〃			〃	語　彙：Urology, Obstetrics / Gynecology(1) (2), Ophthalmology, Pediatrics, Psychiatry(1)(2) リーディング：Extinct Animal May Get Second Chance(1)(2), Scientists Map Genetic Code For Humans (1)(2) リスニング：Acute gastritis Ⅰ	〃
6				4	〃			・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング ・Private lesson	語　彙: Surgery & Orthopedics (1)(2)(3), Dermatology (1)(2), Other Diseases, General symptoms ●Spell Out 3 リーディング：Trouble on the Table(1)(2)(3)(4) ●Confirmation Test2	〃
7	5	2	水	3	〃			・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング リスニング ・Private lesson	語彙: Test (1)(2), Diagnosis・Treatment(1)(2)(3)(4) ●Spell Out 4 リーディング：Dangerous Season (1)(2) リスニング：Acute gastritis Ⅱ, Ⅲ	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
8	5	2	水	4	全員			・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング リスニング ・Private lesson	語彙：Medical Equipment (1)(2)(3)(4) ●Spell Out 5 リーディング：Dangerous Season (3)(4) リスニング：Fracture Ⅰ, Ⅱ	e-learning （PC教室） ・ TBL
9		9	水	3	〃				Journal structure reading, writing	講義
10				4	〃				〃	TBL
11		16	水	3	廣瀬				presentation	講義/TBL
12				4	安元				Vision Board スライド作成	e-learning （PC教室） ・ TBL
13		23	水	3	〃				Think global, act local.	講義/TBL
14				4	非常勤講師 伊藤				〃	〃
15		30	水	3	全員			Vision Board 発表		全体発表
16				4	〃			〃	〃	〃
17	6	6	水	3	〃			・医学英語〈基礎〉コース 語彙 リーディング リスニング ・Private lesson	語彙：Print_Area (1) (2) (3) リーディング：Spare a Kidney? (1)(2)(3) リスニング：Pregnancy Ⅰ	e-learning （PC教室） ・ TBL
18				4	〃			〃	語彙：Facilities (1) (2) ●Spell Out 6 リーディング：Facts on Fiber (1)(2)(3) ●Confirmation Test3 リスニング：Pregnancy Ⅱ	〃
19		13	水	3	〃	A4 A8 A9	1） 1） 1）	英語医療1 シナリオ作成	abdominal pain	TBL
20				4	〃			英語医療面接2 チーム内ロールプレイ	role play	〃
21		20	水	3	〃			英語医療面接3 代表ロールプレイ	〃	全体発表
22				4	〃			〃	〃	〃
23		27	水	3	〃			英語医療面接4 Native English SP		実習
24				4	〃			〃	〃	〃
25	7	4	水	3	〃			まとめ		講義/TBL
26				4	〃			〃	〃	〃

生化学実習・演習

Ⅰ．担当教員名

生　化　学　　教　　授　　安　永　晋一郎（科目責任者）
　　講　　師　　芝　口　浩　智（副責任者）
　　〃　　白　須　直　人
　　非常勤講師　　大　野　芳　典（広島大学・原爆放射線医科学研究所）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

生体は、外部からの物質摂取により体成分の合成やエネルギーの獲得を行うことで健全な生活を営んでいる。その正常な代謝過程を知ることなしに人体に起きる病態を理解し取り組むことは不可能である。また近年の分子生物学の飛躍的発展により分子レベルでの代謝の理解が不可欠となっている。前年度に生化学では、解剖学、組織細胞生物学総論・各論、遺伝学、発生学で学習する細胞の基本構造や各組織・臓器の構成と位置関係、そして一般・神経生理学、臓器・病態生理学で学習する各臓器の生理学的機能に先行して、生化学的機能すなわち生体物質の代謝について理解し修得した。さらには、他の基礎医学、臨床医学とのつながりを意識した統合的理解を身につけた。

生化学実習・演習では、まず生化学実習を通して生化学的実験手技の基本を身につけ、生化学的検査に対する理解を深めることを目標とする。さらには前年度学習した糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝について復習し統合的な理解をする。その成果を生化学演習によって確認する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．生化学的実験手技の基本を身につける
２．生化学的臨床検査に対する理解を深める
３．栄養素とエネルギーについて
　１）栄養素と栄養所要量について説明する。
　２）基礎代謝と特異動的作用について説明する。
　３）栄養異常について、その概略を説明する。
　４）標準自由エネルギー変化と高エネルギー化合物について説明する。
　５）生体酸化還元とクエン酸回路、電子伝達系（呼吸鎖）について説明する。
　６）酸化的リン酸化、基質準位リン酸化および化学的浸透圧説について説明する。
　７）フリーラジカルの発生と作用を説明する。
４．生体高分子の構造と機能について
　１）核酸の構造と機能を説明する。
　２）糖質（炭水化物）の基本的な構造と機能を説明する。
　３）脂質の基本的な構造と機能を説明する。
　４）タンパク質の基本的な構造と機能を説明する。
５．生体物質の代謝について
　１）酵素の機能と調節について説明する。
　２）核酸の代謝について
　　ａ．ヌクレオチドの合成・異化・再利用経路を説明する。

ｂ．核酸の主な代謝異常を説明する。

３）タンパク質の代謝について

ａ．タンパク質の合成と分解を説明する。

ｂ．アミノ酸の異化と尿素合成の経路を説明する。

ｃ．アミノ酸の主な代謝異常を説明する。

ｄ．ヘム・ポルフィリンの代謝を説明する。

４）糖質（炭水化物）の代謝について

ａ．解糖の経路と調節機構を説明する。

ｂ．五炭糖リン酸経路の意義を説明する。

ｃ．糖新生の経路と調節機構を説明する。

ｄ．グリコーゲンの合成と分解の経路を説明する。

ｅ．糖質の主な代謝異常を説明する。

５）脂質の代謝について

ａ．リポタンパク質の構造と代謝を説明する。

ｂ．脂質の合成と分解を説明する。

ｃ．空腹時（飢餓)、食後（過食時）と運動時における代謝を説明する。

ｄ．脂質の主な代謝異常を説明する。

６）ビタミンの代謝について

ａ．ビタミンの種類と機能を説明する。

ｂ．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明する。

ｃ．抗酸化ビタミンのフリーラジカル捕捉作用を説明する。

７）無機質の代謝について

ａ．無機質の代謝を説明する。

ｂ．無機質の主な代謝異常を説明する。

６．組織・臓器の代謝について

１）主な臓器の代謝機能を説明する。

２）主な臓器の代謝異常を説明する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．実習

学生は32班（１班３～４名）の小グループに分かれ、与えられた課題の生化学実習に取り組む。実験に失敗した場合、やり直しを要する場合があるので、後の時間をあけておくこと。

２．演習

本試験と同じ形式で復習試験を行なう。

〈事前事後学習の方法〉

１．配布した実習書の該当項目を事前に読んでおく。**（必須）**

２．実習内容・結果・考察についてレポートを作成し、一週間後に提出する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．実習は、出席、参加姿勢及び一週間後に提出するレポートで評価する。

２．演習は客観試験により評価する。

３．以上の採点に基づく結果の総合評価で合否を判定する。

Ⅵ．教科書

１．安永晋一郎　編：モデル・コア・カリキュラム対応　医用生化学―生体物質の代謝と異常―2017年版　福岡大学医学部生化学講座　2017

２．福岡大学医学部生化学：生化学実習書　2018年版　福岡大学医学部生化学講座　2018

Ⅶ．参考書・文献

１．川嵜敏祐　監：レーニンジャーの新生化学　第６版　廣川書店　2015

２．入村達郎、岡山博人、清水孝雄　監：ストライヤー生化学　第７版　東京化学同人　2013

３．清水孝雄　監：イラストレイテッド　ハーパー・生化学（原書30版）　丸善出版2016

４．他の基礎医学・臨床医学で使われている教科書

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	木	3	芝口 全員			実習討論 1	実習器具、実習機器、危険防止	実習
2				4	〃			実習討論 2	測容器の使用法、マイクロピペッターの使用法	〃
3		12	木	3	〃	D-1	1)⑤ 2)③ 4)(4)⑨	実習討論 3	比色分析法	〃
4				4	〃	D-1	1)⑤ 2)③ 4)(4)⑨	実習討論 4	吸光度、透過率、Lambert-Beerの法則、分光光度計	〃
5		19	木	3	安永 全員 非常勤講師 大野	C-2	5)② ⑤～⑦ ⑯	実習討論 5	血糖の定量	〃
6				4	〃	C-2	5)② ⑤～⑦ ⑯	実習討論 6	空腹時血糖値、酵素法、除タンパク質、補酵素、o-トルイジンほう酸法	〃
7		26	木	3	〃	C-2 C-4	5)⑩ 3)②	実習討論 7	電気泳動	〃
8				4	〃	C-2 C-4	5)⑩ 3)②	実習討論 8	血清分離、等電点、セルロースアセテート膜電気泳動、A/G比	〃
9	5	10	木	3	白須 全員 非常勤講師 大野	C-1	1)(2) ①～⑥	実習討論 9	遺伝子解析	〃
10				4	〃	C-1	1)(2) ①～⑥	実習討論10	アルコール代謝関連遺伝子、毛髪採取、PCR法、アガロースゲル電気泳動	〃
11		17	木	3	白須 全員	C-4	3) ①～⑥	実習討論11	尿の検査	〃
12				4	〃	C-4	3) ①～⑥	実習討論12	尿タンパク、尿糖、尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリン体	〃
13	6	7	木	3	安永			生化学演習(1)	生化学全般	復習試験
14				4	〃			〃	〃	〃
15		14	木	3	〃			生化学演習(2)	〃	〃
16				4	〃			〃	〃	〃

解　剖　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

解　剖　学	教　　授	立　花　克　郎（科目責任者）
	講　　師	フェリル　ロリト
	〃	遠　藤　日富美
	助　　教	入　江　　豊（副責任者）
	〃	千々岩　芳　朗
脳神経外科学	教　　授	井　上　　亨
神経内科学	教　　授	坪　井　義　夫
耳鼻咽喉科学	教　　授	坂　田　俊　文
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑
	非常勤講師	小　川　皓　一

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

⑴　臨床医学を修得していく上で基礎となる正常な人体の形態・構造・機能を理解する。

⑵　人体解剖学実習を通して、形態学的思考方法や観察眼を養い、自学自習の精神を身に付ける。

⑶　「生命の尊厳」、「医の倫理」を直視し、医学を学ぶにふさわしい態度、高いレベルのモラルを習得する。

⑷　グループ学習の意義を理解し、グループの中での協調性、積極性と責任をはたす態度を身につけ、他の学生と意見交換ができる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

肉眼解剖学的構造については；

⑴　骨格、筋、靭帯、循環器、末梢神経、内臓、感覚器の概要を示すことができる。

⑵　上記⑴に基づき、身体の各部位の構造を局所解剖学的に説明することができる。
さらに構造面から機能を説明できる。

⑶　体表から主な器官の位置と形態を指し示すことができる。

⑷　生体の構造と位置関係について、三次元的に再構築することが出来、X線写真、CT、MRI といった画像の理解に結びつけることができる。

⑸　人体を構成する器官とその主要な部位名を英語で書くことができる。

中枢神経系の構造については；

⑴　脳・脊髄の構成・構造を説明できる。

⑵　中枢神経各部位の機能を説明でき、さらに各部の統合的機能を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　解剖実習に出席し、重要な事項を把握する。

⑵　解剖学Ⅰで学習した範囲に関して実習が行われる。実習予定範囲を確認し、同範囲の肉眼的構造を把握すると共に機能及び臨床医学的意義を理解する。

⑶　教科書・実習テキストなどで予習をする。

⑷　解剖実習を行い、知識を確認するとともに、不明な点はその場で教科書、iPad などで調べる。
⑸　解剖実習は４人で１体の人体解剖を行う。テュートリアル・グループ討論を通して解剖手順を決め、必要な部位は印を付けるかスケッチする。
⑹　解剖実習の学習成果を毎回レポートにまとめて提出する。
⑺　実習中に担当教員から人体解剖の指導を受ける。
⑻　医学部慰霊祭に参加し、医学生としての問題意識を自覚し、生命の尊厳や医の倫理について考える。
⑼　学生は小グループに分かれ、各グループに与えられた Team based Learning またはテュートリアル課題に取り組み、学習の成果を発表する。
⑽　必要に応じ補講を受ける。
⑾　解剖実習の前と後に指定教科書の対応部分を読む。
⑿　毎週の解剖実習前に教科書グラント 解剖実習を読み、解剖の手順を理解する。
⒀　毎週の解剖実習後に教科書グラント 解剖実習に記載されている“復習項目”を確認する。
⒁　講座作成の“解剖実習ハンドブック”を読む。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

⑴　実習試験を行う。（マルチプルチョイス方式または記述式）。
⑵　必要に応じて、実習中に実技試験、口頭試問、小テストを行う。
⑶　実習の記録、課題に対するレポートを提出させ、評価を行う。
⑷　解剖実習期間を通しての学習姿勢・実習態度・成果、出席状況も評価の対象とする。
⑸　上記⑴–⑷の全ての項目を評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

（必須）Grant’s Dissector 14th Edition Patrick W. Tank　Lippincott Williams & Wilkins（あるいは日本語版グラント 解剖実習　訳 新井良八　西村書店）
（必須）臨床のための解剖学　Keith L. Moore　訳　佐藤達夫　MEDSI
（必須）臨床神経解剖学　原著第６版　訳 井出 千束、杉本 哲夫　医歯薬出版株式会社
（必須）プラクティカル 解剖実習 脳　千田　隆夫、小村　一也　丸善出版株式会社

Ⅶ．**参考書・文献**

（推薦）相磯貞和　訳：ネッター解剖学アトラス　原著第６版　南江堂
（推薦）山下　廣　訳：グラント解剖学図譜　第７版　医学書院
（推薦）横地千仞　訳：Rohen 解剖学カラーアトラス　第８版　医学書院
（推薦）坂井建雄　訳：ヴォルフ・ハイデッガー人体解剖　カラーアトラス　１・２　MEDSi
（推薦）森　於菟、他：分担解剖学　金原出版
（推薦）伊藤　隆：解剖学講義　第３版　南山堂
（推薦）松村譲兒：イラスト解剖学　第９版　中外医学社
（推薦）塩田浩平　訳：グレイ解剖学　原著第３版　エルゼビアジャパン
（推薦）佐藤達夫　訳：人体解剖カラーアトラス　R. T. Hutchings　原著第７版　南江堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	金	1	立花・入江	A-1	1)	解剖実習	諸注意、生命倫理、医療倫理	実習
2				2	解剖スタッフ全員 非常勤講師 小川	A-1	1)	〃	遺体出し	〃
3				3	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	背部体表、皮剥	〃
4				4	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	背部の皮神経・皮静脈	〃
5				5	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	背部浅層の筋	〃
6		13	金	1	解剖スタッフ全員	D-4	1) ①～⑦	〃	背部深層の筋	〃
7				2	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	後頭下筋	〃
8				3	〃	D-2	2)①	〃	脊柱、脊柱管	〃
9				4	〃	D-2	1) (1)②	〃	脊髄、髄膜、脊髄神経	〃
10				5	〃	D-2	1) (1)②	〃	腕神経叢、腋窩	〃
11		20	金	1	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	上肢の皮剥、上肢の皮神経・皮静脈	〃
12				2	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	肩甲部の筋・神経・血管	〃
13				3	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	上腕の筋・神経・血管、肘窩	〃
14				4	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	前腕屈側の筋・神経・血管	〃
15				5	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	手根管、手掌の筋・腱	〃
16		27	金	1	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	手掌の神経・血管	〃
17				2	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	前腕伸側の筋・神経・血管	〃
18				3	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	手背	〃
19				4	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	上肢の神経・血管のまとめ、肩関節	〃
20				5	〃	D-4	1) ①～⑦	〃	肘関節、手の関節	〃
21	5	11	金	1	〃	D-11	1)	〃	胸部の皮剥、胸壁の神経・血管	〃
22				2	〃	D-11	1)	〃	胸部の筋（浅層）	〃
23				3	〃	D-11	1)	〃	胸部の筋（深層）	〃
24				4	〃	D-6	1) ①～④	〃	胸膜、肺	〃
25				5	〃	D-6	1) ①～④	〃	肺の解剖、気管支、気管支枝	〃
26		18	金	1	〃	D-6	1) ①～④	〃	肺の血管	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
27	5	18	金	2	解剖スタッフ全員	D-5	1)①～⑧⑩	解剖実習	心膜、大血管、縦隔	実習
28				3	〃	D-5	1)①～⑧⑩	〃	心臓、冠血管の膨出・スケッチ	〃
29				4	〃	D-7	1)①～⑬	〃	腹部の皮剥、腹壁の神経・血管	〃
30				5	〃	D-7	1)①～⑬	〃	前腹壁、側腹壁	〃
31		25	金	1	解剖スタッフ全員 長谷川	D-7	1)①～⑬	〃	鼠径管、横隔膜	〃
32				2	〃	D-7	1)①～⑬	〃	腹膜、大網、胃	〃
33				3	〃	D-7	1)①～⑬	〃	肝臓、胆嚢、網嚢	〃
34				4	〃	D-7	1)①～⑬	〃	空腸、回腸、腸間膜、大腸	〃
35				5	〃	D-7	1)①～⑬	〃	腹腔動脈とその枝	〃
36	6	1	金	1	〃	D-7	1)①～⑬	〃	上腸間膜動脈とその枝	〃
37				2	〃	D-7	1)①～⑬	〃	下腸間膜動脈とその枝	〃
38				3	〃	D-7	1)①～⑬	〃	門脈系、胸部・腹部の血管系のまとめ	〃
39				4	〃	D-7	1)①～⑬	〃	十二指腸、膵臓、脾臓	〃
40				5	〃	D-8	1)②	〃	腎臓、尿管、副腎	〃
41		8	金	1	解剖スタッフ全員	D-8	1)②	〃	後腹壁の筋、腰神経叢	〃
42				2	〃	D-9	1)①～⑦	〃	外生殖器	〃
43				3	〃	D-9	1)①～⑦	〃	骨盤内臓、骨盤の神経・血管、骨盤底	〃
44				4	〃	D-9	1)①～⑦	〃	下肢の皮神経・皮静脈	〃
45				5	〃	D-9	1)①～⑦	〃	大腿前面の筋・神経・血管、大腿三角	〃
46		15	金	1	〃	D-9	1)①～⑦	〃	大腿内側部の筋・神経・血管	〃
47				2	〃	D-9	1)①～⑦	〃	殿部の筋・神経・血管	〃
48				3	〃	D-9	1)①～⑦	〃	大腿後面の筋・神経・血管	〃
49				4	〃	D-9	1)①～⑦	〃	下腿前面と外側面の筋・神経・血管、足背	〃
50				5	〃	D-9	1)①～⑦	〃	下腿後面の筋・神経・血管	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
51	6	22	金	1	解剖スタッフ全員	D-9	1)①～⑦	解剖実習	足底の筋・神経・血管	実習
52				2	〃	D-9	1)①～⑦	〃	下肢の神経・血管のまとめ	〃
53				3	〃	D-9	1)①～⑦	〃	下肢の関節：股関節	〃
54				4	〃	D-4	1)①～⑦	〃	膝関節	〃
55				5	〃	D-4	1)①～⑦	〃	足関節	〃
56		29	金	1	〃	D-14	1)①～④	〃	頚部の筋・神経・血管	〃
57				2	〃	D-14	1)①～④	〃	顔面の筋・神経・血管	〃
58				3	〃	D-14	1)①～④	〃	甲状腺、気管	〃
59				4	〃	D-14	1)①～④	〃	髄膜、脳出し	〃
60				5	〃	D-14	1)①～④	〃	頭蓋窩、脳神経	〃
61	7	6	金	1	〃	D-13	1)①～③	〃	眼窩の神経・血管、眼球	〃
62				2	〃	D-13	1)①～③	〃	外眼筋、涙腺	〃
63				3	〃	D-14	1)①～④	〃	頭部の離断	〃
64				4	〃	D-14	1)①～④	〃	咽頭、頭部の切半	〃
65				5	〃	D-14	1)①～④	〃	鼻腔、副鼻腔	〃
66		13	金	1	解剖ｽﾀｯﾌ全員 坂田	D-14	1)①～④	〃	口蓋	〃
67				2	〃	D-14	1)①～④	〃	口腔領域	〃
68				3	〃	D-14	1)①～④	〃	舌下領域	〃
69				4	〃	D-14	1)①～④	〃	喉頭：喉頭の軟骨、声帯	〃
70				5	〃	D-14	1)①～④	〃	喉頭内筋、反回神経	〃
71		20	金	1	〃	D-14	1)①～④	〃	耳下腺、顔面神経	〃
72				2	〃	D-14	1)①～④	〃	側頭部	〃
73				3	〃	D-14	1)①～④	〃	咀嚼筋、顎関節	〃
74				4	〃	D-14	1)①～④	〃	外頚動脈の枝	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
75	7	20	金	5	解剖スタッフ全員 坂田	D-14	1) ①～④	解剖実習	耳；外耳、中耳、内耳	実習
76		27	金	1	解剖スタッフ全員 井上・坪井	D-2	1)(1)	〃	脳実習　1	〃
77				2	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　2	〃
78				3	〃	D-2	1)(1)	〃	脳実習　3	〃
79				4	解剖スタッフ 全員	D-2	1)(1)	〃	納棺	〃
80				5	〃	D-2	1)(1)	〃	清掃、片づけ	〃

微　生　物　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　　授	廣松賢治（科目責任者）
	講　　師	副島利紀（副責任者）
	〃	石井一成
	助　　教	伊藤竜太
	〃	仇　　斌
	〃	栗原悠介
	〃	清水章文
	〃	佐藤絵美
	非常勤講師	一戸猛志（東京大学医科学研究所感染症国際研究センターウイルス学分野准教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

感染症の病原体である各種病原微生物の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態を理解する。さらに病原体に対する生体側の防御機構、免疫現象を理解する。これによって、感染症の原因・機序を考察して、その予防・治療の基本原則を正しく把握する能力を養う。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

A．病原微生物のうち、重要な真菌、細菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、ウイルスの性状、相違点を理解する。

〔細菌・真菌〕

1）細菌の構造を図示し、形態と染色性により分類できる。

2）細菌の感染経路を分類し、説明できる。

3）細菌が疾病を引き起こす機序を説明できる。

4）外毒素と内毒素について説明できる。

5）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

6）グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

7）グラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

8）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、ペスト菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、ブルセラ、レジオネラ、インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

9）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

10）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

11）真菌（アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、ムコール）の微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

12）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす疾患を列挙できる。

〔ウイルスの基本的性状と病原性〕

1）ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。
2）構造と性状によりウイルスを分類できる。
3）ＤＮＡゲノムとＲＮＡゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。
4）ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。
5）ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。
6）ウイルス感染の組織特異性と病原性を説明できる。
7）主要な感染様式を列挙し、具体例をあげて説明できる。
8）プリオンの性状を説明できる。

〔ウイルス感染に対する生体反応・予防・治療〕

1）ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。
2）ワクチンによるウイルス病予防の原理を説明できる。
3）ワクチンの種類と問題点を説明できる。
4）抗ウイルス薬を列挙し、効果発現の機序を説明できる。

〔各種のウイルスの特徴と病原性〕

1）主要なＤＮＡウイルス（ＣＭＶ、ＥＢＶ、パポーバウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスＢ１９、ヒトヘルペスウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。
2）主要なＲＮＡウイルス（ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。
3）肝炎ウイルス（Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ）の性状とそれぞれが引き起こす疾患の特徴を列挙できる。
4）レトロウイルス（HIV、HTLV）の特性とゲノム構造を説明し、分類できる。
5）腫瘍ウイルスによる発がん機構を説明できる。

Ｂ．病原微生物（寄生体）の侵襲に対して、生体側の反応を理解する。
Ｃ．滅菌、消毒法を理解し、感染の予防に対する態度を涵養する。
Ｄ．化学療法剤の種類と、その作用機序について説明できる。
Ｅ．新興感染症・再興感染症を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

1．系統講義【指定テキストおよび、配布プリント】
2．実習【滅菌、消毒法などの理解に基づいた感染予防の基本、検体からの病原細菌の分離、同定、薬剤感受性検査の流れなどを細菌学実習により実習する】
3．テュートリアル形式【細菌学、ウイルス学、真菌学に関する課題を基に自学自習、グループ討論を行い、レポートを作成する】

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

1．中間試験【記述及び多肢選択形式問題】
2．期末試験【記述及び多肢選択形式問題】

３．細菌学実習に対する取り込み姿勢

細菌学実習に対する取り込み姿勢及び、医療従事者として滅菌、消毒法を理解し、感染予防に留意できるか、グラム染色ができるかなどを実習の場で評価する。

４．テュートリアル課題に対するポートフォリオ・レポート

５．実習レポート

６．実習態度に真摯さが認められず、医療人としての資質に著しく欠けると判断されれば学力試験点数に関わらず不合格となる場合がある。

７．最終評価点数は１～５を総合的に評価し決定する。おおむね、中間：本試験＝１：３

中間試験成績が顕著に低い学生、あるいは、本試験における細菌、真菌、ウイルスなどの分野別のいずれかではなはだしく点数が低い場合は、不合格となる。

Ⅵ．教科書

イラストレイテッド微生物学　丸善出版

レビンソン微生物・免疫学　丸善出版

Ⅶ．参考書・文献

Levinson, W.: Review of Medical Microbiology and Immunology．McGraw・Hill

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	29	火	1	廣松	C-3	1)(1)	ウイルス学総論1	病原体の分類（細菌、真菌、原虫、蠕虫、ウイルス、プリオン）	講義
								ウイルス構造、分類	カプシド、ヌクレオカプシド、対称性、エンベロープ、暗黒期、DNAウイルス、RNAウイルス、プリオン	
2				2	〃	C-3	1)(1)	ウイルスの感染様式	細胞変性効果（CPE）、不顕性感染、持続感染、トランスフォーメーション	〃
								ウイルス増殖機構	ウイルスの増殖様式（吸着、侵入、脱核、合成、組み立て、細胞外放出）	
3		31	木	1	非常勤講師 一戸	C-3	1)(2) 2)(4)①	微生物学特論 ウイルス感染に対する生体防御応答-インフルエンザウイルス研究の最先端	タイプIインターフェロン、インフラマゾーム、IL-1、ワクチン、インフルエンザウイルス、NK細胞、CD８キラーT細胞、中和抗体	〃
4				2	〃	C-3	1)(1)①～④⑥	〃	〃	〃
						E-2	4)(1)①			
5	6	5	火	1	廣松	C-3	1)	細菌学総論１ 細菌の構造・形態・分類	病原体の分類（細菌、真菌、原虫、蠕虫、ウイルス、プリオン）	〃
						C-1	1)(1)⑧		真核生物、原核生物	
6				2	〃	C-3	1)(4)①	〃	細菌細胞の特徴、グラム染色、細胞壁、莢膜、線毛、べん毛、芽胞	〃
7		12	火	1	〃	C-3	1)(4)	細菌学総論２ 生理・代謝	増殖、代謝（呼吸、発酵）、好気性菌、嫌気性菌、ペプチドグリカン合成、タンパク質分泌装置	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
8	6	12	火	2	廣　松	C-3	1)(4)	細菌学総論３ 細菌の病原性	常在菌、内因感染、院内感染、日和見感染、感染、定着(colonization)病原性、感染経路	講　義
						E-2	1)			
						C-2	3)(4)④			
9		14	木	1	〃	C-3	1)(4)	〃	付着、侵入、細胞内増殖、食菌抵抗性	〃
10				2	〃	C-3	1)(4)	〃	細菌毒素(外毒素)	〃
11		19	火	1	〃	C-3	1)(4)	〃	内毒素(エンドトキシン)、LPS、敗血症、エンドトキシンショック、DIC	〃
						E-2	1)① 3)①			
						E-2	4)(5)①		ワクチン・標準予防策(standard precaution)、感染経路別予防策	
12				2	〃	C-3	1)(4)	〃	〃	〃
						E-2	1)① 3)①			
						E-2	4)(5)①			
13		21	木	1	〃	C-3	1)(4)	細菌学総論４ 細菌遺伝学	細菌ゲノムの変化(変異、遺伝子の水平伝達)、ファージ、プラスミド、トランスポゾン、接合、形質導入、形質転換	〃
14				2	〃	C-3	1)(4)	〃	〃	〃
15		26	火	1	伊　藤	C-3	1)(4)	細菌学総論５ 化学療法と薬剤耐性	選択毒性、抗菌薬、作用機序	〃
16				2	〃	F-2	8)⑤	〃	〃	〃
17		28	木	1	廣　松	E-2	4)(1) ①⑥⑦	〃	標準予防策、感染経路別予防策、芽胞・消毒薬・オートクレーブ	〃
18				2	〃	E-2	1)④	〃	薬剤耐性	〃
19	7	3	火	1	全　員	C-3	1) (1)～(4)	テュートリアル 課題学習１	ウイルス学総論、細菌学総論	テュートリアル
20				2	〃	C-3	2)(4)①	〃	〃	〃
	8	31	金	1	中間試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					
21	9	3	月	1	廣　松	C-3	1)(4)④	細菌学各論 グラム陽性球菌	ブドウ球菌、レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌、黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断、治療	講　義
						E-2	4)(2) ①～③		A群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断	
22				2	〃	E-2	1)④⑦	〃	MRSA, VRE、劇症型A群レンサ球菌感染症、肺炎球菌感染症の症候と予防法(ワクチン)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
23	9	5	水	1	廣松	C-3	1)(4)⑥	細菌学各論 グラム陽性桿菌	バシラス属(炭疽菌)、コリネバクテリウム属(ジフテリア菌)、リステリア菌	講義
						E-2	4)(2)⑬		リステリア感染症	
24				2	〃	C-3	1)(4)⑥	〃	クロストリジウム属ー破傷風菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、ディフィシル菌	〃
						E-2	4)(2)⑦		Clostridium difficle 感染症の症候	
						E-2	1)④		菌交代現象・菌交代症	
25		10	月	1	〃	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論 グラム陰性桿菌-腸管関連	腸内細菌、大腸菌	〃
						E-2	4)(2)⑥		大腸菌感染症	
						D-1	4)(2)⑤		EHEC、溶血性尿毒症症候群(HUS)の病態、診断	
26				2	〃	C-3	1)(4)⑦	〃	サルモネラ、赤痢、コレラ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター	〃
						C-3	1)(4)⑧		ヘリコバクター・ピロリ菌	
						E-2	4)(2)⑬		カンピロバクター、サルモネラ感染症	
27		12	水	1	〃	C-3	1)(4)⑦	〃	クレブシエラ・エンテロバクター・セラチア、多剤耐性緑膿菌、グルコース非発酵菌群、バクテロイデス(嫌気性菌)	〃
						E-2	4)(2)⑤		緑膿菌感染症の症候と診断、治療	
						E-2	1)④		多剤耐性アシネトバクター属菌	
						E-2	1)②⑥		院内感染症、コンプロマイズドホストと日和見感染症	
						E-2	4)(5)①		標準予防策、感染経路別予防策	
28				2	〃	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論 グラム陰性桿菌-呼吸器関連	ヘモフィルス・インフルエンザ菌、レジオネラ、百日咳菌	〃
						E-2	4)(2)④⑪			
29		19	水	1	〃	C-3	1)(4)⑦	細菌学各論 グラム陰性桿菌-動物関連	ペスト、野兎病菌、ブルセラ etc	〃
30				2	〃	C-3	1)(4)⑤	細菌学各論 グラム陰性球菌	淋菌、髄膜炎菌	〃
						E-2	4)(4)③		性感染症、淋菌感染症、高度多剤耐性淋菌(セフトリアキソン高度耐性淋菌)	
31		26	水	1	栗原	C-3	1)(4)⑨	抗酸菌	抗酸菌、結核菌、結核症の進展　一次結核、二次結核、潜在性感染、休眠菌、再燃、抗結核薬、BCGワクチン、非結核性(非定型)抗酸菌症、らい菌	〃
32				2	〃	E-2	4)(2)⑧	〃	〃	〃
33	10	1	月	1	清水	C-3	1)(4)⑪	マイコプラズマ、リケッチア	肺炎マイコプラズマ、リケッチア症(発疹チフス、日本紅斑熱、つつが虫病)	〃
						E-2	4)(2)⑨⑫		マイコプラズマ感染症、リケッチア感染症	

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
34	10	1	月	2	栗原	C-3	1)(4)⑪	クラミジア	クラミジア(肺炎クラミジア、トラコーマクラミジア、オウム病クラミジア)	講義
						E-2	4)(2)⑩		クラミジア感染症	
35		3	水	1	佐藤	C-3	1)(4)⑪	スピロヘータ	梅毒トレポネーマ、性感染症(STD)、ボレリア(ライム病ボレリア)、レプトスピラ(ワイル病)	〃
						E-2	4)(4)①②		性感染症、梅毒の症候と診断、治療	
36				2	伊藤	E-2	1)①	臨床感染症	全身性炎症反応症候群SIR,S、敗血症、多臓器不全(MOF)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、ARDS	〃
37		10	水	1	全員	C-3	1)(4)	テュートリアル課題学習２	細菌学各論に関する課題	テュートリアル
38				2	〃	E-2	4)(2)	〃	〃	〃
39		15	月	1	伊藤	C-3	1)	真菌学総論	真菌の性状(増殖、形態)酵母、菌糸、胞子、真菌の分類、検査法、治療薬	講義
40				2	〃	C-3	1)(4)⑩	〃	浅在性、深在性真菌症　(カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス、ムコール)	〃
41		17	水	1	〃	E-2	4)(3)①②	〃	カンジダ症、アスペルギルス症、クリプトコッカス症、ニューモシスチス肺炎	〃
42				2	〃	E-2	4)(3)①②	〃	〃	〃
43		22	月	1	廣松	C-3	1)(1)④～⑦	ウイルス学総論２ウイルス増殖機構	吸着、侵入、脱核、合成、組み立て、細胞外放出	〃
44				2	〃	C-3	1)(1)④～⑦	〃	〃	〃
45		24	水	1	副島	E-2	4)(1)①⑥⑦	ウイルス学総論３抗ウイルス薬	抗ウイルス薬	〃
46				2	〃	C-4	6)②	ウイルス学各論腫瘍ウイルス	癌遺伝子、癌抑制遺伝子、DNA腫瘍ウイルス	〃
						C-3	1)(1)⑤		RNA腫瘍ウイルス	
47		29	月	1	廣松	C-3	1)(3)①	ウイルス学各論DNAウイルス	ポックスウイルス科、ヘルペスウイルス科	〃
48				2	〃	E-2	4)(1)④⑦⑧	〃	ヘルペスウイルス科	〃
49		31	水	1	〃	E-2	4)(1)⑦	〃	アデノウイルス科、パピローマウイルス科、ポリオーマウイルス科、パルボウイルス科	〃
50				2	副島	C-3	1)(3)②	ウイルス学各論RNAウイルス	オルトミクソウイルス科 インフルエンザウイルス	〃
						E-2	4)(1)①		インフルエンザの症候と診断、治療	
51	11	1	木	3	〃	E-2	4)(1)②⑤	〃	パラミクソウイルス科 麻疹ウイルス ムンプス、RSウイルス	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
52	11	1	木	4	副島	C-3	1)(3)②	ウイルス学各論 RNAウイルス	ラブドウイルス科、フィロウイルス科、ブニヤウイルス科、アレナウイルス科、レオウイルス科	講義
53		7	水	1	〃	C-3	1)(3)②	〃	ピコルナウイルス科、カリシウイルス科、アストロウイルス科	〃
54				2	〃	E-2	4)(1)③	〃	トガウイルス科、フラビウイルス科、コロナウイルス科	〃
55		8	木	3	廣松	C-3	1)(3)③	ウイルス学各論 レトロウイルス	レトロウイルスの性状、HTLV-1、HIV、AIDS	〃
56				4	〃	E-2	4)(1)⑥⑨	〃	〃	〃
57		12	月	1	副島	D-7	4)(5)①②	ウイルス学各論 肝炎ウイルス	A型肝炎ウイルス、B型肝炎ウイルス	〃
58				2	〃	E-2	4)⑩	肝炎ウイルス・プリオン	C型肝炎ウイルス、D型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス、プリオンとプリオン病	〃
59		14	水	1	全員	C-3	1)(1)(2)(3)	テュートリアル 課題学習３	ウイルス学各論に関する課題	テュートリアル
60				2	〃	E-2	4)(1)	〃	〃	〃
61		15	木	3	〃	E-2 G-3	2)③ 1)②⑬	微生物学実習	細菌の取り扱い法、細菌の分離培養、消毒薬の効果、ツベルクリン皮内反応（皮内注射実施、消毒）	実習
62				4	〃	G-3	1)②⑬	〃	〃	〃
63		19	月	1	〃	E-2 F-2	2)③ 3)⑬	〃	ブドウ球菌の同定、確認培養、芽胞染色、莢膜染色、レンサ球菌の溶血環、細菌学的検査（細菌塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験）	〃
64				2	〃	F-2	3)⑬	〃	〃	〃
65		21	水	1	〃	E-2 F-2 F-3	2)③ 3)⑬ 6)(1)①③(2)③	〃	ベータラクタマーゼ、薬剤感受性試験、消毒薬の効果の判定、標準予防策（standard precaution）/皮膚消毒、細菌学的検査（細菌塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験）Gram染色の実施	〃
66				2	〃	F-3	6)(1)①③(2)③	〃	〃	〃
67		26	月	1	〃	F-3 E-2	6)(2)③ 2)③	〃	生化学性状判定、赤血球凝集反応、グラム染色テスト	〃
68				2	〃	E-2	2)③	〃	生化学性状判定、赤血球凝集反応、グラム染色テスト	〃
	12	17	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臓器・病態生理学

Ⅰ．担当教員名

生　理　学	教　　授	井　上　隆　司（科目責任者）
	准　教　授	上　原　　明（副責任者）
	講　　師	沼　田　朋　大
	〃	本　田　　啓
	〃	倉原(海)　　琳
	〃	市　川　　純
	〃	内　田　俊　毅
	助　　教	胡　　耀　鵬
薬　理　学	教　　授	岩　本　隆　宏

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

前期で得た知識に基づいて、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌・生殖系等の内臓諸機能がどのように発現し調節されているかを詳しく学びます。また、これらの機能の破綻がどのようにして種々の病気へ移行するのか、その機序（「病態生理学」）を、幾つかの具体例を通して学びます。更に、動物標本を用いた実験、自らを被験者とした臨床生理学的測定（血圧、心電図、スパイロメーター、脳幹反応、尿 pH・浸透圧）、コンピュータソフトによるシミュレーション演習等によって、座学で学んだ知識への理解を深め、臨床医学を学ぶための準備とします。

1．血液の組成と機能を理解する。
2．肺における呼吸機能とその機構を理解する。
3．心臓の機能とその調節機構を理解する。
4．主要な器官の循環制御機構を理解する。
5．腎機能とその機構を理解する。
6．内分泌の種類、分泌制御機構、作用を理解する。
7．成長、老化現象を理解する。
8．性分化、生殖機能を理解する。
9．ホルモンの異常と病態を理解する。
10．体温調節、睡眠覚醒リズム調節機構を理解する。
11．消化管の運動、消化液分泌機構、及び吸収のメカニズムを理解する。
12．水、電解質、血圧、体温、栄養素代謝、酸塩基平衡の病態を理解する。
13．神経筋（シナプス）伝達、心筋の興奮収縮連関、呼吸調節、血圧調節、体液の酸塩基・浸透圧調節、視聴覚、反射、脳幹反応の基本的概念と測定法を実習で修得する。
14．薬理学との統合講義を通して、病態生理に基づいた薬物治療の戦略を理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．赤血球の生成過程、Hb の生成と構造、ガス運搬、pH 緩衝作用が説明できる。
2．白血球の役割、免疫との関係について説明できる。

３．血小板の止血（凝固）における役割と機序、及び血栓形成・出血傾向を説明できる。
４．血漿蛋白質異常と浮腫の関係を説明できる。
５．呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。
６．肺気量と肺・胸郭系の圧−容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
７．肺胞におけるガス交換と血流との関係を説明できる。
８．サーファクタントの意義（肺虚脱の成因など）を説明できる。
９．肺換気の血液ガスへの影響を説明できる。
10．呼吸中枢による呼吸調節機序を説明できる。
11．気管支喘息、肺気腫、異常呼吸運動の病態を説明できる。
12．心拍動の機序（代謝、イオン）と自律神経系による調節を説明できる。
13．心筋細胞膜の興奮・消退過程をイオン背景から説明できる。
14．心室筋の活動電位持続時間を変化させる因子とその意義を説明できる。
15．興奮伝播に関わる因子とその機構を説明できる。
16．心筋の興奮収縮連関を Ca^{2+}動態と結びつけて説明できる。
17．心臓における Frank-Starling の法則を説明できる。
18．心電図を心筋細胞の活動電位と対応させて説明できる。
19．心筋収縮促進因子とその作用機序を説明できる。
20．心筋の興奮収縮連関機構とその異常を説明できる。
21．血管の構造と分類、機能の違いを説明できる。
22．血行力学の諸法則を概説できる。
23．循環反射・調節機構を説明できる。
24．脳、心、肺、肝、腎における特殊な循環調節を概説できる。
25．胎児循環の特殊性、主要な循環動態の異常について概説できる。
26．腎血流量と腎機能との関係を説明できる。
27．糸球体の濾過機能と調節を説明できる。
28．イヌリン、クレアチニンクリアランスの測定と意義を説明できる。
29．尿細管各部の水、電解質、糖の再吸収の機序を説明できる。
30．腎に作用するホルモン（アルドステロン、ADH)、血管作動物質（レニン−アンギオテンシン−アルドステロン）の作用を説明できる。
31．腎における尿の濃縮能の機序とその意義を説明できる。
32．水、電解質、酸塩基平衡と腎機能との関係を説明できる。
33．下部尿路・膀胱の構造と神経支配を説明できる。
34．排尿反射を説明できる。
35．ホルモンを化学構造、作用機序から分類できる。
36．ホルモン分泌の制御機構を概説できる。
37．視床下部と脳下垂体前葉、後葉ホルモンとの関係を説明できる。
38．電解質、水調節に関与するホルモンの分泌機序、作用機序とその異常について説明できる。
39．糖質調節に関与するホルモンの分泌機序、作用機序とその異常について説明できる。
40．成長に関与するホルモンの作用を説明できる。

41．生殖に関与するホルモンの作用を説明できる。
42．性行動異常、性機能障害の病態を概説できる。
43．加齢、老化の機序、生理的機能の変化を概説できる。
44．体温調節機構とその異常による病態を説明できる。
45．概日リズムと睡眠・覚醒の関係を概説できる。
46．運動時のエネルギー代謝、体力増進のトレーニングのメカニズムを概説できる。
47．消化・吸収の全体像とそこで作動する一般原理を概説できる。
48．消化管蠕動運動を平滑筋の興奮収縮連関、自発的興奮リズム発生機構から説明できる。
49．消化管運動の自律神経制御機構を説明できる。
50．消化液分泌（唾液、胃液、膵液、胆汁液、腸液）の機序を説明できる。
51．糖、蛋白質、脂質、水、電解質、ビタミンの吸収機構を説明できる。
52．下痢、便秘、腸閉塞、嘔吐、胃潰瘍の病態を概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．講義に出席する。
２．テュートリアルで個人学習とグループ学習の違いや意義を理解する。
３．テーマ別グループ学習で理解を深める。
４．講義テキストで復習する。
５．参考書で予習、復習する。
６．テーマ別グループ学習や小テストの結果から、間違った点を理解する。
７．理解できない点を教員に質問する。
８．実習を通して理解を深める。

〈事前事後学習の方法〉

１．シラバスに記載されている学習項目について事前に予習しておくこと。
２．配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。
３．理解不足の点について参考書で調べ、必要ならば講義担当者へ質問すること。
４．テーマ別グループ学習やテュートリアル学習の内容について、講義テキスト・参考書で復習すること。
５．実習項目ごとのレポート作成を行うこと。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．出席状況（原則として、テュートリアル・実習・実習討論は全て出席のこと。）
２．小テスト・テーマ別グループ学習・テュートリアル
３．実習レポート提出及び内容
４．期末試験成績

Ⅵ．**教科書**

特に指定しない。配布した講義テキストに従って授業を進める。

Ⅶ．**参考書・文献**

Moodle の講義資料
大地陸男　著：生理学テキスト　第７版　文光堂　2013
小澤瀞司・福田康一郎　監修：標準生理学　第８版　医学書院　2014

坂井建雄・河原克雅　総編集：カラー図解　人体の正常構造と機能〔全10巻縮刷版〕 第３版　日本医事新報社　2017
Ganong, W. F. 原著、岡田泰伸　監訳：ギャノング生理学　原書24版　丸善出版　2014
Guyton, A. C., Hall, J. E. 原著、御手洗玄洋　総監訳：ガイトン生理学　原著第11版　エルゼビア・ジャパン　2010

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	3	月	3	市川	D-1	1) ①～⑥	血液 1	血液の組成、血液の一般的性質、血漿蛋白、赤血球、ヘモグロビン、貧血、血液型、輸血	講義
2				4	〃	D-1	1) ⑦⑧	血液 2	白血球、免疫機構、血小板、凝固線溶系	〃
3		4	火	1	〃	D-6	1)	呼吸 1	気道と肺胞、スパイロメトリー、肺気量分画	〃
4				2	〃	D-6	1)	呼吸 2	肺胞換気量、肺のサーファクタント、死腔	〃
5		5	水	3	〃	D-6	1)	呼吸 3	呼吸筋、胸腔内圧、肺コンプライアンス、気道抵抗、ガスの肺胞−動脈酸素分圧較差、拡散容量、換気血流比と血液ガス	〃
6				4	〃	D-6	1) 4) (3)①	呼吸 4	ガスの運搬、酸素解離曲線、化学受容器、呼吸中枢と調節、呼吸リズムの異常、換気障害	〃
7		7	金	1	井上隆	D-5	1) ⑤⑧⑨ ⑫～⑭	循環 1	循環の種類と特徴、血管の構造と分類、血行力学、血圧、血圧の測定法	〃
8				2	〃	D-5	1) ⑤⑧⑨ ⑫～⑭	循環 2	静脈循環、微小循環、リンパ循環	〃
9		10	月	3	〃	D-5	1) ⑤⑧⑨ ⑫～⑭	循環 3	循環調節機構、循環反射	〃
10				4	〃	D-5 F-1	1) ⑤⑧⑨ ⑫～⑭ 5)①	循環 4	特殊循環、循環動態の異常	〃
11		11	火	1	〃	D-5	1)⑬ 4) (9) ①②	循環 5	循環まとめ	〃
12				2	上原明	D-5	1) ①②③ ④⑩⑪	心機能 1	自動能、興奮と興奮伝播	〃
13		12	水	3	〃	D-5	1) ①②③ ④⑩⑪	心機能 2	興奮収縮連関	〃
14				4	〃	D-5	1) ①②③ ④⑩⑪	心機能 3	Frank-Starlingの法則、心臓反射	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
15	9	14	金	1	上原明	D-5	1)①～③④⑩⑪	心機能 4	心電図	講義
16				2	〃	D-5	4)(3)①～④	心機能 5	心臓の病態生理	〃
17		18	火	1	倉原(海)	D-8	1)①～⑦	腎機能 1	ネフロン、糸球体濾過および尿細管での分泌・再吸収およびその調節	〃
18				2	〃	D-8	1)①～⑦	腎機能 2	腎に作用するホルモン、クリアランスの測定と意義	〃
19		19	水	3	〃	D-8	1)①～⑦	腎機能 3	濃縮能、血漿浸透圧、pH調節	〃
20				4	〃	D-8	1)⑧	腎機能４・排尿	膀胱の構造と神経支配、排尿反射、腎･尿路機能の特徴とその異常	〃
21		21	金	1	本田	D-12	1)①	内分泌 1	総論、feedback機構、分類	〃
22				2	〃	D-12	1)②～⑦	内分泌 2	ホルモン生成、分泌機序	〃
23		25	火	1	〃	D-12	1)②～⑦	内分泌 3	ホルモンの作用機序	〃
24				2	〃	D-12	1)②～⑦	内分泌 4	ホルモンの分泌調節	〃
25		26	水	3	〃	D-9	1)①～⑧	生殖	性分化、精巣の構造と機能、卵巣･子宮の構造と機能、性周期、妊娠、乳汁分泌	〃
26				4	〃	C-2 D-5	3)(4)①～③ 1)⑭	環境生理	体温調節、概日リズム、運動生理	〃
27		28	金	1	井上隆	D-7	1)④～⑫⑭⑮	消化・吸収総論 1	消化・吸収の全体像・一般原理	〃
28				2	〃	D-7	1)①～⑤	消化・吸収総論 2	消化管の構造と神経支配、消化管運動の調節（Cajal細胞、自律神経系）	〃
29	10	1	月	3	内田	D-7	1)⑬⑭ 4)(1)②③	消化・吸収 1	咀嚼と嚥下、LES圧などの逆流防止機構、逆流性食道炎のメカニズム	〃
30				4	〃	D-7 F-1	1)④⑦ 4)(2)①②④⑤⑥ 22)①	消化・吸収 2	胃の蠕動運動、消化管ホルモンと消化液（胃液）の分泌機序、胃潰瘍とダンピング症候群のメカニズム	〃
31		2	火	1	〃	D-7	1)⑧～⑩⑫	消化・吸収 3	消化管ホルモンと消化液（膵液、胆汁液）の分泌機序、糖、タンパク質、脂質などの消化と吸収機構	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
32	10	2	火	2	内田	D-7	1)⑥⑪⑮ 4)(3)②⑨ (5)②	消化・吸収 4	結腸の構造と機能、排便反射、下痢と嘔吐、胎生期の肝臓、肝臓の機能、肝小葉の構造と機能	講義
						F-1	21)① 23)① 24)①			
33		5	金	1	〃	D-7	1)⑮ 4)(3)②⑨ (5)⑤	消化・吸収 5	ビリルビンの腸肝循環、肝障害とビリルビン、門脈圧亢進症、小腸と結腸の病態（腸閉塞と消化管穿孔）、急性腹症、腸内フローラ	〃
						F-1	20)①			
34				2	全員			テーマ別グループ学習	後期の内容について	演習
35		9	火	1	〃			〃	〃	〃
36				2	〃			〃	〃	〃
37		12	金	1	〃			〃	〃	〃
38				2	〃			実習について		講義
39		15	月	3	〃			実習 1		実習
40				4	〃			〃		〃
41		16	火	1	〃			実習討論 1		〃
42				2	〃			〃		〃
43		19	金	1	〃			テーマ別グループ学習	後期の内容について	演習
44				2	〃			〃	〃	〃
45		22	月	3	〃			実習 2		実習
46				4	〃			〃		〃
47		23	火	1	〃			実習討論 2		〃
48				2	〃			〃		〃
49		26	金	1	〃			個人・グループ学習		テュートリアル
50				2	〃			〃		〃
51		29	月	3	〃			実習 3		実習
52				4	〃			〃		〃
53		30	火	1	〃			実習討論 3		〃
54				2	〃			〃		〃
55	11	6	火	1	胡	D-5	4)(3)①～④⑥	病態生理	不整脈の心電図	講義
56				2	井上隆			〃		〃
57		9	金	1	全員			個人・グループ学習		テュートリアル
58				2	〃			〃		〃
59		12	月	3	〃			実習 4		実習
60				4	〃			〃		〃
61		13	火	1	〃			実習討論 4		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
62	11	13	火	2	全員			実習討論 4		実習
63		16	金	1	〃			個人・グループ学習		テュートリアル
64				2	〃			〃		〃
65		19	月	3	〃			実習 5		実習
66				4	〃			〃		〃
67		20	火	1	〃			実習討論 5		〃
68				2	〃			〃		〃
69		21	水	3	岩本・井上隆	D-5	4) (9) ①～③	統合講義		講義
70				4	井上隆			後期まとめ		〃
71		26	月	3	全員			実習 6		実習
72				4	〃			〃		〃
73		27	火	1	〃			実習討論 6		〃
74				2	〃			〃		〃
	12	21	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

組織細胞生物学各論

Ⅰ．担当教員名

細胞生物学	教　　授	白　澤　専　二（科目責任者）
	准　教　授	角　田　俊　之（副責任者）
	〃	三　角　佳　生
	〃	上　原　清　子
	講　　師	石　倉　周　平
	〃	小　柳　　緑
	〃	土　井　佳　子
	助　　教	田　中　陽　子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

人体の各臓器が特有の機能を発揮するために、それぞれの臓器は特徴的な固有の細胞・組織で構成されている。組織細胞生物学各論では、前期で学習した組織細胞生物学総論を基盤として、各器官の正常な組織構造と組織を構成する各種細胞の機能的特徴、および、細胞間・器官間のネットワークを理解・説明できる能力の修得を目標とする。さらに、組織細胞生物学・生化学・生理学・遺伝学・解剖学を統合させた基礎医学を修得することを目標とする。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．血管、リンパ管の構造と機能を説明できる。
2．凝固・線溶系を説明できる。
3．脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃、パイエル板の構造と機能を説明できる。
4．自然リンパ球、リンパ球、抗原提示細胞の機能について説明できる。
5．内分泌腺の構造と分泌されるホルモンの関係と作用機序を説明できる。
6．皮膚の構造と機能、および、感覚受容器からの感覚伝導路を説明できる。
7．気道と肺の構造と機能を説明できる。
8．気管支喘息エンドタイプについて説明できる。
9．口唇、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。
10．食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、結腸の構造と機能を説明できる。
11．GERD、炎症性腸疾患を説明できる。
12．肝、胆、膵の構造と機能を説明できる。
13．肝星細胞・クッパー細胞と肝癌・NASH の関係を説明できる。
14．腎と尿路系器官の構造と機能を説明できる。
15．糸球体傍装置、尿細管・集合管に存在するトランスポーターの機能を説明できる。
16．女性生殖器の構造と機能を説明できる。
17．卵巣–子宮内膜周期に関して説明できる。
18．男性生殖器の構造と機能を説明できる。
19．前立腺肥大症、前立腺癌、ED について説明できる。

20．視覚器の構造と機能を説明できる。
21．平衡聴覚器の構造と機能を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

１．講義：教科書、スライド、板書によって行われる講義を聴講し、要点をノートする。予習と復習を十分する。教科書にそって講義は行うので、必ず教科書を持参し、また、Moodle に掲載する講義資料を必ず印刷して講義に臨む。
講義後は、必ず講義内容に関する範囲の指定教科書を読んで理解を深めること。

２．顕微鏡実習：毎回講義された内容について、顕微鏡実習で確認する。各人が顕微鏡を用い、用意された標本を観察し、要点をスケッチする。スケッチは毎回レポートとして提出する。
組織像に関しては、実習後に、指定アトラスを利用して復習し理解を深めること。
期末試験前に、写真を利用した知識確認テストを行うので、日頃より学習を積み重ねること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．実習レポート：採点結果を総合評価に加味する。
２．テュートリアル：参加姿勢・発表・討論を総合的に評価する。
３．期末試験前組織知識確認テスト
４．期末試験：講義および実習内容について筆記試験を行う。
５．１～４を総合的に評価し、判定する。

Ⅵ．**教科書**

組織細胞生物学　南江堂

Ⅶ．**参考書・文献**

内科学　朝倉書店
カラーアトラス機能組織学　医歯薬出版株式会社

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	4	火	3	白澤・角田	C-2	2)(1)③⑤	脈管系－1	弾性血管、筋性血管、毛細血管、リンパ管、内皮細胞、血管新生、心膜腔、凝固・線溶系、トロンボモデュリン、プロスタサイクリン、NO、トロンボキサンA2、泡沫細胞、ANP、BNP	講義
						C-4	4)②			
						D-1	1)⑧			
						D-5	1)②			
2				4	〃	C-2	3)(3)	免疫系－1	リンパ節、胚中心、扁桃、胸腺、脾臓、T細胞、B細胞、抗原提示細胞、HLA、自然リンパ球、サイトカイン	〃
						C-3	2)(1)			
							2)(2)			
							2)(3)			
							2)(4)⑤			
3		6	木	1	全員	C-2	2)(1)③	脈管系－2	弾性血管、筋性血管、毛細血管	実習
4				2	〃	D-1	1)④	免疫系－2	リンパ節、リンパ小節、胸腺、胸腺細胞、脾臓、白脾髄、赤脾髄	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
5	9	11	火	3	白澤・石倉	D-12	1) ①～④	内分泌系－1	視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、松果体、甲状腺、濾胞、副甲状腺（上皮小体）、RAAS系、概日時計、MEN、高Ca血症	講義
6				4	〃	D-12	1) ⑤⑥	内分泌系－2	膵臓、ランゲルハンス島、副腎髄質、副腎皮質、原発性・二次性アルドステロン症、クッシング徴候、StAR、先天性副腎過形成	〃
7		13	木	1	全員	D-12	1) ③④	内分泌系－3	視床下部、下垂体前葉、下垂体後葉、甲状腺、濾胞	実習
8				2	〃	D-12	1) ⑤⑥	内分泌系－4	膵臓、ランゲルハンス島、副腎髄質、副腎皮質、球状帯、束状帯、網状帯	〃
9		18	火	3	白澤・石倉	D-7	1) ①～⑤ ⑦ ⑫～⑮ 4)(2) ⑤	消化器系－1	消化管基本構造、食道、GERD、胃小窩、胃腺、壁細胞、主細胞、PPI、プロトンポンプ、ガストリン、ECL細胞、H2受容体、H.ピロリ菌	講義
10				4	〃	D-7	1) ⑩～⑫ 4)(3) ③⑦ ⑫⑬	消化器系－2	十二指腸、空腸、回腸、リーベルキューン陰窩、輪状ヒダ、絨毛、杯細胞、パネート細胞、パイエル板、M細胞、結腸、インクレチン、セクレチン、CCK/PZ、GLP-1、DPP-4、炎症性腸疾患、APC	〃
11		20	木	1	全員	D-7	1) ③～⑤ ⑫⑬	消化器系－3	口唇、舌乳頭、味蕾、食道、胃、胃腺、主細胞、壁細胞、胃十二指腸移行部、胃腸内分泌細胞	実習
12				2	〃	D-7	1) ①～⑤ ⑩～⑫	消化器系－4	十二指腸、空腸、輪状ヒダ、腸絨毛、腸腺、十二指腸腺、杯細胞、パネート細胞、大腸	〃
13		25	火	3	白澤・角田	D-7	1) ⑥⑧ ⑫⑬	消化器系－5	大唾液腺、肝、肝小葉、中心静脈、グリソン鞘、類洞、クッパー細胞、星状細胞、毛細胆管、胆管、胆嚢、膵、膵小葉、TGFB、線維化、NASH、二次胆汁酸、CFTR	講義
14				4	白澤			総括－1	脈管系から消化器系までの復習	〃
15		27	木	1	全員	D-7	1) ⑥⑬	消化器系－6	唾液腺、肝、肝小葉、中心静脈、グリソン鞘、類洞、クッパー細胞、伊東細胞	実習
16				2	〃	D-7	1) ⑧⑨	消化器系－7	毛細胆管、胆管、胆嚢、膵、膵小葉、外分泌部、膵管	〃
17	10	2	火	3	白澤・角田	D-6 D-14	1) ①～③ 4)(3) ①③④ 1)③	呼吸器系－1	鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺胞、クループ、クララ細胞、Cystic fibrosis、1型・2型肺胞細胞、サーファクタント、肺気腫、ブラ・ブレブ、Asthma endotype、気道リモデリング、COPD	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
18	10	2	火	4	白澤・角田	D-8	1)	泌尿器系－1	腎臓、腎杯、腎盂、ネフロン、腎小体、糸球体、尿細管、緻密斑、集合管、尿管、膀胱、尿道、移行上皮、VUR、足細胞、スリット膜、メサンギウム、糸球体傍細胞、レニン、各種輸送体と遺伝子異常、利尿剤、SGLT-2、尿崩症、PRA、PAC	講義
19		4	木	1	全員	D-6	1)①	呼吸器系－2	気管、肺、細気管支、呼吸細気管支、肺胞	実習
20				2	〃	D-8	1)	泌尿器系－2	腎臓、ネフロン、腎小体、糸球体、尿細管、緻密斑、集合管、尿管、膀胱	〃
21		9	火	3	白澤・角田	D-3	1)①	外皮－1	表皮、ケラチノサイト、真皮、皮下組織、汗腺、マイスネル小体、パチニー小体、感覚性伝導路、フィラグリン、悪性黒色腫	講義
22				4	〃	D-13 D-14	1) 1)	感覚器系－1	眼球、角膜、強膜、脈絡膜、虹彩、毛様体、レンズ、網膜、クリスタリン、アルドース還元酵素、視細胞、視覚伝導路、外耳、中耳、内耳、骨迷路、膜迷路、半規管、卵形嚢、球形嚢、蝸牛管、平衡斑、膨大部稜、コルチ器、内リンパ、聴覚伝導路	〃
23		11	木	1	全員			組織細胞生物学－1		テュートリアル
24				2	〃			組織細胞生物学－2		〃
25		16	火	3	〃	D-3	1)	外皮－2	表皮、真皮、皮下組織、汗腺、脂腺、マイスネル小体、パチニー小体	実習
26				4	〃	D-13 D-14	1) 1)	感覚器系－2	眼球、線維膜、血管膜、内耳、膜迷路、平衡斑、コルチ器	〃
27		18	木	1	〃			組織細胞生物学－3		テュートリアル
28				2	〃			組織細胞生物学－4		〃
29		23	火	3	白澤・角田	D-9 D-12	1) ①～⑤ 1)⑦	男性生殖器系－1	精巣、精巣上体、精細管、前立腺、テストステロン、DHT、5α-還元酵素、セルトリ細胞、ライディッヒ細胞、精子形成、BPH、前立腺癌、PSA、ED	講義
30				4	〃	D-9 D-12	1) ⑥～⑧ 1)⑦	女性生殖器系－1	子宮内膜周期と卵巣周期、放線冠、透明帯、卵胞細胞、内卵胞細胞、黄体化、栄養膜合胞体、受精、ZP-3、デーデルライン桿菌、triple negative乳癌	〃
31		25	木	1	全員			組織細胞生物学－5		テュートリアル
32				2	〃			組織細胞生物学－6		〃
33		30	火	3	〃	D-9	1) ①～⑤	男性生殖器系－2	精巣、曲精細管、間質細胞、精巣上体管、精巣輸出管	実習
34				4	〃	D-9	1) ⑥～⑧	女性生殖器系－2	卵巣、卵巣皮質、卵胞、卵管、子宮体、子宮内膜、筋層	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
35	11	6	火	3	白澤			総括－2		講義
36				4	〃			総括－3		〃
37		13	火	3	〃			総括－4		〃
38				4	〃			総括－5		〃
39		20	火	3	〃			組織図試験－1	脈管系、免疫系、内分泌系、外皮、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系	試験・講義
40				4	〃			組織図試験－2	〃	〃
	12	14	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

寄　生　虫　学

Ⅰ．担当教員名

微生物・免疫学	教　授	廣　松　賢　治（科目責任者）
	講　師	石　井　一　成（副責任者）
	助　教	伊　藤　竜　太
	〃	仇　　斌
	〃	栗　原　悠　介
	〃	清　水　章　文
	〃	佐　藤　絵　美
	非常勤講師	波　部　重　久

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．寄生虫症の的確な診断と治療ができるように重要な病原寄生虫に関する基礎的知識を身につける。
2．海外に分布する熱帯寄生虫感染症とくに重要な輸入寄生虫症についての知識を身につける。
3．重要な病原体を媒介する動物と、それらが媒介する病原体との関連を理解する。
4．寄生虫疾患の診断上必要な試料・検体の採取と取り扱い法および標本作製法を知る。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．宿主－寄生虫相互関係について説明できる。
2．人体寄生虫の病害と症状を説明できる。
3．個々の人体寄生虫の感染および体内移行経路を述べることができる。
4．人体寄生虫の診断と治療および予防方法を説明できる。
5．人体寄生虫の分布について述べることができる。
6．人体寄生虫の標本を観察し、その特徴から種類を判定することができる。
7．寄生虫検体の取り扱いを知る。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．講義　スライド、プリント配布
2．実習　実物標本、虫体の圧平染色および病理切片標本等の観察
3．テュートリアル　課題シートを基にした自学およびグループ学習
4．指定した教科書の序説部分あるいは配布プリントを事前に読んでおくこと。
5．授業の最初に前回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
6．講義で配布されたプリント等を熟読して復習すること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

1．出席状況（原則として実習は全て出席すること）
2．論述および CBT 様式問題による評価（実習内容の画像等の問題も含む）

Ⅵ．教科書

吉田幸雄・有薗直樹：図説　人体寄生虫学　南山堂

Ⅶ. 参考書・文献

小島荘明　編：New 寄生虫病学　南江堂

名和行文：清潔指向社会の落とし穴　寄生虫感染の Q&A　ミネルヴァ書房

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	6	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)①	寄生虫学総論	寄生、宿主・寄生虫相互関係、寄生虫感染の疫学	講義
						E-2	4)(3) ③④			
2				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	腸管寄生線虫症	回虫症、鉤虫症、鞭虫症、蟯虫症、糞線虫症	〃
						E-2	4)(3)③			
3		13	木	3	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	組織内寄生線虫症・幼虫移行症	糸状虫症、旋毛虫症、眼虫症、イヌ回虫症、アニサキス症、顎口虫症、住血線虫症	〃
						E-2	4)(3)③			
4				4	全員	C-3	1)(5)	線虫	回虫、鉤虫、鞭虫、蟯虫、糞線虫、ミクロフィラリア、アニサキス、顎口虫、旋毛虫	実習
						E-2	4)(3)③			
5		20	木	3	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	テュートリアル課題学習	寄生虫症症例	テュートリアル
						E-2	4)(3) ③④			
6				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	〃	〃	〃
						E-2	4)(3) ③④			
7		27	木	3	非常勤講師 波部	C-3	1)(5) 2)(4)①	消化器系寄生吸虫症	肝吸虫症、横川吸虫症、異形吸虫症、棘口吸虫症	講義
						E-2	4)(3)③			
8				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	組織内寄生吸虫症	肺吸虫症、住血吸虫症、セルカリア性皮膚炎	〃
						E-2	4)(3)③			
9	10	4	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)①	条虫症	裂頭条虫症、弧虫症、無鉤条虫症、有鉤条虫症、多包条虫症	〃
10				4	全員	C-3	1)(5)	吸虫、条虫	肝吸虫、肺吸虫、異形吸虫、中間宿主住血吸虫、裂頭条虫、テニア科条虫、エキノコックス	実習
						E-2	4)(3)③			
11		11	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)①	腸管内寄生原虫症	アメーバ症、ジアルジア性下痢症、膣トリコモナス症	講義
						E-2	4)(3)④			
12				4	〃	C-3	1)(5) 2)(4)①	組織・細胞内寄生原虫症	トリパノソーマ症（睡眠病、シャーガス病）、リーシュマニア症	〃
13		18	木	3	全員	C-3	1)(5) 2)(4)①	テュートリアル課題学習	寄生虫学各論に関する課題	テュートリアル
						E-2	4)(3) ③④			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	10	18	木	4	全員	C-3	1)(5) 2)(4)①	テュートリアル課題学習	寄生虫学各論に関する課題	テュートリアル
						E-2	4)(3) ③④			
15		25	木	3	石井	C-3	1)(5) 2)(4)①	胞子虫症	クリプトスポリジュウム症、トキソプラズマ症、マラリア、バベシア	講義
						E-2	4)(3)④			
16				4	廣松	C-3	1)(5) 2)(4)①	臨床寄生虫学	日本でよく遭遇する寄生虫症および診断	〃
						E-2	4)(3) ③④			
17	11	8	木	1	全員	C-3	1)(5)	原虫	赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫、トリコモナス、トリパノソーマ、リーシュマニア	実習
						E-2	4)(3)④			
18				2	〃	C-3	1)(5)	〃	トキソプラズマ、マラリア原虫、ニューモシスチス肺炎	〃
						E-2	4)(3) ②④			
19		15	木	1	石井	C-3	1)(5) 2)(4)①	衛生昆虫	外部寄生虫、媒介昆虫、ダニアレルギー	講義
20				2	全員	C-3	1)(5)	〃	ノミ、シラミ、マダニ、ヒゼンダニ、ニキビダニ、ツツガムシ	実習
	12	12	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨　床　医　学　入　門　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二（副責任者）
	講　　師	田　中　　崇
総合医学研究センター	教　　授	出　石　宗　仁
国際センター	准　教　授	佐々木　有　紀

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．臨床医学の中で重要な臨床推論の基礎を日常診療で遭遇する代表的な症候（胸痛、腹痛、頭痛など）の鑑別診断から習得する。

２．患者中心の医療を理解し、コミュニケーション能力を養う。

３．OSCE による臨床技能評価を理解し、医療面接、身体診察の基本的な技能を習得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　病院における患者の診療の流れの実際を説明できる。

⑵　代表的な症候の鑑別すべき疾患の臨床症状、身体所見を説明し、病歴シナリオを作成できる。

⑶　医療面接のロールプレイを経験し、患者の心理的な反応を疑似体験し、医療者のあるべき態度を習得できる。

⑷　バイタルサイン、胸部・腹部の身体診察ができる。

⑸　模擬患者と医療面接を経験し、医師に必要な態度でコミュニケーションをとることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　各学生に与えられた疾患について個人で学習し、チーム内で鑑別の仕方を討論する（TBL）。司会、記録、発表を全員が経験する。

⑵　医療面接のビデオや講義をもとに、課題の疾患の病歴シナリオを作成し、チーム内で患者役と医師役をロールプレイする。

⑶　シミュレーターあるいは学生間で、バイタルの取り方や身体診察の実際を経験する。

⑷　模擬患者との医療面接を経験し、患者視点ついて理解する。

⑸　医療面接、身体診察にふさわしい態度、身なり、言葉遣いを習得する。

⑹　課題についての予習、チーム内討論と課題作成を行う。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況（2/3以上の出席を必須とする）、課題及びチーム内討論、発表の内容、貢献度、態度などについて自己評価、ピア評価、模擬患者、教員による総合評価を行う。

Ⅵ．教科書

⑴　福岡大学医学部　編：診断学テキストブック

⑵　マーク・ヘンダーソン 著・山内 豊明 翻訳：聞く技術 答えは患者の中にある　日経 BP 社

Ⅶ．参考書・文献

⑴　福井次矢　奈良信雄　編：内科診断学　第三版　医学書院　￥9,500＋税

⑵　後藤英司　編：臨床推論　EBM と病態生理から症候を考える

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	14	金	3	安元・八尋 田中・出石	F-1	16)20) 33)	臨床医学入門Ⅰ	症候学（胸痛・腹痛・頭痛） 臨床推論	講義
2				4	〃	F-1	16)	症候学 1	病歴シナリオ（胸痛） 身体診察（バイタル・胸部）	TBL
3		21	金	3	〃	F-3	5) (2)(5) (7)	症候学 2	バイタル・胸部診察 シミュレーター role play 心エコー	〃
4				4	〃	F-3	5) (2)(5)	症候学 3	〃	〃
5		28	金	3	〃	F-3	5) (2)(5)	症候学 4	全体発表 （医療面接・胸部診察）	全体発表
6				4	〃	F-3	5) (2)(5)	〃	〃	〃
7	10	5	金	3	〃	F-1	(20)	症候学 5	鑑別診断（腹痛） （成人・小児）	講義
8				4	〃	F-3	5) (2)(5)	〃	腹部診察（video）	〃
9		12	金	3	〃	F-3 F-2	5) (2)(5) 7)	症候学 6	医療面接（腹部） role play　腹部エコー	TBL
10				4	〃	F-3	5) (2)(5)	〃	〃	〃
11		19	金	3	〃	F-3	5) (2)(5)	症候学 7	全体発表 レスポンスアナライザー	全体発表
12				4	〃	F-3	5) (2)(5)	〃	〃	〃
13		26	金	3	〃	A-4 F-3	1)2) 5)	医療コミュニケーション	SPとの医療面接	実習
14				4	〃	A-4 F-3	1)2) 5)	〃	〃	〃
15	11	9	金	3	〃	A-4 A-9	1) 1)	英語医療面接1	英語病歴シナリオ（腹痛） role play	TBL
16				4	〃	A-4 A-9	1) 1)	〃	〃	〃
17		16	金	3	〃	A-4 A-9	1) 1)	英語医療面接2	英語病歴シナリオ（腹痛） role play	TBL/ 全体発表
18				4	〃	A-4 A-9	1) 1)	到達度テスト	医療面接・身体診察 （胸痛・腹痛）	試験
19		30	金	3	全員	A-3 A-4 A-7	 2)	英語医療面接3	外国人SPとの医療面接	実習
20				4	〃	A-3 A-4 A-7	 2)	〃	〃	〃

薬　理　学　Ⅰ

Ⅰ．担当教員名

薬　理　学	教　　授	岩　本　隆　宏（科目責任者）
	講　　師	田　頭　秀　章（副責任者）
	助　　教	柴　田　志　保
	〃	鈴　木　沙　理
	〃	喜　多　　知
	非常勤講師	喜　多　紗斗美（徳島文理大学薬学部教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

薬理学は、薬物と生体の相互作用を考究する基礎医学ならびに臨床医学の両面にわたる総合的な学問である。薬理学Ⅰ（第２学年）ならびに薬理学Ⅱ（第３学年）を通して、以下の項目を学習する。

1．薬物の薬理作用およびその機序を学び、生体の薬物に対する反応の仕組みを理解する。

2．臨床で使用される重要な薬物について、薬理作用、有害事象、吸収、代謝および臨床適応の知識を習得するとともに、それらの基本的な原理を理解する。

3．これらの知識を土台として、薬物療法に関して幅広い応用力を身につけ、薬物投与による医療過誤を未然に防ぎ得る能力を養う。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．薬理学総論・末梢神経薬理

1）薬理学の基本的な概念と位置づけを説明できる。

2）薬物の濃度反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。

3）薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、活性薬と拮抗薬を説明できる。

4）受容体による情報伝達の機序を説明できる。

5）蛋白リン酸化とカルシウムイオンによる細胞内シグナル伝達過程を説明できる。

6）自律神経系による生体調節機構を説明できる。

7）自律神経系に作用する薬物の薬理作用を説明できる。

8）運動神経系に作用する薬物の薬理作用を説明できる。

9）薬物の吸収、体内分布、代謝ならびに排泄を説明できる。

10）薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。

11）治療薬物モニタリング（TDM）の意義およびその対象薬を説明できる。

12）臨床上重要な薬物相互作用を説明できる。

13）ポリファーマシー、使用禁忌、アンチ・ドーピングを説明できる。

14）薬物の評価におけるプラセボの意義を説明できる。

15）医薬品開発ならびに臨床試験（治験）を説明できる。

2．薬理学演習（アクティブ・ラーニング）

1）薬物動態シミュレーション演習

臨床の現場では、ある投与法により生じた薬物濃度が治療域あるいは中毒域に達しているか

どうかを明らかにする目的で血中濃度を測定する。この演習では、薬物動態シミュレーションソフトを用いて、薬物動態に影響するパラメータにはどのようなものがあるか体験学習する。

２）受容体反応シミュレーション演習

腸管収縮モデルのシミュレーションソフトを用いて、腸管平滑筋における自律神経支配の仕組みを理解するとともに、受容体作用薬の濃度反応曲線の書き方、pD_2値、pA_2値およびpD'_2値の求め方、受容体阻害様式の評価法を体験学習する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

１．指定教科書および配布プリントを中心に、PC スライド、DVD 鑑賞および板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。

２．CBT 練習問題により、各講義内容の理解度を適宜チェックし、不得意分野については自主的に追加学習する。

３．各演習に出席し、薬物動態や受容体反応についての理解を深める。

４．講義の前に、該当する範囲の教科書を予習する。

５．講義の終了後、不明な点を積極的に質問する（教員室へ訪問可能)。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．期末試験（論述式および客観式）により評価する。

２．講義および演習の出席状況ならびに学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

１．岡庭　豊：薬がみえる vol.1　第１版　メディックメディア　2014

Ⅶ．**参考書・文献**

１．柳澤輝行・丸山　敬　訳：イラストレイテッド薬理学　原著６版　丸善　2016

２．田中千賀子　他：New 薬理学　改訂７版　南江堂　2017

３．Brunton, L. L.: Goodman & Gilman’s The Pharmacological Basis of Therapeutics　13th ed.　McGraw-Hill　New York　2017

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	10	3	水	3	岩本	C-3	3)(2)	薬理学総論	薬理学の学習方法、薬物の体内動態、薬物代謝酵素（プリント）	講義
2				4	〃	C-3	3)(1)	〃	薬理作用の基本形式、薬物の作用様式（プリント）	〃
						F-2	8)⑧			
3		10	水	3	〃	C-3	3)(3)	〃	薬物受容体と薬理反応、医薬品の開発（プリント）	〃
						F-2	8)①			
4				4	喜多知	C-2	3)(1)	〃	生理活性物質と細胞内情報伝達系（プリント）	〃
5		17	水	3	岩本	C-2	3)(2)	末梢神経系に作用する薬	神経系の構造と機能、自律神経（総論）（教科書 vol.1）	〃
						F-2	8)④			
6				4	〃	F-2	8)④	〃	アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬（教科書 vol.1）	〃
7		24	水	3	非常勤講師 喜多紗	F-2	8)⑨⑩	薬理学総論（臨床薬理学）	薬物動態理論、治療薬物モニタリング（TDM）、薬物相互作用、小児・妊婦・高齢者の薬物動態（プリント）	講義（PC教室）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
8	10	24	水	4	田頭	F-2	8)⑨⑩	演習 1	薬物動態シミュレーション演習（アクティブ・ラーニング）	演習（PC教室）
9		31	水	3	岩本	F-2	8)④	末梢神経系に作用する薬	コリン作動薬、抗コリン薬（教科書 vol.1）	講義
10				4	〃	F-2	8)④	〃	神経節遮断薬、自律神経作用薬（総括）、CBT練習問題（教科書 vol.1）	〃
11	11	7	水	3	田頭	F-2	8)①④⑧⑭	〃	末梢性・中枢性筋弛緩薬、ポリファーマシー、使用禁忌、アンチ・ドーピング（プリント、教科書 vol.1）	講義（PC教室）
12				4	田頭・喜多知	C-3	3)(1)	演習 2	受容体反応シミュレーション演習（アクティブ・ラーニング）	演習（PC教室）
13		14	水	3	〃	A-2	1)2)	〃	発表準備（スライド作成）	〃
						C-3	3)(1)			
14				4	全員	A-2	1)2)	〃	発表・全体討論	〃
						C-3	3)(1)			
	12	5	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

研　究　室　配　属

Ⅰ．担当教員名

生　化　学　　教　　授　　安　永　晋一郎（科目責任者）

腫瘍・血液・感染症内科学　　教　　授　　髙　松　　泰（副責任者）

全科　教員（p. 119、120参照）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．基礎医学・社会医学のみならず臨床医として活躍するために必要なリサーチマインドを涵養する。

２．実際の基礎医学や臨床研究分野に身を置いて研究チームの一員として行動することにより、研究者としての自覚や倫理観を身につけ、研究室での基本的な知識やルールを学ぶとともに、協調的な学習環境の中で問題解決能力を高め、大学における学習成果の発表法を取得することで、生命医学領域に対する学習意欲を高める。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．生命倫理・医療倫理、研究倫理の基礎知識について理解する。

２．課題に関する資料、文献を収集し、調査できる。

３．資料となる論文の構成・批判的読み方を取得する。

４．課題に関して学生や教員と討論ができる。

５．期間中は研究の一端に関わり、習った手法、関わった研究の一部をこのコースのプロダクトとして発表する。

６．希望のある学生は、そのまま研究を継続させて、担当研究室所属長から指導を受けることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

期間：平成31年1月7日（月）～2月1日（金）

配属期間中に1～6名程度の学生グループが基礎医学・社会医学系ならびに臨床系研究室に配属され、以下①～③のようなプログラムに参加する。

①　基礎医学・社会医学・臨床医学関連の話題を素材とした、自由研究課題をグループ毎に担当指導教員から与えられ、グループの各人は更に細分化された研究課題に取り組む。

②　研究室内リサーチカンファレンス等へ参加し研究課題の進捗と問題点について討論を行う。

③　成果発表

各人の成果発表は、担当所属講座主任教授に一任し発表形式を問わない。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

評価は出席・態度・成果発表により評価する。評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ⅶ．参考書・文献

必要に応じ、各講座から情報提供する。

Ｍ２研究室配属　担当教員一覧

No	講座名・診療科	代表者	担当教員（代表者以外）				
1	解剖学	立花　克郎	フェリル ロリト	遠藤日富美	入江　豊		
2	細胞生物学	白澤　専二	角田　俊之	石倉　周平	土井　佳子	小柳　緑	田中　陽子
3	生理学	井上　隆司	上原　明	沼田　朋大	本田　啓	倉原(海)琳	市川　純
			内田　俊毅	胡　耀鵬			
4	生化学	安永晋一郎	芝口　浩智	白須　直人			
5	薬理学	岩本　隆宏	田頭　秀章	柴田　志保	鈴木　沙理	喜多　知	
6	病理学	竹下　盛重	鍋島　一樹	上杉　憲子	二村　聡	濵田　義浩	青木光希子
			古賀　佳織	林　博之	中島　裕康	濵﨑　慎（病院病理部）	
7	微生物・免疫学	廣松　賢治	副島　利紀	石井　一成	伊藤　竜太	仇　斌	栗原　悠介
			清水　章文	佐藤　絵美			
8	再生・移植医学	小玉　正太	山田　哲平	吉松　軍平（再生医療センター）	坂田　直昭（応用再生医療開発講座）		
9	衛生・公衆衛生学	有馬　久富	吉村　力	前田　俊樹	辻　雅善	川添　美紀	佐藤　敦
10	法医学	久保　真一	柏木　正之	原　健二	松末　綾	ウォーターズ ブライアン	高山　みお
11	腫瘍・血液・感染症内科学	髙松　泰	田中　俊裕	戸川　温	佐々木秀法	渡辺　信和（細胞病態解析学講座）	
12	内分泌・糖尿病内科学	柳瀬　敏彦	野見山　崇	田邉真紀人	元永　綾子	濵之上暢也	田中　智子（生活習慣病病態制御講座）
13	心臓・血管内科学	三浦伸一郎	小川　正浩	岩田　敦	池　周而	桑野　孝志	志賀　悠平
14	消化器内科学	向坂彰太郎	釈迦堂　敏	竹山　康章	石橋　英樹	竹田津英稔（内視鏡部）	
15	呼吸器内科学	藤田　昌樹	松本　武格	石井　寛	串間　尚子		
16	腎臓・膠原病内科学	中島　衡	升谷　耕介	三宅　勝久	安野　哲彦	伊藤　建二	
17	神経内科学	坪井　義夫	緒方　利安	合馬　慎二	津川　潤	藤岡　伸助	三嶋　崇靖
			柳本祥三郎	小倉　玄睦			
18	精神医学	川嵜　弘詔	尾籠　晃司	衞藤　暢明	吉良健太郎	飯田　仁志	後藤　玲央（ニューロサイエンス・精神医学研究講座）
19	小児科学	廣瀬　伸一	太原　鉄平	林　仁美	後藤　綾子	川野　裕康	新居見俊和
20	皮膚科学	今福　信一	大賀　保範				
21	放射線医学	吉満　研吾	高野　浩一	浦川　博史	髙良　真一	赤井　智春	長町　茂樹（放射線部）
22	消化器外科学	長谷川　傑	吉田陽一郎	吉村　文博（手術部）			
23	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	岩﨑　昭憲	白石　武史	山下　眞一	吉永　康照	濵武　大輔	廣瀬龍一郎（総合周産期母子医療センター）
24	脳神経外科学	井上　亨	東　登志夫	安部　洋	森下　登史	野中　将	
25	心臓血管外科学	和田　秀一	寺谷　裕充				
26	整形外科学	山本　卓明	木下　浩一	田中　祥継	田中　潤	萩尾 友宣（運動器先端医療開発講座）	三宅　智（運動器先端医療開発講座）

No	講座名・診療科	代表者	担当教員（代表者以外）				
27	形成外科学	大慈弥裕之	髙木　誠司	川上　善久	森田　　愛	稲本　和也	森永　絵理
			秋田　定伯（形成外科学・創傷再生学講座）				
28	眼科学	内尾　英一	尾崎　弘明	岡村　寛能	有田　直子	佐伯　有祐	日吉　篤史
29	耳鼻咽喉科学	坂田　俊文	末田　尚之	大西　克樹	竹内寅之進	妻鳥敬一郎	
30	泌尿器科学	田中　正利	中村　信之	入江慎一郎	古屋隆三郎	松﨑　洋吏	
31	産科婦人科学	宮本　新吾	四元　房典	伊東　智宏	勝田　隆博	倉員　正光	深川　怜史
32	麻酔科学	山浦　　健	柴田　志保（薬理学）				
33	歯科口腔外科学	近藤　誠二	瀬戸　美夏	梅本　丈二	喜多　涼介		
34	臨床検査医学	松永　　彰	大久保久美子	小牧　　智			
35	救命救急医学　※	石倉　宏恭	岩朝　光利	喜多村泰輔	川野　恭雅	入江　悠平	星野　耕大
36	医学教育推進講座	安元　佐和	八尋　英二	田中　　崇	出石　宗仁（総合医学研究センター）		
筑紫病院							
37	循環器内科	浦田　秀則	白井　和之	光武　良晃	衛藤　　聡	松尾　邦浩（救急科）	岡村　圭祐（救急科）
38	呼吸器内科	永田　忍彦	宮﨑　浩行	赤木　隆紀	竹田　悟志	吉田　祐士	
39	消化器内科	植木　敏晴	久部　高司	光安　智子	八尾　建史（内視鏡部）	平井　郁仁（炎症性腸疾患センター）	宮岡　正喜（内視鏡部）
40	小児科	小川　　厚	吉兼由佳子	鶴澤　礼実	堤　　信		
41	外科	前川　隆文	三上　公治	東　大二郎	吉田　康浩	平野由紀子	平野　公一（救急科）
42	整形外科	柴田　陽三	秋吉祐一郎	野村　智洋	南川　智彦	蓑川　　創	
43	脳神経外科	堤　　正則	新居　浩平				

※救命救急医学は、肝炎ワクチン未接種者の受け入れ不可。

第 3 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ. プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ. 医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ. 診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M3】		薬理学Ⅱ	病理学総論	公衆衛生学	臨床医学入門Ⅱ	臨床医学入門Ⅱ（地域医療体験・BSL実習）	内分泌・代謝病学	病理学各論	放射線科学	呼吸器病学	消化器病学	腎臓・膠原病学	皮膚科学	眼科学	感染症学	形成外科学	歯科口腔外科学
Ⅰ. プロフェッショナリズム																	
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。																	
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	D	D	D	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	C	C	C	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C	C	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
Ⅱ. 医学的知識																	
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。																	
1	正常構造と機能	D	D	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	発達、成長、加齢、死	F	F	D	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	心理、行動	F	F	C/D	C	C	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	病因、構造と機能の異常	D	D	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
5	診断、治療	F	F	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
6	医療安全	F	F	D	D	C/D	C	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D
7	疫学、予防、公衆衛生	F	F	C/D	F	D	D	F	F	D	D	D	D	D	D	D	D
8	保健・医療・福祉制度	F	F	C/D	F	D	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
9	医療経済	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅲ. 診療技術・患者ケア																	
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。																	
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	F	F	F	C/D	C/D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	D	D	D	C/D	C/D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	D	F	D	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	D	F	F	D	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療																	
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。																	
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	F	F	C	B	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	F	F	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	F	F	C	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	C	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療																	
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。																	
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	F	F	D	F	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	F	F	D	F	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	F	F	D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	F	F	C/D	F	C/D	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	F	F	C	C	C	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	F	F	C/D	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力																	
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。																	
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	C/D	C/D	C/D	F	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	C/D	C/D	C/D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	C/D	C/D	C/D	C	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	C	C/D	C/D	C	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	C	C/D	C/D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C

薬　理　学　Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

薬理学	教授	岩本隆宏（科目責任者）
	講師	田頭秀章（副責任者）
	助教	柴田志保
	〃	鈴木沙理
	〃	喜多　知
	非常勤講師	喜多紗斗美（徳島文理大学薬学部教授）
	〃	児島将康（久留米大学分子生命科学研究所教授）
	〃	西　昭徳（久留米大学医学部教授）
	〃	原　英彰（岐阜薬科大学教授）
	〃	後藤雄輔（飯塚病院漢方診療科）
生化学	教授	安永晋一郎

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

薬理学は、薬物と生体の相互作用を考究する基礎医学ならびに臨床医学の両面にわたる総合的な学問である。薬理学Ⅰ（第２学年）ならびに薬理学Ⅱ（第３学年）を通して、以下の項目を学習する。

1．薬物の薬理作用およびその機序を学び、生体の薬物に対する反応の仕組みを理解する。

2．臨床で使用される重要な薬物について、薬用作用、有害事象、吸収、代謝および臨床適応の知識を習得するとともに、それらの基本的な原理を理解する。

3．これらの知識を土台として、薬物療法に関して幅広い応用力を身につけ、薬物投与による医療過誤を未然に防ぎ得る能力を養う。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．薬理学総論（薬理学Ⅰの復習）

1）薬物の濃度反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。

2）薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、活性薬と拮抗薬を説明できる。

3）薬物の吸収、体内分布、代謝ならびに排泄を説明できる。

4）薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。

5）治療薬物モニタリングの意義およびその対象薬を説明できる。

6）臨床上重要な薬物相互作用を説明できる。

2．薬理学各論

1）末梢神経作用薬（アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬、コリン作動薬、抗コリン薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。（薬理学Ⅰの復習）

2）中枢神経作用薬（全身麻酔薬、抗不安薬、向精神薬、中枢神経興奮薬、麻薬性鎮痛薬、抗けいれん薬、パーキンソン病治療薬、抗認知症薬、脳循環改善薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。

3）高血圧治療薬、心臓血管系作用薬（狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、脂質異常症治療薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。

４）腎臓作用薬（利尿薬、高尿酸血症治療薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
５）抗炎症薬および解熱鎮痛薬の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
６）呼吸器系作用薬（抗喘息薬、呼吸促進薬、鎮咳薬、去痰薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
７）血液作用薬（造血薬、血栓症治療薬、止血薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
８）消化器系作用薬（消化性潰瘍治療薬、制吐薬、胆・膵疾患治療薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
９）免疫作用薬（免疫抑制薬、免疫賦活薬、抗アレルギー薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
10）化学療法薬（抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗原虫薬、抗蠕虫薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
11）抗腫瘍薬の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
12）ホルモン・内分泌疾患作用薬（視床下部・脳下垂体ホルモン作用薬、甲状腺ホルモン作用薬、副腎皮質ホルモン作用薬、性ホルモン作用薬、糖尿病治療薬、骨代謝作用薬）の薬理作用ならびに治療応用を説明できる。
13）ビタミンの種類と機能を説明できる。
14）薬物の依存、耐性、タキフィラキシー、習慣性や嗜癖を説明できる。
15）臨床薬理学の立場から、薬物の体内動態、薬物相互作用、人種差、個体差、特に小児ならびに高齢者の薬物療法を説明できる。
16）遺伝子治療の位置づけならびに臨床応用を説明できる。
17）和漢薬を概説できる。
18）薬物中毒とその処置を説明できる。

３．薬理学実習

小グループに分かれて以下の実習を実施し、その成果を実習発表会でグループ毎に報告する。

１）シミュレーションソフトを用いた血圧・心拍数の自律神経調節の実験
交感神経・副交感神経による血圧および心拍数の調節機構を理解する。

２）モルモット摘出回腸標本を用いたコリン作動性薬物の実験
内臓平滑筋の収縮・弛緩に影響を及ぼす薬物の作用を観察する。

３）マウスを用いたパーキンソン病治療薬の実験
パーキンソン病様モデルマウスを作製し、各種治療薬の効果を観察する。

４）マウスを用いた麻酔薬の実験
麻酔薬の薬理作用を動物実験で判定し、薬物相互作用を観察する。

４．薬理学演習（アクティブ・ラーニング）

１）P-Drug 演習

P-Drug（Personal Drug）は、医薬品の適正使用を目指して、医師が患者に処方する医薬品を有効性・安全性・適合性・費用の基準から選択し、エビデンスに基づいて自らの処方集を作成する一連のプロセスを意味する。本演習では、薬物治療プロセスを早期に学ぶ目的で、症例問題を用いて適正医薬品の選択法を体験学習する。小グループに分かれて演習を実施し、その成果を発表会でパワーポイントを用いて報告する。

２）薬効判定演習

臨床試験における薬効判定は、病状の自然治癒、効果の個別性、患者・医師の心理的効果などが試験結果に影響を与えるため、二重盲検法という手法で実施される。本演習では、カフェインの精神運動興奮作用（指標：被験者の暗算作業効率）を観察し、二重盲検法による薬効判定を体験学習する。最後に、演習内容を発表会で報告する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

１．指定教科書および配布プリントを中心に、PC スライド、DVD 鑑賞および板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。

２．レスポンスアナライザーを用いた CBT 練習問題により、各講義内容の理解度を適宜チェックし、不得意分野については自主的に追加学習する。

３．各種実習・演習に出席し、薬物の薬理作用や薬物療法についての理解を深める。

４．学外講師の特別講義に出席し、緊張感のある環境下で学習と思考を刺激するとともに、最先端の薬理学情報に触れる。

５．講義の前に、該当する範囲の教科書を予習する。

６．講義の終了後、不明な点を積極的に質問する（教員室へ訪問可能)。

７．問題集等を用いて、学んだ知識の実践力・応用力を自ら確認する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．期末試験（論述式および客観式）により評価する。

２．講義および実習・演習の出席状況ならびに学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

１．岡庭　豊：薬がみえる vol.1　第１版　メディックメディア　2014

２．岡庭　豊：薬がみえる vol.2　第１版　メディックメディア　2015

３．岡庭　豊：薬がみえる vol.3　第１版　メディックメディア　2016

Ⅶ．**参考書・文献**

１．柳澤輝行・丸山　敬　訳：イラストレイテッド薬理学　原著６版　丸善　2016

２．田中千賀子　他：New 薬理学　改訂７版　南江堂　2017

３．高久史麿　他：治療薬マニュアル2018　医学書院　2018

４．浦部晶夫　他：今日の治療薬2018　南江堂　2018

５．Brunton, L. L.: Goodman & Gilman’s The Pharmacological Basis of Therapeutics　13th ed.　McGraw-Hill　New York　2017

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	2	月	1	田頭	F-2	8）④	薬理学Ｉの復習	自律神経作用薬(教科書 vol.1)	講義
2				2	岩本	C-3	3) (1)(2)	〃	薬物動態、薬物受容体(プリント)	〃
3				3	田頭	F-2	8）④	中枢神経系の疾患と薬：てんかん	中枢神経疾患治療薬(総論)、てんかん(教科書 vol.1)	〃
4				4	非常勤講師 児島	D-12	1)2)	生理活性ペプチドと創薬	インスリン、ナトリウム利尿ペプチド、グレリン(プリント)	〃
5		5	木	1	田頭	F-2	8）④	中枢神経系の疾患と薬：統合失調症	精神疾患治療薬(総論)、定型・非定型抗精神薬 (教科書 vol.1)	〃
6				2	〃	F-2	8）④	中枢神経系の疾患と薬：気分障害	抗うつ薬、抗躁薬 (教科書 vol.1)	〃
7				3	岩本	F-2	8）④	循環器系の疾患と薬	循環器の構造と機能(総論) (教科書 vol.1)	〃
8				4	〃	F-2	8）④	〃	循環器疾患治療薬(総論) (教科書 vol.1)	〃
9		9	月	1	田頭	F-2	8）④	中枢神経系の疾患と薬：不眠症	不眠症(総論)、睡眠薬 (教科書 vo.1)	〃
10				2	〃	F-2	8）④	中枢神経系の疾患と薬：神経症性障害	神経症性障害(総論)、抗不安薬、ストレス障害・心身症、精神刺激薬(教科書 vol.1)	〃
11				3	岩本	F-2	8）④	循環器系の疾患と薬：高血圧	高血圧(総論)、高血圧治療薬、低血圧治療薬(教科書 vol.1)	〃
12				4	〃	F-2	8）④	循環器系の疾患と薬：心不全	心不全(総論)、心不全治療薬 (教科書 vol.1)	〃
13		12	木	1	田頭	F-2	8）④	内分泌系の疾患と薬	ホルモン(総論)、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン (教科書 vol.2)	〃
14				2	〃	F-2	8）④	〃	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン (教科書 vol.2)	〃
15				3	岩本	F-2	8）④	循環器系の疾患と薬：不整脈	不整脈(総論)、抗不整脈薬 (教科書 vol.1)	〃
16				4	〃	F-2	8）④	循環器系の疾患と薬：虚血性心疾患	狭心症治療薬、心筋梗塞治療薬 (教科書 vol.1)	〃
17		16	月	1	非常勤講師 喜多紗	F-2	8）④	糖代謝の疾患と薬	糖尿病(総論)、糖尿病治療薬 (教科書 vol.2)	〃
18				2	喜多知	F-2	8) ①④⑧	薬物中毒、ビタミン製剤	薬物中毒・依存、アルコール中毒、重金属・有毒ガス・農薬中毒、脂溶性・水溶性ビタミン (プリント、教科書 vol.1)	〃
19				3	岩本	F-2	8）④	呼吸器系の疾患と薬	呼吸器(総論)、鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬(教科書 vol.3)	〃
20				4	〃	F-2	8）④	〃	喘息(総論)、気管支喘息治療薬 (教科書 vol.3)	〃
21		19	木	1	田頭	F-2	8）④	内分泌系の疾患と薬	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、性ホルモン (教科書 vol.2)	〃
22				2	〃	F-2	8）④	骨・カルシウム代謝の疾患と薬	骨粗鬆症治療薬、変形性関節症治療薬(教科書 vol.2)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
23	4	19	木	3	岩本	F-2	8) ④	腎臓の疾患と薬	腎機能(総論)、利尿薬、腎不全治療薬(教科書 vol.1)	講義
24				4	〃	F-2	8) ④	血液系の疾患と薬	血液(総論)、止血薬、抗血栓薬、血栓溶解薬(教科書 vol.2)	〃
25		23	月	1	田頭	F-2	8)⑥⑫	悪性腫瘍と薬	悪性腫瘍(総論)、化学療法薬(教科書 vol.2)	〃
26				2	安永・田頭 岩本	D-1 F-2	4) (4) 8)④⑫	血液系の疾患と薬(生化学･薬理学の合同講義)	赤血球・白血球(総論)、貧血治療薬、白血病治療薬(教科書 vol.2)	〃
27				3	柴田	F-2	8) ④	中枢神経系(体性神経系)の疾患と薬:全身麻酔、局所麻酔	全身麻酔薬(総論)、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、局所麻酔薬(教科書 vol.1)	〃
28				4	〃	F-2	8) ①④⑦	中枢神経系の疾患と薬：痛み、薬物中毒・依存症	痛み(総論)、オピオイド鎮痛薬、非ステロイド性抗炎症薬、神経障害性疼痛治療薬(教科書 vol.1)	〃
29		26	木	1	岩本・田頭	F-2	8) ④⑨⑪	P-Drug演習(アクティブ・ラーニング)	P-Drug演習の説明、課題調査(グループ学習)	演習(PC教室)
30				2	〃	F-2	8) ④⑨⑪	〃	発表準備(グループ討論、スライド作成)	〃
31				3	〃	F-2	8) ④⑨⑪	〃	発表・全体討論	〃
32				4	〃	F-2	8) ④⑨⑪	〃	〃	〃
33	5	7	月	1	喜多知	F-2	8) ⑤	感染症と薬	感染症、細菌、化学療法(総論)(教科書 vol.3)	講義
34				2	非常勤講師 原	F-2	8) ④	中枢神経系の疾患と薬：認知症、脳血管障害	アルツハイマー型認知症治療薬、血栓溶解療法、脳保護薬、脳循環代謝改善薬(プリント)	〃
35				3	田頭	F-2	8)⑥⑫	悪性腫瘍と薬	分子標的薬、ホルモン療法薬(教科書 vol.3)	〃
36				4	非常勤講師 西	F-2	8) ④	中枢神経系の疾患と薬：パーキンソン病	ドパミン神経、パーキンソン病治療薬(プリント)	〃
37		10	木	1	田頭	F-2	8) ②③⑫	免疫・炎症・アレルギー系の疾患と薬	免疫(総論)、免疫抑制薬、免疫刺激薬、抗炎症薬(教科書 vol.2)	〃
38				2	〃	F-2	8) ②③⑫	〃	抗アレルギー薬、抗リウマチ薬(教科書 vol.2)	〃
39				3	岩本	F-2	8) ④	消化器系の疾患と薬	消化器(総論)、消化薬、制吐薬、止痢薬、下剤(教科書 vol.3)	〃
40				4	〃	F-2	8) ④	〃	消化性潰瘍治療薬、攻撃因子抑制薬、防御因子増強薬(教科書 vol.3)	〃
41		14	月	1	非常勤講師 喜多紗	F-2	8) ④	脂質代謝の疾患と薬	脂質代謝(総論)、高コレステロール血症治療薬、高トリグリセライド血症治療薬(教科書 vol.2)	〃
42				2	田頭	F-2	8) ④	消化器系・眼科系の疾患と薬	肝炎・膵炎治療薬、利胆薬、緑内障治療薬(教科書 vol.2,3)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
43	5	14	月	3	田頭	F-2	8）④	泌尿器系・産婦人科系の疾患と薬	過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬、勃起不全治療薬、子宮収縮薬、子宮弛緩薬（教科書 vol.1,2）	講義
44				4	岩本	F-2	8）④	実習ガイダンス	実習・発表会の進め方、動物実験の注意事項	〃
45		17	木	1	喜多知	F-2	8）⑤	感染症と薬	抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬（教科書 vol.3）	〃
46				2	非常勤講師 後藤	F-2	8）⑬	漢方医学と漢方薬	漢方診断学、漢方薬理学、漢方薬処方（プリント）	〃
47				3	田頭・鈴木 喜多知	C-3	3）(3)	薬効判定演習 (アクティブ・ラーニング)	薬効判定、二重盲検法、プラセボ効果、臨床試験	演習 （基礎Ⅱ）
						F-2	8）④			
48				4	〃	C-3	3）(3)	〃	〃	〃
						F-2	8）④			
49		21	月	3	全員	A-2	1）2）	実習 1	(Ⅲ.3. 薬理学実習のローテーション)	実習 （実習室・PC教室）
						F-2	8）④			
50				4	〃	A-2	1）2）	〃	〃	〃
						F-2	8）④			
51	6	4	月	3	〃	A-2	1）2）	実習 2	〃	〃
						F-2	8）④			
52				4	〃	A-2	1）2）	〃	〃	〃
						F-2	8）④			
53		11	月	3	〃	A-2	1）2）	実習 3	〃	〃
						F-2	8）④			
54				4	〃	A-2	1）2）	〃	〃	〃
						F-2	8）④			
55		18	月	3	〃	A-2	1）2）	実習 4	〃	〃
						F-2	8）④			
56				4	〃	A-2	1）2）	〃	〃	〃
						F-2	8）④			
57		25	月	3	〃	A-2	1）2）	実習発表会	発表スライドの作成	実習 （PC教室）
						F-2	8）④			
58				4	〃	A-2	1）2）	〃	発表・全体討論	〃
						F-2	8）④			
	7	2	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

病　理　学　総　論

Ⅰ．担当教員名

病　理　学	教　　授	竹　下　盛　重	（科目責任者）
	〃	鍋　島　一　樹	（副責任者）
	准　教　授	上　杉　憲　子	
	〃	二　村　　聡	
	〃	濵　﨑　　慎	（病院病理部）
	講　　師	濵　田　義　浩	
	〃	青　木　光希子	
	〃	古　賀　佳　織	
	〃	林　　博　之	
	助　　教	中　島　裕　康	
	非常勤講師	伊　東　正　博	（長崎医療センター・機能形態研究部長）
	〃	片　岡　寛　章	（宮崎大学医学部教授）
	〃	丸　山　理留敬	（島根大学医学部教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

病理学（pathology）は病気（疾病 disease）の本態を明らかにする学問として非常に重要である。病理学は肉眼・組織レベルの形態学を基盤として発展してきたが、最近では免疫組織化学、電子顕微鏡学、分子生物学などが導入され、細胞・遺伝子レベルで疾病の本態が明らかにされつつある。そして、臨床医学の分野においても、病理学は診断の確定、治療方針の決定、予後・治療効果の判定などに大きく貢献している。ここでは、病気の原因と発病機構を理解し、病気によって生ずる組織の変化、その経過および転帰について学習する。具体的には、⑴細胞傷害・変性と細胞死、⑵代謝障害、⑶遺伝子異常と疾患・発生発達異常、⑷循環障害、⑸炎症、⑹再生、修復、創傷治癒、⑺腫瘍、⑻新生児、小児疾患、⑼老化にもとづく疾患、⑽放射線障害について学習し、種々の病因・病態を理解する。加えて、重要な病理学的用語の定義を正確に説明できる様にする。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．細胞傷害・変性と細胞死

細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の原因と形態的変化を説明できる。

１）細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の多様性、原因と意義を説明できる。

２）細胞傷害、変性、萎縮、細胞死について細胞と組織における形態的変化を説明できる。

３）ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。

２．代謝障害

糖質、タンパク質、脂質などの代謝異常によって生じる多様な疾患について説明できる。

１）糖尿病、糖質代謝異常の病態を説明できる。

２）アミロイド症、タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態を説明できる。

３）肥満、脂質代謝異常の病態を説明できる。

４）核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態を説明できる。
５）ビリルビン、無機質（特に鉄、カルシウム、銅）代謝異常の病態を説明できる。

３．遺伝子異常と疾患・発生発達異常

遺伝子・染色体異常と発生発達異常や疾患の発生と関連を説明できる。

１）胚（生殖）細胞と体細胞、それぞれにおける遺伝子異常が引き起こす疾患の相違点を説明できる。
２）メンデル遺伝の３つの様式を説明し、代表的な疾患を列挙できる。
３）多因子遺伝が原因となる疾患を列挙し、その特徴を説明できる。
４）染色体異常による疾患の中で主なものを挙げ、概説できる。
５）個体の発達異常における遺伝因子と環境因子の関係を概説できる。
６）ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を例示できる。

４．循環障害

循環障害の成因と病態を説明できる。

１）虚血、充血、うつ血と血行静止の違いおよびそれぞれの原因と病態を説明できる。
２）出血の原因と止血の機構を説明できる。
３）血栓症の成因と病態を説明できる。
４）塞栓の種類と経路や塞栓症の病態を説明できる。
５）硬塞の種類と病態を説明できる。
６）ショック・脱水の原因と病態を説明できる。

５．炎症

炎症の概念と感染症との関係、またそれらの治癒過程を理解し、免疫およびアレルギーの病態を説明できる。

１）炎症の定義を説明できる。
２）炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を説明できる。
３）感染症による炎症性変化を説明できる。肉芽腫を説明できる。
４）免疫異常、アレルギー、自己免疫疾患の病態を説明できる。

６．再生、修復、創傷治癒

１）組織の再生を説明できる。
２）組織の修復を説明できる。
３）創傷治癒の過程を説明できる。

７．腫瘍

細胞の増殖・分化の機構とそれらの異常を学び、腫瘍の定義、発生機構と病態を説明できる。

１）異形成、退形成を説明できる。
２）腫瘍の定義および良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
３）腫瘍細胞の異型性、多形性を説明できる。
４）局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移を説明できる。
５）腫瘍発生に関わる遺伝子的要因と外的因子を概説できる。
６）腫瘍と染色体異常の関係を説明できる。
７）癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。

８）上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の肉眼的および組織学的な違いを説明できる。
　ａ．主要な良性、悪性上皮性腫瘍について説明できる。
　ｂ．主要な良性、悪性非上皮性腫瘍について説明できる。

８．新生児、小児疾患
　メッケル憩室、Hirschsprung 病、鎖肛、ラトケ嚢胞、クレチン病、新生児先天性副腎過形成を説明できる。

９．老化
　加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。老化に伴う臓器の変化、老年者に特有な疾患について説明できる。

10．放射線障害にともなう特徴的変化を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

講義：講義資料、指定した教科書、スライドを用いる。

実習：実習初日にオリエンテーションを行う。白衣着用を厳守。着用しない場合、欠席とする。実習の出席は講義の倍として算定する。まず正常組織を理解する。代表的病態について実際提示された組織病変を観察し、レポートを提出する。病理組織アトラスを参考にする。最後にチェックを受ける。

院内解剖症例の臨床病理カンファレンス（Clinicopathological conference, CPC）への参加：４月より11月まで火曜日、PM ５：30より臨床大講堂横カンファレンス室で行われる CPC に参加する。10 ～ 15人を１つの班とする。参加は１回のみで、白衣着用を必須とする。検討疾患概要は、前の週に配布するので予習する。レポート（患者の概要、剖検診断、死因、調べた内容、感想）を記述し、これを次週の木曜日までに病理学教室に提出する。本実習は点数化し各論後半テストに加算する。

指定の教科書、アトラス、参考書及び自らの講義ノートを読み理解を深める。疑問点や不明点が出れば、指定した教科書で調べて、病気のメカニズムを理解する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

筆記試験、出席、実習試験、実習レポート、CPC レポート。実習を重視する。

Ⅵ．教科書

１．ロビンス基礎病理学　2014　丸善出版　９版
２．深山正久　編集：組織病理アトラス　第６版　文光堂　2015（指定アトラス）

Ⅶ．参考書・文献

１．R. ルービン（鈴木利光、他、訳）：ルービン病理学　改訂版　西村書店　2017
２．坂本穆彦　編集：標準病理学　第４版　医学書院（東京）　2010
３．機能を中心とした図説組織学　2009
４．di Fiore 人体組織図譜（原著　第11版）　2011
５．組織病理マップ＆ガイド　2014
６．Rubin’s Pathology　7th ed.　philadelphia　2014
７．Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease　9th ed.　W. B. Saunders Co. Philadelphia　2014
８．General and Systematic Pathology　5th ed.　Churchill Livingstone　Toronto　2009

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	3	火	1	竹下	C-4	2)	病理序論 細胞傷害・変性と細胞死(1)	病理学で学ぶこと。細胞の構造と機能、細胞傷害、変性、萎縮、細胞死の多様性、原因、形態的変化。ネクローシスとアポトーシス	講義
2				2	〃	C-4	3)	代謝障害(2)	糖質代謝異常、糖尿病	〃
3				3	〃	C-4	3)	代謝障害(3)	タンパク代謝異常、アミロイド症	〃
4				4	竹下 濵田・濵﨑	C-4	2)	細胞傷害・変性と細胞死(4)	細胞傷害、変性、細胞死の多様性、原因、形態的変化。ネクローシスとアポトーシス、糖尿病	実習
5		6	金	1	竹下	C-4	3)	代謝障害(5)	アミノ酸代謝異常、核酸・ヌクレオチド代謝異常	講義
6				2	〃	C-4	3)	代謝障害(6)	脂質代謝異常、肥満、ビリルビン代謝異常症	〃
7				3	竹下 二村・林	C-4	3)	代謝障害(7)	脂質代謝異常、核酸・ヌクレオチド代謝異常、ビリルビン代謝異常症、無機質代謝異常	実習
8				4	濵田・全員	C-4	2) 3)	非腫瘍性病変(8)	正常組織、典型的疾患の肉眼像	マクロ実習
9		10	火	1	鍋島	C-4	1)	遺伝子異常と疾患(1)	胚(生殖)細胞と体細胞における遺伝子異常、メンデル遺伝の３つの様式、多因子遺伝	講義
10				2	〃	C-4	1)	遺伝子異常と疾患(2)	染色体異常による疾患、個体の発達異常における遺伝因子と環境因子の関係、ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患	〃
11				3	上杉	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(1)	炎症の定義、分類、組織形態学的変化と経時的変化	〃
12				4	〃	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(2)	〃	〃
13		13	金	1	〃	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(3)	〃	〃
14				2	〃	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(4)	細菌、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、ウイルス、真菌感染症	〃
15				3	上杉・中島	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(5)	炎症の定義、分類、組織形態学的変化と経時的変化の病理実習	実習
16				4	〃	C-4	5) ①～③	炎症・感染症(6)	細菌、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、ウイルス、真菌感染症の病理実習	〃
17		17	火	1	鍋島	C-3	2) (1)～(4)	免疫・アレルギー(1)	免疫異常、アレルギー、自己免疫疾患	講義
18				2	鍋島・青木	C-3	2) (1)～(4)	免疫・アレルギー(2)	〃	実習
19				3	竹下	C-4	4)	循環障害(1)	循環障害の成因と病態。虚血、充血、うっ血と血行静止。出血の原因と止血の機構	講義
20				4	〃	C-4	4)	循環障害(2)	〃	〃
21		20	金	1	〃	C-4	4)	循環障害(3)	血栓症の成因と病態。塞栓の種類と経路や塞栓症の病態	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
22	4	20	金	2	竹下	C-4	4)	循環障害(4)	血栓症の成因と病態。塞栓の種類と経路や塞栓症の病態	講義
23				3	〃	C-4	4)	循環障害(5)	梗塞の種類と病態、ショック	〃
24				4	竹下・林	C-4	4)	循環障害(6)	〃	実習
25		24	火	1	鍋島	C-4	5) ④	細胞増殖I、再生、修復、創傷治癒(1)	組織の再生と修復、創傷治癒の過程・細胞増殖と適応	講義
26				2	鍋島・二村	C-4	5) ④	細胞増殖、再生、修復、創傷治癒(2)	創傷治癒と肉芽組織	実習
27				3	鍋島	C-4	6)	腫瘍総論(1)	腫瘍の Introduction & がんの転移・浸潤	講義
28				4	二村	C-4	6)	腫瘍総論(2)	がんの形態	〃
29		27	金	1	鍋島・二村	C-4	6)	腫瘍総論(3)	癌の形態：胃癌(低分化腺癌)	実習
30				2	〃	C-4	6)	腫瘍総論(4)	癌の形態： 肺癌(腺癌：乳頭型・腺房型)	〃
31				3	鍋島	C-4	6)	腫瘍総論(5)	細胞増殖・癌遺伝子と癌抑制遺伝子	講義
32				4	非常勤講師 片岡	C-4	6)	腫瘍総論(6)	特別講義：腫瘍概論	〃
33	5	1	火	1	鍋島	C-4	6)	腫瘍総論(7)	非上皮性腫瘍	〃
34				2	二村	C-4	6)	腫瘍総論(8)	上皮性腫瘍と癌の発育・進展	〃
35				3	濵﨑・二村	C-4	6)	腫瘍総論(9)	非上皮性腫瘍	実習
36				4	〃	C-4	6)	腫瘍総論(10)	アスベストと中皮腫	〃
37		8	火	1	二村	C-4	6)	腫瘍総論(11)	まとめ(腫瘍のoverview)	講義
38				2	竹下	C-4	1)	発生学に基づく疾患(1)	３胚葉の形成とその異常(1)	〃
39				3	〃	C-4	1)	新生児、小児疾患(2)	３胚葉の形成とその異常(2)と新生児疾患	〃
40		11	金	1	非常勤講師 丸山	C-4	6)	腫瘍総論(12)	特別講義(腫瘍の外科病理学)	〃
41				2	竹下・濵田			まとめ	実習の総復習	実習
42				3	非常勤講師 伊東	E-6	1)	放射線障害の病理	特別講義	講義
		28	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃			実習試験		
				4	〃					

公　衆　衛　生　学

Ⅰ．担当教員名

衛生・公衆衛生学

教　　授	有馬久富	（科目責任者）
准教授	吉村　力	
講　　師	前田俊樹	
〃	辻　雅善	
助　　教	川添美紀	
〃	佐藤　敦	
非常勤講師	神田秀幸	（島根大学医学部環境保健医学講座 教授）
〃	楯林英晴	（福岡県精神保健福祉センター 所長）
〃	友岡眞樹	（福岡市城南区保健福祉センター 所長）
〃	早川岳人	（立命館大学地域健康社会学研究センター 教授）
〃	松田峻一良	（福岡県医師会 会長）
〃	三浦克之	（滋賀医科大学社会医学講座 教授）
〃	宮﨑　親	（福岡県北筑後保健福祉環境事務所 所長）
〃	守山正樹	（日本赤十字九州国際看護大学 教授）
〃	山田信也	（国立障害者リハビリテーションセンター 主任生活支援専門職）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

公衆衛生（public health）とは、「共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかるための科学であり、技術」（C. E. A. Winslow）である。わが国の医師法第１条には「医師は医療および保健指導をつかさどることによって公衆衛生の向上および推進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と定められている。

疾病発症予防と健康増進のためには、人間社会に存在する健康問題を的確に把握し、それらと関連する要因を究明し、問題を解決する方法を理解し、実践する能力を身につける必要がある。このことを通じて、国民そして人類の健康を守る視点と能力を持つ医師となることを目標とする。

より具体的には、

１）疫学の方法について説明できる。
２）人間集団の健康状態の疫学的診断ができる。
３）わが国と世界の人々の健康状態の現状について説明できる。
４）疾病と環境要因との関連について説明できる。
５）公衆衛生に係わりのある法制度、行政機構について説明できる。
６）わが国の保健・医療・福祉の制度について説明できる。
７）保健指導・健康教育・健康管理の原理と方法について説明できる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．公衆衛生学概論

・健康の意味を理解し、概念を説明できる。

・公衆衛生の定義を説明できる。
・予防の原則を説明できる。
・プライマリケアとヘルスプロモーションの考え方を対比的に説明できる。
・社会集団と健康との関連を概観でき、その基本を説明できる。
・ライフサイクルを概観でき、その意味を具体的に説明できる。
・ライフサイクル別の健康につき、主要な課題と解決の方針を説明できる。

２．疫学・生物統計
・疫学の概念、研究デザイン、諸指標について説明できる。
・基本的な統計解析ができる。
・疾病のリスク要因と予防要因を説明できる。
・根拠に基づく医療（EBM）の考え方を説明できる。

３．医の倫理と法規
・医の倫理と生命倫理に関する規範を説明できる。
・患者の基本的権利を熟知し、これらに関する現状の問題点を説明できる。
・医師の義務と裁量権に関する基本的態度を説明できる。
・適切な説明を行った上で、患者の選択に基づき、主体的な同意を得るために必要な態度、考え方を説明できる。

４．障害者福祉
・身体障害者の置かれた状況を具体的にイメージし、一部をシミュレーションすることができる。
・障害や疾病の分類の考え方を理解し、実例を述べることができる。
・障害とバリアフリーの原則を説明でき、実例を述べることができる。

５．医療法と医療体制
・地域社会とその生活集団の健康について、課題把握の技法を説明し、実施できる。
・保健対策や保健サービスについての基本的な考え方を説明できる。
・地域における保健、福祉、医療の各システムの共通性と個別性を説明できる。

６．社会保障と医療保障
・福祉国家としての社会保障、医療保障、医療福祉の基本的概念を説明できる。
・わが国が抱える社会保障、医療保障、医療福祉の主な課題を説明できる。

７．産業保健
・労働の場における環境や作業様態とは何か、具体的に説明できる。
・職業病の概念、発見方法、コントロール方法につき、主要な考え方を説明できる。
・労働時間や休息・休業の原則を列記し、労働基準の意味を説明できる。
・作業場の安全衛生管理体制と産業医の役割を説明できる。
・作業場の健康管理体制の概要を述べ、特殊健診の意味を説明できる。
・主な有害業務に関して、問題となる有害物の特性、検診の概要、予防の原則を説明できる。
・過重労働対策について説明できる。
・メンタルヘルス対策について説明できる。

８．環境保健
・生活の場である環境と人間の健康との関連を説明できる。

・環境条件の意味や環境の評価方法を説明できる。
・環境災害（公害を含む）及び環境保全について、主要な項目を列挙できる。
・生活環境および、地球環境の評価と維持の原則を説明できる。
・大気水質土壌の汚染に関し、評価の原則と汚染防止の重要な方策を説明できる。
・廃棄物処理の原則を説明できる。

９．食品・栄養と健康
・食中毒の原因菌、原因食品および各原因菌の特徴を説明できる。
・食品に関する衛生上の危害発生の予防および対策を説明できる。
・栄養状態の評価の原則を説明できる。
・国民栄養の現状について、概要を説明できる。

10．母子保健
・妊婦と胎児の健康を維持するためのシステムについて、概要・現状・課題を説明できる。
・乳幼児と母親の健康を維持するためのシステムについて、概要・現状・課題を説明できる。

11．学校保健
・学校医の職務、健康診断、学校における予防すべき感染症について説明できる。
・生涯を通じた健康づくりの観点から、学校保健の重要性と医師としての関わりの必要性を説明できる。

12．成人保健
・国民健康づくり対策の目標と基本方針を説明できる。
・主要な生活習慣病の現状と社会的な背景を説明できる。
・主要な生活習慣病の発見と予防および対策を説明できる。
・生活習慣に関連した行動変容の機構を理解し、課題を説明できる。

13．高齢者保健
・高齢化社会の現状や高齢化の課題を説明できる。
・高齢社会を維持するための社会システムの概要を説明できる。
・介護保険の考え方やシステムの概要を説明できる。

14．精神保健
・精神障害者を支える社会のしくみについて説明できる。
・「入院治療中心から地域生活中心へ」という対策の基本方針を理解する。
・精神保健福祉法に基づく入院について説明できる。

15．人口保健統計
・人口静態統計、人口動態統計の概略を説明できる。
・死因別統計の概略を説明できる。
・疾病統計の概要を説明でき、国民生活基礎調査、患者調査などの主要な統計調査を概説できる。

16．地域保健
・保健所の機能を具体的に説明できる。
・地域保健において、保健所と市町村の果たす役割を対比的に説明できる。
・医療圏と医療計画の意味を説明でき、主要な項目を説明できる。
・国の公衆衛生を維持するための法的体系の概要を説明できる。

17．国際保健
・世界における健康格差について説明できる。
・国際機関の役割を理解する。
・二国間協力を理解する。
・世界における保健問題を理解する。

18．感染症対策
・主要な感染症の現状と課題を説明できる。
・検疫、予防接種、感染症サーベイランスを説明できる。
・社会を感染症の脅威から防御するためのシステムの概要を説明できる。

19．公衆衛生学実習
・保健所を代表とする保健／医療／福祉に関連した学外の施設では、どのような理念の下に、どのような活動が行われているかを、事例に即して具体的に説明できる。
・学外施設など現場で学んだ事例の理解をもとに、地域の人々の健康増進を実現するため、医師として必要な能力を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉
・要点やキーワードをまとめたプリント、スライドなどを活用した講義により、理解の定着をはかる。
・疫学・生物統計では、年齢調整死亡率、相対危険度、寄与危険度などについて実際に計算し、解答を得る。電卓を必要とするので持参のこと。
・公衆衛生学実習においては、施設の体験／見学／グループワークなどを、テーマに応じて行う。
・公衆衛生学実習で学外に出る場合は、公共の交通機関を利用すること。福岡大学生としての自覚を持って、常識を逸脱した行動は厳につつしむこと。約束の時間や期限などは厳守し、社会から信用される医療人として成長することを期待する。

〈事前事後学習の方法〉
・シラバスに記載されている学習項目について、教科書で事前に予習しておくこと。
・授業後に講義内容および教科書を復習し、理解不足の点については参考書等で調べること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

出席状況、授業態度、期末に行う多項目選択式あるいは論述形式の試験などで評価する。出席状況、授業態度、レポートも評価の対象とし、成績に応じて試験で加点減点を行う。

公衆衛生学実習では、①実習への出席と実習中の態度（50％)、②提出レポートの内容（30％)、③グループ発表の内容（20％)、から達成度を評価し、成績に応じて試験で加点減点を行う。

なお実習時間数の３分の２以上出席しなかった者や、発表会を１日でも無断欠席したものは不合格とする。また実習発表会において、15分過ぎて入室した者を遅刻とし、遅刻者については、別途試験で減点処分を行う。

Ⅵ．教科書

・医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる

Ⅶ．参考書・文献

１．厚生労働統計協会編：図説国民衛生の動向　厚生労働統計協会

２．厚生労働統計協会編：国民衛生の動向　厚生労働統計協会
３．対話からの社会医学・公衆衛生学マイクロレクチャー　http://social-med.blogspot.jp/
その他、必要に応じて授業中に助言する。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	水	1	有馬	B-1	4)～6)	公衆衛生学概論1	健康、公衆衛生、疾病予防、プライマリケア、ヘルスプロモーション、ライフサイクル	講義プリント
2				2	〃	A-1	1)～3)	医の倫理と法規	医療倫理、研究倫理、リスボン宣言、インフォームドコンセント、医療法規、情報セキュリティ、死亡診断書、終末医療、緩和ケア、生命倫理	〃
						B-2	2)			
						B-3	1)			
3		11	水	1	前田	A-5	1)	医療法と医療体制	医療法、医療従事者、多職種連携、医療計画、地域連携	〃
						A-7	1)			
						B-1	7)8)			
4				2	非常勤講師 松田	A-8		地域医療	医師会、医の倫理、生涯教育、医療保険制度	〃
5		18	水	1	前田	B-1	8)	社会保障と医療保障1	医療保険制度、介護保険制度	〃
6				2	非常勤講師 楯林	A-7	1)③	精神保健	精神障害の疫学、精神障害者保健、福祉医療に関する法と対策、精神保健施設、地域精神保健活動、自殺	〃
						B-1	7)③			
7		25	水	1	前田	B-1	8)	社会保障と医療保障2	その他社会保障制度、診療報酬体系、医療経済	〃
8				2	非常勤講師 山田	B-1	8)⑬	障害者福祉	医療福祉制度、健常者と障害者、障害者を支える社会システム、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、障害とQOL、ノーマライゼーション、メディカルサポート、セルフケア、ヘルスプロモーション	〃
9	5	2	水	1	吉村	A-7	1)③	高齢者保健	高齢化社会、高齢者医療確保法、介護保険制度	〃
						B-1	8)③			
10				2	佐藤	B-1	5) 6)④	成人保健	健康日本21、健康増進法、特定健康診査、特定保健指導生活習慣病予防、メタボリックシンドローム	〃
11		9	水	1	全員			実習オリエンテーション	実習の説明、実習書の配布、各施設への連絡の指示	説明
12				2	非常勤講師 宮﨑	A-7	1)	地域保健1	県型保健所の公衆衛生活動	講義プリント
13～14		16	水	1 2	全員			実習オリエンテーション 実習準備	実習施設について調べる	説明
15～18		18	金	終日	〃			〃	実習目的の確認 実習施設への連絡の確認 実習詳細説明 実習に向けての最終確認	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
19	5	23	水	1	吉村	B-1	8)⑫ 9)①	感染症対策	感染症法、予防接種法、検疫法、世界各国およびわが国の主要な感染症の現状と課題、輸入感染症、感染制御	講義 プリント
20				2	〃	D-6	4)(6)②	疫学・生物統計1	呼吸器疾患の疫学・臨床試験、睡眠呼吸障害	〃
21				3	川添	A-7 B-1	1) 7)	母子保健	母子保健法、母体保護法、児童福祉法、女性労働者の保護・子育て支援、少子化対策、児童虐待	〃
22				4	〃	A-7 B-1	1) 7)	学校保健	学校医の職務、学校保健安全法、健康診断、学校感染症、学校精神保健	〃
23		24	木	1	有馬	B-1	8)9)	国際保健 精神保健	精神保健の考え方、精神保健福祉法、国際保健、世界保健機構、二国間協力、世界における保健問題	〃
24				2	非常勤講師 友岡	A-7	1)	地域保健2	保健所活動の実際、対人保健サービス、環境・食品行政、医薬務行政、感染症対策、精神保健福祉	〃
25				3	辻	B-1	4) ①～③	人口保健統計1	人口転換、人口静態統計、人口動態統計、死因統計、平均寿命、健康寿命	〃
26				4	佐藤	B-1	3) 4) ③～⑤	疫学・生物統計2	疫学研究デザイン 疫学とその応用	〃
27		25	金	3	辻	B-1	6) ③④	産業保健	労働安全衛生法、産業医、労働衛生の３管理、過重労働対策、メンタルヘルス対策、労働災害、産業中毒	〃
28				4	非常勤講師 守山	A-7 B-1 C-5	1)④ 5)⑥ 7)④ 8)	公衆衛生学概論2	プライマリーケア、ヘルスプロモーション、行動変容と意識変容	〃
29～32		30	水	終日	公衆衛生学実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習
33～36		31	木	終日	〃			〃	〃	〃
37	6	1	金	3	川添	B-1	8)	食品・栄養と健康1	食中毒対策、食品衛生法、食品安全基本法、食品添加物	講義 プリント
38				4	非常勤講師 三浦	F-2 B-1	11)① 5)②	食品・栄養と健康2	食事摂取基準、栄養素、食育、食生活指針、国民健康・栄養調査、栄養疫学	〃
39～42		6	水	終日	公衆衛生学実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
43～46	6	7	木	終日	公衆衛生学実習			保健所実習 各施設実習	フィールド体験、施設体験を基にした社会医学的観察と分析	現場での取材 事例観察 野外実習
47～50		8	金	終日	全員			実習まとめ ポートフォリオ作成	体験記録の整理、要点の抽出、データの見直し、作図作表、ポートフォリオ作成	グループワーク
51～53		13	水	1～3	〃			〃	〃	〃
54～57		14	木	終日	〃			実習発表会	自グループの知見のまとめと発表、他のグループの発表との比較検討	グループ別発表 全体討論
58～61		15	金	終日	〃			〃	〃	〃
62		22	金	3	辻	B-1	6）③	環境保健１	環境の意味、食物連鎖、生物濃縮、公害、地球環境問題、大気汚染、水質汚濁、廃棄物処理、シックハウス症候群	講義 プリント
63				4	非常勤講師 神田	E-6 B-1	4)② 5)⑥	環境保健２	健康に影響を及ぼす環境因子、原子力災害、健康危機管理	〃
64		29	金	3	佐藤	B-1	3) 4) ③～⑤	疫学・生物統計３	EBMの実践	〃
65				4	非常勤講師 早川	B-1	6)7)	人口保健統計２	健康指標、疾病統計、地域診断、社会格差、健康格差、保健指導	〃
66	7	6	金	3	有馬	B-1	4)	疫学・生物統計４	スクリーニング	〃
67				4	〃	B-1	3)4)	疫学・生物統計５	脳卒中の疫学、臨床試験	〃
	9	21	金	3	（予備）					
				4	〃					
		28	金	3	〃					
				4	〃					
	11	14	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨床医学入門Ⅱ

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰
内分泌・糖尿病内科学	教　授	柳瀬敏彦
心臓・血管内科学	教　授	三浦伸一郎（科目責任者）
内視鏡部	准教授	竹田津英稔
呼吸器内科学	教　授	藤田昌樹
腎臓・膠原病内科学	准教授	升谷耕介
神経内科学	教　授	坪井義夫
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	助　教	諸鹿俊彦
産科婦人科学	教　授	宮本新吾
救命救急医学	教　授	石倉宏恭
医学教育推進講座	教　授	安元佐和（副責任者）
小児科	准教授	井上貴仁（西新病院）
臨床検査医学	准教授	大久保久美子
総合周産期母子医療センター	講　師	村田将春
東洋医学診療部	助　教	久保田正樹
看護部	教育担当師長	山﨑智美

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．臨床医学とは何か、どのように発展してきたか、解剖学、病理学など基礎医学の分化と対比し考察する。医学の発展がもたらした利点と欠点、社会と医療について理解する。

2．内科系・外科系に共通な基礎的知識を習得する。

3．解剖学、生理学など基礎医学を基本として以下の基本的臨床技能を理解し修得する。

⑴　人間関係の構築

⑵　病歴聴取

⑶　基本的身体診察

⑷　基本的心肺蘇生

⑸　診療録記録

4．臨床検査、病理診断を用いる上での基本的事項を修得する。

5．客観的な評価法としてOSCEの概念を理解する。

6．診療に必要な漢方治療の基本について学ぶ。（漢方医学の基本概念、診察方法、漢方処方の運用）

7．これまで学習してきた遺伝学を臨床的視点から理解することを目標とする。とりわけ家系図の書き方については、ここで習得することが望まれる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

⑴　これから始まる臨床医学の授業の意味を理解できる。

⑵　これからの医師のあり方について意見を述べることができる。

⑶　内科的診察手技について理解できる。

⑷　外科の歴史的背景について説明できる。

⑸　無菌法、手術手技、麻酔法の基本的処置を理解できる。

⑹　あいさつ、患者と上手にコミュニケーションをとることができる。

⑺　模擬患者から簡単な病歴を順序よく簡潔明瞭にとることができる。

⑻　Ｍ２で学んだ解剖学・生理学を基礎に身体診察を行い、その所見を解釈することができる。

⑼　⑺、⑻で得た情報を診療録に記載することができる。

⑽　プロブレムオリエンティドシステムを理解した上でプロブレムリストを作成することができる。

⑾　臨床検査を実施する目的と、基準範囲の意味を述べることができる。

⑿　特に、貧血、胸痛、黄疸、呼吸器疾患、不随意運動、運動麻痺の症状を理解し、病歴聴取・記録ができ、基本的診察技術を理解できる。

⒀　漢方医学の特徴・基本概念を説明できる。（陰陽・虚実、表裏・寒熱、漢方における病期、気血水を理解し、基本的な処方を運用できる。）

⒁　身体の動きを指標とした経絡・経穴システムについて学び、どのような領域に対応が可能かを知る。また、自分で経絡・経穴選択が出来る。

⒂　家系図が書ける、遺伝形式が理解できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

⑴　医療面接の概念、患者とのコミュニケーションのとり方をビデオや講義で学習する。

⑵　Ｍ２で学んだ解剖学、生理学を基礎にした身体診察方法、記録の仕方をビデオ、学生同士による実習で学習する。

⑶　学生代表が、簡単な分かりやすい病歴を持った模擬患者から病歴聴取を行い、診療録（プロブレムオリエンティドシステム）を記載する。

⑷　客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）をビデオ、講義で解説する。

⑸　持参するもの：聴診器、ペンライト。看護実習・BSL 実習時は、ケーシー白衣、黒スラックス、黒の無地スニーカー。

⑹　医師にふさわしいみなりに整える。

⑺　東洋医学、臨床遺伝学講義はスライド（配布資料）を使用して行う。

⑻　福岡大学医学部編「診断学テキストブック」を事前に読み、次回の講義の予習をすること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

レポート（臨床遺伝学、看護実習　他)、出席状況、授業態度など総合的に判断する。

Ⅵ．教科書

・福岡大学医学部編：診断学テキストブック

・河合　忠、屋形　稔、伊藤喜久、山田俊幸　編：異常値の出るメカニズム　第６版　医学書院

・高木　康、山田俊幸　編：標準臨床検査医学　第４版　医学書院

Ⅶ. 参考書・文献

・日本東洋医学会学術教育委員会編：学生のための漢方医学テキスト　南江堂　2007

・福嶋義光訳：トンプソン＆トンプソン遺伝医学　メディカル・サイエンス・インターナショナル　第2版　2009

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	水	3	井上	E-1	1)	臨床遺伝学	遺伝カウンセリング、常染色体優性遺伝、劣性遺伝、X連鎖優性遺伝、X連鎖劣性遺伝	講義
2				4	〃	E-1	1)	〃	発症前診断、保因者診断、トリプレットリピート病	〃
3		11	水	3	大久保	E-1	1)	〃	遺伝学的検査、ファーマコゲノミクス	〃
4				4	村田	C-4	1)	〃	家系図の書き方、出生前診断、再発率の計算	〃
5		18	水	3	安元	A-1	1)～3)	臨床医学の学び方 行動科学	医療コミュニケーション、デモンストレーション、人の行動と心理	講義・演習
						C-5	1)～8)			
6				4	柳瀬 三浦	D-12	3)	身体診察、医療面接(1) 身体診察、医療面接(2)	胸痛、症状からみた診断学、胸部(心臓)診察／実習、胸部病歴聴取・記録 内分泌症候に基づく診断学	〃
						F-3	2)5)6)			
7		25	水	3	村田・井上 大久保	E-1	1)	臨床遺伝学	ロールプレイ(実習)	実習
				4	(予備)					
8	5	2	水	3	石倉 坪井	F-3	6)	救急患者の初期診療 身体診察、医療面接(3)	救急医療、集中治療管理、災害医療、重症病態 不随意運動、症状からみた診断学、運動麻痺、病歴聴取・記録	実習
						D-2	3) (1)			
						F-1	34)			
9				4	諸鹿 藤田	F-3	6)	手術手技、消毒 身体診察、医療面接(4)	切開法、止血法、縫合法、消毒・滅菌 呼吸器症状にもとづく診断学	〃
						F-1	13)～15)			
						F-3	2)4)5)			
10		9	水	3	升谷 宮本	D-8	4) (2) ①②	身体診察、医療面接(5) 産婦人科診療	症状からみた腎臓の診断学 産婦人科診療の特殊性、個の医療と種の医療、内診、生殖臓器	〃
						D-9	1)2)			
11				4	竹田津 髙松	F-1	20)24)	身体診察、医療面接(6) 身体診察、医療面接(7)	腹痛、黄疸、症状からみた診断学、腹部診察、腹部病歴聴取・記録 貧血、リンパ節腫脹、肝脾腫、症状からみた診断学、診察／実習、病歴聴取・記録	〃
						F-3	5) (5)			
						D-1	1)② 4) (2)			
						F-1	2)			
						F-3	1)			
12		16	水	3	久保田	F-2	8)⑬	漢方入門	漢方的診察法(四診)、恒常性の回復(陰陽の調和)	〃
				4	(予備)					

第３学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
13	7	17	火	3	安元・山﨑	A-4	1)2)	患者対応実習(1)	コミュニケーション、医療人としての態度、患者・家族理解	オリエンテーション
14				4	看護部	A-4 F-2	1)2) 11)	患者対応実習(2)	人間関係、患者・家族対応、プライバシーの保護、感染の予防、生活行動の援助	実習
15		18	水	1	〃	A-4 F-2	1)2) 11)	患者対応実習(3)	〃	〃
16				2	〃	A-4 F-2	1)2) 11)	患者対応実習(4)	〃	〃
17				3	〃	A-4 F-2	1)2) 11)	患者対応実習(5)	レポート作成・発表準備	〃
18				4	〃	A-4 F-2	1)2) 11)	患者対応実習(6)	発表	全体討議
				5	(予備)					

臨床医学入門Ⅱ（地域医療体験・BSL 実習）

Ⅰ．担当教員名

心臓・血管内科学	教　授	三　浦　伸一郎（科目責任者）
医学教育推進講座	教　授	安　元　佐　和（副責任者・実務責任者）
	准教授	八　尋　英　二
	講　師	田　中　　崇
総合医学研究センター	教　授	出　石　宗　仁
再生・移植医学	教　授	小　玉　正　太（主担任）
〃	講　師	吉　松　軍　平（副担任）
産科婦人科学	教　授	宮　本　新　吾（主副担任）
細胞生物学	准教授	上　原　清　子（副担任）
生　理　学	講　師	内　田　俊　毅（　〃　）
生　化　学	講　師	白　須　直　人（　〃　）
薬　理　学	講　師	田　頭　秀　章（　〃　）
病　理　学	講　師	青　木　光希子（　〃　）
微生物・免疫学	講　師	石　井　一　成（　〃　）
法　医　学	講　師	原　　健　二（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．第一線の地域医療機関における実習を通じて、医師のプロフェッショナリズムを理解する。
2．医師としての基本的態度を身につける。
3．患者―医師関係について理解する。
4．臨床実習前に身につけておくべき自己の課題を明確にする。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　指導医と行動をともにしながら患者の心理や立場を理解できる。
⑵　指導医の医療に対する哲学や信念を感じ取ることができる。
⑶　地域医療の現状と課題について説明できる。
⑷　医師としての必要な態度について説明できる。
⑸　医療チームを構成する職種を知り、各々の役割を説明できる。
⑹　BSL でのクリニカルクラークシップを理解し、臨床実習前に身につけておくべき自己目標を設定できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　実習は小グループに分かれて学外の受け入れ医療機関で行う。
⑵　実習では時間を厳守し、服装・身だしなみを正し、福大医学生としての品位を保つ。
⑶　実習先への移動には公共交通機関を利用する。やむを得ず自家用車を利用する場合は、実習先の許可を得て、自動車保険（任意）に加入していることを確認した上で利用する。
⑷　実習でポートフォリオを作成し、体験したことをグループ毎に PowerPoint を使用して発表する。

⑸　実習受け入れ医療機関の場所や、行われている医療の特徴を事前に調べ、何を見学したいのかを考えて参加する。（実習の医療機関は５月下旬までに決定し、各自に知らせる。）

⑹　実習での体験をもとに、自己の将来像の設定に役立てる。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

⑴　ポートフォリオと発表をもとに、目標の達成度を評価する。

⑵　提出されたポートフォリオで自己のふり返りを行い、実習先医療機関の指導医及び教員が評価する。

実習上の諸注意

１．実習態度

１）病院は、患者の療養、生活の場であることを理解して行動する。

２）医学科の学生であることを自覚し、節度ある謙虚で真摯な態度をとる。

３）５分前行動を厳守する。

４）欠席、遅刻はしない。（欠席・遅刻する場合は、医学部事務課に連絡する）

５）実習の開始・終了時は、スタッフに挨拶をする。

６）私語や私的な行動を慎み、学生間では、姓名を呼ぶ。

７）実習で関わる人々に対して、状況に応じた挨拶、言葉遣いを心がける。

８）病院内の移動は、原則として、エレベーターを使用しない。

９）医療器具や患者の物品を破損させたり等、トラブルが発生した際は、すみやかにスタッフに報告する。

２．服装・身だしなみ・携帯品

１）ケーシー白衣・黒のスラックス（スカートやジーンズ、足首が見える丈のものは禁止）・名札を着用する。

２）白の無地のＴシャツ（色柄禁止）を着用し、ケーシー白衣はアイロンをかけ、しわのないようにする。

３）靴は清潔で音の出ない黒の無地のスニーカー（ハイカット・サンダル・クロックス・革靴禁止）を選ぶ。

４）髪型、髪の色などにも配慮し、長髪は束ねる。（茶髪禁止）

５）化粧は華美にしない。（つけまつげ禁止）

６）爪は切り、ネイルマニキュアはしない。

７）指輪、アクセサリーはつけない。

８）香水・整髪料など匂いの強いものは避ける。

９）ヒゲはきちんと剃る。

３．個人情報の取り扱い

１）患者に関する個人情報・実習中に知り得た情報は一切口外しない。

２）実習中にとったメモなどは、置き忘れや紛失がないようにする。（患者情報はメモをとらない）

４．その他

１）病院内では、携帯電話は使用しない。病棟内に持ち込まない。

２）病院内・敷地内では、全ての場所で禁煙を厳守する。

３）規則正しい食生活と十分な睡眠を心がけ体調を整える。
体調不良時は、すみやかに報告する。

４）ロッカーの借用については、前日までに医学部事務課で手続きを行うこと。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	場所
1	6	7	木	5	安元・八尋 田中・出石	A-1 A-5 G-4	3)	オリエンテーション	基礎第２講義室
2	7	9	月	1	〃	〃	〃	〃	〃
3				2	〃	〃	〃	事前準備 (受け入れ施設との連絡等)	〃
4				3	〃	〃	〃	事前準備	
5				4	〃	〃	〃	〃	
6				5	〃	〃	〃	〃	
7		10	火	1	学外施設 指導医	〃	〃	地域医療体験	学外施設
8				2	〃	〃	〃	〃	〃
9				3	〃	〃	〃	〃	〃
10				4	〃	〃	〃	〃	〃
11				5	〃	〃	〃	〃	〃
12		11	水	1	〃	〃	〃	〃	〃
13				2	〃	〃	〃	〃	〃
14				3	〃	〃	〃	〃	〃
15				4	〃	〃	〃	〃	〃
16				5	〃	〃	〃	〃	〃
17		12	木	1	〃	〃	〃	〃	〃
18				2	〃	〃	〃	〃	〃
19				3	〃	〃	〃	〃	〃
20				4	〃	〃	〃	〃	〃
21				5	〃	〃	〃	〃	〃
22		13	金	1	担当教員全員 学年全担任	〃	〃	ポートフォリオ完成・発表準備	基礎第２講義室
23				2	〃	〃	〃	〃	〃
24				3	〃	〃	〃	〃	〃
25				4	〃	〃	〃	〃	〃
26				5	〃	〃	〃	〃	〃
27		17	火	1	〃	〃	〃	発表と質疑応答	〃
28				2	〃	〃	〃	〃	〃
29		19	木	1	安元・八尋 田中・出石	G-1	1)	BSL体験	各病棟
30				2	〃	〃	〃	〃	〃
31				3	〃	〃	〃	〃	〃
32				4	〃	〃	〃	〃	〃
33				5	〃	〃	〃	〃	〃
34		20	金	1	〃	〃	〃	BSL体験発表準備	基礎第２講義室
35				2	〃	〃	〃	BSL体験発表	〃

内分泌・代謝病学

Ⅰ．担当教員名

内分泌・糖尿病内科学	教　　授	柳　瀬　敏　彦	（科目責任者）
	准　教　授	野見山　　崇	（副責任者）
	講　　師	田　邉　真紀人	
	助　　教	元　永　綾　子	
	〃	濵之上　暢　也	
	非常勤講師	桶　田　俊　光	（赤坂おけだ糖尿病内科院長）
	〃	明　比　祐　子	
臨床検査医学	教　　授	松　永　　彰	
泌尿器科学	講　　師	入　江　慎一郎	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講　　師	早稲田　龍　一	
脳神経外科	非常勤講師	勝　田　俊　郎	（済生会唐津病院部長）
内分泌・糖尿病内科	教　　授	小　林　邦　久	（筑紫病院）
	講　　師	阿　部　一　朗	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

内分泌、代謝系の正常な構成と機能を理解し、主要な内分泌、代謝疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

〈内分泌疾患〉

１．内分泌総論

１）ホルモンの定義、基本的構造を説明できる。

２）各内分泌器官の位置を図示し、分泌されるホルモンを列挙できる。

３）ホルモンの作用機序と分泌調節機構を説明できる。

２．視床下部・下垂体疾患

１）視床下部・下垂体の形態と視床下部・下垂体門脈系の構造を説明できる。

２）前葉ホルモンおよび後葉ホルモンの分泌調節、作用、標的臓器の機能制御を説明できる。

３）視床下部、下垂体の画像検査の意義と適応を述べ、結果を解釈できる。

４）Cushing 病の原因、病態生理症候、診断と治療が説明できる。

５）先端巨大症の原因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

６）高プロラクチン血症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

７）汎下垂体機能低下症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

８）尿崩症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

９）ADH 不適切分泌症候群の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

10）下垂体腫瘍を分類し、その特徴を説明できる。

11）視床下部・下垂体疾患の外科的療法、適応と合併症を説明できる。

３．甲状腺疾患

１）甲状腺の形態、ホルモン合成と分泌調節を説明できる。

２）甲状腺ホルモンの作用と身体所見との関連を説明できる。

３）甲状腺機能のスクリーニング検査を説明できる。

４）甲状腺機能亢進症の病因を列挙し、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

５）甲状腺機能低下症の病因を列挙し、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

６）甲状腺炎（急性・亜急性・慢性）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

７）甲状腺腫瘍を分類し、その特徴を説明できる。

８）甲状腺疾患の外科的治療の適応と合併症を説明できる。

４．副甲状腺疾患

１）副甲状腺の構造、副甲状腺ホルモンの作用を説明できる。

２）ビタミンＤの作用、活性化機構を説明できる。

３）カルシトニンを説明できる。

４）カルシウム代謝を説明できる。

５）カルシウム調節に関する検査を説明できる。

６）副甲状腺機能亢進症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

７）副甲状腺機能低下症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

５．副腎皮質・髄質疾患

１）副腎の構造を図示し、副腎皮質ホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。

２）カテコラミンの合成、代謝経路と作用を説明できる。

３）副腎皮質機能検査を概説できる。

４）副腎皮質の画像検査の意義と適応を述べ、結果を解釈できる。

５）副腎不全（急性・慢性）の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

６）カルチノイド、異所性ホルモン産生腫瘍の病態を説明できる。

７）Cushing 症候群の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

８）アルドステロン過剰症（原発性・続発性）の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

９）褐色細胞腫の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

10）多発性内分泌腺腫症の概念、分類、診断と治療を説明できる。

11）副腎腫瘍の外科的治療の適応、術前・術後管理、合併症を説明できる。

〈代謝疾患〉

１．糖代謝異常

１）膵島の形態と機能を説明できる。

２）インスリン分泌調節、糖代謝を説明できる。

３）糖尿病の病因、病態生理、分類、診断基準と症候を説明できる。

４）糖尿病の合併症を列挙できる。

５）糖尿病の急性代謝失調を説明できる。

６）糖尿病性細小血管合併症の病態生理、病期分類、診断と治療を説明できる。

７）糖尿病の大血管障害の病態生理、診断と治療を説明できる。

８）糖尿病の食事療法と運動療法を説明できる。
９）糖尿病の薬物治療を説明できる。
10）糖尿病と移植医療を説明できる。
11）低血糖症の病因、症候、診断と治療を説明できる。

２．脂質代謝異常
１）脂質の構造と機能を説明できる。
２）リポ蛋白の構造と代謝を説明できる。
３）動脈硬化の病態生理と合併症を説明できる。
４）原発性高脂血症の分類を説明できる。
５）二次性高脂血症の病因を列挙できる。
６）高コレステロール血症の予防と治療を説明できる。
７）高中性脂肪血症の予防と治療を説明できる。

３．肥満、核酸代謝異常
１）肥満症の分類と治療を説明できる。
２）核酸の代謝を説明できる。
３）高尿酸血症の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。

４．ビタミン
ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉
講義：内分泌、代謝の各分野について内科、外科系統合講義を行う。
症例検討：グループで検討した症例につき、発表・解説する。
自習：内分泌、代謝疾患についてテーマに従い自習する。
〈事前事後学習の方法〉
自習：テーマに従い教科書等により事前学習する。また講義プリントを事後学習する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

筆記試験。授業態度、講義出席状況も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

講義プリントを冊子として配布予定

Ⅶ．**参考書・文献**

・矢﨑義雄　総編集：内科学　第10版　朝倉書店
・日本糖尿病学会編：糖尿病治療ガイド　2014～2015　文光堂
・高倉公明他　編集：図説脳神経外科学　New Approach 間脳・下垂体【機能・解剖・手術】
・寺本民生、片山茂裕　編集：講義録　内分泌・代謝学　メジカルビュー社
・松田公志・中川昌之・冨田善彦　編集：新 Urologic Surgery シリーズ４　良性腎疾患・副腎・後腹膜の手術　メジカルビュー社

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	21	月	1	松永	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質代謝異常症(1)	血清脂質とリポ蛋白代謝	講義
2				2	〃	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質代謝異常症(2)	脂質異常症の診断	〃
3	6	4	月	1	〃	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質代謝異常症(3)	脂質異常症の治療と症例	〃
4				2	〃	D-12	1)⑨ 4)(6)	脂質代謝異常症(4)	脂質異常症の症例検討	症例検討
5		11	月	1	小林	D-12	4)(5) ①～③ ⑤	糖尿病(1)	糖尿病症例の提示	講義
6				2	松永	D-12	4)(7)② 4)(8)	痛風	核酸代謝異常、痛風 ビタミン欠乏症と過剰症	〃
7		18	月	1	野見山	D-12	4)(5)①	糖尿病(2)	肥満・糖尿病概論	〃
8				2	〃	D-12	4)(5)①	糖尿病(3)	インスリン分泌・糖代謝、糖尿病の概念と分類	〃
9		20	水	1	〃	D-12	4)(5) ④⑤	糖尿病(4)	糖尿病の治療、低血糖	〃
10				2	〃	D-12	4)(5)⑤	糖尿病(5)	糖尿病の症例検討、解説	〃
11				3	濵之上	D-12	4)(5) ②～④	糖尿病(6)	糖尿病合併症(1)	〃
12				4	〃	D-12	4)(5) ②③⑤	糖尿病(7)	糖尿病合併症(2)	〃
13		21	木	1	田邉	D-12	3)(3)①	肥満	肥満症	〃
14				2	〃	D-12	1)2)	内分泌総論(1)	内分泌総論	〃
15				3	〃	D12	4)(1)	内分泌総論(2)	視床下部・下垂体総論、下垂体機能検査法	〃
16				4	非常勤講師 桶田	D-12 A-4	4)(5)④ 2)	糖尿病(8)	1型糖尿病とその支援	〃
17		25	月	1	元永	D-12	4)(2)	甲状腺疾患(1)	甲状腺疾患総論、甲状腺機能検査法	〃
18				2	〃	D-12	4)(2)	甲状腺疾患(2)	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、その他の甲状腺疾患、症例検討	講義 症例検討
19		27	水	1	非常勤講師 明比	D-12	4)(3)	副甲状腺疾患(1)	カルシウム代謝とその異常	講義
20				2	〃	D-12	4)(3)	副甲状腺疾患(2)	副甲状腺機能亢進症・低下症	〃
21				3	早稲田	D-12	1)④ 4)(2) 4)(3)	甲状腺・副甲状腺	甲状腺・副甲状腺疾患外科治療・手術	〃
22				4	田邉	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体疾患(1)	前葉機能低下症	〃
23		28	木	1	非常勤講師 勝田	D-12	4)(1) ①②④ ⑥	視床下部・下垂体疾患(2)	視床下部・下垂体周辺疾患の画像診断、外科的治療	〃
24				2	田邉	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体疾患(3)	前葉機能亢進症	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	6	28	木	3	柳瀬	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体疾患(4)	症例検討	症例検討
26				4	小林	B-1	1)	行動科学（肥満糖尿病）	エンパワーメント・行動変化ステージ	講義
	7	4	水	1						自習
				2						〃
27				3	柳瀬	D-12	4)(4)	副腎疾患(1)	副腎疾患総論	講義
28				4	〃	D-12	4)(4)①②	副腎疾患(2)	副腎皮質機能亢進症	〃
29		5	木	1	〃	D-12	4)(4)③	副腎疾患(3)	副腎皮質機能低下症	〃
30				2	入江	D-12 F-2	4)(4)④ 9)(2)	副腎疾患(4)	副腎腫瘍の外科治療	〃
31				3	田邉	D-12	4)(4)④	副腎疾患(5)	性腺疾患	〃
32				4	阿部	D-12	4)(4)④ 4)(9)(10)	副腎疾患(6)	褐色細胞腫、MEN	〃
		23	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

病　理　学　各　論

Ⅰ．担当教員名

病　理　学	教　　授	竹　下　盛　重	（科目責任者）
	〃	鍋　島　一　樹	（副責任者）
	准　教　授	上　杉　憲　子	
	〃	二　村　　聡	
	〃	濵　﨑　　慎	（病院病理部）
	講　　師	濵　田　義　浩	
	〃	原　岡　誠　司	（筑紫病院）
	〃	青　木　光希子	
	〃	古　賀　佳　織	
	〃	林　　博　之	
	助　　教	中　島　裕　康	
総合医学研究センター	教　　授	渡　辺　憲太朗	
腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰	
心臓・血管内科学	教　　授	三　浦　伸一郎	
消化器内科	准　教　授	竹　山　康　章	
腎臓・膠原病内科学	准　教　授	升　谷　耕　介	
泌尿器科	准　教　授	石　井　　龍	（筑紫病院）
消化器外科	助　　教	橋　本　恭　弘	
産婦人科	助　　教	伊　東　智　宏	
神経内科学	教　　授	坪　井　義　夫	
	非常勤講師	加　藤　誠　也	（済生会福岡総合病院病理診断科主任部長）
	〃	戸　田　修　二	（佐賀大学医学部臨床病態病理学教授）
	〃	秋　山　　太	（公益財団法人がん研究会有明病院病理部臨床病理担当部長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

今までに学んだ解剖、正常細胞組織、生理、生化学、薬理等を基本として、各臓器の形態、機能を再度十分に説明できる。病理学総論で学習した病気の概要（染色体異常、遺伝性疾患、代謝障害、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、再生、修復、腫瘍）を、各臓器に置き換え、疾患をより深く説明できる。主要疾患に関しては、肉眼的、組織学的特徴を把握できる。各疾患の臨床像、検査データ、病理像の整合を行い、病気を幅広く説明できる。

講義項目

1　骨髄、血液の病理
2　リンパ節の病理
3　脾、胸腺、網内系の病理
4　心臓血管系の病理
5　呼吸器の病理
6　唾液腺、口腔の病理
7　食道、胃の病理
8　腸管・肛門（管）の病理

9　肝臓の病理
10　胆道系の病理
11　膵臓の病理
12　腎臓及び尿路系の病理
13　男性生殖器の病理
14　女性生殖器の病理
15　乳腺の病理
16　脳、神経の病理
17　内分泌系臓器（脳下垂体、甲状腺、副甲状腺及び副腎）の病理
18　皮膚の病理

各臓器の始めに、臨床科医より主な疾患の説明、疾患の統計的趨勢や話題の疾患等の説明がなされる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

1）造血器、リンパ系組織の病理

1．骨髄、リンパ節、脾、胸腺の肉眼及び組織学的特徴を述べることができる。
2．構成細胞の形態、機能を説明できる。
3．主要造血器疾患における病態と骨髄形態を述べることができる。
4．リンパ節炎の主なものについて組織像がわかる。肉芽腫性炎を説明できる。
5．悪性リンパ腫及び類似疾患を理解し、主な組織学的特徴を説明できる。
　特にホジキン・非ホジキン（B、T 細胞性）リンパ腫の違い、成人 T 細胞性白血病 / リンパ腫（ATL/L）を説明できる。
6．胸腺リンパ球系腫瘍について述べることができる。
7．脾腫の原因となる疾患とその組織像を説明できる。

2）心臓血管系の病理

1．心臓・血管の解剖学を説明できる。
2．心奇形の肉眼的変化と病態を説明できる。
3．心不全の概念とその形態変化、他臓器との関連性を説明できる。
4．心筋炎、心内膜炎等の形態と病的概念を説明できる。
5．冠動脈硬化症及び心筋梗塞、狭心症など虚血性心疾患の成因と形態を説明できる。
6．動脈硬化症の成り立ちやその部位的特徴、およびその組織像を理解し、その危険因子また致死的循環器疾患との因果関係を説明できる。

3）呼吸器の病理

1．肺の組織を理解し、病変の主座となる部位を説明できる。
2．死因に結びつく肺病変を説明できる。
3．肺硝子膜症、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症等肺に特有な病変の概念を説明できる。
4．特徴的肺感染症の組織診断ができる。
5．代表的肺癌の組織診断ができ、治療、予後を述べることができる。
6．縦隔腫瘍、嚢胞性疾患を説明できる。

4）頭頸部疾患・消化管の病理

1．口腔内病変、鼻腔、咽頭領域の腫瘍性病変について大まかに説明できる。また、シェーグレン症候群の組織像を説明できる。
2．消化管疾患を各種病態（発生および機能異常、循環障害、炎症、腫瘍）ごとに体系的に説明できる。
3．各疾患の基本的な肉眼的、組織学的異常を症状や画像所見等と対比させながら大まかに説明できる。

４．病因については、現在考えられている見解を、比較的明らかであるものとそうでないものとに分けて把握し、各疾患を正しく説明できる。
５．手術標本の病理診断で広く使用されている分類（早期癌、進行癌、ポリープ、消化性潰瘍）についても必要最小限の項目を説明できる。
６．各疾患の病理学的定義ならびに特徴的な所見を正確に説明できる。

５）肝、胆、膵系の病理
１．黄疸の発生機序と肝疾患との関係を説明できる。
２．門脈圧亢進症の出現機序とその傷害を説明できる。
３．ウィルス性肝炎（A 型、B 型、C 型）の感染経路、発症機序及び肝硬変、肝癌との関係を説明できる。
４．胆石症の種類や胆嚢炎との関係を説明できる。
５．胆嚢癌、胆管癌、膵癌の発生部位による臨床症状の特徴を説明できる。
６．膵炎の形態や種類とその成り立ち及び臨床的意義を説明できる。
７．ラ氏島の病理と糖尿病の種類、インスリン、糖代謝異常について説明できる。

６）腎、泌尿器系の病理
１．腎不全の種類、発生機序及びその形態を説明できる。
２．各種原発性糸球体腎炎の発生機序とその分類や二次性腎炎との区別を説明できる。
３．糖尿病、アミロイド症など代謝性疾患の腎の病理を説明できる。
４．腎盂腎炎の病理を説明できる。
５．腎、膀胱腫瘍の特徴を説明できる。

７）生殖器の病理
１．精巣腫瘍の臨床・病理所見および予後について説明できる。
２．前立腺肥大、前立腺癌の臨床病理像および Gleason 分類について説明できる。
３．子宮頸癌、体癌、異形成および子宮内膜増殖症の病因、病理像および臨床像を説明できる。
４．卵巣腫瘍の主なものの頻度、病理像および臨床像について説明できる。
５．妊娠に関係する臓器変化について説明できる。
６．乳腺の良性病変および腫瘍、とくに乳癌の病理学的特徴と臨床像について説明できる。
７．主要な性器疾患の病理組織診断ができる。

８）脳、神経の病理
１．神経細胞、グリア細胞の役割と、その相互機能を説明できる。
２．脳の炎症性疾患とその特徴。特にウィルス感染や slow virus infection について説明できる。
３．脳出血、脳血栓症、脳梗塞の種類と、各々の原因やその臨床病理所見について説明できる。
４．頭蓋内圧亢進症の原因とその形態的変化（脳ヘルニア）について説明できる。
５．脳腫瘍の種類とその特徴について説明できる。
６．脱髄疾患、脳血管病変、変性疾患の特徴について説明できる。

９）内分泌系臓器の病理
１．下垂体ホルモンと各標的臓器及び feedback 機構を理解し、その障害時の臨床・病理的意義を説明できる。
２．副腎皮質ホルモンの種類とその機能亢進または低下により起こる疾患を説明できる。
３．下垂体及び副腎の腫瘍を整理し、その特徴を説明できる。
４．甲状腺機能亢進または低下症における甲状腺の形態的変化を説明できる。

５．甲状腺悪性腫瘍の組織学的分類と進展様式の特徴を説明できる。

10）皮膚科疾患の病理

１．正常構造、病的所見を説明できる。

２．乾癬、天疱瘡、尋常性疣贅、脂漏性角化症を説明できる。

３．Bowen 病、扁平上皮癌、Paget 病、基底細胞癌、悪性黒色腫、菌状息肉症を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

講義：講義資料、指定した教科書、スライドを用いる。

実習：まず正常組織を理解する。代表的病変について実際提示された組織標本を観察し、レポートを提出する。病理組織アトラスを参考にする。最後にチェックを受ける。白衣着用を厳守。着用していない場合、欠席とみなす。実習の出席は、講義の倍として算定する。

各パートの疑問点の解決と実習の復習（11月８日１限目）：学生は各パートの実習で検鏡した標本を復習し理解し説明ができる。また、講義内容に不明な点がある場合は、担当教官に質問を行い理解し説明ができる。

病理に必要な組織学（6月22日）：重要な部位（皮膚、脳、肺、消化管、肝臓、膵臓、腎臓、睾丸卵巣、心血管、内分泌、リンパ節）の組織像、細胞の名称と機能等のテーマ（５、６臓器）を出す。朝9：00にテーマを渡す。学生は各自レポートを作成し、次週月曜日までに提出をする。レポートは点数化する。また、この内容は各論前半の実習試験で設問（２問）する。

院内解剖症例の臨床病理カンファレンス（Clinicopathological conference, CPC）への参加：４月より11月までに毎火曜日、PM ５：30より臨床大講堂横カンファレンス室で行われる CPC に参加する。10～15人を１つの班とする。参加は１回のみで、白衣着用を必須とする。検討疾患概要は、前の週に配布するので予習する。レポート（患者の概要、剖検診断、死因、調べた内容、感想）を記述し、これを次週の木曜日までに病理学教室に提出する。本実習は点数化し各論後半テストに加算する。

指定の教科書、アトラス、参考書及び自らの講義ノートを読み理解を深める。疑問点や不明点が出れば、指定した教科書で調べて、病気のメカニズムを理解する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

出席、筆記試験、実習試験、実習レポート、CPC レポート。実習を重視する。

Ⅵ．教科書

１．ロビンス基礎病理学　2014　丸善出版　９版

２．深山正久　編集：組織病理アトラス　第６版　文光堂　2015（指定アトラス）

Ⅶ．参考書・文献

１．R. ルービン（鈴木利光、他、訳）：ルービン病理学　改訂版　西村書店　2017

２．坂本穆彦　編集：標準病理学　第４版　医学書院（東京）　2010

３．機能を中心とした図説組織学　2009

４．di Fiore 人体組織図譜（原著　第11版）　2011

５．組織病理マップ＆ガイド　2014

６．Rubin’s Pathology　7th ed.　philadelphia　2014

７．Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease　9th ed.　W. B. Saunders Co. Philadelphia　2014

８．General and Systematic Pathology　5th ed.　Churchill Livingstone　Toronto　2009

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	8	火	4	竹下	C-4	1）	老化と疾患	老化に伴う臓器の変化、老年者に特有な疾患	講義
2		11	金	4	髙松	D-1	1）	血液疾患の臨床と病理(1)	治療概念、病態、診断	〃
3		15	火	1	竹下	D-1	1）	造血器疾患(2)	骨髄組織、骨髄微小環境、幹細胞、血球分化	〃
4				2	〃	D-1	1）	白血球系疾患病理(3)	骨髄異形成症候群、白血病、骨髄増殖症候群、多発性骨髄腫	〃
5				3	〃	D-1	1）	赤血球、血小板疾患(4)	貧血、血小板疾患	〃
6				4	竹下・濵﨑	D-1	1）	白血球系疾患病理(5)	骨髄異形成症候群、白血病、骨髄増殖症候群、多発性骨髄腫	実習
7		22	火	1	竹下	D-1	4）(4)	リンパ節、胸腺、脾臓病理(1)	リンパ節、網内系組織の構造と機能、リンパ節炎、悪性(ホジキン、非ホジキン)リンパ腫	講義
8				2	〃	D-1	4）(4)	リンパ節、胸腺、脾臓病理(2)	悪性リンパ腫、免疫異常、脾腫をきたす疾患	〃
9				3	竹下・青木	D-1	4）(4)	リンパ節、胸腺、脾臓病理(3)	実習	実習
10				4	三浦	D-5	4）(1)～(3)	心筋梗塞、狭心症、動脈硬化(1)	心臓・血管病、イベント発症、心臓病リスク	講義
11		25	金	1	上杉	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(2)	先天異常、心肥大	〃
12				2	〃	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(3)	虚血性心疾患、冠状動脈硬化、動脈瘤	〃
13		29	火	1	〃	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(4)	心内膜炎、弁膜疾患、心外膜炎、動脈炎、静脈瘤	〃
14				2	〃	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(5)	糖尿病、脂質・核酸代謝異常症	〃
15				3	上杉・古賀	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(6)	実習(循環器疾患)	実習
16				4	非常勤講師 加藤	D-5	4）(4)～(11)	循環器病学(7)	特別講義(心筋症、心筋炎の病理)	講義
17	6	1	金	1	渡辺	D-6	1）2）	呼吸器病学臨床と病理の接点(1)	経気管支肺生検、外科的肺生検、剖検、咳痰細胞診	〃
18				2	鍋島	D-6	4）(1)～(7)	呼吸器病学(2)	細菌性肺炎、肺結核、肺真菌症、肺気腫、気管支喘息、他	〃
19		5	火	1	〃	D-6	4）(1)～(7)	呼吸器病学(3)	好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎、サルコイドーシス、肺血栓塞栓症、他	〃
20				2	〃	D-6	4）(1)～(7)	呼吸器病学(4)	間質性肺炎(特発性、膠原病、薬剤)、放射線肺臓炎、じん肺	〃
21				3	〃	D-6	4）(1)～(7)	呼吸器病学(5)	肺癌、肺良性腫瘍、胸膜中皮腫	〃
22				4	鍋島 濵﨑・青木	D-6	4）(1)～(7)	呼吸器病学(6)	呼吸器病理実習(1)	実習
23		12	火	1	濵﨑	D-6	4）(8)	縦隔の病理(7)	炎症・嚢胞・腫瘍など	講義
24				2	鍋島・濵﨑	D-6	4）(8)	呼吸器病学＋縦隔(8)	呼吸器病理実習(2)＋縦隔	実習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
25	6	12	火	3	橋本	D-7	1）2）	臨床からみた消化管疾患(1)	消化管癌、内視鏡治療、外科手術治療、薬物療法	講義
26				4	二村	D-7	4）(1)～(3)	頭頸部(甲状腺を除く)・口腔の病理(2)	炎症、良性腫瘍、悪性腫瘍、喫煙・飲酒関連疾患群、多重がん	〃
27		19	火	1	〃	D-7	4）(1)～(3)	上部消化管(食道)の病理(3)	循環障害、炎症・感染症、食道癌	〃
28				2	〃	D-7	4）(1)～(3)	上部消化管(胃)の病理(4)	急性胃炎、慢性胃炎、腺腫、胃癌、カルチノイド腫瘍、GIST、MALTリンパ腫	〃
29				3	原岡	D-7	4）(1)～(3)	下部消化管(腸炎)の病理(5)	虚血性病変、腸結核、Crohn病、潰瘍性大腸炎	講義（ＰＣ教室）
30				4	〃	D-7	4）(1)～(3)	下部消化管(腸腫瘍)の病理(6)	ポリポーシス、腺腫、腺腫症、大腸癌、カルチノイド	〃
		22	金	1					病理に必要な組織学の自習	自習
				2					〃	〃
31		26	火	1	竹下	C-2	2）	病理に必要な組織学の解説		実習
32				2	二村・濵田	D-7	1）①～③	消化管の病理(7)	炎症性腸疾患、消化管原発性腫瘍	〃
33				3	〃	D-7	1）①～③	消化管の病理(8)	〃	〃
34				4	竹山	D-7	1）④～⑦	肝疾患の病因と病態(1)	肝炎ウィルス、アルコール、自己免疫、肝硬変、肝癌	講義
35		29	金	1	濵田	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(2)	急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎の病理	〃
36				2	〃	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(3)	肝硬変、門脈圧亢進症、肝代謝異常、肝腫瘍	〃
37	7	3	火	1	〃	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(4)	胆嚢炎、胆石症、胆管系の形成不全	〃
38				2	〃	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(5)	胆道癌、胆嚢ポリープ、膵炎、膵腫瘍	〃
39				3	濵田・青木	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(6)	実習	実習
40				4	〃	D-7	1）④～⑦	肝、胆、膵疾患の病理(7)	〃	〃
41		6	金	1	竹下・林			まとめ	各パートの実習の総復習	〃
42				2	升谷	D-8	1)～3)	内科からみる腎臓病(1)	症候学、体液・電解質・酸塩基異常、腎不全	講義
	8	24	金	1	中間試験			前半分の試験	試験範囲 5/11血液疾患の臨床と病理(1)～7/3肝胆膵疾患の病理(7)までの内容	
				2	〃			〃		
				3	〃			前半分の実習試験		
				4	〃			〃		
43	9	7	金	1	上杉	D- 8	4）(1)～(6)	腎病理(2)	糸球体腎炎(1次性、２次性)、ネフローゼ、間質性腎炎、腎盂腎炎、膀胱炎、急性・慢性腎不全	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
44	9	7	金	2	上杉	D- 8	4)(1)～(6)	腎病理(3)	糸球体腎炎(1次性、２次性)、ネフローゼ、間質性腎炎、腎盂腎炎、膀胱炎、急性・慢性腎不全	講義
45				3	〃	D- 8	4)(4)	腎病理(4)	〃	〃
46				4	上杉・中島	D- 8	4)(4)	腎病理実習(5)	実習	実習
47		14	金	1	石井	D- 8	4)(7)	腎・尿路および男性生殖器の外科臨床(1)	腎・尿路の先天異常、腎癌、前立腺癌	講義
48				2	林	D- 8	4)(4)(7)～(9)	腎腫瘍、膀胱疾患腫瘍(2)	腎腫瘍、腎盂、尿管腫瘍、膀胱腫瘍	〃
49				3	林・中島	D- 8	4)(4)(7)～(9)	腎腫瘍、膀胱疾患腫瘍(3)	実習	実習
50				4	林	D-9	3)	男性生殖器(1)	男性器の発育異常、不妊症、炎症、精巣腫瘍、前立腺癌と肥大症	講義
51		21	金	1	林・中島	D-9	3)	男性生殖器(2)	実習	実習
52				2	伊東	D-9	1) 2)	産婦人科の臨床病理(1)	子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、婦人科炎症性疾患・感染症	講義
53		28	金	1	竹下	D-9	3)	女性生殖器の病理(外陰、子宮頸部、子宮体部)(2)	外陰・膣の感染症と腫瘍、子宮頸癌、異形成(上皮内腫瘍)、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜過形成	〃
54				2	〃	D-9	3)	女性生殖器の病理(外陰、子宮頸部、子宮体部)(3)	子宮体部腫瘍、絨毛性腫瘍(胞状奇胎、絨毛癌)	〃
55	10	5	金	1	〃	D-9	3)	女性生殖器の病理(絨毛性疾患、卵巣腫瘍)(4)	絨毛性腫瘍(胞状奇胎、絨毛癌)、卵巣腫瘍(漿液性腫瘍、粘液性腫瘍、奇形腫、未分化胚細胞腫瘍、卵黄嚢腫瘍、卵巣間質腫瘍)	〃
56				2	竹下 濵田・濵﨑	D-9	3)	女性生殖器の病理実習(5)	実習	実習
57				3	青木・古賀	D-11	1)～4)	乳腺の病理実習(1)	実習(乳腺症　線維腺腫、乳癌)	〃
58				4	非常勤講師 秋山	D-11	1)～4)	乳腺の病理(2)	特別講義(乳腺の組織のみかた、乳腺症、線維腺腫、乳癌)	講義
59		12	金	1	鍋島	D-2	4)	脳、神経病理(1)	脳組織の見方、感染症、脱髄疾患	〃
60				2	〃	D-2	4)	脳、神経病理(2)	変性疾患、脳血管障害	〃
61				3	青木	D-2	4)	脳、神経病理(3)	脳腫瘍	〃
62				4	坪井	D-2	1)～3)	神経疾患の病態(4)	神経変性疾患	〃
63		19	金	1	鍋島・青木	D-2	4)	脳、神経病理(5)	実習(感染症、脱髄疾患、脳血管病変、変性疾患、脳腫瘍)	実習
64				2	二村	D-12	4)	内分泌疾患(1)	内分泌系臓器の基本構造	講義
65				3	〃	D-12	4)	内分泌疾患(2)	甲状腺疾患、他	〃
66				4	〃	D-12	4)	内分泌疾患(3)	副腎疾患、他	〃
67		26	金	1	〃	D-12	4)	内分泌疾患(4)	まとめ(形態からみる内分泌疾患)	〃
68				2	二村・古賀	D-12	4)	内分泌疾患(5)	実習(主要な内分泌疾患)	実習
69				3	非常勤講師 戸田	D-2	4)(6)	内分泌疾患(6)	特別講義(脂肪代謝と生活習慣病)	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
70	10	26	金	4	古賀	D-3	4）	皮膚疾患(1)	皮膚組織のみかた、炎症性皮膚疾患、皮膚腫瘍	講義
71	11	6	火	1	〃	D-3	4）	皮膚疾患(2)	実習(皮膚組織のみかた、炎症性皮膚疾患、皮膚腫瘍)	実習
72				2	竹下・二村			まとめ	各パートの実習の総復習	〃
		26	月	1	試験			後半分の試験	試験範囲 7/6内科からみる腎臓病(1)～ 11/6皮膚疾患(2)までの内容	
				2	〃			〃		
				3	〃			後半分の実習試験		
				4	〃			〃		

放　射　線　科　学

Ⅰ．担当教員名

放射線医学	教　　授	吉　満　研　吾（科目責任者）
	〃	長　町　茂　樹（放射線部）
	准　教　授	高　野　浩　一
	〃	東　原　秀　行（筑紫病院）
	助　　教	髙　良　真　一
	〃	浦　川　博　史
	〃	赤　井　智　春
	非常勤講師	納　冨　昭　弘（九州大学大学院医学研究院保健学部門准教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1）放射線物理、放射線生物学、放射線診断学（MRI を含む）、IVR（インターベンショナルラジオロジー）、核医学、放射線治療の基礎と臨床応用について理解し、原理、適応、画像所見を説明できる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1）放射線とは何かを理解し、説明できる。
2）放射線の種類、単位、物質との相互作用について理解する。
3）放射線の生物作用の機序、細胞、組織、人体への影響について理解する。
4）放射線防護に関する法令、防護の基本、個人と公衆の被曝防止について理解する。
5）医療における放射線管理について理解し、説明できる。
6）放射線治療の物理学的および生物学的基礎について理解する。
7）核医学検査および RI 内用療法の基礎について理解する。
8）IVR について理解し、説明できる。
9）放射線基礎医学の CT および超音波の原理をさらに詳しく理解し、臨床的応用の実際について説明できる。
10）頭蓋の X 線投影法、その正常および病的像について述べることができる。
11）血管造影の一般的手技を説明し全身の血管造影診断時に腹部血管造影について説明できる。
12）インターベンショナルラジオロジーの原理、手技を説明し、臨床的応用について述べることができる。
13）脳血管の正常像、各種疾患の脳血管造影所見について述べることができる。
14）全身の CT、MRI 診断、特に肝について説明し、動態機能検査の原理について説明できる。
15）頭部の CT、MRI 診断、正常像、および各種疾患について述べることができる。
16）超音波診断法の概要ならびに各種臓器の正常像および各種疾患について説明できる。
17）放射線治療の生物学的基礎、正常および腫瘍組織の放射線感受性について説明できる。
18）放射線治療可能比、放射線治療技術、線量の評価、線量分布について述べることができる。
19）TNM 分類、病期分類、治療成績の評価について述べることができる。

20）頭頸部腫瘍の放射線治療について述べ、ウエッジフィルタ、運動照射、密封小線源の応用について説明できる。
21）中枢神経腫瘍、食道癌、乳癌、肺癌などの放射線治療について述べることができる。
22）悪性リンパ腫、性器癌などについて述べ、特に子宮頸癌の放射線外照射、腔内照射について説明することができる。
23）核医学診断（シンチグラフィおよびPET）とRI内用療法の実際について述べることができる。
24）腫瘍、脳、心臓、骨、内分泌、その他臓器の核医学診断について適応と代表的疾患の画像所見を説明できる。
25）RIインビトロ検査（検体測定）の原理と測定法について説明することができる

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

１）全て講義（初日に独自テキストRadiology2017を配布）
２）指定した教科書の該当項目を事前に読んでおくこと。
３）次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１）出席、授業態度
２）筆記試験

Ⅵ．**教科書**

西谷・遠藤・松井・伊東　編：標準放射線医学　第７版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

上原周三　著：放射線物理学　改訂４版　南山堂
佐々木雅之、桑原康雄：核医学検査技術学　南山堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	27	月	1	非常勤講師 納　冨	E-6		放射線物理学Ⅰ	放射線の種類、電磁波と放射線同位元素、崩壊	講　義
2				2	〃	E-6		放射線物理学Ⅱ	放射線と物質の相互作用、放射線の単位、放射線の測定	〃
3				3	浦　川	F-2 D-4	7） 2）	放射線診断学基礎Ⅰ	超音波診断の原理	〃
4				4	〃	F-2	7）	超音波診断学	超音波診断の実際（腹部）	〃
5		28	火	1	長　町	E-6		放射線生物学Ⅰ	放射線の生物作用	〃
6				2	〃	E-6		放射線生物学Ⅱ	放射線の人体に与える影響	〃
7				3	吉　満	D-4 E-6	2）	総合画像診断Ⅰ	CT, Angio, MRIを中心に	〃
8				4	高　野	D-2	2）	放射線診断学基礎Ⅱ	CR装置および検査、CT装置および検査	〃
9		29	水	1	長　町	E-6		核　医　学	放射線医薬品、装置、脳神経、内分泌、循環器、呼吸器	〃
10				2	〃	D-2 E-6	2）	核　医　学	PET, RI内用療法、RIA	〃
11				3	赤　井	E-6		放射線治療学基礎Ⅰ	生物学的基礎	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	8	29	水	4	赤井	E-6		放射線治療学基礎Ⅱ	物理学的基礎	講義
13		30	木	1	〃	E-6		放射線管理学	関連法令、教育訓練、健康診断、線量制限、被曝管理	〃
14				2	高野	D-2	2)	放射線診断学基礎Ⅲ	MRI診断原理、各疾患のMRI診断	〃
						D-6	2)			
15				3	吉満	E-6		総合画像診断Ⅱ	CT, Angio, MRIを中心に	〃
16				4	髙良	E-6		Angio,IVR Ⅰ	日常診察での留意点	〃
17		31	金	1	東原	E-6		Angio,IVR Ⅱ	IVR装置、IVR総論	〃
18				2	〃	E-6		Angio,IVR Ⅲ	救急、腫瘍の診断と治療	〃
19				3	赤井	E-6		放射線治療学	中枢神経腫瘍、頭頸部腫瘍、小線源療法	〃
20				4	〃	E-6		〃	肺癌、縦隔腫瘍、乳癌、消化器腫瘍、泌尿器腫瘍、婦人科腫瘍、悪性リンパ腫、緩和照射	〃
	9	4	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

呼　吸　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

呼吸器内科学	教　　授	藤　田　昌　樹（科目責任者）
	〃	永　田　忍　彦（筑紫病院）
	准 教 授	石　井　　寛
	講　　師	白　石　素　公（西新病院）
	〃	串　間　尚　子
	〃	松　本　武　格
	非常勤講師	福　山　　聡（九州大学病院呼吸器科講師）
総合医学研究センター	教　　授	渡　辺　憲太朗
衛生・公衆衛生学	准 教 授	吉　村　　力
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　　授	岩　﨑　昭　憲（副責任者）
	講　　師	濵　武　大　輔
	〃	早稲田　龍　一
	助　　教	今　村　奈緒子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

臨床医学における呼吸器病学の意義について理解し、呼吸器病学の基本的事項を系統的に学ぶ。

１）呼吸器疾患の発症要因と臨床像を総合的に習得する。

２）呼吸器疾患の内科的、外科的治療と管理の要点を理解する。

３）呼吸器疾患の疫学、予防について理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１） 呼吸器疾患の症候と病態生理の説明ができる。

２） 呼吸器疾患の胸部Ｘ線写真やCTなどの画像所見の説明ができる。

３） 臨床呼吸生理学の概要を理解し、個々の呼吸器疾患の呼吸機能障害についての説明ができる。

４） 呼吸器疾患の内科的、外科的治療法、救急処置について理解し、適切な対策の説明ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

呼吸器病学の各論をプリント、スライド動画等を用い内科と外科が協力して講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

１）「呼吸器病学2018年」を事前に読み、次回の講義の予習をすること。

２）「呼吸器病学2018年」、講義プリントおよびMoodleにアップロードされた資料を用い呼吸器病学を復習し、各科試験に備える。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

論述試験および客観試験：全ての講義が終了した後に行う論述式と多肢選択方式を組み合わせた試験。

Ⅵ．教科書

①　杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

② 北野正剛・田邉　稔・池田徳彦　編：標準外科学　第14版　医学書院　2015
③ 小川　聡　編：内科学書　第８版　中山書店　2013
④ 門脇　孝・永井良三　編：カラー版　内科学　西村書店　2012
⑤ 高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009
⑥ 金澤一郎・北原光夫・山口　徹・小俣政男　編：内科学　医学書院　2006

Ⅶ. 参考書・文献

① 金澤　實・永田　真・前野敏孝　編：呼吸器病学　丸善出版　2012
② 正岡　昭　著：呼吸器外科学　改訂４版　南山堂　2009
③ 長瀬隆英・永田泰自：図解　呼吸器内科学テキスト　中外医学社　2006
④ 和田洋巳・三嶋理晃　監修：呼吸器病学総合講座　メディカルレビュー社　2004

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	5	水	1	石井	D-6	4)(3)④	間質性肺疾患１	特発性間質性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎	講義
2				2	〃	D-6	4)(3)⑥⑦(5)④	間質性肺疾患２職業性肺疾患	放射線肺臓炎、薬剤性肺炎、じん肺とその関連疾患	〃
3		6	木	3	非常勤講師 福山	D-6	1)④⑤	呼吸機能１	概説、換気機能(スパイロメトリーなど)、肺気量分画	〃
4				4	〃	D-6	1)⑥⑦⑨	呼吸機能２	ガス交換、動脈血ガスと呼吸調節	〃
5		12	水	1	岩崎	D-6	4)(9)①	肺腫瘍１	原発性肺癌	〃
6				2	今村	D-6	4)(9)②③	肺腫瘍２	転移性、良性肺腫瘍と縦隔疾患	〃
7		13	木	3	藤田	D-6	3)	呼吸器病学概論	概説、病歴、症候学	〃
8				4	〃	D-6	2)	検査１	気管支鏡、喀痰、胸水検査、血液生化学免疫学的検査	〃
9		19	水	1	白石素	D-6	4)(3)①③	閉塞性肺疾患１	気管支喘息	〃
10				2	〃	D-6	4)(3)②	閉塞性肺疾患２	慢性閉塞性肺疾患	〃
11		20	木	3	藤田	D-6	4)(9)①	肺癌の集学的治療	肺癌、化学療法、放射線治療	〃
12				4	〃	D-6	4)(9)①	肺癌の支持療法	癌性疼痛、ターミナルケア	〃
13		26	水	1	永田	D-6	4)(5)①③	アレルギー性肺疾患１	アレルギー性疾患の基礎	〃
14				2	〃	D-6	4)(5)①③	アレルギー性肺疾患２	好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎、ABPA、他	〃
15		27	木	3	藤田	D-6	4)(1)①(4)②		呼吸不全、ARDS、心原性肺水腫と非心原性肺水腫	〃
16				4	石井	D6	4)(5)②	肉芽腫性肺疾患	サルコイドーシス、肺好酸球性肉芽腫症、他	〃
17	10	3	水	1	〃	D-6	4)(7)④⑤	肺リンパ脈管筋腫症、他	肺分画症、過誤腫性肺脈管筋腫症、肺胞蛋白症、他	〃
18				2	〃	D-6	4)(3)⑤(7)①	気管支拡張症とその類縁疾患	気管支拡張症、びまん性汎細気管支炎、中葉症候群、他	〃
19		4	木	3	渡辺	D-6	1)①～③	呼吸器の解剖	肺の肉眼的・顕微鏡的解剖	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
20	10	4	木	4	渡辺	B-1	5)⑤	禁煙	喫煙の功罪と禁煙の方法	講義
21		10	水	1	早稲田	D-6	4)(8)④	検査２、手技	胸腔鏡、縦隔鏡、胸腔ドレナージ、レーザー焼灼術、ステント挿入術、術前・術後管理と外科手技	〃
22				2	吉村	D-6	1)⑤ 4)(6)	睡眠調整障害、他	睡眠時無呼吸症候群、低換気、過換気症候群	〃
23		11	木	3	松本	D-6	4)(2) ③④	呼吸器感染症１	肺結核症、非結核性抗酸菌症	〃
24				4	〃	D-6	1)⑩ 4)(2)②	呼吸器感染症２	細菌性肺炎、ガイドライン	〃
25		17	水	1	濵武	D-6	4)(8)① ②④ (9)④	胸膜疾患	気胸、血胸、膿胸、癌性胸膜炎、中皮腫、他	〃
26				2	〃	D-6	4)(8)③ (9)③	頸部、縦隔、横隔膜疾患	頸部気管腫瘍、縦隔腫瘍、横隔膜ヘルニア、胸部外傷、気道異物、他	〃
27		18	木	3	藤田	D-6	2)① 4)(7)②	胸部画像および無気肺	胸部画像および無気肺	〃
28				4	〃	D-6	4)(4) ①③④	肺循環障害	肺性心、肺血栓塞栓症、肺動静脈瘻、肺高血圧症、他	〃
29		25	木	3	串間	D-6	4)(2) ①②	呼吸器感染症３	ウィルス肺炎、非定型肺炎、肺真菌症、寄生虫疾患、他	〃
30				4	〃	D-6	4)(2) ⑤～⑦	呼吸器感染症４	高齢者肺炎と誤嚥性肺炎、膿胸、肺炎球菌ワクチン	〃
	11	19	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

消　化　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

消化器内科学	教　　授	向　坂　彰太郎（科目責任者）
	准教授	釈迦堂　　敏
	〃	竹田津　英　稔（内視鏡部）
	〃	竹　山　康　章
	講　　師	森　原　大　輔
	〃	横　山　圭　二
	助　　教	石　橋　英　樹
	〃	阿　部　光　市
	〃	高　田　和　英
	〃	船　越　禎　広
	〃	久　能　宣　昭
医学教育推進講座	講　　師	田　中　　崇
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑（副責任者）
	准教授	吉　田　陽一郎
	講　　師	吉　村　文　博（手術部）
	助　　教	加　藤　大　祐
	〃	石　井　文　規
	〃	内　藤　滋　俊
	〃	愛　洲　尚　哉
	〃	中　島　　亮
総合医学研究センター	教　　授	安　波　洋　一
病　理　学	准教授	二　村　　聡
消化器内科	教　　授	植　木　敏　晴（筑紫病院）
内視鏡部	教　　授	八　尾　建　史（　〃　）
外　　科	教　　授	前　川　隆　文（　〃　）
	助　　教	小　島　大　望（　〃　）
放射線科	准教授	東　原　秀　行（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．消化器（消化管、肝・胆・膵）の構造と機能を理解する。
2．消化器疾患の病態生理、臨床症状、徴候を理解する。
3．消化器疾患の身体所見、一般検査所見（血液、尿、便）、負荷試験および画像診断（X線、内視鏡、腹部超音波検査など）の知識を身につける。
4．消化器疾患の疾患概念と病理を理解する。
5．消化器疾患の治療法を理解する。

Ⅲ．**コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）**（Competencies)

１．消化器疾患の主要症候の発生機序、病態生理を説明できる。
２．消化管疾患（食道～大腸）におけるＸ線、内視鏡診断を適切に記述できる。
３．食道・胃・大腸疾患の疾患概念と病理を理解し、適切な診断と治療法を説明できる。
４．急性腹症、腸閉塞の適切な診断と治療法を選択できる。
５．腹部領域の先天異常、ヘルニア、肛門疾患の適切な診断と治療法を選択できる。
６．肝臓の生理的機能を理解し、一般検査、生化学検査、腫瘍マーカーの意味を説明できる。
７．急性・慢性肝不全の病態を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。
８．ウィルス性肝炎の発生、進展機序を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。
９．自己免疫性、代謝性機序による肝疾患の病態、診断、治療法を列挙できる。
10．肝・胆・膵疾患における腹部超音波、CT、血管造影、ERCP、MRCP などの画像診断の基本について理解し、主要疾患の鑑別を説明できる。
11．肝・胆・膵領域の主要疾患の疾患概念と病理を理解し、適切な診断と治療法を選択できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

講義
次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

客観試験

Ⅵ．**教科書**

杉本恒明、小俣政男　編：内科学　第11版　朝倉書店
高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院
武藤徹一郎、幕内雅敏　監修：新臨床外科学　第４版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

林　紀夫、日比紀文、坪内博仁　編：標準消化器病学　医学書院
小柳　仁、松野正紀、島津久明　編集：標準外科学　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	5	水	3	竹山	D-7	1)①⑥⑧	肝胆膵の臨床解剖、生理、免疫	構造と機能	講義
2				4	向坂	D-7	1)⑧ 3)①	肝病態生理	ビリルビン、胆汁酸代謝、体質性黄疸	〃
3		6	木	1	釈迦堂	D-7	2)①② 4)⑸①②	肝炎ウイルス、ウイルス性肝炎１	ウイルスとは(形態、特性、増殖)、DNAウイルス、RNAウイルス、肝炎ウイルス、急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、肝炎訴訟	〃
						A-6	3)④ 1)④			
4				2	〃	D-7	4)⑸ ①～③	ウイルス性肝炎２	急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、急性肝不全	〃
5		10	月	1	東原	D-7	1)①②⑥	腹部血管画像診断	腹部画像診断に必要な血管解剖(肝の正常画像、肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌、肝血管腫、IVR)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	9	10	月	2	横山	F-2	7)	肝疾患の診断と治療	超音波検査の肝病変への適応と実際	講義
						D-7	2) ③			
7		12	水	3	向坂	D-7	4) (5) ⑨⑩	免疫異常と肝疾患	自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、肝内胆汁うっ滞	〃
8				4	横山	D-7	4)(1)① (5)④⑤	肝硬変、門脈圧亢進症	病態生理、症候、身体所見、検査所見、診断、治療、Budd-Chiari症候群、肝性脳症、食道静脈瘤、特発性細菌性腹膜炎	〃
9		13	木	1	植木	D-7	1) ⑨ 4)(6)①	急性膵炎	病因、病態生理、診断、治療	〃
10				2	〃	D-7	4)(6)②③ (8)⑪	慢性膵炎、膵嚢胞性疾患	病因、病態生理、診断、治療、嚢胞性膵疾患、膵良性腫瘍	〃
11		19	水	3	安波	E-3	5)⑦	膵内分泌腫瘍	インスリノーマ、グルカゴノーマ、ソマトスタチノーマ、VIPoma（ガストリノーマ）	〃
				4	（予備）					
12		20	木	1	田中	D-7	4)(5) ⑥～⑧ ⑪ 3)(1)	代謝異常による肝疾患等	ヘモクロマトーシス、ウイルソン病、アルコール性肝障害、薬剤性肝障害、肝膿瘍、脂肪肝、肝包虫症、肝嚢胞、肝腫大	講義
13				2	〃	D-7	4)(8)⑨	肝腫瘍	肝腫瘍の病因、疫学、診断、画像診断と内科的治療、肝血管腫、肝内胆管癌、原発性肝癌、転移性肝癌	〃
14		26	水	3	内藤	D-7	4)(8)⑨	肝臓の外科解剖、肝腫瘍の外科的治療	肝臓の脈管と肝区域、肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌の外科的治療	〃
						E-3	2)3)			
15				4	〃	D-7	4) (4) ①～③	良性胆嚢・胆道疾患	胆石症、急性胆嚢炎、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋症、膵管胆道合流異常	〃
						F-1	20)			
16		27	木	1	加藤	D-7	4) (8)⑩	膵癌	膵癌の病態、診断、治療	〃
						E-3				
						F-1	20) 24)			
17				2	〃	D-7	4) (6)	胆膵疾患の内視鏡・画像診断と治療	ERCP、EST、PTBD、PTGBD、EUS、MRCP、DIC-CT	〃
						E-3	2)3)			
						F-1	20) 24)			
18	10	1	月	1	石井	D-7	4) (4)①② (8) ⑧	悪性胆嚢・胆道疾患	胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌	〃
						E-3				
						F-1	20)			
19				2	〃	D-7	2) ①③④ 3)(2) ①	症候・病態1 外科的黄疸	原因と病態、診断と治療	〃
						E-3	2)3)			
						F-1	24)			
		3	水	3	（予備）					

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
20	10	3	水	4	高田	F-1	25)	症候・病態 2 腹部膨隆・腫瘤	腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘤の原因と病態、診断	講義
21		4	木	1	森原	D-7	4)(4)〜(6)	典型症例呈示(肝胆膵) 1	典型症例、臨床問題の解説	〃
22				2	〃	D-7	4)(4)〜(6)	典型症例呈示(肝胆膵) 2	〃	〃
23		10	水	3	竹田津	D-7	1)③〜⑤⑦⑩〜⑫	消化管の臨床解剖、生理、免疫	構造と機能	〃
24				4	〃	D-7 F-2	1)⑩ 11)④	消化吸収障害、蛋白漏出性胃腸症	病因、病態生理、診断治療、吸収不全症候群	〃
		11	木	1	(予備)					
25				2	久能	D-7	4)(1)	食道良性疾患	アカラシア、胃食道逆流症(GERD)、食道炎、食道潰瘍、マロリーワイス症候群、食道裂孔・破裂、Barrett上皮、食道良性腫瘍、食道憩室、食道裂孔ヘルニア	講義
26		15	月	1	石橋	D-7	4)(8)①②	食道悪性疾患	食道癌の疫学、診断、進行度、治療、非上皮性悪性腫瘍	〃
27				2	吉村	D-7 E-3 F-1	1) ③ 4) (8)①② 2) 3) 19)	食道疾患の外科治療	食道癌と非上皮性悪性腫瘍の外科治療	〃
28		17	水	3	石橋	D-7	4) (2)②④⑤⑦	胃良性疾患 1	急性胃炎、慢性胃炎、ピロリ菌、上腸間膜動脈性十二指腸狭窄・閉鎖症、十二指腸憩室、急性胃粘膜病変、胃巨大皺襞症、アニサキス、ディスペプシア	〃
29				4	〃	D-7	4) (2)①	胃良性疾患 2	消化性潰瘍、Z-E症候群、消化管ホルモン、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、カルチノイド、カルチノイド症候群	〃
		18	木	1	(予備)					
30				2	船越	D-7	4) (3)⑰(8)⑥⑦	腸腫瘍 1	小腸腫瘍、大腸ポリープ、大腸癌発癌遺伝子、癌抑制遺伝子、大腸癌の遺伝子異常	講義
31		22	月	1	石橋	D-7	4) (2)③(8)③〜⑤⑫	胃・十二指腸腫瘍	胃良性腫瘍、胃ポリープとその内科的治療、胃癌、胃悪性リンパ腫の診断、内科的治療	〃
32				2	阿部	D-7	4) (3)⑧	腸腫瘍 2	その他の大腸腫瘍、消化管ポリポーシス・遺伝性非ポリポーシス	〃
33		23	火	1	吉村	D-7 E-3 F-1	1) ①③⑦ 4) (2) 2)3) 19) 21) 22)	胃疾患の外科治療	胃十二指腸潰瘍・胃粘膜下腫瘍・胃癌の手術治療と治療成績、術後合併症、胃切除後症候群	〃
34		24	水	3	竹田津	D-7	4)(3)③	腸疾患 1	クローン病、潰瘍性大腸炎の診断、内科的治療、腸結核	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
35	10	24	水	4	竹田津	D-7	4)(3) ⑤～⑦ ⑫⑬	腸疾患 2	感染性腸炎、虚血性腸炎、アミロイドーシス、薬剤起因性腸炎、放射線性腸炎、膠原病に伴う腸疾患、憩室症、過敏性腸症候群、偽膜性腸炎、腸潰瘍、好酸球性腸炎、直腸粘膜脱症候群	講義
36		25	木	1	長谷川	D-7	1) ⑪ 4) (3)	大腸癌の外科治療	ポリポーシス、大腸癌の外科治療	〃
						E-3	1) 2) 4) 5)⑦			
						F-1	20) 21) 22) 23)			
37				2	小島	D-7	1)⑩⑪ 4)(3)③④	炎症性腸疾患の外科治療、直腸肛門疾患	クローン病、潰瘍性大腸炎、痔核、痔瘻、脱肛、肛門癌、肛門周囲潰瘍、裂肛、直腸脱	〃
						F-1	20) 22) 23)			
38		29	月	1	久能	D-7	2)③	消化管造影検査	上部消化管造影、小腸造影、注腸造影検査法、適応、禁忌、前処置、画像診断	〃
39				2	船越	F-2	8)④	消化管疾患に使用される薬剤	鎮痙剤、抗潰瘍薬、抗炎症性腸疾患薬	〃
40		30	火	4	愛洲	D-7	4)(3)① ②⑩ 4)(7)①	急性腹症、腹膜炎、虫垂炎	癌性腹膜炎、横隔膜下・Douglas 窩膿瘍、腹膜偽粘液腫、後腹膜腫瘍、腸管軸捻転症、消化管穿孔、腸間膜動(静)脈血栓症	〃
						F-1	20)23) 22)			
41		31	水	3	中島	D-7	4)(7)①	腹部損傷・異物	腹部外傷、消化管損傷、消化管異物、肝損傷、胆道損傷、膵損傷、脾損傷、後腹膜損傷	〃
						F-1	20)～23)			
42				4	吉田	D-7	4)(3)②	症候・病態 3 イレウス、消化器外科のまとめ	原因と病態、診断、治療	〃
						F-1	20)21) 23)			
43	11	1	木	3	前川	D-7	4) (7)	横隔膜・腹膜・腹壁疾患	横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、尿膜管遺残、臍ヘルニア、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、腹壁瘢痕ヘルニア	〃
44				4	船越	F-2	6)	内視鏡を用いた診断と治療	消化管内視鏡の原理、検査法、画像診断、治療	〃
45		7	水	3	阿部	F-1	3) 21)	症候・病態 4 悪心・嘔吐・食思不振	原因と病態、診断、治療	〃
46				4	〃	F-1	23)	症候・病態 5 便秘・下痢	原因と病態、診断、治療	〃
		30	金	1	中間試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					
47	12	3	月	1	八尾	F-1	22)	症候・病態 6 吐血・下血	原因と病態、診断、治療	講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
48	12	3	月	2	久能	D-7	4) (3)	典型症例呈示（消化管）1	典型症例、臨床問題の解説	講義
49		10	月	1	〃	D-7	4)(1)(2)	典型症例呈示（消化管）2	〃	〃
50				2	二村	D-7	4)(8) ①②	消化管疾患の病理－1	Barrett食道、食道炎、食道癌、急性胃炎と慢性胃炎、A型胃炎と胃カルチノイド腫瘍、消化性潰瘍	〃
51		17	月	1	〃	D-7	4)(8) ③～⑦ (3)	消化管疾患の病理－2	胃癌、肉眼型と組織型、スキルス癌、クルッケンベルグ腫瘍、腹膜播種、消化管リンパ腫、小腸癌（乳頭部癌を除く）、大腸癌、カルチノイド腫瘍、腺腫の癌化	〃
52				2	〃	D-7	4) (3)	消化管疾患の病理－3	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、腸結核、虚血性腸病変、憩室、アミロイド症、過誤腫、分離腫（異所症）、ポリポーシス、急性虫垂炎	〃
	1	18	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

腎 臓 ・ 膠 原 病 学

Ⅰ．担当教員名

腎臓・膠原病内科学	教　　授	中　島　　衡（科目責任者）
	准 教 授	升　谷　耕　介（副責任者）
	〃	三　宅　勝　久
	講　　師	安　野　哲　彦
	〃	伊　藤　建　二
病　理　学	准 教 授	上　杉　憲　子
	非常勤講師	安　部　泰　弘（済生会福岡総合病院腎臓内科）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

腎疾患・膠原病を正しく診断し適切に治療するために、その病態生理、診断と治療の基本について修得し、臨床修練に十分適応できるように知識を深める。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

〈腎疾患〉

1．体内における腎臓の役割を述べ、体内の異常とくに循環器系、内分泌系、免疫系疾患と腎障害を関係づける。

2．原発性・続発性糸球体疾患の病態と診断法、治療法を述べる。

3．尿細管間質障害、間質性腎炎の病態と診断法、治療法を述べる。

4．急性腎不全および慢性腎不全の病態と診断法、治療法、とくに末期腎不全や尿毒症に対する適切な処置、血液浄化療法の重要性を述べる。

5．薬物やその他の化学物質による腎障害の危険性および腎障害時の薬物投与の注意点を述べる。

〈膠原病〉

1．生体防御機構からみた炎症の発症機序を理解する。

2．それぞれの疾患における免疫学的異常を把握し、特異的病態を説明する。

3．代表的な臓器病変である腎炎の組織像を把握し、その病態発生機序を理解する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1．短期集中的な講義が主体であるので、講義に出席してその内容を十分に理解する。

2．腎疾患や膠原病には形態学的診断が不可欠であるので、病理学実習や講義でスライド等により呈示された所見の理解には特に意を用いる。

3．講義や実習の内容は多量で多岐にわたり、講義には多数の専門的医学用語が使われるので、それを正しく修得する。

4．以上の理解のためには、学生間の討論や教官への質問を積極的に行うことを勧める。

5．予習、復習を行う。特にその日の教科内容には放課後必ず目をとおす。

〈事前事後学習の方法〉

・指定した教科書の腎疾患の項目を事前に読んでおくこと。

・次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

１．講義の内容等に関する論述試験と客観試験による。ただし、講義時間には制約があるので、講義で述べられなくとも教科書等に記述されている通常理解が必要な内容は試験の範囲に含まれる。

Ⅵ．**教科書**

内科全体で指定されたものを教科書とする。

１．矢崎義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店　2017

２．高久史麿　他　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009

Ⅶ．**参考書・文献**

１．菱田　明・槙野博史　編：標準腎臓病学　第１版　医学書院　2002

２．日本腎臓学会編集委員会　編：腎臓学入門　改訂第２版　東京医学社　2009

３．日本腎臓学会・腎病理診断標準化委員会、日本腎病理協会　編：腎生検病理アトラス第２版　東京医学社　2010

４．伊藤貞嘉　編：腎疾患のとらえかた　第１版　文光堂　2003

５．下条文武・齋藤　康　監修：ダイナミック・メディシン　６巻　西村書店　2003

６．Brenner B M . ed.：The Kidney　9th ed. Saunders　2012

７．なぜかと問いかける内科学（岸本忠三教授の講義ノート）⑴－⑶　中山書店

８．現代免疫物語　岸本忠三／中嶋　彰　ブルーバックス

９．新現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異　岸本忠三／中嶋　彰　ブルーバックス

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	10	月	3	升谷	D-8	1)①～④	腎疾患総論	腎疾患の重要性、診療の意義と問題点	講義
2				4	〃	D-8	1)⑤～⑧ 3)③④	腎臓の解剖と生理	腎の構造・機能およびその異常、尿量・尿の性状の異常	〃
3		11	火	1	伊藤	D-8	2)①④	主要な検査－１	腎糸球体機能検査、尿細管機能検査	〃
4				2	〃	D-8	2)②③	主要な検査－２	糸球体腎炎の検査、腎の画像診断	〃
5		18	火	1	升谷	D-8	4)(2)①⑤	原発性糸球体疾患－1	急性糸球体腎炎、急速進行性腎炎（ANCA関連腎炎、Goodpasture症候群を含む）	〃
6				2	〃	D-8	4)(2)②④	原発性糸球体疾患－2	慢性糸球体腎炎（IgA腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、膜性腎症）	〃
7		25	火	1	〃	D-8	4)(2)③	原発性糸球体疾患－3	ネフローゼ症候群1	〃
8				2	〃	D-8	4)(2)①③	原発性糸球体疾患－4	ネフローゼ症候群2	〃
9	10	1	月	3	伊藤	D-8	4)(3)	腎血管障害	良性・悪性腎硬化症、腎血管性高血圧症、腎梗塞、腎動脈血栓症、悪性高血圧	〃
10				4	安野	D-8	4)(5)	間質性腎炎	急性・慢性間質性腎炎、鎮痛剤性腎症、急性・慢性腎盂腎炎	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	10	2	火	1	伊藤	D-8	4)(9)① (6)①～③	続発性糸球体疾患-1	糖尿病性腎症、アミロイド腎症、痛風腎、紫斑病性腎炎、骨髄腫腎、悪性腫瘍	講義
12				2	〃	D-8	4)(3)② (6)④⑤	続発性糸球体疾患-2	感染症、肝疾患、血液疾患などによる腎障害、溶血性尿毒症性症候群、妊娠中毒症、腎疾患患者の妊娠	〃
13		9	火	1	安野	D-8	3)(2) 4)(4)②	尿細管間質障害1	腎皮質壊死、腎性糖尿、腎性尿崩症、Fanconi症候群、尿細管性アシドーシス	〃
14				2	〃	D-8	3)(1) 4)(4)①	尿細管間質障害2	Bartter症候群、Gitelman症候群、その他	〃
15		15	月	3	中島	E-4		膠原病各論－1	IgG4関連疾患	〃
16				4	安野	D-8	4)(7)①	遺伝性腎疾患	家族性遺伝性腎炎(Alport症候群、良性家族性血尿)、嚢胞腎	〃
17		16	火	1	上杉	D-8	4)(2)①～③ (6)①～③	腎病理－1	一次性糸球体腎炎、二次性糸球体腎炎、膠原病、糖尿病性糸球体硬化症、アミロイドシス、アルポート症候群、血管炎症候群	〃
18				2	〃	D-8	4)(6)④⑤	腎病理－2	溶血性尿毒症性糸球体硬化症、クリオグロブリン腎症、骨髄腫腎、妊娠中毒症、高血圧性腎硬化症	〃
19		22	月	3	非常勤講師 安部	D-8	4)(1)①	急性腎不全	腎前性、腎性、腎後性、乏尿性、非乏尿性	〃
20				4	〃	D-8	4)(1)②～④	慢性腎不全	保存期、末期、尿毒症、代行期、置換期、高窒素血症	〃
21		23	火	2	中島	E-4	3)(2)①② (4)④	膠原病各論－2	関節リウマチ、シェーグレン症候群他	〃
22		29	月	3	升谷	E-4	3)(1) (3)①②	膠原病各論－3	膠原病の診察と病態/SLE　他	〃
23				4	非常勤講師 安部	D-8	4)(1)⑤⑥	保存期腎不全の治療血液浄化療法	一般療法、食事療法、薬物療法、血液透析、腹膜透析、腎臓移植、血漿交換	〃
24		30	火	1	中島	E-4	3)(2)③	膠原病各論－4	成人スチル病、悪性関節リウマチ他	〃
25				2	三宅	E-4	3)(5)①	膠原病各論－5	血管炎の分類と臨床的意義、大動脈炎症候群、巨細胞動脈炎、結節性多発動脈炎　他	〃
26				3	〃	E-4	3)(5)②③	膠原病各論－6	多発血管炎性肉芽腫症、顕微鏡的多発動脈炎、ベーチェット病他	〃
27	11	1	木	1	升谷	E-4	3)(4)①～③	膠原病各論－7	全身性硬化症、皮膚筋炎/多発筋炎、混合性結合織病　他	〃
28				2	三宅	E-4	3)	膠原病各論－8	課題学習	〃
		16	金	1	試験					〃
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

皮　　膚　　科　　学

Ⅰ．担当教員名

皮膚科学	教　　授	今　福　信　一	（科目責任者）
	講　　師	山　口　和　記	
	〃	柴　山　慶　継	
	〃	内　藤　玲　子	
	助　　教	大　賀　保　範	（副責任者）
	〃	國　見　侑　花	
	非常勤講師	中　村　元　信	（産業医科大学教授）
	〃	名嘉眞　武　国	（久留米大学教授）
	〃	野　口　博　光	（のぐち皮膚科）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

①　皮膚の正常構造と機能を充分に習得し、器官としての皮膚の重要性を認識した上で、皮膚の病態学を履修する。

②　皮膚疾患の診断学・治療学を理解する。

③　内臓疾患と皮膚疾患との関連性など他科領域疾患の病態の理解を通じて皮膚疾患を更に深く理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

①　皮膚科外来での病歴の聴取を正確、かつ十分にできる。

②　皮膚病変の熟達した視診と確かな洞察をすることができる。

③　現症の把握と正確な記載ができる。

④　皮膚科学的外来諸検査、殊に真菌学的検査について材料採取と顕微鏡検査手技の修得ができる。

⑤　病理組織標本の実習を通して基本的な皮膚病理学を理解できる。

⑥　皮膚科学的及び美容皮膚科学的治療を十分理解し、光線療法、外用療法の原則を理解できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

スライド、教科書、プリントによる講義。

臨床写真をスライド供覧し、皮膚疾患に対する理解を深める。

指定した教科書の割り当て部分を事前に読んでおく。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席、授業態度、筆記試験により評価。

Ⅵ．教科書

１．清水　宏　著：あたらしい皮膚科学　第３版　中山書店　2018

２．大塚藤男　著・編：DERMATOLOGY　皮膚科学　第10版　金芳堂　2016

Ⅶ．参考書・文献

富田　靖　監修：標準皮膚科学　第10版　医学書院　2013

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	11	火	3	今福	D-3	1)	皮膚の構造、機能	表皮・真皮・皮下組織・皮膚付属器、角化・メラニン形成	講義
2				4	〃	F-1	12)	皮膚疾患の診断、治療	原発疹、続発疹、アレルギー検査法、内服療法、外用療法、理学的療法	〃
						D-3	2)			
3		18	火	3	〃	D-3	4) (8)	皮膚疾患の病理組織学	炎症性皮膚疾患、良性・悪性腫瘍	〃
4				4	大賀	D-3	4) 1) 2)	湿疹・皮膚炎・蕁麻疹・痒疹	接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痒疹	〃
5		25	火	3	今福	E-2	4) (1)	ウイルス感染症	帯状疱疹、単純疱疹、疣贅	〃
6				4	内藤	D-3	4) (8)	悪性リンパ腫関連疾患	菌状息肉症、ATL、未分化大細胞リンパ腫、リンパ腫様丘疹症	〃
7	10	2	火	3	山口	D-3	4) (9)	代謝異常症、物理的・化学的皮膚障害、汗腺・脂腺疾患、毛髪疾患、爪疾患、萎縮症、形成異常	アミロイドーシス、黄色腫症、ポルフィリン症光線皮膚障害、放射線皮膚障害、温熱皮膚障害、汗疹、多汗症、酒さ様皮膚炎、脱毛症、陥入爪、爪囲炎	〃
						E-5				
						E-6				
8				4	非常勤講師 野口	D-3	2)	真菌感染症、原虫などの感染症	白癬、癜風、カンジダ症、スポロトリコーシス、クロモミコーシス、褐色菌糸症	〃
						E-2	2)4)			
9		9	火	3	國見	D-3	4) (8)	美容皮膚科学	レーザー治療、ケミカルピーリング、美白剤	〃
10				4	山口	E-4	3) (1) (7)	膠原病	エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、関節リウマチ、結節性動脈周囲炎	〃
11		16	火	3	今福	D-3	4) (6)	角化症 (1)	遺伝性	〃
12				4	〃	D-3	4) (6)	角化症 (2)	炎症性・毛孔性角化症、口唇扁平苔癬	〃
13		23	火	3	〃	D-3	4) (7)	細菌感染症、抗酸菌感染症、性行為感染症	膿痂疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎、皮膚結核、ハンセン病、梅毒、リケッチア、原虫	〃
						E-2	4) (2) (4)			
14				4	非常勤講師 中村	D-3	4) (2) (4)	薬疹、中毒疹、紅斑症、紅皮症	中毒性・アレルギー性薬疹、Stevens-Johnson症候群、TEN、多形紅斑、結節性紅斑、環状紅斑、皮膚粘膜眼症候群、ベーチェット病、スイート病、成人スチル病	〃
						E-4	3)			
15		24	水	1	内藤	D-3	4) (8)	肉芽腫・脂肪織炎	サルコイドーシス、環状肉芽腫、異物肉芽腫	〃
16				2	非常勤講師 名嘉眞	D-3	4) (5)	水疱症、膿疱症	自己免疫性水疱症、遺伝性水疱症、掌蹠膿疱症、角層下膿疱症、好酸球性膿疱性毛包炎	〃
17		31	水	1	國見	D-3	4) (8)	全身と皮膚	黒色表皮腫	〃
18				2	大賀	D-3	4) (3)	紫斑・血管炎・血行障害・壊疽	血液異常による血管障害性、原因不明の紫斑、皮膚血管炎、皮斑、レイノー病、下腿潰瘍	〃
19	11	7	水	1	柴山	D-3	4) (8)	皮膚良性腫瘍、色素異常症、母斑、母斑症	上皮性・間葉系腫瘍、色素脱失、色素増加、色素性母斑、プリングル病、レックリングハウゼン病	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
20	11	7	水	2	柴山	D-3	4)(8)	皮膚悪性腫瘍	上皮性・間葉系腫瘍	講義
		28	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

眼　　科　　学

Ⅰ．担当教員名

眼　科　学	教　　授	内　尾　英　一	（科目責任者）
	准　教　授	大　島　裕　司	（筑紫病院）
	講　　師	尾　崎　弘　明	
	〃	有　田　直　子	
	〃	佐　伯　有　祐	
	助　　教	日　吉　篤　史	
	〃	岡　村　寛　能	
	〃	原　田　一　宏	
	非常勤講師	加　藤　　整	（かとう眼科医院　院長）
	〃	皆良田　研　介	（皆良田眼科医院　院長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

総論として、臨床医として必要な眼科学の基礎的知識の修得を目的とし、眼科学各論においては各疾患につき従来の古典的な眼科学の観点ばかりでなく、神経疾患、その他の全身疾患など他科領域との関連についても理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．視器とその付属器の構造と役割を理解し、説明することができる。
２．視器、特に眼球の発生と先天異常の関係を理解し説明することができる。
３．明視を得るための種々の生理的機能（調節、屈折など）を理解し説明することができる。
４．視覚について静的、動的な三次元視力を理解し説明することができる。
５．視器に対する生理的、解剖的、臨床的、検査法を理解し説明することができる。
６．視器および付属器の疾患を各部位別、組織的に理解し説明することができる。
７．それぞれの疾患を中心に各組織にまたがっておよぼす影響を関連づける。
８．全身疾患における眼症状のその価値治療について説明することができる。
９．視器の疾患と他科領域との関係を説明することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

・講義に出席する
・授業最後に小テストを実施。事前に教科書該当部分を熟読しておくこと。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

多枝選択試験による。

Ⅵ．教科書

講義プリントを冊子として配布
標準眼科学　第13版　医学書院
現代の眼科学　第12版　金原出版

Ⅶ. 参考書・文献

眼科診療プラクティス　文光堂

眼科学　文光堂

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	12	4	火	1	内尾	D-13	1)	眼科学総論	眼球、構造、発生、症候学	講義
2				2	〃	D-13	1)	外眼部疾患	眼瞼、涙器、涙液、眼窩	〃
3		6	木	3	佐伯	D-13	4)(1)	全身疾患と眼	高血圧、糖尿病、腎疾患、ウイルス性疾患、内分泌・血液疾患、膠原病、他	〃
4				4	日吉	D-13	2)	眼科検査法Ⅰ	視力、ランドルト環、マリオット盲点、屈折、網膜電図、眼位、眼球運動、両眼視、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査	〃
5		7	金	1	原田	D-13	2)	眼科検査法Ⅱ	視力、ランドルト環、マリオット盲点、屈折、網膜電図、眼位、眼球運動、両眼視、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査	〃
6				2	〃	D-13	1)	眼光学、光覚、色覚	調節、光覚、色覚、暗順応	〃
7		11	火	1	尾崎	D-13	4)(1)④	緑内障	原発性開放隅角緑内障、原発性閉塞隅角緑内障、続発緑内障、先天緑内障、ステロイド緑内障	〃
8				2	内尾	D-13	4)(1)②	角膜疾患	感染症、角膜潰瘍、角膜混濁	〃
9		13	木	3	非常勤講師 皆良田	D-13	4)(1)①	斜視、弱視	外斜視、内斜視、上下斜視、弱視	〃
10				4	日吉	D-13	4)(1) ⑤⑩	眼底疾患(網膜血管疾患、変性疾患)	静脈閉塞症、網膜色素変性症、網膜剥離、増殖硝子体網膜症	〃
11		14	金	1	尾崎	D-13	4)(1)⑧	視神経疾患	視神経炎、うっ血乳頭	〃
12				2	〃	D-13	4)(1)⑥	眼底疾患(糖尿病網膜症)	眼底出血、糖尿病網膜症	〃
13		18	火	1	内尾	D-13	4)(1)②	角膜移植、結膜疾患	角膜移植、結膜炎、アレルギー、ウイルス	〃
14				2	有田	D-13	3)(1)	小児眼科Ⅰ	小児の眼の特性、小児眼疾患(前眼部)	〃
15		20	木	3	内尾	D-13	4)(2)	眼腫瘍	眼瞼腫瘍、眼内腫瘍、眼窩腫瘍	〃
16				4	大島	D-13	3)(1)	眼底疾患(黄斑部疾患)	黄斑部疾患	〃
17		21	金	1	尾崎	D-13	4)(1)⑧	神経眼科	瞳孔異常、眼筋麻痺、視野異常	〃
18				2	岡村	D-13	4)(1)③	水晶体疾患	構造と生理、検査法、白内障、水晶体偏位、手術療法	〃
19	1	8	火	1	内尾	D-13	4)(1) ①～③	問題演習1(前眼部、眼炎症、水晶体、検査法)	角膜、結膜,、外眼部、水晶体、ぶどう膜、検査法	〃
20				2	岡村	D-13	4)(1)⑦	ぶどう膜疾患	ぶどう膜炎、ぶどう膜腫瘍、眼内炎	〃
21		10	木	3	佐伯	D-13	4)(1) ④～⑩	問題演習2(網膜硝子体、神経眼科、全身疾患と眼、小児眼科)	眼底、神経眼科、緑内障、全身疾患と眼、小児眼科	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
22	1	10	木	4	非常勤講師 加藤	D-13	2)	網膜特殊検査と最近の治療	光干渉断層法、インドシアニングリーン、光線力学的治療	講義
23		11	金	1	尾崎	D-13	4)(1)⑨	眼外傷	穿孔性眼外傷、鈍的外傷、薬物化傷、黄斑円孔、鋸状縁断裂	〃
24				2	有田	D-13	4)(1)①	小児眼科Ⅱ	小児眼疾患(後眼部)	〃
		28	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

感　染　症　学

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科	教　授	髙田　徹（科目責任者）（感染制御部）
	講　師	戸川　温
	非常勤講師	下野信行（九州大学病院グローバル感染症センター）
総合診療部	教　授	鍋島茂樹

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．主要な感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

2．診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

【病態】

1．敗血症の症候と診断と治療を説明できる。

2．市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。

3．医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。

4．薬剤耐性（antimicrobial resistance＜AMR＞）、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌（Methicillin-resistant *Staphylococcus aurus*＜MRSA＞、バンコマイシン耐性腸球菌（vancomycin-resistant Enterococci＜VRE＞）、基質特異性拡張型βラクタマーゼ（extended spectrum beta-lactamase＜ESBL＞）産生 Gram 陰性桿菌、多剤耐性アシネトバクター属菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等）を概説できる。

5．コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。

6．コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。

7．新興・再興感染症（中東呼吸器症候群（Middle East respiratory syndrome＜MERS＞）、ジカ熱、劇症型Ａ群レンサ球菌感染症等）、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。

8．渡航医学について概説できる。

9．発熱患者の初期評価について説明できる。

10．不明熱について説明できる。

11．急性下痢症の症候、診断、治療を説明できる。

【診断・検査・治療の基本】

1．各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。

2．ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。

3．細菌感染症診断における直接塗抹、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる。

4．真菌感染症における直接塗抹、培養検査、核酸増幅検査を説明できる。

5．病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。

６．抗菌薬適正使用（antimicrobial stewardship ＜AMS＞）を説明できる。
７．予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
８．感染症法を概説できる。

【症候】

以下の症候をきたす代表的な感染性疾患の原因を列挙できるまたは病態を鑑別できる。

１．ショック
２．発熱
３．けいれん
４．意識障害・失神
５．脱水
６．全身倦怠感
７．黄疸
８．発疹
９．リンパ節腫脹
10．浮腫
11．胸水
12．胸痛・胸部圧迫感
13．呼吸困難・息切れ
14．咳・痰
15．血痰・喀血
16．頭痛・頭重感
17．腹痛
18．悪心、嘔吐
19．便秘・下痢・血便
20．吐血・下血
21．血尿・タンパク尿
22．関節痛、関節腫脹
23．腰背部痛

【疾患】

⑴　ウイルス感染症・プリオン病

１．インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。
２．麻疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
３．風疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
４．水痘・帯状疱疹の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
５．流行性耳下腺炎（ムンプス）の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
６．ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。
７．単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核（球）症を説明できる。
８．サイトメガロウイルス＜CMV＞感染症を説明できる。

9．ヒトＴ細胞白血病ウイルス（human T-cell leukemia virus type 1＜HTLV-I＞）感染症を説明できる。
10．プリオン病を説明できる。
11．蚊媒介ウイルス感染症（デング熱、日本脳炎、ジカ熱、黄熱）について概説できる。
12．ダニ媒介ウイルス感染症（重症熱性血小板減少性症候群、ダニ媒介脳炎）について概説できる。

⑵　細菌感染症
1．黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
2．Ａ群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
3．肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。
4．インフルエンザ（桿）菌感染症と *Moraxella catarrhalis* 感染症を説明できる。
5．緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
6．大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
7．*Clostridium difficile* 感染症の症候と診断と治療を説明できる。
8．結核症、非結核性（非定型）抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
9．マイコプラズマ感染症を説明できる。
10．クラミジア感染症を説明できる。
11．レジオネラ感染症を説明できる。
12．リケッチア感染症を説明できる。
13．カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。

⑶　真菌感染症と寄生虫症
1．カンジダ症、クリプトコックス症、アスペルギルス症、ムーコル症の症候と診断と治療を説明できる。
2．ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。
3．主な蠕虫感染症（糞線虫症、アニサキス症、エキノコックス症）を説明できる。
4．主な原虫感染症（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢、ランブル鞭毛虫症）を説明できる。

⑷　性感染症
1．主な性感染症の原因微生物を説明できる。
2．主な性感染症（尿道炎、子宮頸管炎、骨盤内炎症性疾患）の症候、診断、治療を説明できる。
3．梅毒の症候と診断と治療を説明できる。

⑸　院内感染
1．標準予防策（standard precautions）、感染経路別予防策（飛沫感染予防策、接触感染予防策や空気感染予防策等）が必要となる病原微生物を説明できる。
2．患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための個人防護具、予防接種等を概説できる。
3．医療従事者の体液曝露後の感染予防策を概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

講義はスライドを使用して行う。講義時間数は限られているので、すべてを講義することはできない。教科書が指定されているので自分で予習、復習をして知識を習得する。また感染症は他の分

野よりも一層社会との接点が多くまた大きいため、様々なメディアを通して新しい知識を持つように努力すること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

本試験として感染症学の理解を確認するための記述式の筆記試験と多岐選択問題を実施する。

Ⅵ．**教科書**

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：配布テキスト

福井次矢・他　監修：ハリソン内科学　第５版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2017

深山正久・他　編：組織病理アトラス　第６版　文光堂　2015

高久史麿・他　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009

矢崎義雄　総編集：内科学　第10版　朝倉書店　2013

黒川　清・他　改訂編集：内科診断学　改訂９版　金芳堂　2004

Ⅶ．**参考書・文献**

Mandell GL 他　編著：Mandell　Douglas and Bennett's Principles and practice of infectious diseases　8th ed.　Churchill Livingstone　2015

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	12	3	月	3	髙田	E-2	1）	感染症の概念と病態	敗血症の症候、診断、治療、市中感染症、院内(病院)感染症、コロナイゼーションと感染症発症、コンプロマイストホスト、日和見感染症	講義
2				4	非常勤講師 下野	E-2	2）	感染症の治療	感染症の化学療法	〃
3		4	火	3	戸川	E-2	1）3）	発熱患者へのアプローチ	発熱、発熱患者へのアプローチ、院内感染、がん患者の感染症、不明熱	〃
4				4	髙田	E-2	2）	感染症の診断・治療（総論）院内感染対策	医療器具関連感染症、術後感染症、手術部位感染症、薬剤耐性〈AMR〉、院内感染の予防策	〃
5		10	月	3	戸川	E-2	1）2）	感染症学序論	感染症の検査室診断、予防接種とワクチン、輸入感染症、新興・再興感染症、人獣共通感染症、トラベル・メディシン、生物兵器とバイオテロリズム	〃
6				4	〃	E-2	1)～3)	臓器別感染症	感染性心内膜炎、急性下痢症、食中毒、ディフィシル菌感染症、性感染症	〃
7		11	火	3	鍋島	E-2	4)(1)	ウイルス感染症１	ヘルペスウイルス属ウイルス感染症、インフルエンザ、風邪症候群、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎	〃
8				4	〃	E-2	4)(1)	ウイルス感染症２	HIV感染症、日本脳炎、その他のウイルス感染症、ウイルス性皮膚疾患	〃
9		17	月	3	髙田	E-2	4)(2)	細菌感染症１	黄色ブドウ球菌、A群β溶血性レンサ球菌、肺炎球菌、インフルエンザ桿菌	〃
10				4	〃	E-2	4)(2)	細菌感染症２	緑膿菌、大腸菌、結核、非結核性抗酸菌、レジオネラ	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	12	18	火	3	髙田	E-2	4)(3)	感染症の症候と鑑別	ショック、けいれん、意識障害、失神、全身倦怠感、黄疸、発疹、リンパ節腫脹、浮腫、胸水、胸痛、胸部圧迫痛、呼吸困難、息切れ、咳痰、血症、喀血、頭痛、感、腹痛、血尿、タンパク尿、腰背部痛	講義
12				4	戸川	E-2	1)～4)	感染症学各論	細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症	〃
	1	21	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

形 成 外 科 学

Ⅰ．担当教員名

形成外科学	教　　授	大慈弥　裕　之（科目責任者）
	〃	秋　田　定　伯（形成外科学・創傷再生学講座）
	准　教　授	髙　木　誠　司（副責任者）
	講　　師	川　上　善　久
	助　　教	森　田　　愛
	〃	稲　本　和　也
	〃	森　永　絵　理
	〃	鈴　木　翔太郎

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1）臨床医学における形成外科学の意義について理解する。
2）形成外科がそのような疾患を対象としているか、について理解する。
3）「創傷」についてその種類や管理法などについて総合的に理解する。
4）形成外科・美容外科・抗加齢医学の相互関係について理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1）形成外科の概念を説明できる。
2）形成外科と他科との関わりについて説明できる。
3）創傷治癒のメカニズム・湿潤療法・陰圧閉鎖湿潤療法を説明できる。
4）急性創傷・慢性創傷の種類や病態や治療を説明できる。
5）熱傷の重症度と治療法を説明できる。
6）顔面骨骨折の症状・検査・治療を説明できる。
7）ケロイド・肥厚性瘢痕・瘢痕・瘢痕拘縮の鑑別と、その原因・病態・治療が説明できる。
8）形成外科の基本手技を説明できる。
9）マイクロサージャリーや皮弁を用いた再建外科の基本概念を説明できる。
10）頭蓋顔面領域および体幹・四肢の体表先天異常を説明できる。
11）美容外科・美容医療・抗加齢医療について説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

教科書を用いて講義範囲を事前に予習しておくこと。
パワーポイントを用いた講義を行い、その一部はハンドアウトとして講義前に配布する。
講義終了後は、ハンドアウトおよび教科書を用いて復習し、習熟度を高めること。
理解できない点・不明点あれば教員に対して積極的に質問すること（教員室への訪問も可能）

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

論述試験および客観試験による。
講義への出席状況・学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ. 教科書

標準形成外科学　第６版（編者 平林慎一・鈴木茂彦　医学書院　2011.11.29発行　ISBN-10: 426001420X）

Ⅶ. 参考書・文献

特になし。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	12	5	水	1	大慈弥	G-4	2)	形成外科学概論	形成外科の定義、歴史、対象疾患、卒後教育、精神病理、美の基準	講義
						F-3	6)			
2				2	川上	F-2	10)	形成外科基本手技	切開縫合、局所皮弁、組織移植術、マイクロサージャリー	〃
						G-3	3)			
3		6	木	1	秋田	C-4	5)	創傷と創傷治癒学	創傷の種類、創傷管理の歴史、創傷治癒のメカニズム	〃
4				2	〃	C-4	5)	創傷管理と創感染	湿潤環境理論、感染創の病態と治療	〃
5		12	水	1	森田	F-1	37)	急性創傷	急性の体表外傷・熱傷、顔面骨骨折	〃
6				2	稲本	F-2	15)	慢性創傷	褥瘡、難治性潰瘍	〃
7		13	木	1	髙木	E-7	1)	先天異常	先天異常概論、頭蓋・顔面、眼瞼、耳介、口唇・口蓋、躯幹、四肢	〃
8				2	鈴木	G-4	2)	再建外科学Ⅰ	頭頚部、顔面神経麻痺	〃
9		19	水	1	森永	E-3	5)	皮膚および皮下疾患	皮膚皮下腫瘍、脈管系疾患(血管腫)、ケロイドと肥厚性瘢痕	〃
10				2	大慈弥	G-4	2)	再建外科学Ⅱ	乳房再建、殿部・陰部、性同一性障害、四肢	〃
11		20	木	1	〃	G-4	2)	美容外科学・抗加齢医学	老化のメカニズム、抗加齢医学の基礎、美容外科、美容皮膚科	〃
12				2	〃	G-4	2)	医学における形成外科・再建外科学の意義	形成外科、再建外科、美容外科、医学教育、先端先進医療	〃
	1	23	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

歯 科 口 腔 外 科 学

Ⅰ．担当教員名

歯科口腔外科学	教　　授	近　藤　誠　二（科目責任者）
	講　　師	瀬　戸　美　夏（副責任者）
	〃	梅　本　丈　二
	〃	喜　多　涼　介
	助　　教	吉　野　　綾
	非常勤講師	原　　巖（原病院歯科口腔外科部長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

口腔の正常構造と機能を理解し、口腔疾患の病態生理を学ぶ。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．上下顎骨、舌、唾液腺と口腔粘膜の構造と機能を説明できる。
2．歯牙齲蝕と歯周病を概説できる。
3．咀嚼と嚥下の機能が説明できる。
4．口腔粘膜病変の診断と説明ができる。
5．口腔常在菌が説明できる。
6．口腔疾患と全身症状との関連性について説明できる。
7．口腔を中心とする頭頸部の診察ができる。
8．咬合の重要性と歯、口腔、顎、顔面外傷の症候、診断と治療が説明できる。
9．開口障害の原因と病態を説明できる。
10．口腔ケアの重要性を概説できる。
11．歯科口腔外科疾患の病態や治療法の概要説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

・スライド、プリントと小テストなどを用いる講義
・ロール・プレイによる頭頸部と口腔の診査
・事前学習は、Moodle にアップロードされているパワーポイント講義資料の閲覧予習を行なう。
・各講義終了時の小テストは必ず復習する。
・事後学習は、講義内容の追記項目や疑問点の復習を自学する。講義内容については下記の参考書なども充分に活用する。不明な点は講義担当者に直接問い合わせをする。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

・講義では、毎回、最後の５～10分間でその日のテーマに関して小テストが実施され採点される。
・全講義終了後に客観試験もしくは論述式試験を行う。
・小テストの結果と全講義終了後の試験の結果の両方で採点評価をし、合格点に達しないものは再試験を受験する。

Ⅵ．教科書

「口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本」　クインテッセンス出版株式会社　2017
（本書に沿って講義を行うので持参が望ましい）

Ⅶ. 参考書・文献

田中健藏ら：口腔の病気と全身の健康　大道学館出版部　2011
高橋和人、他編集：歯科医学総論マニュアル　南山堂　1995
石川達也、他監修：口腔外科・病理診断アトラス　医歯薬出版株式会社　1992
佐藤田鶴子、他編集：口腔外科マニュアル　４版　南山堂　2006

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	12	5	水	3	近藤	A-1	1)2)3)	歯科口腔外科学総論	解剖と機能(14–35頁) 口腔顎顔面の発生(36–39頁) 口腔細菌(40–41頁) 検査法(44–55頁) 症候→疾患(56–69頁) 法歯科医学(181–182頁)	教科書、パワーポイント、小テスト
						A-5	1)			
						C-2	4)⑧			
						D-4	1)②			
						D-14	1)③			
2				4	梅本	C-4	5)①②③	顎骨疾患と嚢胞性疾患	嚢胞性疾患；顎骨嚢胞、軟組織に生じる嚢胞(126–131頁)	〃
						D-7	1)⑬			
3		7	金	3	吉野	D-7	1)⑬	歯牙歯肉疾患とその治療	歯の疾患；歯のう蝕症、象牙質知覚過敏症、歯のう蝕の治療法、歯周病、歯槽膿瘍、抜歯、歯科補綴、埋伏智歯、智歯周囲炎(72–92頁)	〃
						D-14	4) (1)⑨			
4				4	喜多	D-7	1)⑬	歯性感染症と口腔粘膜疾患	歯性炎症；顎炎、顎骨骨髄炎(93－99頁) 粘膜疾患；発赤、びらん、潰瘍、水疱、白斑、着色(117－125頁)	〃
						D-14	1)⑥ 2)②			
						E-2				
						E-8	1)			
5		12	水	3	近藤	C-2	2)	唾液腺疾患	唾液腺疾患；唾石症、唾液腺の腫脹を来す疾患、口腔乾燥症(146–151頁)	〃
						D-14	4) (1)⑫			
						E-4	3) (4)			
						E-8	1)			
6				4	〃	D-14	4) (2)	腫瘍	顎口腔領域の腫瘍；概要、歯原性腫瘍、舌がん、下顎歯肉がん、上顎歯肉がん、腫瘍類似疾患(132–145頁)	〃
						E-3	1)			
						F-1	36)①			
7		14	金	3	喜多	C-4	5)④	外傷	歯の外傷、顎骨骨折、口腔軟組織の損傷(111–116頁)、顎関節疾患；顎関節症、顎関節脱臼(152–155頁)	〃
						D-4	1)②			
						D-14	1)③			
8				4	〃	D-14	1)③ 2)② 4) (1)⑨	顎変形症	先天異常･変形症;歯の数の異常、萌出時期の異常、唇裂、顎裂、口蓋裂、上唇小帯異常症、舌小帯強直症、不正咬合、歯並びの異常、顎変形症、歯科および顎の矯正治療(100–110頁)	〃
9		19	水	3	瀬戸	F-2	10)④⑥⑦	歯科の麻酔、顔面の疼痛疾患、口臭	神経疾患;三叉神経痛(突発性)、神経障害性疼痛、三叉神経麻痺、顔面神経麻痺(156–163頁)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
10	12	19	水	4	瀬戸	A-6	1)③④	内科疾患と歯科外科治療	歯科治療に伴う全身への影響、全身疾患に伴う顎口腔症状、顔面・口腔に症状が現れる症候群、薬剤による口腔有害事象（170–180頁）	教科書、パワーポイント、小テスト
						D-6	4)(2)⑤			
						D-14	4)(1)⑨			
11		21	金	3	梅本	D-7	1)⑬⑭	加齢と口腔、咀嚼・嚥下障害	摂食・嚥下障害、嚥下性肺炎（誤嚥性肺炎）（166–168頁）	〃
						D-14	4)(1)⑨			
						E-8	1)③⑦			
						F-1	19)			
12				4	非常勤講師原	D-7	1)	口腔ケアと周術期	チーム医療、周術期の口腔機能管理（183–187頁）	〃
						E-8	1)③⑦			
						F-1	19)			
	1	25	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

第４学年講義要目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M4】		脳神経病学	精神医学	医療情報社会学	法医学	CBT演習	循環器病学	麻酔科学	泌尿器科学	検査診断学	耳鼻咽喉科学	救命救急医学	症候・病態学演習	産科婦人科学	小児医学	腫瘍・輸血・血液学	再生・移植医学	整形外科学	臨床修練入門（診断学実習概説）	臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）	臨床修練入門（BSL）
Ⅰ. プロフェッショナリズム																					
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。																					
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	B	B	A
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C	B	A
Ⅱ. 医学的知識																					
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。																					
1	正常構造と機能	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
2	発達、成長、加齢、死	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
3	心理、行動	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
4	病因、構造と機能の異常	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
5	診断、治療	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
6	医療安全	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
7	疫学、予防、公衆衛生	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
8	保健・医療・福祉制度	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
9	医療経済	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B
Ⅲ. 診療技術・患者ケア																					
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。																					
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C/D	B	A
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療																					
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。																					
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	B	A
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	B	A
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	D	B	A
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療																					
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。																					
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	C	B
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力																					
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。																					
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C/D	C

脳　神　経　病　学

Ⅰ．担当教員名

神経内科学	教　　授	坪井義夫	（科目責任者）
	准教授	緒方利安	
	助　　教	合馬慎二	
	〃	津川　潤	（実務担当者）
	〃	藤岡伸助	
	〃	三嶋崇靖	
	〃	柳本祥三郎	
	非常勤講師	辻　貞俊	（国際医療福祉大学福岡保健医療学部学部長）
脳神経外科学	教　　授	井上　亨	（副責任者）
	准教授	東　登志夫	（実務責任者）
	講　　師	安部　洋	
	〃	森下登史	
	〃	野中　将	
	助　　教	小林広昌	
	〃	松本徳彦	
	〃	湧田尚樹	
	〃	藤原史明	
	非常勤講師	継　仁	（福岡赤十字病院脳神経外科部長）
	〃	平川勝之	（福岡市民病院脳神経外科部長）
	〃	大城真也	（福岡東医療センター脳神経外科部長）
救命救急医学	准教授	岩朝光利	
病理学	教　　授	鍋島一樹	
放射線医学	准教授	高野浩一	
スポーツ科学部	准教授	重森　裕	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

医師として必要な神経学の基礎知識（正常機構と機能）を理解し、主要な神経系疾患の病因、病態生理、症候、鑑別疾患、診断を学び、適切な対応をとることができる為の問題解決の能力を身につける。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　症候学と検査

到達目標

１．意識とその中枢、大脳高次機能：運動中枢、感覚中枢、言語中枢、視覚中枢、辺縁系などの局在を理解し、病態、症候を説明できる。

２．脳神経、脳幹の解剖、機能を理解し、病態、症候を説明できる。

３．脊髄の伝道路：錐体路、錐体外路、感覚路の火解剖、昨日を理解し、病態、症候、局所診

断を説明できる。

４．小脳の解剖、機能を理解し、病態、症候を説明できる。

５．意識障害、脳ヘルニアの病態を理解し、診断と治療を説明できる。

６．電気生理学的検査：脳は、神経伝達速度、筋電図、SRP（体性感覚誘発電位）、ABR（聴性脳幹誘発電位）野目的、適応とその主な所見を説明できる。

７．放射線学的検査；単純Ｘ線撮影、CT，MRI，脳血管撮影、脳血流検査、脳代謝検査、頚部エコーの基本的な画像所見と見方について説明できる。

⑵　変性疾患

到達目標

１．変性疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２．Parkinson 癇の病態、症状、診断と治療を説明できる。

３．Huntington 癇の病態、症状、診断と治療を説明できる。

４．進行匣核七陸麻痺の病態、症状、診断と治療を説明できる。

５．脊髄小脳変性症：オリーブ橋小脳萎縮症（OPCA）、Friedreich 失調症、SCA の病態、症状、診断と治療を説明できる。

６．運動ニューロンを侵す変性疾患：筋萎朧陸側索硬化症（ALS）の病態、症状、診断と治療を説明できる。

⑶　認知症疾患

到達目標

１．認知症の原因を鑑別できる。

２．Alzheimer 癇の病理、臨床所見、診断と検査を説明できる。

３．血管性認知症の臨床所見、認知症患者の対策を説明できる。

４．Lewy 小体型認知症、前頭側頭型認知症の病理、臨床所見、診断と検査を説明できる。

⑷　末梢神経疾患

到達目標

１．ニューロパチーの病態を分類し、鑑別できる。

２．Gu Ⅲ ain － Barre 症候群の臨床所見、鑑別診断と検査計画を説明できる。

３．圧迫性ニューロパチーを診断できる。

⑸　内科疾患に伴う神経障害

到達目標

１．糖尿癇性神経症の臨床所見、鑑別診断を説明できる。

２．膠原病に合併する神経徴候を説明できる。

３．肝性昏睡、尿毒症性ニューロパチーを説明できる。

４．腫癡関連症候群の病因、症状、検査、診断を説明できる。

⑹　機能的脳外科

到達目標

１．てんかんの分類、診断と治療を説明できる。

２．てんかんの外科的治療を説明できる。

３．不随意運動の分類を説明できる。

４．顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛の症状、病態、治療を説明できる。

⑺　脱髄比、免疫性神経疾患

到達目標

１．脱髄疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２．多発歐硬化症の症状、検査と治療を説明できる（視神経脊髄炎との鑑別ができる）。

３．急性散在性脳脊髄炎の症状、検査と治療を説明できる。

⑻　感染性疾患

到達目標

１．感染性疾患の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２．脳炎の原因、臨床所見、鑑別診断を説明できる。

３．髄膜炎の原因、臨床所見、鑑別診断を説明できる。

４．脳膿瘍の臨床所見、検査と治療を説明できる。

５．HTLV-1 関連ミエロパチーの臨床所見、検査を説明できる。

６．AIDS 脳症の病態、臨床所見、診断を説明できる。

７．遅発性ウイルス感染症（Creutzfeld-Jakob 病（CJD）、亜急性硬化性全脳炎）の臨床所見、診断、治療を説明できる。

８．神経梅毒の診断と治療を説明できる。

⑼　神経・筋接合部、筋疾患

到達目標

１．重症筋無力症の病態、臨床所見、検査と治療を説明できる。

２．多発筋炎の臨床所見と検査を説明できる。

３．進行性筋ジストロフィーの臨床所見と検査を説明できる。

４．周期性四肢麻痺の臨床所見、検査と治療を説明できる。

⑽　脳腫瘍

到達目標

１．脳腫瘍の分類、疫学、好発部位、病理を説明できる。

２．神経膠腫（グリオーマ）の分類、診断と治療を説明できる。

３．髄膜腫、聴神経腫瘍、松果体腫瘍の診断、検査と治療を説明できる。

４．傍トルコ鞍部腫瘍：下垂体腺腫 、頭蓋咽頭腫、ラトケ嚢腫の症状、画像所見により鑑別でき、治療について説明できる。

５．転移性脳腫瘍の疫学、治療を説明できる。

６．悪性リンパ腫の画像所見、治療を説明できる。

７．先天性脳腫瘍、母斑症に伴う腫瘍について臨床所見、画像所見を説明できる。

８．頭蓋骨腫瘍：ラングルハンス組織球症、多発歐骨髄腫、転移性骨腫瘍などについて、鑑別でき、治療を説明できる。

⑾　脳血管障害

到達目標

１．脳血管の肉眼的・顕微鏡的病理所見を説明できる。

２．脳梗塞の分類、症状、検査、診断と治療を説明できる。

３．脳血管性認知症の症状、検査、診断と治療を説明できる。
４．高血圧性脳症の症状、検査と治療を説明できる。
５．脳出血の原因、症状、検査、診断と治療を説明できる。
６．クモ膜下出血の原因、症状、検査、診断と治療を説明できる。

⑿　頭部外傷

到達目標

１．頭部外傷の分類を説明できる。
２．急性硬膜外・硬膜下血腫の症状、検査、診断と治療を説明できる。
３．慢性硬膜下血腫の症状、検査、診断と治療を説明できる。
４．重症頭部外傷の治療を説明できる。
５．頭部外傷後遺症の病態、診断と治療を説明できる。

⒀　脊髄疾患

到達目標

１．血管障害、感染性疾患の分類、症状、検査、診断と治療を説明できる。
２．腫瘍の分類、好発部位、症状、検査、診断と治療を説明できる。
３．変性疾患：頚椎症、黄色靭帯骨化症、後縦靭帯骨化症の好発部位、症状、検査、診断と治療を説明できる。
４．頭蓋頚椎移行部奇形：環軸椎亜脱臼、頭蓋底陥入症の症状、検査、診断と治療を説明できる。

⒁　周産期、脳脊髄障害

到達目標

１．水頭症の種類、症状、診断と治療を説明できる。
２．二分脊椎症を概説できる。
３．頭蓋骨早期癒合症の分類、症状と治療を説明できる。
４．頭蓋頚椎移行部奇形（アーノルド・キアリ奇形、脊髄空洞症）を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

１．講義：講義前後にキーワードを参照し、教科書で予習、復習することを前提として講義を行う。
２．指定した教科書の講義の項目・キーワードを事前に読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

全講義終了後に試験を行う。講義担当者が出題し、理解度を判定する。

Ⅵ．教科書

１．田崎義昭、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた　第18版　南山堂　2016
２．児玉南海雄：標準脳神経外科学　医学書院　2014

Ⅶ．参考書・文献

１．水野美邦：神経内科ハンドブック　第５版　鑑別診断と治療　医学書院　2010
２．医療情報科学研究所：病気がみえる　vol.7　脳・神経　メディックメディア　2011
３．平山惠造　編：臨床神経内科学　南山堂　2016　第６版
４．太田富男、松谷雅生　編：脳神経外科学　改訂12版　金芳堂　2016

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	2	月	1	坪井	D-2	1)(1)	序論	神経病学概説	講義
2				2	〃	D-2	1)(4)	症候学Ⅰ	意識、大脳高次機能、脳幹部機能、小脳系	〃
3		4	水	3	〃	D-2	1)(2)	症候学Ⅱ	錐体路、感覚路、反射、脊髄	〃
4				4	〃	D-2	1)(3)	症候学Ⅲ	錐体外路系、パーキンソニズム、不随意運動	〃
5		6	金	1	井上	D-2	4)(1)(4)	神経外科序論	脳神経外科概説	〃
6				2	東	D-2	4)(1)	脳血管外科	脳卒中の外科概説	〃
7		9	月	1	安部	D-2	1)(3)	症候学Ⅳ	脳神経、脳幹の局在、顔面痙攣、三叉神経痛、神経眼科症候、微小外科解剖	〃
8				2	緒方	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅰ	脳梗塞、分類、原因、治療	〃
9		11	水	3	野中	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅱ	SAH、AVM、出血、DAVF、閉塞性脳血管障害、マイクロサージャリー、神経内視鏡手術	〃
10				4	東	D-2	4)(1)②	脳血管障害Ⅲ	脳血管内治療（コイル塞栓術、ステント）	〃
11		13	金	1	津川	E-2	4)(3)①	感染性疾患Ⅰ	中枢神経感染症総論、脳炎、髄膜炎	〃
12				2	藤岡	D-2	4)(6)	運動ニューロン疾患	筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症	〃
13		16	月	1	安部	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅰ	良性脳腫瘍の外科治療	〃
14				2	野中	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅱ	分類、発生、症候、診断、治療、母斑症、小児脳腫瘍	〃
15		18	水	3	鍋島	D-2	1)4)	神経病理	脳組織の見方、感染症、変性、脱髄疾患	〃
16				4	緒方	D-2 F-1	4)(8) 33)	頭痛	病態、分類、診断、治療	〃
17		20	金	1	柳本	D-2	1)(2) 4)(6)	神経・筋疾患Ⅰ	神経・筋接合部、筋疾患	〃
18				2	三嶋	D-2	4)(5)	神経・筋疾患Ⅱ	末梢神経障害、神経痛	〃
19		23	月	1	津川	E-2	4)(3)①	感染性疾患Ⅱ	神経梅毒、HAM、AIDS、遅発性ウイルス感染症、プリオン病	〃
20				2	藤原	D-2	1)(2)	脊髄疾患Ⅰ	脊椎脊髄外科（頚椎、脊髄腫瘍）	〃
21		25	水	3	非常勤講師 平川	D-2	1)(2) 4)(1)	脊髄疾患Ⅱ	腫瘍、変性疾患、血管障害、感染、頭蓋頚椎移行部奇形（頭蓋陥入症、環軸椎亜脱臼）	〃
22				4	合馬	D-2	1)(5)②	脊髄小脳性変性	孤発性・遺伝性脊髄小脳変性症、痙性対麻痺	〃
23		26	木	3	三嶋	D-2	1)(2)	脱髄疾患	多発性硬化症（視神経脊髄炎）、ADEM	〃
24				4	小林	D-2	4)(9)	水頭症・先天性奇形	水頭症、頭蓋骨早期癒合症、頭蓋破裂、脊椎破裂、キアリ奇形、脊髄空洞症	〃
25		27	金	1	森下	D-2	1)(4)(5) 4)(5)(7) 3)(1)	機能外科	機能外科、てんかん、ボトックス、末梢神経の外科	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
26	4	27	金	2	非常勤講師 辻	D-2	4)(7)	機能性疾患	てんかん、神経生理検査：脳波	講義
27	5	2	水	3	重森	D-2	4)(4)	頭部外傷Ⅰ	分類、骨折、脳挫傷、頭蓋内血腫、(急性・慢性)	〃
28				4	〃	D-2	4)(4)	頭部外傷Ⅱ	重症頭部外傷の治療、頭部外傷後後遺症(合併病態)、小児頭部外傷	〃
29		7	月	1	非常勤講師 大城	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅲ	神経膠腫(グリオーマ)、髄芽腫、転移性腫瘍、悪性リンパ腫、その他の脳腫瘍	〃
30				2	湧田	D-2	4)(3)①	感染性疾患Ⅲ	脳膿瘍、硬膜下膿瘍、硬膜外膿瘍、脳結核腫、肥厚性硬膜炎	〃
31		8	火	1	非常勤講師 継	D-2	4)(10)	脳腫瘍Ⅳ	頭蓋咽頭腫、下垂体腺腫、胚細胞腫、先天性腫瘍	〃
32				2	津川	D-2	1)(2)	脊髄疾患Ⅲ	解剖、症候学	〃
33				3	緒方	D-2	4)(1)	脳血管障害Ⅳ	脳梗塞、高血圧性脳出血、アミロイドアンギオパチー、tPA、保存的治療、頸部エコー	〃
34				4	柳本	D-2	2)(2)	臨床検査Ⅰ	筋電図、神経伝導検査、誘発筋電図	〃
35		9	水	3	合馬	D-2	3)4)	内科疾患に伴う神経障害	代謝性脳症、腫瘍関連症候群	〃
36				4	〃	D-2 F-1	4)(2) 32)	認知症性疾患	アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、正常圧水頭症	〃
37		14	月	1	松本徳	D-2	3)(4)	頭蓋内圧亢進	脳ヘルニアの病態、意識障害、脳浮腫、脳循環、脳代謝	〃
38				2	岩朝	F-1	7)	脳神経外科疾患のプライマリケア	基本的処置、初期治療、手術手技、PNLS	〃
39				3	藤岡	D-2	4)(2)	錐体外路系疾患	パーキンソン病、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症	〃
40				4	高野	D-2	2)②	臨床検査Ⅱ	画像診断：頭蓋単純、CT、MRI、脳血管撮影	〃
		23	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

精　神　医　学

Ⅰ．担当教員名

精神医学	教　授	川　嵜　弘　詔（科目責任者）
	准教授	尾　籠　晃　司（副責任者）
	講　師	衞　藤　暢　明
	助　教	飯　田　仁　志
	〃	吉　良　健太郎
	〃	原　田　康　平
	〃	川　口　貴　子
	〃	大　串　祐　馬
	〃	永　野　健　太
	〃	箱　田　浩　介（筑紫病院　緩和ケアセンター）
	臨床心理士	矢　野　里　佳
	非常勤講師	内　村　直　尚（久留米大学医学部長・神経精神医学講座教授）
	〃	杠　　岳　文（国立病院機構肥前精神医療センター病院長）
	〃	木　村　豪　雄（桜十字福岡病院）
	〃	本　田　洋　子（福岡市精神保健福祉センター）
総合医学研究センター	教　授	西　村　良　二

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

精神病理現象の多次元的理解（原因）と問題解決の方法（治療）を発見するための学習をすることを目標とする。

1．症状記載にとどまらず、ライフ・サイクルあるいは生活様式との関連で、病因となる身体因、心理面、社会因を理解する。
2．症状、疾病の多次元的理解が治療に直結することを会得させる。
3．診断と治療におけるチーム医療の必要性ならびに治療者患者関係が患者に与える影響について理解させる。
4．精神身体医学的視点を学習させる。
5．精神疾患にとどまらず、一般診療に必要な精神医学を会得させる。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

No 1．

⑴　正常と異常、精神の病の定義について説明することができる。
⑵　精神医学の歴史について説明することができる。
⑶　精神医学・精神医療の最近の発達について説明することができる。
⑷　伝統的慣用分類の特徴と問題点を説明することができる。
⑸　疾患の成因については、古典的モデルから Bio-Psycho-Social モデルに至るまで、いくつかの考え方がある。精神医学の歴史をふりかえるとともにそれぞれの説明とそれにもとづく

治療論までの説明をすることができる。

⑹　心因から身体因、外因、内因に至る成因論を説明することができる。

No ２.

⑴　意識・意識障害、せん妄について説明できる。

⑵　見当識・見当識障害について説明できる。

⑶　記憶・記憶障害について説明できる。

⑷　知能・知能障害について説明できる。

No ３.

⑴　知覚・知覚の異常について説明できる。

⑵　思考・思考障害について説明できる。

⑶　感情・感情の異常について説明できる。

⑷　意思・欲動・行動・自我意識とそれらの異常について説明できる。

No ４.

⑴　面接の背景にある診断基準が説明できる。

⑵　面接への導入において注意すべき点を説明できる。

⑶　面接で聴取すべきことを説明できる。

⑷　面接で観察すべきことを説明できる。

⑸　面接を円滑に進める技法について説明できる。

No ５.

⑴ 心理アセスメントの１つとしての心理検査を説明することができる。

⑵　被検者、検査者、心理検査の目的に応じて、検査が影響を受けることを説明することができる。

⑶　知能検査、人格検査、その他の心理検査について説明することができる。

⑷　自分での実施を通して、心理検査の内容の把握を行うことができる。

No ６.

⑴　精神科臨床における身体的検査法とその意義を説明することができる。

⑵　脳波記録法の概略を説明することができる。

⑶　正常脳波（睡眠、年齢による変化）を説明することができる。主な脳波異常について説明することができる。

No ７.

⑴　向精神薬療法の歴史について概略を説明することができる。

⑵　向精神薬の種類と作用特性について説明することができる。

⑶　向精神薬の作用の一般的特性について説明することができる。

⑷　向精神薬の副作用について説明することができる。

⑸　各種状態像に対する向精神薬療法の概略を説明することができる。

⑹　向精神薬療法の功績とそれへの反省について説明することができる。

⑺　精神外科、光療法などその他の身体的療法について説明することができる。

⑻　電気ショック療法については、創始、病理、治療の実際、適応、禁忌、偶発事故、副作用、看護について説明することができる。

No ８.

⑴　精神療法の定義、形態、介入技法について説明できる。

⑵　治療関係を説明できる。

⑶　各種の精神療法（行動療法、認知行動療法、精神分析、精神力動的精神療法）の内容について説明できる。

No ９.

⑴　統合失調症の概念が説明できる

⑵　統合失調症の疫学、病前性格が説明できる。

⑶　統合失調症の病因・病態仮説を想起できる。

⑷　統合失調症の症状の特徴を陽性症状と陰性症状に分けて想起できる。

No10.

⑴　統合失調症の治療の進め方の基本と、薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、社会復帰療法について説明できる。

⑵　統合失調症の再発予防の方略を説明できる。

⑶　統合失調症の近縁疾患について説明できる。

No11.

⑴　ストレスによる視床下部・下垂体・副腎系の反応を理解することができる。

⑵　情動の脳内メカニズムを理解することができる。

⑶　うつ病の病因を科学的に説明することができる。

⑷　うつ病の治療について説明することができる。

No12.

⑴　気分障害はどのような病気で、どのような症状を呈するかを説明することができる。

⑵　単極型、双極型それぞれの罹病危険率、有病率を説明することができる。

⑶　躁病、うつ病それぞれの精神症状、身体症状を説明することができる。

⑷　単極型、双極型それぞれの経過を分類し、その特徴を説明することができる。

⑸　診断の進め方およびDSM-5、ICD-10の概略を説明することができる。

⑹　従来から使われてきた分類のうち特別な名前のついた亜型を説明することができる。

⑺　病因に関する代表的な仮説を説明することができる。

⑻　病前性格、遺伝、発症の誘因・状況因を説明することができる。

⑼　基本的な治療法を説明することができる。

⑽　再発予防の方略を説明することができる。

No13.

⑴　多動性障害に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑵　小児自閉症に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑶　Asperger症候群、高機能自閉症について説明できる。

⑷　知的障害（精神遅滞）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

⑸　チック障害に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

No14.

⑴　現代青少年の心理社会的特徴について説明できる。

⑵　不登校（登校拒否）に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。
⑶　社会不安障害（対人緊張症）に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

No15．16.
⑴　認知症の概念について説明することができる。
⑵　認知症およびせん妄の鑑別診断をすることができる。
⑶　認知症における中核症状と行動・心理症状について説明することができる。
⑷　脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症の鑑別をおこなうことができる。
⑸　レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などを説明することができる。

No17.
⑴　不安障害（パニック障害、恐怖症性あるいは全般性不安障害）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑵　解離性＜転換性＞障害に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑶　身体表現性障害に関して、疫学、原因、症状、経過、治療について説明できる。

No18.
⑴　ストレス関連疾病（外傷後ストレス障害＜ PTSD ＞を含む）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。
⑵　心身症（摂食障害を含む）に関して、疫学、原因、症状、経過、療育について説明できる。

No19.
⑴　パーソナリティ障害がどのような障害かを説明できる。
⑵　パーソナリティ障害の大分類と諸類型を説明できる。
⑶　パーソナリティ障害を合併しやすい精神障害を説明できる。
⑷　パーソナリティ障害が医療機関にどのような形で登場するのか説明できる。
⑸　境界性パーソナリティ障害の病態と治療について説明できる。
⑹　性行動の異常がどのような障害かを説明できる。

No20.
⑴　コンサルテーション・リエゾン精神医学（CLP）が臨床精神医学の一分野であることを理解し、説明できる。
⑵　CLP の定義、歴史、課題について理解し、コンサルテーションとリエゾンの違いを説明できる。
⑶　CLP の臨床的実践の具体的内容について理解し、説明できる。

No21.
⑴　わが国の自殺の現状、対策とそれに関わる法律が説明できる。
⑵　自殺の危険因子を説明できる。
⑶　多くの自殺に精神疾患が関わっていることを理解し、精神保健との関係を説明できる。
⑷　自殺の危険の高い人への対応の方法を実践できる。
⑸　自殺で遺された家族・医療者へのケア、支援について説明できる。

No22.
⑴　東洋医学の視点を理解することができる。

No23.
⑴　精神保健福祉法の概念、入院形態、人権擁護のためのしくみ、インフォームドコンセント、社会復帰促進のための制度について説明できる。

⑵　地域精神医療（精神科リハビリテーション、精神科救急）について説明できる。
⑶　司法精神医学（精神障害者と刑法、医療観察法、成年後見制度）について説明できる。
⑷　学校精神保健、産業精神保健（産業医の役割、ストレスチェック制度など）について説明できる。

No24.
⑴　精神腫瘍学の概念について説明できる。
⑵　がん患者に多く見られる精神症状を説明できる。
⑶　緩和医療における患者・家族の心理を説明できる。

No25.
⑴　ACT（Assertive Community Treatment）について説明できる。
⑵　DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）について説明できる。
⑶　MHFA（Mental Health First Aid）について説明できる。
⑷　クロザピンについて説明できる。
⑸　ECT（electroconvulsive therapy）について説明できる。
⑹　rTMS（Repetitive transcranial magnetic stimulation）について説明できる。

No26.
⑴　睡眠覚醒障害の原因・診断や治療法について説明することができる。

No27.
⑴　精神作用物質とは何か、その使用障害（乱用、依存）と後遺障害について説明することができる。
⑵　アルコール依存症の症状とその治療および予防的介入について説明することができる。
⑶　依存症当事者の体験談を聞き追体験することができる。

No28.
⑴　器質性精神障害と症状性精神病障害の概念について説明することができる。
⑵　主な器質性精神障害を列記し、それぞれの病像を説明することができる。
⑶　せん妄や通過症候群などについて説明することができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉
１．印刷物、パワーポイントを使って講義を行う。
２．映画、テレビ（VTR）を情報センターにて視聴し学習を促進する。

〈事前事後学習の方法〉
事前：キーワード、行動目標を確認して講義にのぞむ。
事後：指定教科書を読み、講義の内容を確認する。講義後小テストを実施する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．期末の論述試験により評価する。
２．指定した課題についてのレポートにより評価する。

Ⅵ．**教科書**

野村総一郎、樋口輝彦　編：標準精神医学　第７版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

大熊輝雄：現代臨床精神医学　改訂第12版

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	2	月	3	川　嵜	D-15	1)②③	精神医学とは何か	ヒポクラテス、ピネル、クレペリン、ブロイラー、フロイド、成因論、内因、外因、身体因、心因、性格、家族、文化、Bio-Psyco-Socialモデル	講　義
2				4	大　串	D-15	2)②	精神機能とその異常１	意識障害、せん妄、見当識、記憶障害、知能障害	〃
3		3	火	3	吉　良	D-15	2)	精神機能とその異常２	妄想、強迫、錯覚、幻覚、思考障害、抑うつ、両価性、緊張病症候群、自我意識	〃
4				4	衞　藤	D-15	1)①②	精神医学的診断１	操作的診断基準、傾聴、共感、精神症状測定、評価尺度	〃
5		5	木	1	川　嵜 (矢　野)	D-15	1)⑤	精神医学的診断２ 心理検査	心理アセスメント、ラポール、検査バッテリー、知能検査、人格検査（質問紙法、投映法、作業検査法）	〃
6				2	尾　籠	D-2	2)	精神医学的診断３	身体面の検査、検査と意義、脳波記録の意義と記録法、正常脳波（成人、小児、覚醒、睡眠）と異常脳波（非突発性、突発性）	〃
7		9	月	3	川　嵜	D-15 F-2	3) ③～⑦ 1) 2) 8)①～④ ⑧～⑩	精神科治療学１ 薬物療法	抗精神病薬、抗うつ病薬、抗躁薬、抗不安薬、抗けいれん薬、薬の作用特性と副作用、電気ショック療法、精神外科、光療法	〃
8				4	西　村	C-5	2)① 3)④ 5)② 8)②③	精神科治療学２ 精神療法	行動療法、認知行動療法、精神分析的精神療法、転移、防衛機制	〃
9		10	火	3	飯　田	D-15	3)④	統合失調症１	早発性痴呆、Bleulerの４徴候、ドーパミン仮説、Schneiderの一級症状、陽性症状、陰性症状、抗精神病薬、心理社会療法	〃
10				4	〃	D-15	3)④	統合失調症２		〃
11		12	木	1	川　嵜	D-15 F-1 F-2	3)⑤⑥ 31) 8)③	気分障害１	ストレス、うつ病、脳科学、治療	〃
12				2	〃	D-15 F-1 F-2	3)⑤⑥ 31) 8)③	気分障害２	単極型、双極型、循環気質、執着性格、メランコリー親和型、抑うつ気分、精神運動制止、思考制止、仮面うつ病、急速交代型、季節性感情障害、モノアミン欠乏仮説、モノアミン受容体過感受性仮説、抗うつ薬、気分安定薬、電気けいれん療法、支持的精神療法、認知療法	〃
13		16	月	3	尾　籠	D-15	3)②	認知症１	脳血管性認知症、Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症	〃
14				4	〃	D-15	3)②	認知症２		〃
15		17	火	3	西　村	D-15	3)⑪⑫	児童、思春期精神医学１	広汎性発達障害、Kanner、学習障害、チック障害、被虐待児症候群、行動科学	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
16	4	17	火	4	西村	C-5	5)②	児童、思春期精神医学２	青年期の発達課題、不登校、社会不安障害（対人緊張症）、行動科学	講義
17		19	木	1	永野	D-15	3)⑦⑨	神経症	心因、葛藤、防衛、浮動性不安、ストレス、心身相関、心因反応、急性ストレス反応、外傷後ストレス障害（PTSD）、性別違和、行動科学	〃
18				2	川口	D-15	2)③ 3)⑦～⑨	心身症		〃
19		23	月	3	原田	D-15	3)⑩	パーソナリティ障害と行動異常	分裂気質、多軸評定、反社会性パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、薬物依存、行動科学	〃
20				4	衞藤	B-1	5)④	自殺予防	自殺に関する統計、自殺に関わる法律、自殺率、自殺の危険因子、自殺と精神疾患、自殺の危険の高い人への対応、TALKの原則、自殺行動に関連した心理状態、自死遺族	〃
21		24	火	3	〃	D-15	1)④	コンサルテーション、リエゾンサービス	コンサルテーション精神医学、リエゾン精神医学	〃
22				4	非常勤講師 木村	F-2	8)⑬	漢方精神医学	証、陰陽、虚実、気・血・水理論	〃
23		26	木	1	非常勤講師 本田	D-15	1)③	精神医療と社会	精神保健福祉法、精神科リハビリテーション、精神科救急、成年後見制度、メンタルヘルス対策	〃
24				2	箱田	F-2	16)	緩和ケアとサイコオンコロジー（精神腫瘍学）	Quality of life、せん妄、適応障害、うつ病、死にゆく患者の心理、緩和ケア研修会	〃
25	5	1	火	3	飯田	A-9	1)②	精神医学のトピックス	ACT（Assertive Community Treatment）、DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）、MHFA（Mental Health First Aid）、クロザピン、ECT（electroconvulsive therapy）、rTMS（Repetitive transcranial magnetic stimulation）	〃
26				4	非常勤講師 内村	D-15	2)②	睡眠覚醒障害	睡眠覚醒障害、生体リズム、睡眠薬	〃
27		7	月	3	非常勤講師 杠	D-15	3)③	アルコール、薬物依存	アルコール、覚せい剤、危険ドラッグ、物質使用障害、離脱症状、ブリーフインターベンション	〃
28				4	尾籠	D-15	3)①	器質性精神障害および症状性精神障害	認知症、器質性精神病、症状性精神病、せん妄、外因（外因反応型）精神障害、通過症候群、てんかん	〃
		21	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

医療情報社会学

Ⅰ．担当教員名

臨床医学研究センター	教　授	志村英生	（科目責任者）
総合診療部	教　授	鍋島茂樹	（副責任者）
総合医学研究センター	教　授	田村和夫	
臨床研究支援センター	教　授	野田慶太	
感染制御部	教　授	髙田　徹	
腫瘍・血液・感染症内科	准教授	田中俊裕	
	非常勤講師	谷原真一	（帝京大学大学院　教授）
	〃	小河原　悟	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

診療録の記載、利用方法を習得する
病院のシステムを理解し、安全に効率的に利用できるようになる
医療情報や病院情報管理の社会的な意義を理解する

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

診療録の記載ができる
診療録（電子カルテ）の扱いがわかる
カルテの電子化（デジタル化）の意義が説明できる
情報のセキュリティについて脅威と対策を説明できる
病院の情報システムの概要を説明できる
他診療科や多職種の連携の実際と意義を説明できる
診療情報や病院情報の秘匿の必要性が説明ができ実行できる
患者の権利の尊重、個人情報保護の重要性が説明できる
保健医療制度および診療報酬のしくみを説明できる
病診連携、病病連携を説明できる
病院情報の二次利用の仕組みを理解し有効性と危険性を説明できる
地域における病院の役割、質の評価と情報公開の意義を説明できる
医療経済の現状と将来を概説できる

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方法〉
資料を用いて各テーマの講義を行う
臨床現場での提示実例を討議する
〈事前事後学習の方法〉
資料により再確認する

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席を考慮した筆記試験・口頭試験を実施して評価する

Ⅵ. 教科書

1．医療情報　医療情報システム編　第５版　篠原出版新社　2016
2．医療情報　医学医療編　第５版　篠原出版新社　2016
3．医療情報　情報処理技術編　第５版　篠原出版新社　2016

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	3	火	2	志村	B-2	2)	診療録と電子カルテ	医療法規、診療録、電子カルテ、個人認証、POM、SOAP、処方、指示と指示受け、サマリー、診断書・証明書、改ざん防止、履歴管理	講義
2		5	木	3	田中	B-2	2)	電子カルテ情報とデータベース	電子カルテの記載、標準化と正規化、ICD-10、Kコード、HOT、HL7、DICOM、2次分析、NCD、マイナンバー	〃
3				4	非常勤講師 小河原	B-2	2)	病院システム	診療科、中央部門、事務部門、各科各部連携、部門システムとHIS連結、診療情報管理士	〃
4		10	火	1	志村	A-6	1)	情報セキュリティ	コンピュータウイルス、ハッキング、暗号化技術、ネットワークのセキュリティ、クラウドサービス、アクセスログ	〃
5				2	非常勤講師 谷原	B-1	8)	日本の保険医療	診断群分類包括評価（DPC）、診療報酬明細書（レセプト）、電子レセプト、保険医療養担当規則、保険審査、NDBとその利用	〃
6		12	木	3	志村	A-5	1)	病院のチーム医療 ⑴概説	病院の構成職種、縦割りと横串、チーム医療、多職種連携、褥創対策、栄養管理NST	〃
7				4	田村	A-5	1)	⑵がんの治療戦略	がん診療拠点病院、キャンサーボード、がん登録、がんデータベース、がん治療連携パス、緩和ケア、国のがんの撲滅戦略	〃
8		17	火	1	髙田	A-6	1)	⑶感染制御	院内感染、ICT、感染防止策、院内感染対策マニュアル、輸入感染症	〃
9				2	志村	A-6	1)2)	⑷医療安全管理	ひやりはっと、インシデント情報の解析、対策、医療事故調査制度、実例での討論	〃
10		19	木	3	野田	B-3	1)	臨床研究支援、治験システム	臨床研究や治験のしくみ、GCP、カルテ情報のスクリーニング、データ分析，COI	〃
11				4	鍋島	A-5	1)	クリニカルパス	診療計画、診療過程の標準化と情報の共有、アウトカムとバリアンス	〃
12		24	火	1	志村	A-7	1)	クリニカルインディケータ	CI（QI）、診療の質評価、情報可視化、戦略と戦術、KPI、病院機能評価、病院の社会性、DPCベンチマーク	〃
13				2	鍋島	B-1	7)	地域連携	病病連携、病診連携、前方後方連携、遠隔医療、地域完結型医療、カルテ情報共用	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	5	1	火	1	田中	A-1	1)2)	インフォームドコンセント	医療倫理、個人情報保護、患者の権利、説明責任、情報開示、医療訴訟	講義
15				2	志村	B-4	1)	医療における地域と国の役割	日本経済、医療経済、少子高齢化、医療と福祉財源、地方と中央	〃
		18	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

法　　医　　学

Ⅰ．担当教員名

法　医　学	教　　授	久　保　真　一（科目責任者）
	准　教　授	柏　木　正　之（副責任者）
	講　　師	原　　健　二
	〃	松　末　　綾
	助　　教	ウォーターズ　ブライアン
	〃	髙　山　み　お
医療安全管理部	講　　師	中　村　伸理子

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

法医学とは、医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学である。

この法医学の目的を達成するために、法医学の重要な３分野（法医病理学、法医中毒学、法医血清遺伝学）の内容を理解する。様々な死因および死に至る過程を理解する。「死者（体）」を診る（死体検案）ために必要な知識と手技を修得する。医療と法の係わりを理解し、医師としての基本的姿勢を習得する。

知識

１．死体の正しい観察方法を理解する。
２．様々な死因およびその死に至る過程を理解する。
３．中毒の概念を理解し、薬理作用を理解する。
４．中毒患者の検査と起因物質の検査法を理解する。
５．死因・死亡の種類に対する考え方を理解する。
６．死亡診断書・死体検案書の書き方、考え方を理解する。
７．血液型、DNA 型等の個人識別について理解する。
８．白骨からの個人識別の方法を理解する。
９．医と法の係わりを理解する。
10．医療事故の原因と種類を理解する。
11．医療事故の予防と対策を理解する。
12．医学・医療の倫理的背景について理解する。

態度

１．死に対する基本的姿勢、考え方を身につける。
２．剖検・検案の見学、症例供覧を通じて、死者に対する畏敬の念と科学者としての信念を涵養し、冷静に考察する習慣を身につける。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

知識

１．死体の正しい観察方法を説明できる。
２．様々な死因およびその死に至る過程を説明できる。
３．中毒の概念を理解し、薬理作用を説明できる。
４．中毒患者の検査と起因物質の検査法を説明できる。
５．死因・死亡の種類に対する考え方を説明できる。
６．血液型、DNA 型等の個人識別について説明できる。
７．白骨からの個人識別の方法を説明できる。
８．医と法の係わりを説明できる。
９．医療事故の原因と種類を説明できる。
10．医療事故の予防と対策を説明できる。
11．医学・医療の倫理的背景について説明できる。

技能

１．死亡診断書・死体検案書が作成できる。
２．血液、体液斑から血液型を判定できる。

態度

１．死者に畏敬の念と科学者としての信念をもって冷静に接することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

講義：プリント、スライドをもとに学習する。各講義では実例を供覧する。
　　講義ごとに課題（小）レポートを作成・提出する。
実習：血液型、個人識別等を体験する。
演習：事例をもとに、死亡診断書・死体検案書を作成する。
その他：機会をみつけ司法解剖、死体検案を見学・体験する。
指定した教科書の次回授業範囲を予習し、講義内容の概略を理解しておくこと。
授業終了後に授業プリントをもとに復習しておくこと。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

客観試験および死亡診断書・死体検案書作成試験で評価する。
課題（小）レポートの提出回数も付加的に評価の対象とする。

Ⅵ．教科書

共同執筆（久保真一他）:「学生のための法医学」 改訂第６版　2007　南山堂
共同執筆（久保真一他）:「NEW 法医学・医事法制」 初版　2008　南江堂
日本法医学会・教育研究委員会：死体検案マニュアル　2017年版　日本法医学会

Ⅶ．参考書・文献

共同執筆（若杉長英　他）：カラーアトラス　法医学　金原出版
今井　大　監訳：カラーアトラス　マクロ病理学　西村書店
今井　大　編訳：カラーアトラス　基礎組織病理学　西村書店

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	水	1	久保	A-1	1)	法医学概論	歴史、異状死、剖検制度、人の死、死因	講義
						B-2	1)			
						E-9	1)①③			
2		11	水	1	〃	B-2	1)	法医診断学Ⅰ	死亡診断書・死体検案書①	〃
3		18	水	1	柏木	E-9	1)①	死体現象	早期死体現象（死斑、死後硬直、直腸内温度、乾燥） 晩期死体現象（死ろう化、腐敗、ミイラ、白骨化）	〃
4		25	水	1	〃	E-9	1)③	損傷Ⅰ	総論 鈍器損傷（表皮剥脱、皮下出血、挫創、裂創）	〃
5	5	2	水	1	〃	E-9	1)③	損傷Ⅱ	鋭器損傷（切創、刺創、割創） 銃器損傷	〃
6		9	水	1	久保	D-2	4)(4)	損傷Ⅲ	特論：頭部外傷	〃
						E-9	1)③			
7		30	水	1	〃	E-7	3)⑥	損傷Ⅳ	特論：交通外傷・虐待	〃
						E-9	1)③			
8	6	6	水	1	〃	B-2	1)③	演習（文書作成）	死亡診断書・死体検案書②	課題学習
9		13	水	1	柏木	E-9	1)③	窒息Ⅰ	総論 頚部圧迫（縊頚、絞頚、扼頚）	講義
10		20	水	1	〃	E-9	1)③	窒息Ⅱ	溺死、その他の窒息	〃
11		27	水	1	久保	B-2	1)⑤	内因性急死	死因究明制度と内因性急死の取扱い、死因（心・血管、呼吸器、消化器、その他）	〃
						E-9	1)③④			
12	7	4	水	1	髙山	E-5	3)(2)(3)	異常環境	焼死・凍死・感電死	〃
						E-9	1)③			
13	8	22	水	1	原	E-5	3)(1)	法中毒学Ⅰ	総論・作用・分類・分析	〃
						E-9	1)③			
14		29	水	1	〃	E-5	3)(1)	法中毒学Ⅱ	各論（アルコール・覚せい剤）	〃
						E-9	1)③			
15	9	5	水	1	中村	A-1	1)～3)	医と法Ⅰ	医事法制・医療裁判	〃
						A-6	1)～3)			
16		12	水	1	ウォーターズ	E-5	3)(1)	法中毒学Ⅲ	各論（CO・農薬・自然毒）	〃
						E-9	1)③			
17		19	水	1	久保	E-5	3)(1)	法中毒学Ⅳ	症例呈示	〃
						E-9	1)③			
18		26	水	1	〃	E-7	2)④	周産期障害	嬰児殺人（特殊性、死亡時期、死因）、乳幼児突然死症候群	〃
						E-9	1)③			
19	10	3	水	1	松末	B-2	1)④	法医遺伝学	DNA多型・遺伝子診断・物体検査（血痕検査、尿検査、毛髪検査、精液検査）	〃
20		10	水	1	〃	B-2	1)④	個人識別Ⅰ	総論、白骨（年齢・性別・身長）、歯牙（デンタル・チャート）、血液型	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
21	10	17	水	1	久保	A-1	1)～3)	医と法 II	生命倫理・医療倫理・研究倫理	講義
						A-4	2)			
						E-9	1)⑨			
22		24	水	1	柏木	B-2	1)④	個人識別 II	実習説明	〃
23				3	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山	B-2	1)④	実習 I (個人識別)	白骨からの性別・身長・年齢の推定	実習
24				4						
25				5						
26		31	水	1	久保	B-2	1)③	法医診断学 II	死亡診断書・死体検案書③	講義
27				3	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山	B-2	1)④	実習 II (血液型①)	血液型検査 (ABO式・MN式・Rh式) 唾液型検査（凝集阻止試験）	実習
28				4						
29				5						
30	11	7	水	1	久保	B-2	1)	法医診断学 III	死体検案(基本的手技と診断意義)	講義
						E-9	1)①			
31				3	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山	B-2	1)④	実習 III (血液型②)	唾液斑の血液型（吸収試験）	実習
32				4						
33				5						
		22	木	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

C　B　T　演　習

Ⅰ．担当教員名

医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（科目責任者）
	准　教　授	八　尋　英　二
	講　　師	田　中　　崇
総合医学研究センター	教　　授	出　石　宗　仁

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．臨床実習に臨むにあたり、これまでの基礎医学と臨床系臓器別講義で学んだ知識を統合し、主要な臓器の正常構造と疾病の病態から鑑別診断・治療までの概要を理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

⑴　モデル・コア・カリキュラムで求められている臨床実習前に必要な知識が習得できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

⑴　モデル・コア・カリキュラムの項目別に出題される演習問題を e-learning で受験する。

⑵　モデル・コア・カリキュラムの内容を確認して受験する。受験後は習得不十分な部分を復習する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

出席状況（2/3以上の出席を必須とする）、毎回の演習問題の受験結果、模擬テストで評価する。自宅でログインしても出席とはみなさない。

Ⅵ．教科書

関連授業科目の教科書を参照

Ⅶ．参考書・文献

関連授業科目の教科書を参照

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項　　目	授業形態
1	4	4	水	2	全　　員			オリエンテーション 体験受験	講　　義 C　B　T
2		11	水	2	〃	A1～4		基本事項	C　B　T
						B-1		医学・医療と社会	〃
						B-2	2）		
						B-3			
3		18	水	2	〃	C-1		生命現象の科学	〃
						C-2	1）～3）	個体の構成と機能 ⑴細胞の構成と機能 ⑵組織・各臓器の構成、機能と位置関係 ⑶個体の調節機構とホメオスタシス	〃
4		25	水	2	〃	C-2	4）5）	個体の構成と機能 ⑷個体の発生 ⑸生体物質の代謝	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項　　目	授業形態
5	5	2	水	2	全　　員	C-3	1)2)	個体の反応 ⑴生体と微生物 ⑵免疫と生体防御	C B T
6		9	水	2	〃	C-3	4)	個体の反応 ⑷生体と薬物	〃
						C-4		病因と病態	
7		30	水	2	〃	C		多選択肢形式 「病態の背景となる医科学的基盤を問う」	〃
						D			
8	6	6	水	2	〃	A		復習テスト	〃
						B	B-1-7)を除く		
						C			
9		13	水	2	〃	D-6		呼吸器系	〃
10		20	水	2	〃	D-7		消化器系	〃
11		27	水	2	〃	D-12		内分泌・栄養・代謝系	〃
12	7	4	水	2	〃	D-8		腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	〃
13	8	22	水	2	〃	D-2		神経系	〃
14		29	水	2	〃	D-3		皮膚系	〃
						E-5		物理・化学的因子による疾患	
15	9	5	水	2	〃	D-5		循環器系	〃
16		12	水	2	〃	D-13		眼・視力系	〃
						E-4		免疫・アレルギー系	
17		19	水	2	〃	D-14		耳鼻・咽喉・口腔系	〃
						E-2		感染系	
18		26	水	2	〃	D-15		精神系	〃
						E-8		加齢と老化	
19	10	3	水	2	〃	D-11		乳房	〃
						D-9	1)	生殖機能 ⑴構造と機能	
20		10	水	2	〃	D-9	2)～4)	生殖機能 ⑵診断と検査の基本 ⑶症　候 ⑷疾　患	〃
						D-10		妊娠と分娩	
21		17	水	2	〃	F-1		多選択肢形式 「症候から診断を問う」	〃
22		24	水	2	〃	F-2		基本的診療知識	〃
						F-3		基本的診療技能	
23		31	水	2	〃	D-1		血液・造血器・リンパ系	〃
						E-3		腫瘍	
24	11	7	水	2	〃	D-4		運動器（筋骨格）系	〃
						E-7		成長と発達	
	12	4	火	1					自　　習

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項　　目	授業形態
	12	4	火	2					自　　習
25				3	全　　員			CBT 受験の注意	C B T
						B-2	1）	死と法	
						E-9		人の死	
26				4	〃	D E		順次解答４連問形式	〃
		5	水	1					自　　習
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		6	木	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		7	金	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃
		10	月	1					〃
				2					〃
				3					〃
				4					〃

循　環　器　病　学

Ⅰ．担当教員名

心臓・血管内科学	教　　授	三　浦　伸一郎	（科目責任者）
	准　教　授	小　川　正　浩	
	〃	白　井　和　之	（筑紫病院）
	講　　師	西　川　宏　明	（西新病院）
	〃	岩　田　　敦	
	〃	杉　原　　充	
	〃	北　島　　研	
	〃	池　　周　而	
	〃	桑　野　孝　志	
	〃	森　井　誠　士	
	非常勤講師	勝　田　洋　輔	
	〃	福　田　佑　介	（医療法人ふくだ内科循環器・糖尿病内科院長）
心臓血管外科学	教　　授	和　田　秀　一	（副責任者）
	助　　教	松　村　　仁	
	〃	峰　松　紀　年	
	〃	林　田　好　生	
	〃	寺　谷　裕　充	
	非常勤講師	安　永　　弘	（雪の聖母会　聖マリア病院　心臓血管外科診療部長）
総合医学研究センター	教　　授	朔　　啓二郎	
小　児　科	講　　師	吉　兼　由佳子	（筑紫病院）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

循環器疾患の総合的な臨床診断を下し、適切な治療方針を決定するために、その基本概念・病態生理、臨床症状、一般検査および循環器検査（心電図、心臓超音波など）の方法や結果の評価を修得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

Ⅰ．循環器疾患の疫学

１）主要循環器疾患の概念・病態生理・病型分類を説明し、症状・徴候・検査所見を総合的に評価・統合し、鑑別診断までの過程を説明できる。

２）循環器疾患の頻度や予後を説明できる。

３）循環器疾患の一次予防、二次予防の重要性を説明できる。

Ⅱ．循環器疾患の病態生理

１）心不全の病態生理とその対策を説明できる。

２）不整脈の発生機序と分類を列挙できる。

３）心筋虚血の病態生理とその臨床像を説明できる。

Ⅲ．主要循環器疾患の治療

１）主要循環器疾患の原因的治療・合併症とその対策・予後・予防について説明できる。

２）循環器疾患は他の臓器疾患との関連が深いので、臓器相関を考慮しながら、診断・治療を行うことの重要性を理解し、要点を列挙できる。

３）循環器疾患の薬物療法と薬物の作用機序を説明できる。

４）心臓手術の基本手技について説明できる。

５）心・脈管疾患の手術適応を理解し、手術法を説明できる。

６）術前・術後管理の基本について述べることができる。

７）心臓移植に関する医学的知識の概略を述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

講義内容をまとめたプリント、スライド・ビデオ提供。

・次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味や基本事項を理解しておくこと。

・講義内容をプリントなどを用いて復習し、習熟度を高めること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

期末の論述形式の試験

Ⅵ．**教科書**

１．高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第８版　医学書院　2002

２．杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第９版　朝倉書店　2007

３．森川昭廣、内山　聖、原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院　2006

Ⅶ．**参考書・文献**

１．高橋長裕：図解先天性心疾患　血行動態の理解と外科治療　第２版　医学書院　2007

２．小室一成　編：血管疾患を診る・治す　文光堂　2010

３．高尾篤良ほか　編：臨床発達心臓病学　改訂３版　中外医学社　2001

４．Dale Dubin：図解心電図テキスト　第６版　文光堂　2007

５．土居忠文：手にとるようにわかる心電図入門　ベクトル・コア　2005

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	6	金	3	朔	D-5	1)①⑥	循環器診断学総論	症候学、身体所見、総合診断	講義
2				4	北島	D-5	4)(1)①	循環器疾患の疫学、危険因子		〃
3		13	金	3	森井	D-5	1)③④	心電図－1	心筋の興奮とイオンチャネル、興奮伝播、心電図の成り立ち、電気生理学的検査	〃
4				4	〃	D-5	4)(3)	心電図－2	正常心電図、心電図異常	〃
5		20	金	3	桑野	D-5	4)(1)	心不全	左心不全、右心不全	〃
6				4	〃	D-5	4)(1)	〃	心不全の治療	〃
7		27	金	3	岩田	D-5	2)	心臓血管カテーテル法 心血管造影	心内圧、心血管造影	〃
8				4	〃	D-5	4)(2)(4)	心臓カテーテル検査シュミレーション		〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	5	24	木	3	三浦	D-5	4)(9)	血圧異常－1	高血圧の成因と診断	講義
10				4	〃	D-5	4)(9)	血圧異常－2	高血圧の治療、低血圧	〃
		25	金	3						自習
				4						〃
11		31	木	3	杉原	D-5	2)②	放射線診断　他	X線診断、CT、MR、シンチ	講義
12				4	〃	D-5	2)②	心臓超音波検査	心エコー、ドップラー法	〃
13	6	1	金	3	寺谷	F2	12)①	体外循環	人工心肺、PCPS、IABP	〃
14				4	吉兼	D-5	4)(6)	児、胎児循環、新生児	胎生期循環、小児心電図の特徴	〃
15		7	木	3	和田	D-5	4)(7)②③⑤	大動脈の外科	解離性大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、マルファン症候群、高安病	〃
16				4	白井	D-5	4)(4)	後天性弁膜症	MS, MR, TS, TR, AS. AR	〃
17		8	金	3	吉兼	D-5	4)(6)	先天性心疾患－1	非チアノーゼ性先天性心疾患	〃
18				4	〃	D-5	4)(6)	先天性心疾患－2	チアノーゼ性先天性心疾患	〃
19		14	木	3	松村	D-5	4)(7)④(8)①～③	末梢血管疾患	バージャー病、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、閉塞性動脈硬化症	〃
				4						自習
20		15	金	3	岩田	D-5	4)(2)	心筋虚血、狭心症	診断、治療	講義
21				4	西川	D-5	4)(2)	心筋梗塞	〃	〃
22		21	木	3	非常勤講師 福田	D-5	4)(5)	心筋疾患－1	肥大型心筋症、拡張型心筋症	〃
23				4	峰松	D-5	4)(4)	後天性弁膜症の外科	弁膜症の手術適応と術式	〃
24		22	金	3	林田	D-5	4)(2)①③⑥	虚血性心疾患の外科	CABG	〃
25				4	桑野	D-5		各種疾患の循環器異常	内分泌疾患、貧血、妊娠、高齢者	〃
26		28	木	1	小川	D-5	4)(3)	臨床不整脈－1	不整脈疾患の分類と治療 徐脈性不整脈	〃
27				2	〃	D-5	4)(3)	臨床不整脈－2	不整脈疾患の分類と治療 頻脈性不整脈	〃
28				3	池	D-5	4)(5)④	心内膜、心膜疾患	心膜炎、感染性心内膜炎	〃
29				4	〃	D-5	4)(5)	心筋疾患－2	心筋炎、心臓腫瘍	〃
30		29	金	3	非常勤講師 勝田	D-5	4)(1)(2)	心臓リハビリテーション	運動負荷試験、運動療法	〃
31				4	非常勤講師 安永	D-5	4)(6)	先天性心疾患	先天性心疾患の手術適応	〃
	7	9	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

麻　酔　科　学

Ⅰ．担当教員名

麻酔科学　教　授　山浦　健（科目責任者）
准教授　東　みどり子
講　師　平田和彦（筑紫病院）
〃　重松研二（手術部）
助　教　廣田一紀
〃　岩下耕平（手術部）
〃　安部伸太郎
非常勤講師　生野愼二郎（福岡赤十字病院麻酔科部長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．麻酔について理解する。
2．全身管理について理解する。
3．疼痛について理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．全身麻酔と局所麻酔の違いについて説明できる。全身麻酔について鎮静との違いも含めて説明できる。
2．気道・呼吸管理について説明できる。
3．4．循環管理、輸液・輸血について説明できる。
5．バイタルサイン・生体情報モニタリングについて説明できる。
6．止血・凝固および深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症について説明できる。
7．全身麻酔薬・鎮静薬・筋弛緩薬・オピオイドについて説明できる。
8．局所麻酔について方法、麻酔薬、合併症を説明できる。
9．各科麻酔について説明できる。
10．アナフィラキシーショックについて説明できる。集中治療について説明できる。
11．痛みについて急性痛、慢性痛、がん性疼痛について説明できる。
12．周術期の医療安全について説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．配布する教科書に基づく講義

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

1．客観試験

Ⅵ．教科書

1．指定無し

Ⅶ．参考書・文献

1．Miller’s Anesthesia　ガイトン生理学

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	30	水	3	山浦	F-2	9)(2) 10)	麻酔科学概説	麻酔の概念、生体防御	講義
2				4	重松	F-2	10)	気道・呼吸管理	気管確保法、人工呼吸、呼吸モニタリング	〃
3	6	6	水	3	山浦	D-5 F-2	1) 10)	循環管理	臓器の循環調節、血圧調節、心機能曲線、心拍出量、循環モニタリング	〃
4				4	岩下	D-6 F-2	4)(4) 9)(2) 13)	体液・代謝管理	輸液、輸血、危機的出血、肺血栓塞栓症、栄養、蛋白異化、低体温	〃
5		13	水	3	東	F-2	9)(2) 10)	バイタルサインモニタリング	安全な麻酔のためのモニタリング	〃
6				4	安部	F-2	9)(2) 10)	術前評価	周術期のリスク、服薬管理の必要性とそれに伴うリスク、ERAS	〃
7		20	水	3	非常勤講師 生野	F-2	10)	全身麻酔	麻酔薬（吸入麻酔と静脈麻酔）筋弛緩薬、悪性高熱症	〃
8				4	平田	F-2	10)	局所麻酔	局所麻酔薬、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所麻酔薬中毒	〃
9		27	水	3	東	F-2	10)	各科手術の麻酔	心臓血管外科手術、脳外科手術、産科手術	〃
10				4	重松	E-2 F-2	1) 9)(2)	集中治療	敗血症、アナフィラキシーショック	〃
11	7	4	水	3	廣田	F-2	10)16)	ペインクリニック緩和ケア	術後痛、慢性痛、緩和ケア	〃
12				4	山浦	A-6 F-2	1)～3) 10)	周術期の医療安全	医療安全、感染対策、電気安全、医療ガス	〃
		17	火	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

泌　尿　器　科　学

Ⅰ．担当教員名

泌尿器科学	教　　授	田中正利（科目責任者）
	准教授	松岡弘文（副責任者）
	〃	石井　龍（筑紫病院）
	講　　師	中村信之
	〃	入江慎一郎
	助　　教	古屋隆三郎
	〃	松﨑洋吏
	〃	平　浩志（筑紫病院）
	〃	宮島茂郎（　〃　）
病理学	准教授	上杉憲子
	講　　師	林　博之

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

腎・尿路系および男性生殖器系疾患を正しく診断し適切に治療するために、腎・尿路系および男性生殖器系の正常な解剖と機能、病態生理、診断法と治療に関する知識を修得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．腎血管性疾患の原因を述べ、診断法とその病態生理学的根拠、治療法を説明できる。
2．腎・泌尿器・男性性器の循環障害疾患を列挙し、病態生理、診断、治療について説明できる。
3．膀胱尿管逆流・逆流性腎症の原因、病態生理、診断、治療について説明できる。
4．腎・泌尿器・男性性器の感染性疾患を列挙し、原因、病理、診断、治療について述べることができる。
5．尿路閉塞の原因疾患を列挙し、閉塞による腎障害の病態生理を説明できる。
6．閉塞性尿路疾患を部位別に列挙し、それぞれの症状、診断、治療について述べることができる。
7．腎・泌尿器・男性性器の腫瘍を列挙し、それぞれの原因、頻度、好発年齢、病理、病期分類、腫瘍型、転移経路、腫瘍マーカー、症状、診断、進展度判定法、治療方針、具体的な治療方法について述べることができる。
8．腎・泌尿器・男性性器の主たる先天異常を列挙し、それぞれの発生機序、症状、合併症、診断法、治療法について述べることができる。
9．腎・泌尿器・男性性器の臓器損傷を列挙し、症状、診断、治療、特に初期治療および後遺症について述べることができる。
10．正常の排尿機構を述べ、排尿機能検査法とその意義について説明できる。
11．神経因性膀胱を分類し、その原因、病態、症状、合併症、診断と治療について述べることができる。
12．腎・尿路結石症の原因、症状、診断、合併症、治療法および再発予防について説明できる。
13．性の分化と性成熟およびその異常について原因、病態、症状、診断、治療について述べることができる。

14．男性性腺の発生と生理、性機能不全について定義、病態、診断および治療を述べることができる。
15．泌尿器科に関連する内分泌疾患の手術適応の決定、術前・術後の管理について述べることができる。
16．泌尿器科領域悪性腫瘍の化学・内分泌療法について薬剤の選択と使用法、治療効果、合併症とその対策について述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

・Ｍ４の日常学習は講義用テキスト・参考書（下記）による予習・復習を原則とする。
・休暇中（夏・春）の研修は歓迎する。カンファレンス、抄読会、泌尿器科的検査、手術あるいは実験等に参加することができる。
・学習方法について具体的な要望があれば内容により個別に相談に応じる。
・遅刻・欠席をした講義内容については各自責任を持って修得することとする。

〈事前事後学習の方法〉

・講義範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
・講義の最初に前回講義内容に係わる小テストを実施することがあるので、復習しておくこと。
・講義テキストを中心に、参考図書も利用して、泌尿器科学の要点を復習すること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

１．理解度をより詳細に評価するために主として記述試験を行う。
２．講義時間帯に医学用語を中心に小テストを行うことがある。
３．講義への出席回数については学則に従うが、出席点を考慮することもある。
４．試験は講義範囲とし、事前の問い合わせには応じない。

Ⅵ．**教科書**

教科書は特に指定しない。下記の参考書あるいは市販のものから選択してよい。
ポケットサイズ、試験対策本、まとめ等は不適。

Ⅶ．**参考書・文献**

赤座英之　監修：並木幹夫、堀江重郎　編：標準泌尿器科学　第９版　医学書院　2014
吉田　修　監修：ベッドサイド泌尿器科学　改訂第４版　南江堂　2013
吉田　修　監修：新図説泌尿器科学講座　メジカルビュー社　1999
日本臨床腫瘍学会　編：新臨床腫瘍学　改訂第４版　南江堂　2015
医療情報科学研究所　編：病気がみえる　vol. 8　腎・泌尿器　第２版　Medic Media　2014
McAninch, J. W. et al : Smith & Tanagho’s General Urology（第18版）McGraw-Hill　2013
A. J. Wein. et al : Campbell-Walsh Urology（第11版）Elsevier　2016
Pollack, H. M. et al : Clinical Urography（第２版）W. B. Saunders　2000
Docimo, S. G. et al : Clinical Pediatric urology（第５版）Informa　2007

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	24	木	1	田中	D-8	4)(5)① 4)(8)②	尿路性器感染症(1)	単純性と複雑性尿路感染症、前立腺炎	講義 スライド・資料併用
2				2	古屋	E-2	4)(4)	尿路性器感染症(2)	性感染症（STI）と特異的感染症、感染制御	〃
3		28	月	1	松岡	D-8	4)(7)①	腎・尿路先天異常(1)	腎・尿管の発生、腎形成異常、馬蹄鉄腎、海綿腎、腎嚢胞性疾患、重複尿管、尿管瘤、尿管異所開口	〃
4				2	石井	D-8 D-12	4)(8)① 4)(3)②	尿路結石・副甲状腺外科	成因、結石組成、高カルシウム尿症、感染結石、上皮小体機能亢進症、代謝結石、治療と疾病予防	〃
5		31	木	1	入江	D-8 D-9 F-1	1)② 2)① 3)(2)③ 4)(1)③ 29)	腎・性器循環障害	血尿、精索静脈瘤、ナットクラッカー現象	〃
6				2	平	D-8	1)②～⑦ 2)① 4)(1)①②	尿路閉塞	閉塞性疾患と腎障害	〃
7	6	4	月	1	田中	D-8	4)(9)①	腎細胞癌	腎細胞癌、画像診断、腹腔鏡手術	〃
8				2	松岡	D-8 D-9 D-12	4)(7)① 4)(1)③ 4)(10)③	腎・尿路先天異常(2)	下部尿路の発生、膀胱外反症、尿膜管開存、 尿道下裂、停留精巣、陰嚢水瘤、精索捻転症、小児尿路性器腫瘍	〃
9		7	木	1	中村	D-8 D-9	4)(7)② 3)(1)①	腎・尿路・性器損傷	腎損傷、尿管損傷、膀胱損傷、膀胱腟瘻、尿道損傷、男子性器損傷、持続勃起症	〃
10				2	宮島	D-8 F-1	1)②⑧ 2)④ 3)(3)④ 4)(8)③ 28)	神経因性膀胱	排尿機構と神経学、排尿機能検査と排尿管理学	〃
11		11	月	1	松岡	D-9 D-12	1)①～④ 3)(1)② 4)(4)④	性分化異常	性分化と内性器・外性器の異常、性別不明瞭児と性の決定	〃
12				2	松﨑	D-9	1)③～⑤ 3)(1)	男性性機能	男性性腺の生理、男性性機能不全	〃
13		14	木	1	上杉	D-8	4)(1)①② 4)(5)	病理　腎・泌尿器(1)	急性及び慢性腎不全、腎盂腎炎、間質性腎炎、膀胱炎、尿路の感染症の特徴	〃
14				2	林	D-8	4)(9)	病理　腎・泌尿器(2)	腎腫瘍、腎盂腫瘍、膀胱腫瘍	〃
15		18	月	1	松岡	D-8	4)(7)①	膀胱尿管逆流症　他	膀胱尿管逆流、逆流性腎症の病理	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
16	6	18	月	2	中村	D-8	4)(1)⑥	腎不全と腎移植	自家腎・同種腎移植、ドナー、レシピエント、組織適合性、拒絶反応、免疫抑制剤、臓器移植法、生命倫理	講義スライド・資料併用
						F-2	13)⑤			
17		21	木	1	入江	D-8	1)② 4)(9)②	尿路上皮癌（腎盂･尿管･膀胱）	尿細胞診、手術、尿路変向術、化学療法	〃
18				2	田中	D-9	2)(1) 4)(1)②	前立腺肥大症	前立腺肥大症、前立腺触診、経直腸超音波検査、手術方法と術中・術後合併症	〃
19		25	月	1	〃	D-9	4)(3)①	前立腺癌	前立腺癌、前立腺生検、PSA、ホルモン療法	〃
20				2	入江	C-4	4)①②	腎血管性疾患	腎梗塞、腎動脈瘤、腎動静脈瘻	〃
						D-8	1)②			
21	7	2	月	1	林	D-9	4)(1)	病理　男性生殖器	男性器の発育異常、不妊症、炎症、精巣腫瘍、前立腺癌と肥大症	〃
22				2	石井	D-9	4)(3)②	精巣腫瘍・陰茎癌・後腹膜腫瘍	組織分類、マーカー、化学療法、後腹膜リンパ節郭清	〃
		11	水	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

検　査　診　断　学

Ⅰ．担当教員名

臨床検査医学	教　　授	松　永　　彰（科目責任者）
	准　教　授	大久保　久美子
	助　　教	小　牧　　智
総合診療部	教　　授	鍋　島　茂　樹
腫瘍・血液・感染症内科	准　教　授	田　中　俊　裕

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome)

検査方法、適応と解釈を学び、臨床検査を診療に有効に活用する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

１）臨床検査の基準範囲、病態識別値の意味を説明する。
２）検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、陽性的中率、尤度比）を説明する。
３）尿検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
４）糞便検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
５）末梢血液検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
６）血液凝固検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
７）血液生化学検査項目を列挙し、主たる項目につき、検査方法を説明する。
８）血液生化学検査診断の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
９）免疫血清学的検査の主たる項目につき、検査方法を説明する
10）免疫血清学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
11）ホルモンの構造・機能、分泌動態、疾患との関連を説明する。
12）腫瘍マーカー検査の目的、適応、感度、特異度を説明する。
13）一般細菌の塗沫・培養法、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
14）ウイルス検査、抗体検査を説明する。
15）遺伝子検査の概要を説明し、主たる項目の目的、適応を述べ、結果を解釈する。
16）心電図検査および心臓超音波検査の基本事項を説明する。
17）検査の誤差、生理的変動を説明する。
18）正しい検体採取方法と、不適切な採取を行ったときの検査値の異常を判断する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

１）教科書、講義テキスト、プリントによる講義
２）検査値の判読演習
３）Reversed clinico-pathological conference
４）指定した教科書の該当項目を事前に読んで理解する。
５）講義テキストで毎回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を含めて理解する。
６）講義後、教科書、講義テキスト、プリントを読み直して理解する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

１）出席、授業態度

２）講義中のレポートおよび小テスト

３）筆記試験

筆記試験にて60点以上を可とする。出席、授業態度、レポート、小テストの状況にて適時減点する。

Ⅵ．教科書

河合　忠　監修；山田俊幸、本田孝行　編集：異常値の出るメカニズム　第７版　医学書院

高木　康、山田俊幸　編集：標準臨床検査医学　第４版　医学書院

内科学の教科書（いずれでもよい）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	25	金	1	松永	F-2	3)①～⑧	検査の基本	検査の特性、尿検査	講義
2				2	〃	F-2	3)⑧	血液化学検査(1)	血清蛋白、窒素化合物	〃
3	6	1	金	1	田中	F-2	3)⑧	血液検査(1)	赤血球系	〃
4				2	〃	F-2	3)⑧	血液検査(2)	白血球系、血小板系、凝固・線溶系	〃
5		8	金	1	大久保	F-2	3)⑧	酵素検査(1)	トランスアミナーゼ、ALPと骨代謝マーカー	〃
6				2	〃	F-2 F-3	3)⑦⑧ 4)①	酵素検査(2) 血液化学検査(2)	LD、CK、アミラーゼ、糖代謝	〃
7		15	金	1	松永	F-2	3)⑭⑮	血液化学検査(3)	血清電解質と血液ガス検査	〃
8				2	〃	F-2	3)⑧⑪	血液化学検査(4)	免疫血清検査、脂質	〃
9		22	金	1	大久保	F-2	3)⑧	ホルモン検査(1)	ペプチドホルモン	〃
10				2	〃	F-2	3)⑧	ホルモン検査(2)	甲状腺ホルモン、ステロイドホルモン	〃
11		29	金	1	鍋島	F-2	3)⑬	微生物検査(1)	検体採取、細菌培養、抗菌剤感受性	〃
12				2	〃	F-2	3)⑬	微生物検査(2)	結核検査、ウイルス検査、抗体検査	〃
13	7	6	金	1	小牧	F-2	3)⑫	循環器検査(1)	心電図、心臓超音波検査	〃
14				2	〃	F-2	3)⑫	循環器検査(2)	心電図判読演習、心臓超音波検査の実際	〃
15				3	大久保	F-2 C-4	3)⑨ 1)①～④⑦	遺伝学的検査（遺伝医療）	遺伝学的検査（遺伝医療）	〃
16				4	松永	F-2 F-3	3)⑦ 4)①	検査値の変動 検査診断	Reversed clinico-pathological conference	〃
		23	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

耳 鼻 咽 喉 科 学

Ⅰ．担当教員名

耳鼻咽喉科学	教　　授	坂 田 俊 文（科目責任者）
	講　　師	末 田 尚 之（副責任者）
	〃	竹 内 寅之進
	助　　教	大 西 克 樹
	〃	佐 藤 　 晋（筑紫病院）
	〃	妻 鳥 敬一郎
	言語聴覚士	永 田 里 恵
	非常勤講師	白 石 君 男（福岡大学客員教授）
	〃	深 浦 順 一（国際医療福祉大学教授）
	〃	山 野 貴 史（福岡歯科大学教授）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．耳、鼻、副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頸部の正常解剖と生理機能 、加齢変化、疾患、診断、治療を学ぶ。
2．高齢者の生理的な機能低下、機能障害とその対応について学ぶ。
3．耳鳴の治療を通して、慢性症状に悩む患者に対する診療姿勢を学ぶ。
4．社会における耳鼻咽喉科の存在意義を学ぶ。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．耳、鼻、副鼻腔、口腔、咽頭、喉頭、気管、食道、頸部の正常解剖と生理機能を説明できる。
2．上記1．の領域に起こる加齢変化とその対応を説明できる。
3．聴覚、平衡、嗅覚、味覚、音声、嚥下の基本検査を説明できる。
4．難聴、耳鳴、めまい、鼻閉、鼻漏、嗄声、呼吸困難、顔面神経麻痺、頸部腫脹を起こす主要疾患とその特徴を説明できる。
5．画像診断で上記1．の領域に起こる病変を説明できる。
6．上記1．の領域で行う外科的治療、内科的治療、精神科的治療の内容と適応を列記できる。
7．耳鼻咽喉科の社会的存在意義を、聴覚障害や音声・言語障害などのコミュニケーション障害や嚥下障害などから説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

・講義へ出席し、聴講する。
・授業開始時に配布した用紙に予習で生じた疑問点を1つ記載し、授業終了後に解答を簡潔に記し提出する。
・配布した講義テキストと購入した指定参考書で自主学習する。
・用意された臨床症例からシミュレーション学習で知識を補完する。
・復習する過程で生じた疑問点を信頼できる情報源によって解決する。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

論述試験、客観試験により評価する。

講義への出席、学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**成績評価の基準および方法**（Evaluation）

１．論述試験、客観試験により評価する。

２．講義への出席状況、学習態度も評価の対象とする。

Ⅵ．**教科書**

洲崎春海　他：SUCCESS 耳鼻咽喉科　第２版　2017

※Ｍ６まで使用するので必ず購入すること

Ⅶ．**参考書・文献**

森満　保：イラスト耳鼻咽喉科　2012

野村恭也　他：新耳鼻咽喉科学　2013

高橋茂樹　他：STEP 耳鼻咽喉科　2013

※上記以外の教科書、参考書についても、2010年以降の出版物に限る。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード（教科書対応ページ）	授業形態
1	5	28	月	3	坂田	D-14		耳鼻咽喉科頭頸部外科	耳鼻咽喉科概説、脳神経	講義
2				4	〃	D-14	1)2)①	聴覚耳科基礎聴力検査	聴器の形態と生理 聴力検査（3－16、20－29）	〃
3		29	火	1	妻鳥	D-14	1)①4)	耳科学各論１	外耳、中耳疾患１（42－57）	〃
4				2	〃	D-14	1)①4)	耳科学各論２	外耳、中耳疾患２（42－57）	〃
5	6	4	月	3	坂田	D-14	2)①4)	耳科学各論３	聴力検査、感音難聴（22－29、40－41、58－65、73－76）	〃
6				4	〃	D-14	1)3)4)	耳科学各論４	小児難聴と言語の発達、人工内耳（22－29、40－41、58－65、73－76）	〃
7		5	火	1	佐藤	D-14	1)2)4)	鼻・副鼻腔基礎	鼻・副鼻腔の解剖、生理（87－126）	〃
8				2	〃	D-14	1)2)4)	鼻・副鼻腔各論	鼻・副鼻腔疾患と腫瘍、鼻アレルギー（87－126）	〃
9		11	月	3	坂田 （永田）	D-14	1)3)4)	言語聴覚士について	言語聴覚士の役割	〃
10				4	非常勤講師 深浦	D-14	1)3)4)	音声、嚥下障害の言語聴覚療法	音声、嚥下障害の言語聴覚療法、リハビリテーション	〃
11		12	火	1	竹内	D-14 F-1	1)3)4) 19)	音声、嚥下基礎	音声、嚥下の解剖、生理と検査（140－141、157－165）	〃
12				2	非常勤講師 山野	D-14 F-1	1)3)4) 19)	音声、嚥下各論	音声、嚥下障害（140－141、157－165）	〃
13		18	月	3	妻鳥	D-14	1)2)3)4)	平衡基礎、検査	平衡器官の解剖・生理、平衡検査と聴覚検査（16－19、22－41）	〃
14				4	〃	D-14 F-1	1)2)3)4) 9)	平衡各論、顔面神経	平衡障害、顔面神経の解剖と検査、麻痺、リハビリ（66－72、10、77－83）	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード（教科書対応ページ）	授業形態
15	6	19	火	1	非常勤講師 白石	D-14	1)2)3) 4)	聴覚各論	難聴者の聴覚管理	講義
16				2	大西	D-14	3)(1) 4)(1)	救急疾患	鼻出血、呼吸困難、異物、急性炎症（106−108、182−188）	〃
						F-1	15)			
17		25	月	3	竹内	D-14	1)4)	頭頸部疾患１	口腔咽頭唾液腺の解剖、生理（133−144）	〃
18				4	〃	D-14	1)4)	頭頸部疾患２	口腔咽頭唾液腺疾患、味覚障害（127−129、145−151）	〃
19		26	火	1	末田	D-14	1) 4)(2)	頭頸部腫瘍総論	化学療法、再建外科	〃
20				2	〃	D-14	1) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論１	咽頭、喉頭腫瘍、口腔悪性腫瘍（152−154、173−176）	〃
21	7	2	月	3	〃	D-14	1) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論２	甲状腺腫瘍、頸部腫瘍、その他悪性腫瘍（189−205）	〃
22				4	〃	D-14	1) 4)(2)	頭頸部腫瘍各論３	口腔唾液腺腫瘍、悪性リンパ腫（154−156、205）	〃
23		3	火	1	坂田	D-14		耳鼻咽喉科の最近のトピック	耳鼻咽喉科と心身医学	〃
24				2	〃	D-14		〃	耳鼻咽喉科領域の先端科学	〃
		13	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

救 命 救 急 医 学

Ⅰ．担当教員名

救命救急医学	教　　授	石　倉　宏　恭（科目責任者）
	准 教 授	岩　朝　光　利
	講　　師	喜多村　泰　輔
	〃	川　野　恭　雅
	〃	星　野　耕　大
	助　　教	入　江　悠　平
	〃	宮　川　幸　子（地域医療管理学講座）
	〃	外　間　　亮
	〃	矢　野　雅　也
脳神経外科学	助　　教	松　本　徳　彦
	非常勤講師	小　谷　穣　治（神戸大学大学院医学研究科外科系講座　救急医学　教授）
	〃	友　尻　茂　樹（福岡赤十字病院　救急部・集中治療部　部長）
	〃	梅　村　武　寛（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター救命救急センター長）
救　急　科	准 教 授	松　尾　邦　浩（筑紫病院）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．わが国と諸外国の救急医療システムについて理解する。
2．重症救急疾患における侵襲と生体反応の生理と管理について理解する。
3．重症救急患者の初期管理、集中治療管理について理解する。
4．集団災害医療における医師の役割について理解する。
5．各種救命救急疾患の管理について理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．わが国と諸外国の救急医療システムについて説明できる。
2．重症救急疾患における侵襲と生体反応の生理と管理について説明できる。
3．重症救急患者の初期管理、集中治療管理について説明できる。
4．集団災害医療における医師の役割について説明できる。
5．各種救命救急疾患の管理について説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

・教科書に基づく議論を行う。
・スライド、ビデオを使用する。
・講義テーマ毎にシラバスを配付する。
・学生との質疑応答を取り入れた講義を中心とする。
・指定した教科書を事前に読んでおく。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

多肢選択および記述式試験による。

Ⅵ. 教科書

日本救急医学会　監修：標準救急医学　第５版　医学書院　2014

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	5	29	火	3	石倉	B-1	7)	救急医学と救急医療システム	初期救急医療施設、第二次救急医療施設、第三次救急医療施設、救命救急センター、救急救命士、特定行為、ラリンゲルマスク、高規格救急車、一次搬送、二次搬送、ヘリ搬送、メディカルコントロール	講義
2				4	松本	G-3	4)	救急初療に必要な処置	気管挿管、静脈路の確保、中心静脈カテーテルの挿入、動脈カニュレーション、胃チューブ・胃洗浄、Sengstaken-Blakemore（S-B）チューブ、イレウス管、尿道留置カテーテル、心嚢穿刺、胸腔穿刺・胸腔ドレナージ、腰椎穿刺（髄液検査）、腹腔穿刺・腹腔洗浄、膀胱穿刺・膀胱瘻造設、止血、小切開、排膿、縫合、輸液・輸血、救急医薬品	〃
3	6	5	火	3	星野	D-7		消化器系救急疾患	急性腹症、消化管出血、腹部外傷	〃
4				4	松尾	G-3	4)	心肺蘇生法	Asystole（心静止）、PEA（無脈性電気活動）、VF（心室細動）、VT（心室粗動）、BLS、ACLS、除細動、5H 5T、心肺蘇生薬剤	〃
5		12	火	3	非常勤講師 小谷	C-4	4)	栄養	ショック 敗血症 DIC 免疫 栄養	〃
6				4	矢野	D-5		心血管系救急疾患、救急疾患の循環管理	急性冠症候群、心不全、致死性不整脈、急性動脈塞栓症、胸腹部大動脈救急疾患、高血圧緊急症、スワンガンツカテーテル、PCWP、CO、IABP、高度電解質異常、PCPS	〃
7		19	火	3	岩朝	D-2		中枢神経系の救急疾患	意識障害・JCS・GCS、脳卒中・脳血管障害、中枢神経系感染症、けいれん、頭部外傷、被虐待児症候群とドメスティックバイオレンス	〃
8				4	非常勤講師 友尻	E-5		急性中毒	胃洗浄、活性炭、血液浄化、拮抗薬、アルカリ化,農薬・医薬品中毒・家庭用品中毒	〃
9		26	火	3	川野	F-2		集中治療医学の原則	多臓器不全、酸素運搬能、APACHE、肺保護療法、下位変曲点、ウィーニング	〃
10				4	非常勤講師 梅村	B-1	7)	市中病院の救急医療・集団災害医療、病院前救護体制（プレホスピタルケア）、救急医療に関する法律	一次・二次救急医療の現状、自然災害、人為災害、NBC災害、除染、災害拠点病院、トリアージ、DMAT、病院前診療、救急救命士、メディカルコントロール、救急医療に関する各種法律	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
11	7	3	火	3	川野	E-5		熱傷、化学損傷、電撃傷	熱傷の深度と範囲・初期輸液公式・全身管理・栄養管理・局所管理、化学損傷、電撃傷	講義
12				4	宮川	E-5		環境異常、溺水、窒息、その他	熱中症、偶発性低体温、凍傷、急性放射線障害、減圧症、窒息、溺水、高山病、酸欠症	〃
13		5	木	1	石倉	F-1	5)	敗血症性ショック、侵襲、生体反応、鎮静疼痛管理	SIRS、SEPSIS、DIC、サイトカイン、ストレス反応、体液変化、異化、先制鎮痛	〃
14				2	外間	F-1	5)	ショックの全身管理	循環血液量減少性ショック、心原性ショック、感染性ショック、神経原性ショック、アナフィラキシーショック	〃
15				3	入江	D-6		呼吸器系救急疾患、救急疾患の呼吸管理	低酸素血症、高炭酸ガス血症、急性呼吸不全、ALI、ARDS、肺炎、重症喘息、肺水腫、肺塞栓症、気胸、無気肺、フレイルチェスト、外傷性血気胸、肺挫傷、緊張性気胸、開放性気胸、心タンポナーデ	〃
16				4	喜多村	G-3	4)	外傷患者の初期治療	一次検索 primary surveyと二次検索 secondary survey、JATEC、Preventable Trauma Death（防ぎえた外傷死）、高エネルギー外傷、チーム医療、受傷機転と損傷部位、多発外傷	〃
		20	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

症候・病態学演習

Ⅰ．担当教員名

総合診療部	教　　授	鍋島茂樹（科目責任者）
	講　　師	堀端　謙
	助　　教	武岡宏明（博多駅クリニック）
	〃	増井信太
	〃	坂中博昭
神経内科学	助　　教	津川　潤
	〃	三嶋崇靖
内分泌・糖尿病内科	助　　教	濵之上暢也
呼吸器内科	講　　師	串間尚子
総合医学研究センター	教　　授	出石宗仁
医学教育推進講座	教　　授	安元佐和
	准教授	八尋英二
精神医学	准教授	尾籠晃司
	講　　師	衞藤暢明
総合周産期母子医療センター	講　　師	太田栄治
東洋医学診療部	助　　教	久保田正樹
皮膚科	助　　教	大賀保範
	非常勤講師	長尾哲彦（誠愛リハビリテーション病院院長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

今まで学習した基礎・臨床医学の知識を発展させ、より実践的な診断・治療の過程を修得するために、一般的疾患の症候とその病態を理解し、診断に必要な技術を履修し、今後臨床実習に必要な診療態度を身に付ける。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1）症候学・内科診断学・臨床推論の概念を説明できる。
2）主な症候・病態生理を説明できる。
3）症候・病態から診断に至るまでの過程を推論することができる。
4）鑑別診断とその根拠を列挙することができる。
5）診断に必要な身体診察・検査を実施することができる。
6）診断後の治療・処置等について的確に述べることができる。
7）精神科領域の症候学について概説できる。
8）診療現場での診療態度に配慮することができる。
9）東洋医学的症候・病態を概説できる。
10）小児の症候・病態について概説できる。

11）高齢者医療における症候・病態について概説できる。
12）皮膚科の症候・病態について概説できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１）各テーマの１限目：各症候・病態に関する講義
２）各テーマの２限目：Problem-based learning によるグループワーク
・教室内に班ごとに集まって座る。
・講師はテーマに関連する症例を、主訴・病歴・身体所見…というように実際の診療の流れに沿って提示する。その過程でどのように症候・病態・治療を考えるか、班ごとにディスカッションし、発表をすることにより、実際の診療の流れを理解する。
・場合によってはロールプレイや模擬患者によるシミュレーションを行うこともあり得る。
・講師は最後にその症例に関連する症候・病態・治療について説明する。
・以上は、講義の第１日目「概論」において詳述する。

〈事前事後学習の方法〉

１）事前にその講義のテーマとなる症候・病態に関して予習をする。
２）講義の前後に小テストを行うことがある。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

客観試験＋論述試験。小テストも参考にする。

Ⅵ．**教科書**

１）福井次矢・他　監修：ハリソン内科学　第5版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2017
２）高久史麿・他　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009
（以上、いずれか必ず持参すること）
３）杉本恒明、矢崎義雄　総編集：内科学　第９版　朝倉書店
４）内山　聖　監修：標準小児科学　第８版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

１）内科救急診療指針　日本内科学会　第１版　2011
２）福井次矢・他　監修：ベイツ診察法　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2015
３）福岡大学医学部同窓会：当直医パニックマニュアル　海馬書房　2010
４）金城紀与史・他　監修：身体診察シークレット　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2009
５）田崎義昭・他：ベッドサイドの神経の診かた　南山堂　2010
６）加藤裕久・他：ベッドサイドの小児の診かた　南山堂　2001
（以上、講義内容に応じて持参することが望ましい）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	22	水	3	鍋島	G-1		概論	内科診断学、症候学、オスラー博士、Problem-based lerning	講義
2		24	金	1	〃	F-1	19)～23) 25)	腹痛(1)	内臓痛、疝痛、関連痛、腹膜炎、急性腹症	T．B．L
3				2	〃	F-1	19)～23) 25)	腹痛(2)	〃	〃
4		29	水	3	安元	F-1	8)	小児科症候Ⅰ(1)	強直間代けいれん、部分発作、熱性けいれん、髄膜炎	〃
5				4	〃	E-2		小児科症候Ⅰ(2)	〃	〃
6		31	金	1	出石・八尋	F-1	16) 17)	胸痛・動悸(1)	冠動脈疾患、不整脈、胸膜疾患、骨筋肉疾患、感染症	〃
7				2	〃	F-1	16) 17)	胸痛・動悸(2)	〃	〃
8	9	5	水	3	坂中	F-1	7)	失神・意識障害(1)	不整脈、中枢神経疾患、内分泌代謝疾患、精神科疾患、感染症	〃
9				4	〃	F-1	7)	失神・意識障害(2)	〃	〃
10		7	金	1	三嶋	D-2	3) (1) (2)	歩行障害・不随意運動(1)	錐体外路系疾患、小脳性疾患	〃
11				2	〃	D-2	3) (1) (2)	歩行障害・不随意運動(2)	〃	〃
12		12	水	3	濵之上	D-12	4) (4)～(6)	血圧・血糖・脂質異常(1)	メタボリック症候群、低・高血糖、高脂血症	〃
13				4	〃	D-12	4) (4)～(6)	血圧・血糖・脂質異常(2)	〃	〃
14		14	金	1	増井	F-1	11)	浮腫(1)	全身性浮腫、局所性浮腫、脈管性浮腫、心不全	〃
15				2	〃	F-1	11)	浮腫(2)	〃	〃
16		19	水	3	太田	F-1	1) 12)	小児科症候Ⅱ(1)	乳児、発熱、発疹	〃
17				4	〃	F-1	15)	小児科症候Ⅱ(2)	新生児、呼吸障害	〃
18		21	金	1	串間	F-1	(13)～(15)	咳・痰・呼吸困難・血痰(1)	気管支炎、肺炎、心不全、気管支喘息、COPD、喀血	〃
19				2	〃	F-1	(13)～(15)	咳・痰・呼吸困難(2)	〃	〃
20		26	水	3	非常勤講師 長尾	D-12 E-5 F-1	 1)	電解質異常(1)	自由水、saline、細胞外液量、抗利尿ホルモン、レニン・アンジオテンシン系	〃
21				4	〃	D-12 E-5 F-2	 3) 11)	電解質異常(2)	〃	〃
22		28	金	1	武岡	F-1	1) 36)	発熱・関節痛(1)	不明熱、感染症、悪性疾患、膠原病、内分泌疾患、リウマチ性疾患	〃
23				2	〃	F-1	1) 36)	発熱・関節痛(2)	〃	〃
24	10	3	水	3	堀端	F-1	5)	救急症候(1)	ABCDE、敗血症、プライマリ・サーベイ	〃
25				4	〃	F-1	5)	救急症候(2)	〃	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
26	10	5	金	1	津川	D-2	1) (5) (6) 3) (1) (3)	運動・感覚障害、脊髄疾患、脳血管障害(1)	末梢神経・筋疾患・脳血管障害による症候	Ｔ．Ｂ．Ｌ
27				2	〃	D-2	1) (5) (6) 3) (1) (3)	運動・感覚障害、脊髄疾患、脳血管障害(2)	〃	〃
28		10	水	3	非常勤講師 長尾	E-8 F-1 F-2	1)	老年医学症候(1)	困難な病歴摂取と身体診察、不顕性症候、著しい個人差、生理機能低下、他疾患共存	〃
29				4	〃	E-8 F-1 F-2	1)	老年医学症候(2)	〃	〃
30		12	金	1	大賀	D-3	4) (1)～(7)	皮膚科症候(1)	丘疹、紅斑、紫斑、水疱、色素沈着、皮膚潰瘍	〃
31				2	〃	D-3	4) (1)～(7)	皮膚科症候(2)	〃	〃
32		17	水	3	久保田	F-2	8)	東洋医学症候(1)	証、気血水、陰陽、虚実、漢方方剤	講義
33				4	〃	F-2	8)	東洋医学症候(2)	〃	Ｔ．Ｂ．Ｌ
34		19	金	1	尾籠	D-15	3)②	精神科症候(1)	うつ、不安、認知症、せん妄、幻覚、妄想	〃
35				2	衞藤	D-15	2)② 3)①⑨	精神科症候(2)	意識障害の鑑別、救急の精神疾患、自殺の問題への対応	〃
36		26	金	1	鍋島	F-1	7)9)33)	頭痛・めまい・嘔気(1)	急性頭痛、慢性頭痛、耳性めまい、中枢性めまい、上部消化管疾患	〃
37				2	〃	F-1	7)9)33)	頭痛・めまい・嘔気(2)	〃	〃
	11	19	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

産 科 婦 人 科 学

Ⅰ．担当教員名

産科婦人科学	教　　授	宮 本 新 吾	（科目責任者）
	准 教 授	城 田 京 子	
	講　　師	伊 東 裕 子	
	〃	村 田 将 春	（総合周産期母子医療センター）
	〃	四 元 房 典	
	〃	宮 原 大 輔	
	〃	南　　星 旭	
	助　　教	讃 井 絢 子	（総合周産期母子医療センター）
	〃	荒 木 陵 多	
	〃	伊 東 智 宏	
	〃	倉 員 正 光	
	〃	勝 田 隆 博	
	〃	深 川 怜 史	
	〃	井 槌 大 介	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講　　師	吉 永 康 照	
	非常勤講師	加 藤 聖 子	（九州大学医学部生殖病態生理学教授）
	〃	詠 田 由 美	（IVF 詠田クリニック院長）
	〃	小 濱 大 嗣	（井槌病院）
	〃	長 沼 康 子	（長沼医院）
	〃	日 髙 直 美	
	〃	髙 橋 庸 子	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

産婦人科の対象臓器は子宮や卵巣などの生殖臓器であり、産科婦人科学は、大きく生殖内分泌学、周産期医学、婦人科腫瘍学の３領域に分けられる。生殖系の構造と機能を理解し、妊娠、分娩中の母児と産褥期の母体の管理をするための基礎的知識とともに、女性生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識をそれらの領域に亘って学習する。また、女性のライフサイクルにおける生活の質の向上（QOL）の方策や保健行政についても理解を深める。これらを完全に消化することによって、Ｍ５における BSL での臨床実習の学習効果を高めることができる。さらに、産婦人科の対象臓器に加えて乳腺にも着目し、近年急増している乳癌について、病態、診断、治療について学習し、適切な対応が出来るようになることも目標のひとつとする。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．構造と機能

到達目標：

１）生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。

２）女性生殖器の発育と過程を説明できる。
３）女性生殖器の位置と形態を図示できる。
４）卵巣の組織構造と排卵のメカニズムを説明できる。
５）性周期発現の機序と子宮内膜の性周期変化を説明できる。
６）乳癌の診断について説明でき、病態にあった治療法を説明できる。

２．妊娠・分娩・産褥

①正常妊娠・分娩・産褥

到達目標：

１）妊娠、分娩と産褥での母体の解剖学的および生理学的変化を説明できる。
２）胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的変化を説明できる。
３）正常妊娠の経過を説明できる。
４）正常分娩の経過を説明できる。
５）子宮復古の過程を説明できる。
６）乳房・乳腺の妊娠中と授乳期での変化を説明できる。

②異常妊娠・分娩・産褥

到達目標：

１）代表的な異常妊娠（流産、子宮外妊娠、胞状奇胎、妊娠中毒症）の病態を説明できる。
２）代表的な異常分娩（早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）の病態を説明できる。
３）代表的な異常産褥（子宮復古不全、乳腺炎）の病態を説明できる。

③産科的検査法

到達目標：

１）妊娠の診断法を説明できる。
２）胎児の発達と異常をモニターする超音波検査法の所見を説明できる。
３）胎児・胎盤検査法の意義と異常所見を説明できる。
４）分娩監視装置による検査法の意義と異常所見を説明できる。
５）羊水検査法の意義と異常所見を説明できる。

④産科手術

到達目標：

１）帝王切開術の適応と要約を説明できる。
２）子宮内容除去術の方法と合併症を説明できる。
３）人工妊娠中絶の適応を説明できる。
４）鉗子・吸引分娩術の適応と要約を説明できる。
５）骨盤位牽出術の方法と合併症を説明できる。
６）産科麻酔の特徴を概説できる。

３．女性性器疾患

①診断と検査の基本

到達目標：

１）腹部、外陰部の視診、触診所見を説明できる。
２）基礎体温の所見を説明できる。

３）血中ホルモン（ＦＳＨ、ＬＨ、プロラクチン、ｈＣＧ、エストロゲン、プロゲステロン）測定値を評価できる。
４）月経異常を病態から分類し、その原因を説明できる。
５）月経異常を呈する患者に必要な問診と診察と検査の要点を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
６）骨盤内臓器と腫瘍の画像診断（超音波断層法、Ｘ線ＣＴ、ＭＲＩ、子宮卵管造影）所見を概説できる。
７）膣分泌物の所見を説明できる。
８）子宮頸部、内膜の細胞診、組織診の所見を概説できる。
９）腫瘍マーカーの測定値の意味を説明できる。
10）更年期指数とその意義を説明できる。
11）思春期発現の機序と性徴を説明できる。

②疾患

到達目標：

１）卵巣と内外性器の先天異常を説明できる。
２）卵巣機能障害の原因、症候、身体所見と検査所見を説明できる。
３）不妊症の系統診断と治療を説明できる。
４）子宮腫瘍の症候、検査と治療を概説できる。
５）卵巣腫瘍の分類と症候、検査と治療を概説できる。
６）子宮内膜症の症状、検査と治療を説明できる。
７）外陰、膣、骨盤内感染症の症候、検査と治療を説明できる。
８）不正性器出血の鑑別診断、検査と治療を説明できる。
９）子宮頸癌と子宮体癌の症候、臨床進行期分類と治療を説明できる。
10）卵巣悪性腫瘍の症候、臨床進行期分類と治療を説明できる。
11）絨毛性疾患（胞状奇胎、絨毛癌）の診断、治療と管理を説明できる。
12）性行為感染症を列挙し、診断、治療と予防法を説明できる。

４．乳腺疾患

到達目標：

１）乳房の診察の要点を説明し、診察の手順を提示できる。
２）腋窩リンパ節の触診の手順を提示できる。
３）乳房の画像診断（マンモグラフィ、エコー、MRI）について所見を説明できる。
４）乳房と乳腺疾患について説明できる。
５）乳腺疾患の病理所見を説明できる。
６）乳癌の診断プロセスを理解し、確定診断の方法を説明できる。
７）乳癌の多様性を理解し、個別化した治療法を説明できる。
それぞれの病態にあった治療法を説明できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1　生殖内分泌学、周産期医学、婦人科腫瘍学および乳腺疾患について、病理学や外科学を含めたそれぞれの専門医が各専門領域の講義を担当する。

２　講義にはシラバス、スライド、教科書などを内容に則して効果的に使用し、実際の臨床現場での体験を含めて要点を教授する。
３　各疾患の病態を生理機序と対比させて理解を深めさせる。
４　より専門的で印象に残る充実した講義にするために、専門家による特別講義を設ける。
〈事前事後学習の方法〉
・指定した教科書の産科・婦人科領域について事前に読んでおくこと
・帰宅後復習すること
・重要な用語を英語で覚えること

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

各講義担当者による選別された筆記試験により、学習者の到達度を評価する。

Ⅵ．**教科書**

指定しない。

Ⅶ．**参考書・文献**

１）石塚文平ら編：NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療、永井書店（2006年）
２）武谷雄二・中野仁雄・矢嶋　聰　編集：New 産婦人科学改訂第２版、南江堂（2004年）
３）岡井崇・綾部琢哉　編集：標準産科婦人科学第４版、医学書院（2011年）
４）Cunningham ら編：Williams Obstetrics 24th Edition, Appleton & Lange（2014年）
５）日本乳癌学会編：乳癌診療ガイドライン、金原出版（2015年）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	23	木	1	非常勤講師 長沼	D-9	1）	婦人科内分泌学総論１ 女性の性機能	女性の加齢変化（思春期～更年期）、卵巣とその機能、避妊法	講義
2				2	〃	D-9	1）	婦人科内分泌学総論２	基礎体温と性周期、生殖臓器の周期性変化、思春期の無月経、１度、２度無月経、卵子の老化と不妊	〃
3		24	金	3	城田	D-9	2)3）	月経異常１	視床下部・下垂体性無月経、ホルモン検査、高プロラクチン血症	〃
4				4	伊東裕	D-9	2)3）	月経異常２	原発性・続発性無月経、月経周期の異常、PCO	〃
5		27	月	1	〃	D-9	1）	発生・生殖生理	性分化と生殖器奇形･生殖系の生理	〃
6				2	〃	D-9	2)3）	月経異常３	子宮内膜症、月経困難症	〃
7		30	木	1	城田	D-9 A-1	4） 1）	生殖医療と生命倫理	生殖補助医療の進歩、生命の誕生、バイオエシックス、生命倫理、医療倫理	〃
8				2	宮本	D-9	4）	産婦人科学系概説 婦人科治療学総論	骨盤臓器の解剖、手術療法、化学療法、放射線療法、医療倫理	〃
9		31	金	3	伊東智	D-9	4）	女性生殖器の病理１ (外陰、腟、子宮頸部)	外陰・腟の感染症と腫瘍、子宮頸癌、異形成	〃
10				4	非常勤講師 詠田	D-9	4）	不妊症	不妊症、排卵誘発、生殖補助医療（ART）	〃
11	9	3	月	1	宮原	D-9	4）	外陰と腟の腫瘍 子宮良性疾患の診断と治療	外陰腫瘍、腟腫瘍、子宮内膜症、子宮筋腫、ホルモン療法、手術療法	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	9	3	月	2	伊　東智	D-9	4)	女性生殖器の病理３(卵巣腫瘍)	卵巣腫瘍（漿液性腫瘍、粘液性腫瘍、奇形腫、未分化胚細胞腫瘍、卵黄嚢腫瘍、卵巣間質腫瘍、顆粒膜細胞腫、莢膜細胞腫）	講　義
13		6	木	1	南	D-9	4)	子宮頸部腫瘍の診断と治療	子宮腟部びらん、子宮頸部異形成、子宮頸癌、進行期、手術療法、放射線療法、化学療法	〃
14				2	〃	D-9	4)	女性生殖器の病理２（子宮体部）	子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜過形成、子宮内膜癌	〃
15		7	金	3	宮　本	D-9	4)	卵巣腫瘍の診断と治療	腫瘍マーカー、画像診断（超音波検査、CT、MRI）、進行期、手術療法、化学療法、医療経済	〃
16				4	井　槌	E-2	1)2)	感染症の診断と治療	性行為感染症、淋病、梅毒、クラミジア、外陰ヘルペス、尖圭コンジローマ、HIV感染症、後天性免疫不全症候群（AIDS）、化学療法	〃
17		10	月	1	非常勤講師 加　藤	D-9	4)	子宮体部腫瘍の診断と治療	子宮内膜増殖症、子宮内膜癌、進行期、手術療法、化学療法	〃
18				2	非常勤講師 髙　橋	D-9	4)	絨毛性疾患の病理、診断と治療	絨毛性腫瘍（胞状奇胎、絨毛癌）、胞状奇胎の管理、侵入奇胎、存続絨毛症	〃
19		13	木	1	吉　永	D-11	1)～3)	乳　房　1	乳腺の解剖、乳腺の病理、乳腺疾患の診断	〃
20				2	〃	D-11	4)	乳　房　2	乳腺の良性・悪性疾患	〃
21		14	金	3	村　田	D-10	1)～5)	産科学(周産期学)総論	周産期医療、新生児医療、周産期母子医療センター、MFICU、NICU、母体搬送	〃
22				4	非常勤講師 小　濱	D-10	3)	妊娠･分娩･産褥の生理とその管理(1)	妊娠の成立と維持、妊娠の診断と管理、胎児の発育、胎児付属物の役割、妊娠性母体変化、妊娠経過図	〃
23		20	木	1	勝　田	D-10	3)	妊娠･分娩･産褥の生理とその管理(2)	分娩の３要素、児頭の回旋、分娩進行の診断、分娩および産褥経過、分娩経過図、子宮復古、乳汁分泌機序、初乳、成乳、悪露、新生児の評価	〃
24				2	荒　木	D-10	3)4)	妊娠の異常	妊娠悪阻、流産、子宮外妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤、羊水過多症、羊水過少症、臍帯の付着部異常	〃
25		21	金	3	〃	D-10	3)4)	子宮収縮と早産管理	子宮収縮のメカニズム、陣痛発来機序、陣痛モニター、切迫早産、前期破水	〃
26				4	非常勤講師 日　髙	D-10	4)	偶発合併症妊娠(1)	糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺機能異常合併妊娠	〃
27		27	木	1	村　田	E-7	1)	胎児異常	胎児診断、胎児治療、周産期医療、臨床遺伝、産婦人科	〃
28				2	荒　木	D-10	4)	偶発合併症妊娠(2)	子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮頸癌、心疾患、血液疾患、精神疾患	〃
29		28	金	3	讃　井	D-10	4)	陣痛・産道の異常	微弱陣痛、過強陣痛、児頭骨盤不均衡（CPD）	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
30	9	28	金	4	村田	D-10	4)	多胎妊娠	多胎妊娠、分娩、双胎間輸血症候群	講義
31	10	1	月	1	深川	D-10	4)	難産と分娩異常	難産の診断と管理、胎位・胎勢の異常、進入の異常、回旋の異常	〃
32				2	讃井	D-10	4)	母子感染、血液型不適合妊娠	TORCH症候群、B型肝炎、成人T細胞白血病、AIDS、血液型不適合妊娠、新生児重症黄疸	〃
33		4	木	1	四元	D-10	4)	妊娠高血圧症候群と胎児・胎盤機能不全	妊娠高血圧症候群の定義、分類、病因、管理、胎盤機能不全、子宮内発育遅延、胎児機能不全と新生児仮死、脳神経後遺症	〃
34				2	倉員	D-10	1)3)5)	染色体異常	染色体異常	〃
35		5	金	3	四元	D-10	4)5)	分娩時の母体損傷と異常出血	子宮破裂、子宮内反、頸管裂傷、弛緩出血、癒着胎盤、産科ショックとDIC	〃
36				4	勝田	D-10	4)	胎児・胎盤系とその機能検査法	胎児心拍数モニタリング、超音波断層法、胎児バイオフィジカルプロファイル　スコア	〃
37		11	木	1	深川	D-10	4)	産褥・新生児の異常	子宮復古不全、産褥熱、乳汁分泌不全、産褥期精神機能不全、ハイリスク新生児、先天異常	〃
38				2	倉員	D-10	3)5)	産科治療学と母子保健	産科における薬物療法、頚管拡張術、子宮内容除去術、母体保護法、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術、産科麻酔、母子保健	〃
	11	16	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

小　児　医　学

Ⅰ．担当教員名

小児科学	教　授	廣瀬伸一	（科目責任者）
	〃	小川　厚	（筑紫病院）
	准教授	井上貴仁	（西新病院）
	講　師	太田栄治	（総合周産期母子医療センター）
	〃	野村優子	（副責任者）
	〃	石井敦士	
	〃	吉兼由佳子	（筑紫病院）
	〃	鶴澤礼実	（　〃　）
	助　教	中村公紀	（総合周産期母子医療センター）
	〃	橋本淳一	（筑紫病院）
	〃	藤田貴子	
	〃	井原由紀子	
	〃	堤　信	（筑紫病院）
	〃	橋口千鶴	
	〃	瀬戸上貴資	（総合周産期母子医療センター）
	〃	山﨑靖人	（西新病院）
	〃	宮本辰樹	（総合周産期母子医療センター）
	〃	伊藤創太郎	
	〃	佐々木聡子	
医学教育推進講座	教　授	安元佐和	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准教授	廣瀬龍一郎	（総合周産期母子医療センター）
	助　教	稲富香織	（　〃　）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

総合的臨床医学としての小児診療の基本を理解するために、必要な知識を習得する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．小児疾患の主な症候を理解し、症候から考えられる診断名をあげることができる。
2．主な疾患の病態生理を説明することができる。
3．主な疾患の治療方針を述べることができる。
4．疾患と心理、社会的問題との関係について実例をあげることができる。
5．発達と疾患との関係を説明することができる。
6．臓器相互間の関係を説明することができる。
7．新生児の生理、発達を理解し、主な疾患の診断、治療、予後を述べることができる。
8．主な外科的疾患をあげることができる。
9．外科療法をおこなう疾患について、その適用と治療の概略を述べることができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

１．教科書、板書中心の講義とする。

２．指定した教科書を事前に読んでおくこと。

３．毎回授業の最後に授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

論述試験＋客観試験

開始テストの結果を参考とする（必ず受験のこと）

Ⅵ．**教科書**（必ず持参すること）

森川昭廣、内山　聖、原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院

Ⅶ．**参考書・文献**

Behrman: Nelson Textbook of Pediatrics　Saunders

廣瀬伸一　編著：医師国家試験のためのサマリーブック小児科　㈱海馬書房　2009

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	23	木	3	廣瀬伸			開始テスト		テスト
2				4	井上	E-7	2)①～③ 3)①	発達	精神・運動発達、反射	講義
3		27	月	3	橋口	E-7	2)③ 3)②	栄養・脱水	母乳・人工栄養、離乳、ビタミン欠乏症、電解質	〃
						F-1	10)			
						F-2	11)⑤			
4				4	小川	C-4	1)①⑦	先天異常(1)	遺伝、染色体異常	〃
5		30	木	3	井上	C-4	1)	先天異常(2)	奇形、奇形症候群	〃
6				4	堤	E-2	2)	感染(1)	小児期感染症の特徴、予防接種	〃
7	9	3	月	3	廣瀬伸	E-7	1)～4)	成長・保健・診断	発育・成長、病歴のとり方・診察法	〃
						F-1				
8				4	〃	D-12	4)(9)	先天代謝異常	マス・スクリーニング	〃
						E-7	1)			
9		6	木	3	太田	E-2	4)(1)①～⑧	感染(2)	ウイルス感染症	〃
10				4	〃	E-2	4)(2)①～⑥	感染(3)	細菌感染症	〃
11		10	月	3	堤	E-4	3)(6)	アレルギー	分類、診断、アトピー性疾患、気管支喘息	〃
12				4	〃	D-6	1) 2) 3)(1) 4)(2)	呼吸器	症候学、上気道炎、下気道炎	〃
13		13	木	3	橋本	F-1	5) 6) 15)	小児救急	心肺蘇生、中毒	〃
						E-5	1)～3)			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
14	9	13	木	4	稲富	D-7	4)(1)②(2)⑧(3)①②⑧⑩⑪⑫	消化器	胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、血管性紫斑病、下痢症	講義
15		20	木	3	廣瀬龍	D-7	4)(3)⑨	小児外科(1)	食道閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニア、腸閉鎖、直腸肛門奇形、ヒルシュスプルング病	〃
						E-7	1)①②			
16				4	〃	D-7	4)(4)④(7)②③	小児外科(2)	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、鼠径ヘルニア、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、奇形腫	〃
						D-12	4)(10)③			
						E-3	5)⑭			
17		27	木	3	野村	E-4	3)(7)	免疫	免疫系の発達、免疫疾患	〃
						E-7	3)③			
18				4	〃	D-1	4)(1)(4)	血液(1)	赤血球・白血球系疾患	〃
19	10	1	月	3	〃	D-1	4)(2)	血液(2)	出血性疾患、腫瘍	〃
						E-3	5)①⑫⑭			
20				4	廣瀬伸	E-4	3)(1)～(5)	膠原病	若年性関節リウマチ、皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、リウマチ熱	〃
21		4	木	3	山﨑	D-8	1)～3)4)(1)(2)(6)	腎(1)	症候学、腎炎	〃
22				4	〃	D-8	4)(2)(3)	腎(2)	ネフローゼ症候群、腎血管疾患	〃
23		11	木	3	石井	D-2	4)(3)	神経(1)	脳炎、脳症、中枢神経感染症	〃
24				4	井原	D-2	3)4)(6)	神経(2)	筋疾患	〃
25		15	月	3	鶴澤	D-2	4)(1)①4)(10)	神経(3)	神経皮膚症候群、脳腫瘍、変性疾患	〃
26				4	藤田	D-2	3)①②④	神経(4)	症候学、けいれん性疾患、脳性麻痺	〃
						F-1	8)			
27		18	木	3	佐々木	D-12	3)(1)4)(1)～(4)	内分泌	下垂体、甲状腺、副腎、性腺	〃
28				4	〃	D-12	4)(5)	代謝	糖尿病、周期性嘔吐症、低血糖症	〃
29		22	月	3	伊藤	D-8	4)(5)(7)(8)	腎(3)	尿路奇形	〃
30				4	瀬戸上	E-7	1)	新生児(1)	分類、新生児の生理	〃
31		25	木	3	橋口	E-7	1)	新生児(2)	診察、症候学	〃
32				4	太田	E-7	1)⑦	新生児(3)	黄疸、感染症	〃
33		29	月	3	中村	E-7	1)⑤⑧	新生児(4)	仮死、呼吸器疾患	〃
34				4	小川	D-15	3)⑪⑫	精神疾患	知的障害、自閉症、ADHD	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
35	11	1	木	3	吉　兼	D-5	4) (6)	循環器 (1)	先天性心臓病	講義
36				4	〃	D-5	4) (5) ①～④ 4) (3) ①～⑤	循環器 (2)	後天性心臓病、不整脈	〃
37		12	月	3	宮　本	E-4	3) (5)③	循環器 (3)	川崎病	〃
38				4	安　元	A-1 B-4		小児医療	社会的養護、小児医学のフィロソフィー、人間行動科学	〃
		28	水	1	試　験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

腫瘍・輸血・血液学

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（科目責任者）
	准 教 授	田　中　俊　裕（副責任者）
	講　　師	佐々木　秀　法
	助　　教	茂　木　　愛
	非常勤講師	柴　田　隆　夫（村上華林堂病院内科部長）
	〃	正　木　充　生（正木内科医院）
麻 酔 科 学	助　　教	廣　田　一　紀
病　理　学	教　　授	鍋　島　一　樹
衛生・公衆衛生学	教　　授	有　馬　久　富
放 射 線 部	教　　授	長　町　茂　樹
放射線医学	助　　教	赤　井　智　春
臨床医学研究センター	教　　授	志　村　英　生
輸　血　部	准 教 授	熊　川　みどり
薬　学　部	准 教 授	緒　方　憲太郎
看　護　部	看 護 師	小　田　真由美（外来化学療法室）
消化器内科	教　　授	植　木　敏　晴（筑紫病院）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

1．腫瘍の病理・病態、発生病因・疫学・予防、症候、診断・治療と診療の基本的事項を学ぶ。
2．血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
3．輸血と移植の基本を学ぶ。
4．緩和医療の基本を学ぶ。
5．診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、副作用）を学ぶ。
6．高齢ながん患者の増加に対応して、老化に伴う生理的変化、高齢者に特有な疾患の概念、リハビリテーションと介護に関わる問題を学ぶ。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．悪性腫瘍の病理・病態
　1）腫瘍の定義を説明できる。
　2）組織の再生と修復や肥大、増生、化生、異形成と退形成を説明できる。
　3）良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
　4）上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。
　5）腫瘍細胞の異型性と多型性を説明できる。
　6）腫瘍と染色体異常の関係を概説できる。
　7）局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移を説明できる。

２．悪性腫瘍の発生病因・疫学・予防
　１）腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子を概説できる。
　２）がんに関連する遺伝子（がん遺伝子とがん抑制遺伝子）の変化を概説できる。
　３）悪性腫瘍の疫学を概説できる。
　４）悪性腫瘍の予防（検診を含む）を概説できる。
３．悪性腫瘍の診断
　１）腫瘍の細胞診と組織診の違いを説明できる。
　２）腫瘍の画像診断を概説できる。
　３）腫瘍の遺伝子診断を概説できる。
　４）腫瘍マーカーの意義を説明できる。
　５）悪性腫瘍の病期分類を概説できる。
　６）悪性腫瘍の予後因子を概説できる。
４．悪性腫瘍の治療
　１）腫瘍の集学的治療を概説できる。
　２）腫瘍の手術療法を概説できる。
　３）腫瘍の放射線療法を概説できる。
　４）腫瘍の薬物療法を概説できる。
　５）腫瘍の生物学的療法を概説できる。
　６）抗腫瘍薬、生物製剤の薬理作用と副作用を説明できる。
　７）腫瘍における支持療法を概説できる。
５．緩和医療
　１）緩和医療を概説できる。
　２）癌性疼痛コントロールの適応と問題点を説明できる。
　３）緩和医療における患者・家族の心理を説明できる。
６．診療の基本的事項
　１）腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。
　２）腫瘍の診療における生命倫理（バイオエシックス）を概説できる。
７．造血器の構造と機能
　１）骨髄の構造を説明できる。
　２）造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。
　３）脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃と Peyer（パイエル）板の構造と機能を説明できる。
　４）血漿蛋白質の種類と機能を説明できる。
　５）赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
　６）白血球の種類と機能を説明できる。
　７）血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。
８．診断と検査の基本
　１）血漿蛋白質の基準値とその変化の意義を説明できる。

９．造血器腫瘍の症候と疾患

①貧血

１）貧血を分類し、鑑別に有用な検査を列挙できる。

２）鉄欠乏性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

３）再生不良性貧血の病因、病態、診断、治療と予後を説明できる。

４）溶血性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

５）巨赤芽球性貧血の病因、病態、診断と治療を説明できる。

②白血病と類縁疾患

１）急性白血病の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

２）急性白血病の FAB 分類を概説できる。

３）慢性骨髄性白血病の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

４）骨髄異形成症候群（MDS）の臨床像を説明できる。

５）成人 T 細胞白血病の病因、疫学、臨床所見を説明できる。

６）小児白血病と成人白血病の違いを説明できる。

７）真性多血症の病因、病態、診断と治療を説明できる。

③悪性リンパ腫と類縁疾患

１）悪性リンパ腫の分類を概説し、病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

２）多発性骨髄腫の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

３）単クローン性免疫グロブリン血症を概説できる。

④出血傾向・紫斑病その他

１）出血傾向の病因、病態、症候と診断を説明できる。

２）特発性血小板減少性紫斑病（ITP）の病態、症候、診断と治療を説明できる。

３）血友病の病態、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。

４）播種性血管内凝固（DIC）の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。

５）溶血性尿毒症症候群（HUS）の基礎疾患、病態、診断と治療を説明できる。

６）アレルギー性（血管性）紫斑病を概説できる。

７）血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）を概説できる。

⑤リンパ節腫脹

１）リンパ節腫脹の原因を列挙できる。

２）リンパ節腫脹を呈する患者の診断の要点を説明できる。

⑥脾臓疾患

１）脾腫をきたす疾患を列挙し、鑑別の要点を説明できる。

⑦輸血

１）血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。

２）血液型（ABO、RhD）検査、交差適合試験、不規則抗体検査を説明できる。

３）輸血副反応、不適合輸血の防止手順を説明できる。

４）同種血輸血、自己血輸血、緊急時の輸血を説明できる。

⑧造血幹細胞移植

１）造血幹細胞移植の種類と適応を説明できる。

２）造血幹細胞移植と組織適合性の関係を説明できる。
３）造血幹細胞移植後の拒絶反応の病態生理と発症時の対応を説明できる。
４）免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。

10．高齢者のがん治療
１）高齢者の心理・精神の変化を理解し、対応できる。
２）加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。
３）高齢者における病態・症候・治療・リハビリテーションの特異性を説明できる。
４）高齢者における総合機能評価（CGA）を説明できる。
５）老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）の病態、治療と予防を説明できる。
６）高齢者の栄養摂取の特殊性を説明できる。
７）高齢者の生活支援の要点を概説できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

講義は配布テキストとスライドを利用して行う。しかし講義時間は限られており、すべてを講義することはできないので、指定された教科書などで予習、復習をして知識を修得する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

理解を確認するための記述式の筆記問題と多岐選択肢問題を実施する。

Ⅵ．教科書

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：腫瘍・輸血・血液学テキスト
矢﨑義雄　総編集：内科学　第11版　朝倉書店　2017
高久史麿・尾形悦郎・黒川清・矢﨑義雄　編：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009
日本臨床腫瘍学会　監修：入門腫瘍内科学　篠原出版新社　改訂第２版　2015

Ⅶ．参考書・文献

日本臨床腫瘍学会　編：新　臨床腫瘍学　改訂第４版　南江堂　2015
日本血液学会　編：血液専門医テキスト　改訂第２版　南江堂　2015

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	28	火	3	髙松	E-3	1)② 2)① 3)①④ ～⑦	悪性腫瘍の診断と治療の概論	診断、集学的治療	講義
2				4	有馬	B-1	4)	悪性腫瘍の疫学	発生要因、疫学、予防、検診	〃
3	9	4	火	3	鍋島	E-3	1)2)	悪性腫瘍の診断１	病理、病態、がん遺伝子	〃
4				4	長町	E-3	2)②	悪性腫瘍の診断２	画像診断	〃
5		11	火	3	熊川	F-2	13) ①②④	輸血１	血液製剤の種類と適応、自己血輸血、血液型検査、交差適合試験	〃
6				4	志村	E-3	3)②	手術療法	手術療法の変遷、適応	〃
7		18	火	3	赤井	E-3 E-6	3)③ 1)2)	放射線療法	放射線療法の原理、適応、副作用	〃
8				4	緒方	E-3	3)④	薬物療法	細胞傷害性抗がん薬の作用機序、適応、副作用	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	9	25	火	3	佐々木	E-3	3)⑤	生物学的療法	分子標的薬の作用機序、種類、適応、副作用	講義
10				4	田中	E-3	3)④	免疫療法	がんと免疫、免疫チェックポイント阻害薬、医療経済	〃
11	10	2	火	3	茂木	E-3	3)⑥	支持療法	悪心・嘔吐、発熱性好中球減少症	〃
12				4	非常勤講師 正木	E-3	3)⑥	オンコロジーエマージェンシー	腫瘍崩壊症候群、高Ca血症	〃
13		9	火	3	茂木	D-11 E-3	2) 4)② 5)⑩	乳癌の治療	診断、内分泌療法、分子標的薬	〃
14				4	植木	D-7	4)-(8) ⑧⑨⑩	肝胆膵腫瘍の治療	診断、薬物療法、予後	〃
15		15	月	1	非常勤講師 柴田	E-3	3)⑦	緩和医療 1	生命倫理、終末医療	〃
16				2	廣田	E-3	3)⑦	緩和医療 2	疼痛の機序、鎮痛治療	〃
17		16	火	3	田中	D-1	1)⑥	造血器の構造と機能、赤血球	造血幹細胞、血球の分化と成熟、赤血球の構造と機能	〃
18				4	〃	D-1	4)(1)	血液各論 1	各種貧血の病態、診断、治療	〃
19		22	月	1	髙松	D-1	1)④⑦ 3)	白血球	白血球の種類と機能、脾臓、リンパ節	〃
20				2	〃	E-8	1)②⑨	高齢者のがん治療	高齢者総合的機能評価	〃
21		23	火	3	〃	D-1	4)(4) ①～⑦	血液各論 2	白血病と類縁疾患	〃
22				4	〃	D-1	4)(4) ⑧⑨	血液各論 3	悪性リンパ腫と類縁疾患	〃
23		29	月	1	佐々木	D-1	1)⑧ 4)(2)	血小板と凝固・線溶	止血の機序、凝固・線溶の機序	〃
24				2	〃	D-1	4)(2)	血液各論 4	血小板減少症、血友病、DIC、血栓症	〃
25		30	火	3	熊川	F-2	13) ③	輸血 2	輸血副反応、不適合輸血防止	〃
26				4	田中	D-1 F-1	4)(1) 26)	症例問題 1	貧血	学生参加型
27	11	6	火	3	髙松	D-1	1)④⑦ 3) 4)(4) ⑧⑨	症例問題 2	リンパ節腫脹	〃
28				4	非常勤講師 正木	D-1	4)(4) ①～⑦	症例問題 3	白血球	〃
29		12	月	1	佐々木	D-1	4)(2)	症例問題 4	出血傾向	〃
30				2	茂木	D-11 E-3	4)(2) 5)⑩	症例問題 5	乳癌	〃
31		13	火	3	緒方・小田	E-3	4)①	チーム医療	多職種連携	講義
32				4	〃	E-3	4)①	症例問題 6	チーム医療	学生参加型

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項　　目	キーワード	授業形態
	12	3	月	1	試　　験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

再 生 ・ 移 植 医 学

Ⅰ．担当教員名

再生・移植医学	教　　授	小　玉　正　太（科目責任者）
	准 教 授	坂　田　直　昭（応用再生医療開発講座）
	講　　師	吉　松　軍　平（副責任者）（再生医療センター）
	非常勤講師	上　本　伸　二（京都大学大学院教授）
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准 教 授	白　石　武　史
泌 尿 器 科	講　　師	中　村　信　之

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．再生医学の現状と今後の方向性を理解する。

２．移植医学の現状と今後の方向性を理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．再生・移植医療の現状を説明できる。

２．組織・細胞移植の現状を説明できる。

３．胎生・体性幹細胞の臨床実例を説明できる。

４．組織工学的な再生医療の実例を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

１．講義に出席する。

２．授業開始時に配布する講義スライドプリントの内容を復習しておくこと。

３．授業終了時に、授業内容の小テストを実施するので、講義内容を十分把握、理解するよう努めること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

筆記試験を行う。

Ⅵ．教科書

特にないが、幅広い学習を必要とする。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	10	12	金	3	小玉	A-1	1)	移植医療の概要	移植医療、臓器提供、移植ネットワーク、脳死、臓器移植法	講義
						E-9				
2				4	〃	C-3	2)	臓器移植概論（適応と成績）	心臓移植、肺移植、肝移植、腎移植、膵臓移植	〃
						F-2	12)13)			
3		19	金	3	白石・中村	D-6	1)4)	肺移植・腎移植	肺移植の実例、腎移植の実際	〃
						D-8	1)4)			
						F-2	13)			
4				4	小玉	D-2	4)(2)	神経の再生医療 角膜の再生医療	脊髄損傷および脳梗塞の治療、角膜再生治療	〃
						D-4	4)(1)⑩			
5		26	金	3	非常勤講師 上本	D-7	1)4)(5)	肝移植	肝移植の実例	〃
						F-2	13)			
6				4	小玉	B-1	8)	心・血管の再生医療 骨・軟骨、歯の再生医療	心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症の治療	〃
						D-5	4)(1)(7)			
						D-6	4)(1)			
7	11	9	金	1	坂田	A-8	1)	移植免疫学 幹細胞移植と組織工学	移植免疫、iPS細胞、胎生幹細胞、体性・組織幹細胞、組織工学	〃
						C-2	2)4)			
8				2	吉松	D-12	1)4)(5)	組織・細胞移植概論（適応と成績）	骨髄移植、角膜移植、骨移植、皮膚移植、膵島移植	〃
						F-2	7)			
9				3	小玉	D-7	1)2)4)(5)	消化器の再生医療、腎・泌尿器、脂肪組織	肝硬変症への細胞治療、食道疾患、膵島再生、膀胱・尿道の再生治療、脂肪幹細胞の臨床応用	〃
						D-8	4)(1)			
						F-2	6)			
10				4	〃	D-5	4)(1)(5)(7)	体性幹細胞移植	骨髄由来幹細胞と脂肪由来幹細胞	〃
						F-1	28)			
		26	月	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

整　形　外　科　学

Ⅰ．担当教員名

整形外科学	教　　授	山本卓明	（科目責任者）
	〃	塩田悦仁	（副責任者）（リハビリテーション部）
	准教授	伊﨑輝昌	
	講　　師	佐伯和彦	
	〃	吉村一朗	
	〃	西尾　淳	
	〃	金澤和貴	
	〃	木山貴彦	
	〃	前山　彰	
	〃	坂本哲哉	（運動器先端医療開発講座）
	助　　教	信藤真理	
	〃	木下浩一	
	〃	田中祥継	
	非常勤講師	諫山照刀	（柳川リハビリテーション病院・副院長）
	〃	井上敏生	（福岡歯科大学総合医学講座整形外科学分野・教授）
	〃	尾上英俊	（福岡徳洲会病院・整形外科主任部長）
	〃	坂口　満	（熊本整形外科病院・理事長）
	〃	原　正文	（久恒病院・理事長）

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

１．脊椎を含む運動器系について基本的知識を修得する。
２．主要な運動器系疾患の病態生理、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を学ぶ。
３．リハビリテーションについて理解する。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

構造と機能

１．骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。
２．脊柱（環椎、軸椎、頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、椎間板）の構造を説明できる。
３．姿勢と体幹の運動に関わる筋群とその運動と神経支配を説明できる。
４．四肢の骨・関節、関節可動域を説明できる。
５．四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。
６．手の機能を説明できる。
７．骨盤の構成と性差を説明できる。
８．骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。
９．運動／安静の骨・筋への影響を説明できる。

診断と検査の基本

1．徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査、知覚検査）を説明できる。
2．画像診断〔エックス線（骨病変)、MRI（骨、軟部病変)、脊髄造影（脊柱管病変)、骨塩定量（骨粗鬆症)〕を説明できる。
3．生理学的検査〔筋電図（針および表面筋電図)、電気生理学的検査（脊髄および筋誘発電位、神経伝導速度)〕を説明できる。
4．関節鏡検査を概説できる。

症候

1．関節痛と関節腫脹の原因を列挙できる。
2．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
3．関節痛と関節腫脹を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
4．腰背部痛の原因を列挙できる。
5．腰背部痛を呈する患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
6．腰背部痛を呈する患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。
7．筋運動の発生機序と関連させて筋力低下が生じる機序を説明できる。
8．筋力低下の原因を列挙できる。
9．筋力低下を訴える患者に必要な問診と診察の要点を列挙できる。
10．筋力低下を訴える患者に必要な検査を列挙し、診断のプロセスを説明できる。

疾患

1．骨折の定義（単純と複雑)、臨床所見、画像所見、関連する神経血管合併の対処法、ギプス固定中の合併症と対処法を説明できる。
2．骨粗鬆症が原因となる骨折を列挙できる。
3．関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靱帯損傷の定義、分類、診断と治療を説明できる。
4．変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。
5．骨関節炎の症候と治療を説明できる。
6．原発性四肢骨軟部腫瘍を列挙し、基本的な治療を説明できる。
7．頚椎症性脊髄症（脊柱靱帯骨化を含む）の神経症候を説明できる。
8．腰部脊柱管狭窄症の症候と治療を説明できる。
9．腰椎椎間板ヘルニアの症候と治療を説明できる。
10．腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。
11．脊椎・脊髄損傷の症候と治療を説明できる。
12．転移性脊椎腫瘍の好発部位と診断を説明できる。
13．脊柱管内腫瘍のタイプと代表的な疾患を列挙できる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

1）講義

1．配布する講義テキスト（M4整形外科学　2018年）およびスライドにより、代表的疾患について、原因から病態までを解りやすく行う。
2．暗記型でなく、考え方を重視した講義を行う。
3．講義の後に時々小テストを行い、緊張感を持たせる。

２）視聴覚教育

１．ビデオテープを使った診察方法の学習（適宜講義の中に組み込まれる）。

２．CD-ROM を使った代表的疾患の画像診断（適宜講義の中に組み込まれる）。

３）臨床教育

Simulated Patient を用いた基本的な診療手技実施（適宜講義の中に組み込まれる）。

〈事前事後学習の方法〉

・講義テキスト（M4 整形外科学　2018年）および参考書により、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

・授業後は講義テキストおよび参考書を読み復習すること。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

・論述試験および客観試験

全講義終了後の試験で論述問題および客観問題を出題する。

・シミュレーションテスト、実地試験

Simulated Patient を用いた基本的な診療手技実施の時に行う。

・レポート

論述試験および客観試験で学力が劣る場合に行う。

・最終評価の方法

論述試験および客観試験を中心に評価する。

Ⅵ．教科書

特になし。

Ⅶ．参考書・文献

TEXT 整形外科学　第４版　南山堂、標準整形外科学　第13版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	8	28	火	1	塩田	D-4	1)①③～⑧ 2)	整形外科基礎科学	骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能、骨の成長・形成・吸収、四肢の主要筋群の運動と神経支配、骨・関節・関節可動域運動／診断と検査の基本（徒手検査、画像診断、脊髄造影、骨塩定量）	講義
2				2	〃	D-4	1)①③～⑧ 2)～4)	整形外科学総論	四肢、脊椎、運動器疾患	〃
3	9	4	火	1	木下	D-4	1)①④～⑧ 2)3)	骨盤と股関節外傷	骨盤環骨折、大腿骨頸部骨折、股関節外科	〃
4				2	〃	D-4	4) (1) ①～③ ⑤⑦	股関節外科	成人の股関節疾患、変形性股関節症、大腿骨頭壊死症	〃
						F-1	36)			
5		11	火	1	佐伯	D-4	1)①④ 2) 3)② 4) (1) ⑥⑦⑮	膝関節の変性疾患	膝の解剖と生体力学に基づく病態把握と治療	〃
						F-1	36)			
6				2	非常勤講師 坂口	D-4	4) (1) ⑤⑥	骨代謝疾患、骨系統疾患	骨の系統的な障害、骨粗鬆症、変形性関節症	〃
						D-12	4)(3) ①② (7) ②			
7		18	火	1	信藤	D-4	1)③④ 2) 3) 4) (1)① ⑤⑨～⑮ (2)	脊椎総論	脊柱の構造、姿勢と体幹の運動、骨盤の構造と性差	〃
8				2	〃	F-1	34)35)	脊椎各論 脊椎・脊髄損傷	腰背部痛、頚椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症、脊椎・脊髄損傷の症候、画像診断、治療	〃
9		25	火	1	西尾	D-4	2)② 3) ②4) (3)	骨・軟部腫瘍	骨腫瘍の画像診断・症候・治療、原発性四肢骨軟部腫瘍、転移性脊椎腫瘍、脊柱管内腫瘍	〃
						E-3	1) 2) 5)④			
10				2	非常勤講師 諫山	D-4	2)② 3) ②4) (3)	〃	骨・軟部腫瘍の治療	〃
						E-3	1)～4)			
11	10	2	火	1	前山	D-4	4) (1) ②⑥⑦	鏡視下診断と治療	関節鏡	〃
						F-2	6)			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	10	2	火	2	非常勤講師 尾上	D-4	4)(1) ①～⑤	骨折、脱臼	関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷の定義、分類、診断と治療、骨折に関連する神経血管合併の対処法、ギプス固定中の合併症	講義
13		9	火	1	吉村	D-4	1)①④ 2) 3)①② 4)(1) ②～④⑥	足の外科Ⅰ	外傷を含む足関節疾患	〃
14				2	〃	F-1	36)	足の外科Ⅱ	〃	〃
15		16	火	1	非常勤講師 井上	D-4	3)①② 4)(1)② ③⑥	小児の運動器疾患Ⅰ	小児整形外科総論、骨・関節の先天性疾患	〃
						F-3	5)(8) ①②			
16				2	非常勤講師 原	D-4	4)(1) ①～③ ⑥⑮	肘関節の疾患、前腕、スポーツ障害	上腕骨顆上骨折、投球肩、運動器のスポーツ障害（上肢）	〃
17		18	木	1	木山	D-4	2)3) 4)②	膝関節の外傷	脱臼、骨折、靭帯、半月板損傷	〃
						F-1	36)			
18				2	坂本	D-4	2) 4)(1) ①～③⑩	整形外科的急性外傷	緊急処置を要する整形外科的外傷疾患	〃
						G-2	37)			
19		23	火	1	前山	D-4	2) 4)(1) ②⑥⑭	リウマチとその類縁疾患Ⅰ	関節リウマチ	〃
						E-4	3)(2)			
20				2	〃	F-1	34)36)	リウマチとその類縁疾患Ⅱ	関節痛、関節腫脹、骨・関節の化膿性疾患	〃
21		25	木	1	伊崎	D-4	2) 4)(1)② ③⑥⑭	肩関節・肩甲帯の疾患	肩甲帯の疾患、肩関節障害の診断、脱臼・腱板断裂	〃
						F-1	34)36)			
22				2	〃	D-4	4)(1)⑥ (2)	骨・関節感染症	骨・関節感染症の病態と治療	〃
						E-2	2)①⑤ 4)(2)			
23		30	火	1	田中	D-4	1)① 4)(1) ②～⑥	手の外科	手の機能と解剖、手関節および手指の疾患	〃
24				2	〃	D-4	4)(1)⑧	末梢神経損傷	末梢神経絞扼障害	〃
						F-1	36)			
25	11	6	火	1	金澤	D-4	2) 3)①② 4)(1)⑥	小児の運動器疾患Ⅱ	小児整形外科各論、幼小児の運動器疾患、小児の下肢疾患	〃
						F-1	34)36)			

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
26	11	6	火	2	金澤	D-4	4)(1)①④	下腿と足の外傷	コンパートメント症候群などの下腿と足部の外傷	講義
						F-1	34)36)37)			
27		13	火	1	塩田	F-2	14)	リハビリテーション総論	障害、チーム医療、評価	〃
28				2	〃	D-4	1)④⑦⑧4)(1)⑮	リハビリテーション各論	パラプレジア、テトラプレジア、コルセット、車椅子、切断	〃
		30	金	1	試験					
				2	〃					
				3	〃					
				4	〃					

臨床修練入門（診断学実習概説）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教授	髙松　泰
	講師	戸川　温
心臓・血管内科学	講師	森井誠士
呼吸器内科学	教授	藤田昌樹（科目責任者）
神経内科・健康管理科	助教	藤岡伸助
卒後臨床研修センター	准教授	河村　彰
整形外科学	准教授	伊﨑輝昌
泌尿器科学	助教	古屋隆三郎
産科婦人科学	講師	宮原大輔
消化器外科学	准教授	吉田陽一郎
	助教	愛洲尚哉
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	助教	宮原　聡
	〃	野原有起
衛生・公衆衛生学	講師	前田俊樹
医学教育推進講座	教授	安元佐和（副責任者）
薬学部	教授	神村英利（薬剤部長）
	准教授	緒方憲太郎
	〃	首藤英樹

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

Ｍ３臨床医学入門及びＭ３、Ｍ４での臨床各科目で学んだ基本的臨床技能をさらに発展させ、この概説に引き続いて行われる実習での臨床技能修得に備える。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

基本的臨床技能を理解し実際に応用できる。

⑴　医療面接：患者と適切にコミュニケーションをとれる。

⑵　模擬患者から病歴を順序よく詳細に聴取することができる。

⑶　Ｍ３で学んだ身体診察法を復習し、さらに詳細・的確に身体診察を行うことができる。

⑷　基礎資料の区分けとプロブレム作成、問題志向記録を行うことができる。

⑸　術前手洗い、小手術、縫合、採血等の基本手技の方法を述べることができる。

⑹　一次・二次救命処置、心肺蘇生の手順を述べることができる。

⑺　客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination）について説明できる。

⑻　医師にふさわしく身なりを整えることができる。

⑼　医師が交付する処方せんによって薬剤師が調剤を行う。その法的意義、処方せんの種類、書き方、処方の組み立て方等を理解でき、実際に調剤する薬剤師との連携、能率化の問題について説明できる。

⑽　麻薬及び向精神薬等の法的規制や管理について理解することができる。
⑾　臨床研究に用いる統計について理解することができる。
⑿　医薬品使用にあたっての禁忌事項ならびに小児、高齢者、妊婦、肝・腎機能障害者への薬物療法における留意事項について説明できる。
⒀　医薬品の適正使用について、医薬品情報の種類、エビデンスに基づいた合理的薬物療法、薬剤経済について理解することができる。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies)

〈学習方略〉

⑴　医療面接の概念、患者とのコミュニケーションのとり方をビデオや講義で学習する。
⑵　学生代表が、簡単な分かりやすい病歴を持った模擬患者から病歴聴取を行い、診療録（プロブレムオリエンティドシステム）を記載する練習を行う。
⑶　Ｍ３で学んだ身体診察方法、身体診察の記録方法を講義、ビデオで復習し、学生同士が講義室でできる範囲内で実習する。
⑷　客観的臨床能力試験（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）をビデオ、講義で解説する。
⑸　持参するもの：聴診器、ペンライト、ケーシー白衣。
⑹　医師にふさわしい身なりを整える。現在、多くの患者さんはまだ茶～金髪、無精髭、長い爪、派手なマニキュアを認めていない。またサンダル・泥靴履きは禁止。毎食後歯磨きを行うなど口臭には気をつける。

〈事前事後学習の方法〉

⑴　福岡大学医学部編「診断学テキストブック」を必ず事前に読み、次回の講義の予習をすること。
⑵　CD「診療参加型臨床実習に必要な技能と態度　教育・学習用 DVD」を医学情報センター 4F 事務室に常備している。また Moodle（2018　OSCE 自習用動画）からも閲覧できるので、これを予習・復習に活用すること。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation)

レポート、出席状況、授業態度を総合的に判断する。
必要に応じて小テストを行う。
評価は合否で行う。

Ⅵ．**教科書**

［カルテ英語］
大井静雄　編・著：ポケット版カルテ用語辞典　第５版　照林社
［診断学実習用］
黒川　清　他編：内科診断学　改訂９版　金芳堂　2004
［その他内科学テキスト］
杉本恒明、矢崎義雄：内科学　第11版　朝倉書店　2017
小川　聡　他編：内科学書　第８版　中山書店　2013
高久史麿、尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009

Ⅶ. 参考書・文献

BLS ヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル　AHA ガイドライン　2010準拠（シナジー）
救急蘇生法の指針2010医療従事者用　改訂４版　へるす出版
JRC 蘇生ガイドライン2010　へるす出版
日本救急医学会 ICLS コースガイドブック　改訂第３版
田村康二：上手い！と言われる診療録の書き方　第２版　金原出版
［ビデオ（医学情報センター常備）］＜請求番号＞
基本的身体診察法　メディカル情報センター製作　vol. 1～5　Wb/KI17/1～5
血圧の計りかた＜心臓病患者へのアプローチ２＞　WG 200/Sh 69/2 20分
脈拍の診かた＜心臓病患者へのアプローチ１＞　WG 200/Sh 69/1 24分
頭部、顔面、口腔および頚部の診察法＜目で見る診断手技と手順１＞　WB141/Me 14/1 11分
目、耳および鼻の診察法＜目で見る診断手技と手順１＞　WB141/Me 14/2 18分
眼科領域の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ１＞　WWW 141/G 19/1 17分
耳鼻咽喉科領域の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ２＞　WV 150/J 46/1 20分
心臓の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ３＞　WG 141/Sh 69－7/1 17分
心臓血管系の診察法：頚部の血管及び心臓＜目で見る診断手技と手順５＞ WB 141/Me 14/5 16分
心臓血管系の診察法：末梢血管系＜目で見る診断手技と手順４＞　WB 141/Me 14/4 18分
胸部および肺の診察法＜目で見る診断手技と手順３＞　WB 141/Me 14/3 18分
呼吸器系の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ４＞　WF 975/Ko 54/1 22分
腹部の診察法＜福大編＞　11分
婦人科内診法＜診断学教育ビデオシリーズ６＞　WP 141/F 64－1/1 17分
男性生殖器系の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ７＞　WJ 700/D 38/1 12分
男性性器、直腸およびヘルニアの診察法＜目で見る診断手技と手順８＞ WB141/Me 14/8 12分
乳線および腋窩の診察法＜目で見る診断手技と手順６＞　WB141/Me 14/6 12分
神経病診断のすすめ方　１内25
筋骨格系の診察法＜診断学教育ビデオシリーズ８＞　WE 141/KI 44/1 20分
神経学的検査法–実際と理論–パート１＜目で見る診断手技と手順＞ WL 141/Sh 64－1/1 26分
神経学的検査法–実際と理論–パート２＜目で見る診断手技と手順＞ WL 141/Sh 64－1/2 22分
手洗い＜福大手術場＞　17分
日本薬剤師会　編：調剤指針　第13改訂　薬事日報社　2011
堀岡正義　著：調剤学総論　改訂11版　南山堂　2012
日本臨床薬理学会　編：臨床薬理学　第３版　医学書院　2011

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	12	17	月	1	伊　崎	D-4		筋・関節・骨	整形外科的疾患に関する病歴聴取・診察の仕方	講　義
						F-1	34)～36)			
						F-3	5)(7)			
2				2	宮　原大	D-9		産婦人科	産婦人科疾患に関する病歴聴取・診察の仕方	〃
						F-1	30)			
3				3	吉　田	G-3	3)②	手　術　(1)	手洗い（病棟、手術場）	講義、実習
4				4	藤　岡	F-3	5)(6)	神　経	神経疾患に関する病歴聴取・診察の仕方	〃
5		18	火	1	河村・安元	A-3		臨床修練入門に向けてのオリエンテーション/医療面接	OSCE概説 基本的臨床技能　患者とのコミュニケーション・病歴の取り方	模擬患者
						A-4				
						F-3	2)			
6				2	野原・愛洲	F-3	5)(4)⑤(5)⑥	乳房・直腸・鼠径	乳房・直腸・鼠径ヘルニア疾患に関する病歴聴取・診察の仕方	講　義
7				3	戸　川	F-3	3)	診療録	POS、カルテ記載、採血	〃
8				4	森　井	D-5	4)(3)	循環器	不整脈に関する病歴聴取・診察の仕方	〃
9		19	水	1	古　屋	D-8	2)	泌尿器	泌尿器疾患に関する病歴聴取・診察の仕方	〃
						D-9	2)(1)			
10				2	神　村	B-3	1)②④	医薬品の概念と臨床開発、DIと市販後調査	処方箋、医薬品、医薬品医療機器等法、剤形、先発・後発医薬品、薬剤経済、治験、GCP、臨床研究、ヘルシンキ宣言、漢方薬	〃
						F-2	8)⑬			
11				3	〃	F2	8)	医薬品使用時の留意事項	禁忌、小児、高齢者、静脈内投与、副作用救済制度	〃
12				4	宮　原聡	G-3	3)④	手　術　(2)	小手術、縫合	〃
13		20	木	1	緒　方	F-2	8)⑪	処方箋記載事項と処方鑑査	処方箋記載事項、鑑査、調剤、疑義照会	〃
14				2	〃	A-6	1)①⑥	チーム医療における薬剤師	リスクマネジメント、服薬指導、薬剤管理指導、ICT、NST、がん化学療法、緩和ケア	〃
15				3	首　藤	F-2	8)⑨	薬物療法の個別最適化	ＴＤＭ、血中濃度、特定薬剤治療管理料、テーラーメード医療、個別投与設計	〃
16				4	〃	F-2	8)⑩	医薬品の相互作用	薬物動態学、薬力学、健康食品	〃
17		21	金	1	髙　松	G-1		参加型臨床実習とは何か①	ＢＳＬ実習、クリニカルクラークシップ	〃
18				2	〃	G-1		参加型臨床実習とは何か②	プロブレムリスト、アセスメント、鑑別診断、プランニング	〃
19				3	〃	G-1		参加型臨床実習とは何か③	症例検討	〃
20				4	前　田	B-1	1)～3)	臨床研究で用いられる統計学	統計学、臨床研究	〃

臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）

Ⅰ．担当教員名

臨床系教授、准教授、講師、助教

呼吸器内科学	教　　授	藤　田　昌　樹（科目責任者）
医学教育推進講座	教　　授	安　元　佐　和（副責任者・実務責任者）
看　護　部	看護部長	中　川　朋　子
病院検査部		

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome)

Ｍ３臨床医学入門およびＭ３、Ｍ４での臨床各科目で学んだ基本的臨床技能をさらに発展させ、Ｍ５、Ｍ６で行われる臨床実習、クラークシップに耐えうる態度と臨床技能を身につける。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

１．医療面接：患者–医師関係の構築と患者理解のための情報収集ができる。
２．バイタルサインをとり、動脈触診の診察ができる。
３．頭頸部の診察ができる。
４．眼底鏡、耳鏡の使用法を習得し眼底、外耳道、鼓膜の観察ができる。
５．胸部（胸郭、心臓、肺）の診察ができる。
６．腹部・鼠径・下肢の診察ができる。
７．神経系の診察ができる。
８．採血、小手術、縫合結紮ができる。
９．心肺蘇生が実際にできる。
10．手術に必要な手洗いができる。
11．模擬患者から得た情報をまとめ問題リストをあげることができる。
12．鑑別診断をあげ診療録を作成し発表、討論ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies)

〈学習方略〉

１．ビデオ、スライド、指導者によるデモンストレーション
２．学生自身、学生同志による実習
３．模擬患者から得た情報を診療録に記載し、問題リストを作成する。
４．割当症例に関し電子カルテを熟読し、M5病棟診療を見学し、ポートフォリオを作成する。
５．持参するもの：聴診器、ペンライト、ケーシー白衣、黒のスラックス（スカートやジーンズ禁止)、音の出ない黒の無地の靴。
６．実習中から医師にふさわしい身なりを整える。現在、多くの患者さんはまだ茶〜金髪、無精髭、長い爪、派手なマニキュアを認めていない。またサンダル・クロックス・ハイカット・泥靴履きは禁止。毎食後歯磨きを行うなど口臭には気をつける。

〈事前事後学習の方法〉

１．診断学実習概説講義の内容を復習し、実習に備えること。

２．CD「診療参加型臨床実習に必要な技能と態度　教育・学習用 DVD」を医学情報センター４F 事務室に常備している。Moodle（2018　OSCE 自習用動画）で視聴可能。この動画を外部へ提供した場合は不正と判断され、共用試験の受験資格を取り消す。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation)

ポートフォリオ、出席状況、授業態度等、総合的に判断する。

評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

診断学実習概説に同じ。

Ⅶ．参考書・文献

診断学実習概説に同じ。

臨床修練入門（BSL）

４学年３月から開始される臨床修練入門は、第５学年の臨床修練Ｉに連結する実習である。臨床修練入門を含む卒業前臨床実習の目的は、これまでに学んだ基礎および臨床医学知識を統合させ、実際の臨床の場に出て患者さんの診療を通して、医師になるために必要な知識・技能・態度を学ぶことである。

出来るだけ患者さんや検査データに接し、個々の問題点をピックアップして、その解決のために何をすればよいかを具体的に考え、指導医と議論することが大切である。

Ｉ．目　　標

1．これまで４年間で学んできた医学を、医療の現場で実際に応用し、活用する。

2．病む人それぞれに病態や問題点が異なっていることを理解し、全人的にケアすることを学ぶ。

3．患者さんや医療チームとの関係を通して、医師としての基本的な態度を身につける。

Ⅱ．実 習 内 容

各科の実習スケジュールに従う。

Ⅲ．一般的心得および実習時の注意事項

クリニカルクラークシップＩシラバス参照

Ⅳ．評　　価

目標に達したかどうかを確認するために、各科毎に実習態度と到達度の評価を行う。

臨床修練入門（BSL）日程表

週 ＼ 担当科		腫瘍・血液・感染症内科	循環器内科	消化器内科	腎臓・膠原病内科	神経内科・健康管理科	内分泌・糖尿病内科	呼吸器内科	消化器外科	呼吸器・乳線内分泌・小児外科	救命救急センター	産科婦人科	小児科	精神神経科	筑紫病院	放射線科	臨床検査・輸血	麻酔科	整形外科	心臓血管外科	泌尿器科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	病理部	形成外科・薬剤部	歯科・臨研・リハビリ	総合診療部
1	H31. 3.11(月)～ 15(金)	23・24	25・26	27・28	15・16	17・18	19・20	21・22	35・36	37・38	39・40	41・42	29・30	31・32	33・34	7	8	9・10		11	12	13	14	1	2	3	4	5	6
2	3.18(月)～ 22(金)															8	7		9・10	12	11	14	13	2	1	4	3	6	5
3	3.25(月)～ 29(金)	21・22	23・24	25・26	27・28	15・16	17・18	19・20	33・34	35・36	37・38	39・40	41・42	29・30	31・32	5	6	7・8		9	10	11	12	13	14	1	2	3	4

第５学年講義要目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M5】		臨床修練Ⅰ	統合講義
Ⅰ. プロフェッショナリズム			
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。			
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	A	C/D
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	A	C/D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	A	C/D
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	A	C/D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	A	C/D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	A	C/D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	A	A
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	A	A
Ⅱ. 医学的知識			
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。			
1	正常構造と機能	A	B
2	発達、成長、加齢、死	A	B
3	心理、行動	A	B
4	病因、構造と機能の異常	A	B
5	診断、治療	A	B
6	医療安全	A	B
7	疫学、予防、公衆衛生	A	B
8	保健・医療・福祉制度	A	B
9	医療経済	A	B
Ⅲ. 診療技術・患者ケア			
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。			
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	A	A
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	A	A
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	A	A
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	A	A
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	A	A
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	A	A
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	A	A
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	A	A
Ⅳ. コミュニケーションとチーム医療			
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。			
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	A	A
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	A	A
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	A	A
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	A	A
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	A	A
Ⅴ. グローバルな視野と地域医療			
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。			
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	B	E
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	B	E
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	A	E
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	A	E
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	A	E
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	A	E
Ⅵ. 科学的探究心と自律学習能力			
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。			
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	A	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	A	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	A	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	A	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	A	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	A	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	A	A

臨　床　修　練　Ⅰ

実施期間

第４学年の３月から開始し、第５学年の３月下旬までの 48 週間をあてる。

到達目標（Learning Outcome)

１．これまで４年間学んできた医学を臨床に応用するにあたり、医療の現場（病棟･外来･検査室･学外関連施設等）における実地修練を通して医療知識を深め、臨床技能に習熟する。

２．病む人を全人的にケアすることを学ぶ。

３．医師としての基本的態度（責任感・信頼関係・自己学習・協調性）を身に付ける。

４．現代の医療がいかに多くの人々により支えられているかを理解する。

コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies)

１．あらかじめクリニカルクラークシップⅠシラバスを参照し、実習の目標をよく理解し、積極的に自分で学習する。

２．学生相互の討議等により、実習をさらに充実させる。

３．学び得たことを、その都度記録・整理・体系化・蓄積する。

４．医療チームの一員としての責任を自覚して行動する。

５．福岡大学病院の医療安全教育（医療安全実習セミナーを含む）を必ず受講する。

・安全２回

・感染２回

成績評価および方法（Evaluation)

１．学生は各自到達目標を設定し自己評価表でチェックする。

２．指導医は学生の知識・技能・態度（マナー等)・実習参加状況等から実習評価を行う。

３．実習中における知識獲得達成度を確認するために、全国模擬試験を受験する。

４．第６学年への進級には、全ての科で合格の評価を受けることが必要である。

５．評価は合否で行う。

統　合　講　義

Ⅰ．担当教員名

生理学	教授	井上隆司	
生化学	教授	安永晋一郎	
病理学	教授	竹下盛重	
	〃	鍋島一樹	
	准教授	上杉憲子	
	〃	濵﨑慎	（病院病理部）
	講師	青木光希子	
総合医学研究センター	教授	朔啓二郎	
腫瘍・血液・感染症内科学	教授	髙松泰	（科目責任者）
	講師	戸川温	
	〃	佐々木秀法	
内分泌・糖尿病内科学	教授	柳瀬敏彦	
	〃	小林邦久	（筑紫病院）
	准教授	野見山崇	
	講師	田邉真紀人	
心臓・血管内科学	教授	三浦伸一郎	（副責任者）
	准教授	小川正浩	
	講師	池周而	
	〃	岩田敦	
	助教	長田芳久	（地域医療管理学講座）
消化器内科学	助教	石橋英樹	
呼吸器内科学	教授	藤田昌樹	
	准教授	石井寛	
	講師	串間尚子	
腎臓・膠原病内科	講師	安野哲彦	
神経内科学	教授	坪井義夫	
	准教授	緒方利安	
精神医学	助教	永野健太	
小児科学	教授	廣瀬伸一	
放射線医学	准教授	高野浩一	
	助教	坂本桂子	
消化器外科学	助教	愛洲尚哉	
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准教授	廣瀬龍一郎	（総合周産期母子医療センター）
	講師	濵武大輔	
心臓血管外科学	教授	和田秀一	
脳神経外科学	准教授	東登志夫	
	非常勤講師	勝田俊郎	（済生会唐津病院部長）
リハビリテーション部	教授	塩田悦仁	
	講師	鎌田聡	

Ⅱ．**到達目標**（Learning Outcome）

１．各診療科にまたがって診療されている各種基本的疾患について、病歴、症候、検査、病因、病態、診断、治療などを包括的に学ぶことにより疾患全体の理解を深める。

２．理解の仕方として、一つの疾患に対する各種専門分野（内科、外科、病理、放射線、公衆衛生など）の専門的アプローチの方法や意義を学ぶことにより、疾患全体を統合的に理解する。

Ⅲ．**コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）**（Competencies）

⑴　下垂体腫瘍（機能性腫瘍、非機能性腫瘍）を包括的に理解すると同時に、機能性腫瘍の種類、病因、病態、病理、内分泌学的診断法、治療法を理解できる。

⑵　悪性リンパ腫の分類、病因、病態、血液学的診断（染色体異常、FISH など）、病理、治療法やその副作用を理解し、癌治療に伴うリハビリテーションの意義を理解できる。

⑶　消化器系疾患の病因、病態、病理、画像診断、内科的治療法、外科的治療法と問題点について理解できる。

⑷　虚血性心臓病の病因、病態、病理、画像診断、内科的治療法、血管内治療、外科的治療法と問題点について理解できる。

⑸　脳卒中の病因、病態、画像診断、内科的治療法、外科的治療法について理解できる。

⑹　不整脈の病因、病態、心電図、内科的治療法、カテーテルアブレーション、ディバイス治療法について理解できる。

⑺　間質性肺炎の疫学、病因、病態、診断、移植医療、治療法について理解できる。

⑻　ループス腎炎並びにそれ以外の糸球体疾患の成因、病態、診断、病理、治療法について理解できる。

⑼　小児急性腹症の鑑別診断を理解できる。また治療について内科的・外科的方法に整理し理解できる。

⑽　糖尿病の成因、病態、治療法について理解する。

⑾　エイズの病因、病態、診断（病理診断含む）、治療およびメンタルヘルスについて理解できる。

⑿　高齢者特有の老年症候群、フレイル・ロコモ、呼吸器感染症、心疾患について理解する。

Ⅳ．**学習方略・事前事後学習の方法**（Learning Strategies）

〈学習方略〉

Ｍ１－Ｍ４における基礎、臨床講義、Ｍ５の実習を通じて習得した臨床知識を背景に講義に臨む。各種基礎的疾患に関して、各専門分野の講師からの講義により、知識の整理、統合を行う。講義はスライド、プリント等を使用して行い、講義の進行を総合司会者が受け持つことにより、講義者と学生の間での積極的な質疑応答を促す。

〈事前事後学習の方法〉

講義テーマに関しては、事前に過去の教材や教科書等で予習をしておく。本講義を通じて得た知識は、Ｍ５、Ｍ６のクリニカルクラークシップ実習においても活用し、復習するよう、努める。

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

原則全講義出席を進級要件とする。また、BSL 試験の出題範囲とする。

評価は合否で行う。

Ⅵ．**教科書**

関連各科の推薦教科書（関連各科の系統講義のページを参照）

Ⅶ．**参考書・文献**

同上

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	14	土	2	田邉 非常勤講師 勝田 青木	D-12	4)(1)	下垂体腫瘍	1. 内科から症例呈示 2. 脳神経外科から手術呈示 3. 病理学から病理解説 4. 治療等まとめ:内科サイド	講義
2	5	12	土	2	髙松・佐々木 青木・鎌田	D-1 E-3 F-2 E-8	4)(4)⑧ 2) 3)⑥ 4)①② 14)① 1)④⑩	悪性腫瘍の治療	1. 症例呈示 2. 診断 病理組織診断、染色体異常、FISH検査、がん化のメカニズム 3. 治療・支持療法 悪性腫瘍の治療概念、がん薬物療法の副作用 4. リハビリテ-ション がん患者へのリハビリテーションの目的・意義、実際	〃
3		26	土	2	石橋・愛洲	D-7 F-2	4) 6)9)	消化器疾患治療	1. 症例呈示　上部腫瘍・下部腫瘍 2. 内視鏡治療 3. 外科治療	〃
4	6	16	土	2	三浦・池 岩田 竹下・和田 朔	D-5	4)(2)①②③(7)	３枝病変の狭心症患者	1. 内科から症例呈示（リスクを含めて） 2. カテーテルインターベンション 3. 病理学から、白色血栓、赤色血栓、プラークの破裂 4. 冠動脈バイパス手術 5. 総括	〃
5	7	21	土	2	坪井・緒方 東・高野	D-2	4)(1)	脳卒中	1. 症例呈示 2. 内科的治療 3. 血管内治療 4. 脳卒中の画像	〃
6	9	29	土	2	三浦・井上隆 小川・長田 朔	C-2 D-5	1)(1)② 1)③ 4)(3)⑥	不整脈	1. 症例提示 2. 解説、心臓突然死 3. 心筋細胞電気生理、イオンチャネル 4. 不整脈の治療	〃
7	10	13	土	2	石井・坂本 鍋島一・濵﨑 濵武・藤田	D-6	4)(3)③(5)	間質性肺炎	1. 症例呈示 2. 放射線診断 3. 病理診断 4. 移植療法 5. まとめ	〃
8		27	土	2	安野・上杉	D-8	4)(2)③(6)②	糸球体疾患	1. 全般（ループス腎炎除く） 2. ループス腎炎 3. 病理	〃
9	11	17	土	2	廣瀬伸・廣瀬龍	D-7	4)(3)	小児急性腹症	1．症例提示 2．小児科サイドより 3．小児外科サイドより	〃
10	12	8	土	2	柳瀬・野見山 小林・安永	D-12	4)(5)	糖尿病	1．症例提示 2．糖尿病の病態 3．糖代謝の生化学 4．ケトアシドーシスの治療	〃
11	1	12	土	2	戸川・竹下 永野	E-2 C-5	4)(1)⑥(2)⑧ 6)⑤	エイズ	1．症例提示(内科) 2．エイズの診断と治療（内科） 3．病理診断(病理) 4．セクシャルマイノリティーについて(精神科)	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
12	1	26	土	2	柳瀬・塩田 串間・三浦	E-8	1)①②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑫	老年病学	1．老年症候群 2．フレイル・ロコモ 3．呼吸器 4．循環器	講義

第 6 学 年 講 義 要 目

福岡大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic			
Ⅰ．プロフェッショナリズム						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。	診療の場で医師としての態度・価値観を示すことができる	医師としての態度・価値観を模擬的に示すことができる	基盤となる態度・価値観を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅱ．医学的知識						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。	実践の場で問題解決に応用できる	問題解決に応用できる知識を示すことができる	模擬症例の問題リストを抽出できる知識を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
Ⅲ．診療技術・患者ケア						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。	診療の一部として実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。	実践できる	理解と計画立案ができる	基盤となる態度・スキルを示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力						
達成レベル	A	B	C	D	E	F
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。	実践できる	理解と計画立案ができる	計画された研究の見学、基盤となる技術・態度を示すことができる	基盤となる知識を示すことができる	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

科目名と卒業時コンピテンシー達成レベル【M6】		臨床修練Ⅱ	領域別集中講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	総合講義
Ⅰ．プロフェッショナリズム				
医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。				
1	医療者として法的責任、規則を遵守できる。	A	C/D	C/D
2	生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。	A	C/D	C/D
3	他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。	A	C/D	C/D
4	患者の個人情報保護を遵守できる。	A	C/D	C/D
5	多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。	A	C/D	C/D
6	患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。	A	C/D	C/D
7	医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。	A	C/D	C/D
8	患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。	A	C/D	C/D
Ⅱ．医学的知識				
基礎、臨床、社会医学等の知識を習得し、診療に応用できる。				
1	正常構造と機能	A	B	B
2	発達、成長、加齢、死	A	B	B
3	心理、行動	A	B	B
4	病因、構造と機能の異常	A	B	B
5	診断、治療	A	B	B
6	医療安全	A	B	B
7	疫学、予防、公衆衛生	A	B	B
8	保健・医療・福祉制度	A	B	B
9	医療経済	A	B	B
Ⅲ．診療技術・患者ケア				
患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。				
1	患者から病歴を的確に聴取できる。	A	C/D	C/D
2	成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。	A	C/D	C/D
3	患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。	A	C/D	C/D
4	診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。	A	C/D	C/D
5	頻度の高い疾患について、EBM（Evidence-Baced Medicine）に基づいた診断、治療方針について説明できる。	A	C/D	C/D
6	患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。	A	C/D	C/D
7	POS（Problem-Oriented System）を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。	A	C/D	C/D
8	患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。	A	C	D
Ⅳ．コミュニケーションとチーム医療				
患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。				
1	患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。	A	C/D	C/D
2	多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。	A	C/D	C/D
3	他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。	A	C/D	C/D
4	患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。	A	C/D	C/D
5	医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。	A	C/D	C/D
Ⅴ．グローバルな視野と地域医療				
医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。				
1	医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。	B	C/D	C/D
2	地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。	B	C/D	C/D
3	行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。	B	C/D	C/D
4	地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。	A	C/D	C/D
5	海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。	A	C/D	C/D
6	国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。	A	C/D	C/D
Ⅵ．科学的探究心と自律学習能力				
科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。				
1	基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。	A	C/D	C/D
2	最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。	A	C/D	C/D
3	ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。	A	A	A
4	未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。	A	C/D	C/D
5	自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。	A	A	A
6	診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。	A	C/D	C/D
7	学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。	A	A	A

臨　床　修　練　Ⅱ

実施期間

５月１日㈫～８月10日㈮の期間、選択科における15週間のクリニカルクラークシップを原則とする。

学習目標

Ｍ５における臨床修練Ｉを基礎として、さらに進んだ診療参加型臨床実習を行う。

評価方法

・実習の評価は、実施責任者及び担当医が行う。
・総合評価は実施責任者が行う。
・評価は合否で行う。

実習科目の選択方法

各診療科から提案されたクリニカルクラークシップまたはその他のプログラムの中から選択し希望するものを届け出て調整する。

臨床実習科一覧

• 福岡大学病院
　腫瘍・血液・感染症内科
　循環器内科
　消化器内科
　腎臓・膠原病内科
　神経内科・健康管理科
　内分泌・糖尿病内科
　呼吸器内科
　消化器外科
　呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
　救命救急センター
　産婦人科
　小児科
　精神神経科
　放射線科
　麻酔科
　整形外科
　心臓血管外科
　泌尿器科
　皮膚科
　眼科
　耳鼻咽喉科
　脳神経外科
　病理部
　形成外科
　総合診療部
　総合周産期母子医療センター（新生児部門）

• 福岡大学筑紫病院
　循環器内科
　消化器内科
　内分泌・糖尿病内科
　呼吸器内科
　外科
　小児科
　放射線科
　麻酔科
　整形外科
　泌尿器科
　眼科
　耳鼻いんこう科
　脳神経外科

• 学外実習病院（次頁参照）

学外実習コース

１．啓明大学コース

実習病院：啓明大学付属病院（韓国大邱市）

受け入れ期間：平成30年５月13日～５月26日

受け入れ人数：10名以内

臨床実習科：前年度実績（中止になったが、研修を予定していた科）

内分泌内科（Endocrinology）、循環器内科（Cardiology）、腎臓内科（Nephrology）、
神経内科（Neurology）、形成外科（Plastic Surgery）、
産婦人科（Obstetrics & Gynecology）、救急科（Emergency Medicine）、
眼科（Ophthalmology）、整形外科（Orthopedic Surgery）、泌尿器科（Urology）、
大腸肛門外科（Colorectal Surgery）

実習の目標：

海外の教育病院で臨床実習をすることにより、国際的な視野に立った臨床医学を学ぶ。

実習の方法：啓明大学５年生の臨床実習に参加し共に学ぶ。

評価：啓明大学の評価方法に準じて評価を受ける。

２．離島実習コース

実習病院：対馬病院、五島中央病院

受け入れ期間：平成30年５月１日～８月10日の間の２～３週間

（第Ⅰ期：5/1～5/25　　第Ⅱ期：5/28～6/22
第Ⅳ期：7/23～8/10）

受け入れ人数：各期１～２名、合計６名以内

実習の目標：実際の診療業務に参加しながら、基本的臨床技能と患者さんとのコミュニケーション能力、そしてチーム医療の実践能力を高めるとともに、地域医療についての基本的な考え方を学ぶ。また、地域に密着した医療に深く関連する保健・福祉活動についても学習し、地域包括ケアについての理解を深める。

実習方法：クリニカルクラークシップ

評　　価：学内の評価方法に準じて評価を受ける。

３．学外の卒後臨床研修指定病院等での実習

卒後研修予定病院等での臨床実習を希望する場合は、学外実習希望届けを提出し許可を得た上で実施する。修了後は実施確認書と評価票を提出する。

・学外実習として選択できる期間は、４期のうち２期までとする。

・学外実習の期間は、最低でも２週間以上の実習が可能な施設とする。
学外実習が２週間の場合は、その期の残り２週間を別の学外実習にあてることができる。
残りの２週間に学外実習の予定がない場合は、原則学内の臨床実習に配置する。
また、期をまたぐ学外実習は、認めない。（例：5/21–6/1のように、期をまたぐことはできない。）

※第Ⅱ期での学外実習については、6/11（月）～6/12（火）に本学で実施する第１回模擬試験を必ず受験することを条件とする。

医療安全教育

福岡大学病院の医療安全教育（医療安全実習セミナーを含む）を必ず受講する。

・安全１回

・感染１回

Ｍ６　領域別集中講義Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

医師として責任ある医療を行うために、これまでに修得した基礎、社会医学および臨床系の知識と技能を臓器・機能単位で系統的に総括する。臓器・機能単位は下表のとおり３つの領域別Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに分けて集中講義および、領域別集中講義試験を行う。

領域別集中講義Ⅰ

日　程	講義科目（責任者）	評価科目
４月２日、４月３日	循環器病学（三浦・和田）	領域別集中講義Ⅰ試験 (4月12日、４月13日)
４月３日、４月４日	内分泌・代謝病学（柳瀬）	〃
４月４日、４月５日	腎臓・膠原病学（中島・升谷）	〃
４月５日、４月６日	消化器病学（向坂・長谷川）	〃
４月６日、４月９日	腫瘍・輸血・血液・感染症学（髙松）	〃

領域別集中講義Ⅱ

日　程	講義科目（責任者）	評価科目
４月16日、４月17日	呼吸器病学（藤田・岩﨑昭）	領域別集中講義Ⅱ試験 （４月26日、４月27日）
４月17日、４月18日	脳神経病学（坪井・井上亨）	〃
４月19日、４月20日	産科婦人科学（宮本）	〃
４月20日、４月23日	小児医学（廣瀬・野村）	〃

領域別集中講義Ⅲ

日　程	講義科目（責任者）	評価科目
９月10日	精神医学（川嵜）	領域別集中講義Ⅲ試験 (10月5日、10月9日、10月10日)
９月11日、９月12日	放射線科学・臨床検査医学（吉満・松永）	〃
９月13日	眼科学（内尾）	〃
９月14日	皮膚科学・形成外科学（今福・大慈弥）	〃
９月18日	整形外科学（山本）	〃
９月19日、９月20日	麻酔科学・救命救急医学（山浦・石倉）	〃
９月21日	泌尿器科学（田中）	〃
９月25日	耳鼻咽喉・口腔系（坂田・近藤）	〃
９月26日～９月28日 10月１日～10月３日	公衆衛生学・法医学・ セーフティマネージメント（有馬）	〃

Ⅴ．**成績評価および方法**（Evaluation）

それぞれの領域別集中講義後所定の日時に領域別集中講義試験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを行う。問題は国試形式で出題数は講義時間にほぼ対応する。

領域別Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ毎に評価を行い、不合格の場合は各領域別に再試験を行う。

再試験日程

領域別集中講義Ⅰ　再試験（予定）　８月23日、８月24日

領域別集中講義Ⅱ　再試験（予定）　８月28日、８月29日

領域別集中講義Ⅲ　再試験（予定）10月17日～10月19日

以下のページにはそれぞれ講義科目毎のコンピテンシー、学習方略や日程表があるので熟読すること。

領域別集中講義Ⅰ（循環器病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙　松　　泰	（評価責任者）
心臓・血管内科学	教　授	三　浦　伸一郎	（責任者）
	講　師	志　賀　悠　平	
	〃	森　井　誠　士	
心臓血管外科学	教　授	和　田　秀　一	（責任者）
小　児　科	講　師	吉　兼　由佳子	（筑紫病院）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．循環器の検査法を説明し判読できる。
2．先天性心疾患の血行動態を説明し、その診断と治療法を述べる。
3．後天性心疾患の血行動態を説明し、その診断と治療法を述べる。
4．虚血性心疾患の危険因子、診断法を説明し、治療法を述べる。
5．ショック・心不全の病態を説明し、診断、治療法を述べる。
6．不整脈の種類と機序を列挙し、診断と治療法を述べる。
7．動・静脈疾患の診断と治療法を述べる。
8．心膜疾患の診断と治療法を述べる。
9．心筋疾患の診断と治療法を述べる。
10．心臓の腫瘍の診断と治療法を述べる。
11．血圧異常の成因を列挙し、診断法、治療法を述べる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

プリントやスライドで呈示された症例の病歴、身体所見、検査所見を判読し、診断や治療方針を討論し各自の知識の整理をする。

講義内容を、プリントなどを用いて復習し、習熟度を高めること。

Ⅵ．教科書

1．高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第８版　医学書院　2002
2．杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第９版　朝倉書店　2007
3．森川昭廣・内山　聖・原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院　2006

Ⅶ．参考書・文献

1．高橋長裕：図解先天性心疾患　血行動態の理解と外科治療　第２版　医学書院　2007
2．小室一成　編：血管疾患を診る・治す　文光堂　2010
3．高尾篤良ほか　編：臨床発達心臓病　中外医学社　改訂３版　2001

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	2	月	1	三浦	D-5	4) (1)(2) (5)	虚血性心疾患、心膜疾患	症例検討、心血管病予防	講義
2				2	志賀	D-5	1)～3) 4) (1)(4) (5)(9)	脈管総論、心不全、弁膜症、心筋症	問題解説	〃
3				3	和田	D-5	4)(7) ②～④	動・静脈疾患	大動脈解離、急性動脈閉塞、肺塞栓	〃
4				4	森井	D-5	1) ③④	不整脈	症例検討	〃
5				5	吉兼	D-5 E-4	4)(6) 3)5)③	小児期心疾患の診断と特徴、川崎病とその合併症		〃
		3	火	1						自習

領域別集中講義Ⅰ（内分泌・代謝病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
内分泌・糖尿病内科学	教　授	柳瀬　敏彦（責任者）
	准教授	野見山　崇
	講　師	田邉　真紀人
	助　教	元永　綾子
臨床検査医学	教　授	松永　彰

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．ホルモンの定義、基本的構造を説明できる。
2．各内分泌器官の位置を図示し、分泌されるホルモンを列挙できる。
3．ホルモンの作用機序と分泌調節機構を説明できる。
4．視床下部、下垂体疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
5．視床下部、下垂体疾患の画像検査の意義と適応を述べ、結果を解釈できる。
6．甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症の病因を列挙し、鑑別できる。
7．甲状腺疾患の治療法と適応を説明できる。
8．副甲状腺疾患とカルシウム代謝を説明できる。
9．副腎皮質疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
10．糖尿病の病因、病態生理、分類、症候、診断と治療を説明できる。
11．糖尿病の急性代謝失調、糖尿病性細小血管合併症および大血管障害を説明できる。
12．糖尿病の食事療法、運動療法と薬物治療を説明できる。
13．脂質とリポ蛋白の構造と機能を説明できる。
14．高脂血症の分類、診断と治療を説明できる。
15．尿酸代謝とその異常を説明できる。
16．ビタミンの欠乏症と過剰症を説明できる。
17．水・電解質異常を説明できる。
18．アシドーシスとアルカローシスを説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．教科書や問題集により受講前後に自習する。
2．講義により解説を行う。

自習：テーマに従い教科書等により事前学習する。また講義プリントを事前学習する。

Ⅵ. 教科書

特になし

Ⅶ. 参考書・文献

・矢﨑義雄　総編集：内科学　第10版　朝倉書店

・高久史麿、尾形悦郎、黒川　清、矢﨑義雄　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院

・寺本民生、片山茂裕　編集：講義録　内分泌・代謝学　メジカルビュー社

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	3	火	2	野見山	D-12	4)(5)	糖代謝異常	糖尿	講義
2				3	元永	D-12	4)(2)(3)	甲状腺疾患・副甲状腺疾患	甲状腺疾患の診断と治療、カルシウム代謝とその異常	〃
3				4	柳瀬	D-12	4)(4)	副腎疾患・性腺	副腎疾患、性腺機能低下症、性分化異常症	〃
				5						自習
4		4	水	1	田邉	D-12	4)(1)	視床下部・下垂体	間脳・下垂体疾患	講義
5				2	松永	D-12	1)⑨ 4)(6)(7)②(8)	脂質代謝異常・尿酸代謝	脂質異常症、痛風、その他の異常	〃
						D-8	3)(1)(2)			

領域別集中講義Ⅰ（腎臓・膠原病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
腎臓・膠原病内科学	教　授	中島　衡（責任者）
	准教授	升谷耕介（責任者・実務責任者）
	〃	三宅勝久
	講　師	安野哲彦
	〃	伊藤建二

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．原発性及び続発性の糸球体疾患及び尿細管間質病変について、病因、病理、病態の面からその特徴を列記し、臨床症状、検査所見、治療と治療成績と関係づける。

２．腎不全について、急性と慢性の特徴を比較し、その病因と病態、治療について説明する。

３．膠原病に属するそれぞれの疾患の診断、治療、合併症について、説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

各科の講義が中心となるが、特に腎疾患では腎組織所見が重要であるので、それぞれの組織写真および各種画像を用い、各疾患を概説する。

指定した教科書の腎臓に関する事項をよく読み、重要なポイントを把握すること。

Ⅵ．教科書

Ｍ３各科講義の教科書に準じる。

Ⅶ．参考書・文献

Ｍ３各科講義の参考図書に準じる。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	4	水	3	伊藤	D-8	1)2)	腎総論	腎臓の生理、検査　他	講義
2				4	中島	E-4	3)(2)①	膠原病①	関節リウマチ、膠原病	〃
				5						自習
3		5	木	1	三宅	E-4	3)(5)①	膠原病②	血管炎	講義
4				2	安野	D-8	4)(1)	腎疾患	急性・慢性腎不全　他	〃
5				3	升谷	D-8	4)(2)(6)	腎病理	糸球体腎炎、間質性腎炎	〃

領域別集中講義Ⅰ（消化器病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（評価責任者）
消化器内科学	教　　授	向　坂　彰太郎（責任者）
	准　教　授	釈迦堂　　敏
	〃	竹田津　英　稔（内視鏡部）
	助　　教	石　橋　英　樹
消化器外科学	教　　授	長谷川　　傑（責任者）
	准　教　授	吉　田　陽一郎
消化器内科	教　　授	植　木　敏　晴（筑紫病院）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．上部、下部消化管疾患の病態生理、画像診断を理解し、的確な診断と治療を選択する事ができる。

２．慢性肝疾患の病因、発生機序、病態を理解し、適切な診断と治療法を選択することができる。

３．肝臓の生理機能と肝腫瘍の疫学、成因、病態、画像診断を理解し、適切な診断と治療が選択できる。

４．胆道疾患の病態生理、画像診断を理解し、適切な診断と治療法の選択ができる。

５．膵疾患の病態生理、画像診断を理解し、適切な診断と治療法の選択ができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

医師国家試験問題解説

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

Ⅵ．教科書

特に指定なし

Ⅶ．参考書・文献

森岡恭彦、森　　亘　監：消化器病外科病理学　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	5	木	4	植　木	D-7	1）⑨ 2）③ 4）(6) (8)⑩⑪	膵疾患とそのまとめ	膵疾患の病態と画像診断、国試問題に関連して	問題演習・講義
2				5	竹田津	D-7	4）(3) (8)⑥⑦⑫	下部消化管疾患	腸炎、感染、食中毒、腸腫瘍、ポリポーシス	〃
		6	金	1						自習
3				2	釈迦堂	D-7	4）(5) (8)⑨	肝炎、肝硬変、肝癌、自己免疫性疾患など	急性肝炎、B型肝炎、C型肝炎、肝硬変の合併症、治療、肝癌の診断と治療、自己免疫性肝疾患、代謝性肝疾患など	問題演習・講義

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
4	4	6	金	3	吉田	D-7	4) (4)〜(6) (８)⑧ ⑨	消化器疾患の外科治療	消化器疾患の外科治療、国試問題に関連して	問題演習・講義
5				4	石橋	D-7	4) (1) (2) (8) ①〜⑤	上部消化管疾患	食道疾患、胃腫瘍、消化性潰瘍、消化と吸収	〃

領域別集中講義Ⅰ（腫瘍・輸血・血液・感染症学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者・責任者）
	教　授	髙田　徹（実務責任者）（感染制御部）
	准教授	田中俊裕
	講　師	戸川　温

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．腫瘍・血液学

１）血液・悪性腫瘍疾患にみられる主訴、病歴、身体診察、生体検査、画像検査の特徴について概説できる。

２）がんの病因、がん遺伝子について説明できる。

３）がん細胞の特徴について説明できる。

４）診断、病期決定、腫瘍マーカーについて概説できる。

５）がん患者を治療するにあたって必要な要件ならびに目的を述べることができる。

６）局所療法、全身療法について概説できる。

７）がん薬物療法について概説できる。

８）緩和医療について説明できる。

９）貧血の分類、鑑別診断および病態、原因に応じた治療について説明できる。

10）白血球増多、減少する疾患を挙げ鑑別することができる。

11）白血病の分類、病態、治療を説明できる。

12）骨髄増殖症候群、骨髄異形成症候群について説明できる。

13）リンパ節腫脹、脾腫をきたす疾患の鑑別診断を説明できる。

14）悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などのリンパ網内系腫瘍の分類、病態、治療を説明できる。

15）出血傾向の鑑別診断の要点を説明できる。

16）血小板減少をきたす疾患の鑑別診断および病態、原因に応じた治療について説明できる。

17）凝固異常症についてその病態、および治療について説明できる。

２．輸血学

１）輸血に必要な検査を説明できる。

２）適正な輸血療法を説明できる。

３）輸血の副作用をあげ、その予防法、治療法について説明できる。

４）輸血過誤（ABO 不適合輸血）の原因と発生時の対応を説明できる。

３．感染症学

１）医療器具関連感染症、術後感染症、術部位感染症を説明できる。

２）各病原微生物、各感染症臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。

３）細菌感染症診断における直接塗沫、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる。

４）病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。
５）院内感染とその予防策を説明できる。
６）薬剤耐性＜ AMR ＞や主要な薬剤耐性菌を説明できる。
７）敗血症の症候、診断と治療を説明できる。
８）主要なウイルス感染症の病態、診断、治療について説明できる。
９）HIV 感染症の感染経路、自然経過、症状、診断、治療と感染対策を説明できる。
10）主要な深部真菌感染症を概説できる。
11）マラリアの症候、診断と治療を説明できる。
12）免疫不全患者に生じる感染症を説明できる。
13）クラミジア、マイコプラズマ、リケッチア感染症の症候、診断、治療について説明できる。
14）渡航医学について説明できる。
15）予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
16）性感染症について説明できる。
17）感染症法を概説できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

講義は、国家試験に出題された問題を基に、その分野で修得すべき重要な点に特に焦点を絞り、スライドを使っての講義を行う。

M3、M4 で使用した「感染症学テキスト」、「腫瘍・輸血・血液学テキスト」や教科書を参考に、事前に国家試験の問題を解いて講義に臨む。講義での解説を聞いて、自分の知識を整理する。

Ⅵ．教科書

福岡大学腫瘍・血液・感染症内科学作成：感染症学テキスト、腫瘍・輸血・血液学テキスト
矢﨑義雄　総編集：内科学　第 11 版　朝倉書店　2017
高久史麿・尾形悦郎・黒川清・矢﨑義雄　編：新臨床内科学　第 9 版　医学書院　2009
日本臨床腫瘍学会　監修：入門腫瘍内科学　篠原出版新社　改訂第 2 版　2015

Ⅶ．参考書・文献

日本臨床腫瘍学会　編：新　臨床腫瘍学　改訂第 4 版　南江堂　2015
日本血液学会　編：血液専門医テキスト　改訂第 2 版　南江堂　2015

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
	4	6	金	5						自習
1		9	月	1	髙松	D-1	1)④⑦ 3) 4)(4)	白血球系疾患、緩和医療	血液腫瘍、リンパ節腫脹、輸血、緩和ケア、終末医療	講義
						E-3	3)⑦			
						E-8	1)②⑨			
						F-2	13) ①～④			
2				2	田中	D-1	1)～4)	赤血球疾患、出血傾向	貧血の鑑別と治療、出血性疾患の診断と治療、血栓症の鑑別と治療	〃
3				3	髙田	E-2		感染症	検査、治療、症候、院内感染、敗血症、細菌感染症	〃
4				4	戸川	E-2	1)～4)	〃	感染症の診断・治療、予防接種、渡航医学	〃
				5						自習

領域別集中講義Ⅱ（呼吸器病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
呼吸器内科学	教　授	藤田昌樹（責任者）
	准教授	石井　寛
	講　師	串間尚子
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	教　授	岩﨑昭憲（責任者）
	准教授	山下眞一

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１）主たる呼吸器疾患の画像と呼吸生理学的特徴の説明ができる。

２）主たる呼吸器疾患の内科的・外科的治療法および管理についてその概要を把握し、適切な対策を立てることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

プリントやスライドで呈示された疾患の病歴、身体所見、検査所見を理解し、診断や治療方針を整理させる。

〈事前事後学習の方法〉

１）呼吸器病学講義に使用したシラバスを読んでおき、次回の講義を予習すること。

２）講義プリントおよびMoodleにアップロードされた資料を用い呼吸器病学を復習し、各科試験に備える。

Ⅵ．教科書

杉本恒明・矢崎義雄　編：内科学　第11版　朝倉書店　2017

小川　聡　編：内科学書　第８版　中山書店　2013

門脇　孝・永井良三　編：カラー版　内科学　西村書店　2012

高久史麿・尾形悦郎　監修：新臨床内科学　第９版　医学書院　2009

金澤一郎・北原光夫・山口　徹・小俣政男　編：内科学　医学書院　2006

正岡　昭　編：呼吸器外科学　第４版　南山堂

渡辺洋宇　編：臨床呼吸器外科　第２版　医学書院

Ⅶ．参考書・文献

金澤　實・永田　真・前野敏孝　編：呼吸器病学　丸善出版　2012

Fishman’s Pulmonary diseases and disorders（4thed）　MacGraw-Hill 2008

Shields T W　編：General thoracic surgery（7thed）　Lippincott Williams & Wilkins　2009

長瀬隆英・永田泰自：図解　呼吸器内科学テキスト　中外医学社　2006

和田洋巳・三嶋理晃　監修：呼吸器病学総合講座　メディカルレビュー社　2004

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	16	月	1	藤田	D-6	1)～3)	呼吸器疾患総説	病歴・身体所見・胸部画像	講義
2				2	山下	D-6	4)(8)(9)	肺腫瘍	肺癌、良性腫瘍、転移性腫瘍、縦隔腫瘍	〃
3				3	藤田	D-6	4)(9)	〃	抗がん剤・ターミナルケア	〃
4				4	〃	D-6	4)(1)(3)(4)(6)	呼吸不全・閉塞性肺疾患	気管支喘息・COPD・呼吸不全・肺循環障害	〃
				5						自習
5		17	火	1	石井	D-6	4)(3)(5)(7)	びまん性肺疾患	間質性肺炎・じん肺・サルコイドーシス、他	講義
6				2	串間	D-6	4)(2)	呼吸器感染症	肺結核症・肺炎、他	〃

領域別集中講義Ⅱ（脳神経病学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
神経内科学	教　授	坪井義夫（責任者）
	助　教	津川　潤（実務責任者）
	〃	藤岡伸助
	非常勤講師	福原康介（医療法人福原医院）
脳神経外科学	教　授	井上　亨（責任者）
	准教授	東　登志夫（実務担当者）
	講　師	野中　将
	〃	森下登史
救命救急医学	准教授	岩朝光利

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

スライド、ビデオを活用し、問題演習等を行う。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

指定した教科書の講義の項目・キーワードを事前に読んで、専門用語の意味などを理解しておくこと。

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

田崎義昭、斎藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた　南山堂　2010

平山惠造　他訳：神経内科治療マニュアル　メディカルサイエンスインターナショナル　1992

児玉南海雄　他：標準脳神経外科学　医学書院　2014

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	17	火	3	津川	D-2	4)(3)(5)	神経症候学・神経変性疾患	内科疾患に伴う神経症状、認知症疾患、Parkinson病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患	講義
2				4	藤岡	D-2 E-8	4)(3) 1)	感染、免疫、高齢者	脳炎、多発性硬化症、その他の神経疾患	〃
3				5	坪井	D-2	3)	神経症候学	神経症候、局在診断、必要な解剖	〃
4		18	水	1	非常勤講師 福原	D-2	3)(1)(2)(3)	末梢神経、神経・筋、筋接合部、脊髄	重症筋無力症、筋疾患、脊髄疾患	〃
5				2	岩朝	D-2	4)(4)2)①	頭部外傷・画像診断	頭部外傷（病態、分類、診断、治療）その他の脳外科疾患	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
6	4	18	水	3	野中	D-2	4)(10)	脳腫瘍	髄外腫瘍（髄膜腫、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫、聴神経鞘腫、胚細胞腫）	講義
7				4	東	D-2	4)(1)	脳血管障害	脳梗塞、くも膜下出血、高血圧性脳内出血、AVM、もやもや病	〃
8				5	森下	D-2	1)(4)(5)③(6) 3)(1)③ 4)(7)	脳外科疾患	機能的疾患、脊髄、感染、小児、他	〃

領域別集中講義Ⅱ（産科婦人科学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
産科婦人科学	教　授	宮本新吾（責任者）
	准教授	城田京子
	講　師	村田将春（総合周産期母子医療センター）
	助　教	讃井絢子（　〃　）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．生殖内分泌臓器の構造と機能、性分化異常、不妊症の診断と治療について理解する。

２．外陰、子宮頸部、子宮体部、卵巣、絨毛性腫瘍の診断と治療について理解する。

３．乳腺疾患の診断と治療について理解する。

４．妊娠の成立と維持、分娩の３要素（産道、娩出物、娩出力）、正常分娩および産褥の経過について理解する。

５．出生前診断、産科感染症、妊娠の異常（流産、子宮外妊娠、早産、前期破水、妊娠中毒症、常位胎盤早期剥離と前置胎盤、羊水の過多症と過少症、多胎妊娠、双胎間輸血症候群、血液型不適合妊娠、過期妊娠、胎盤機能不全）について理解する。

６．分娩の異常（陣痛の異常、児頭骨盤不均衡、骨盤位、多胎分娩、胎児仮死、産科ショック）、産科救急医療、産褥の異常について理解する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

講義を行い生殖内分泌、婦人科腫瘍、周産期関連の理解を再確認し、その後、国家試験問題形式による生殖内分泌、婦人科腫瘍、周産期関連の問題解答のコツを理解する。

事前に国家試験の過去問を解いて、理解度や疑問などを確認しておくこと。講義後はよく復習し、国家試験に備えること。

Ⅵ．教科書

指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

１）石塚文平ら編：NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療、永井書店（2006年）

２）武谷雄二・中野仁雄・矢嶋　聰　編集：New 産婦人科学改訂第２版、南江堂（2004年）

３）坂元正一、水野正彦、武谷雄二　編集　プリンシプル産科婦人科学２　第３版M edical View（2014）

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	19	木	1	城田	D-9	1) 2)	内分泌	性分化異常、生殖奇形、思春期、多嚢胞性卵巣症候群、不妊・不育、プロラクチン	講義
2				2	〃	D-9	1) 2)	内分泌、婦人科	HRT（避妊（ピル）、早発閉経を含む）、子宮筋腫、子宮内膜症、その他	〃
3				3	宮本	D-9	2)3)4)	婦人科腫瘍	子宮癌、卵巣癌、絨毛癌、外陰癌、その他	〃
4				4	村田	D-10	1)2)3)	産科正常 1	陣痛、産道、産褥、分娩監視、胎児発育	〃
5				5	〃	D-10	1)2)3)	産科正常 2	〃	〃
6		20	金	1	讃井	D-10	1) 4)	産科異常 1	妊娠高血圧症候群、子宮内発育遅延、合併症妊娠、ハイリスク妊娠	〃
7				2	〃	D-10	1) 4)	産科異常 2	〃	〃

領域別集中講義Ⅱ（小 児 医 学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙　松　　泰（評価責任者）
小 児 科 学	教　授	廣　瀬　伸　一（責任者）
	講　師	太　田　栄　治（総合周産期母子医療センター）
	〃	野　村　優　子（責任者）
	〃	石　井　敦　士
	助　教	中　村　公　紀（総合周産期母子医療センター）
	〃	橋　本　淳　一（筑紫病院）
	〃	井　原　由紀子
	〃	山　﨑　靖　人（西新病院）
	〃	佐々木　聡　子

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．講義を通じ、小児医学で重要な点が理解出来る。

２．一般講義で不明であった事項が理解出来る。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

１．医師国家試験の過去問を用いた講義による。

２．過去の医師国家試験中の小児科関連問題を解いておくこと。

Ⅵ．教科書

廣瀬伸一　編著：医師国家試験のためのサマリーブック小児科　㈱海馬書房　2009

Ⅶ．参考書・文献

102～112回の医師国家試験問題集

森川昭廣、内山　聖、原　寿郎　編：標準小児科学　第８版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	4	20	金	3	橋本	D-5	4)(4)(6)	循環器	先天性心疾患、後天性心疾患、川崎病	講義
						E-4	3)(5)③			
2				4	山﨑	D-8	4)(2)	腎	腎炎、ネフローゼ症候群	〃
3				5	中村	E-7	1)⑤⑧	新生児	仮死、呼吸器疾患	〃
4		23	月	1	太田	E-2	4(1)②～⑧(2)①②	感染	細菌感染症、ウイルス感染症、予防接種	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
5	4	23	月	2	野村	D-1	4)(1)(2)(4)	血液	免疫、貧血、白血病、固形腫瘍	講義
						E-7	3)③			
						E-4	3)(7)			
						E-3	5)①⑫⑭			
6				3	佐々木	D-12	3)(1)4)(1)～(5)	内分泌・代謝	下垂体、甲状腺、副腎、性腺疾患	〃
7				4	井原	E-7	2)	乳児の栄養、身体発育・発達	栄養・脱水、身体発育、精神	〃
8				5	石井	F-1	8)	神経	けいれん、脳症、中枢神経感染症、筋疾患	〃
						G-2	8)			
						D-2	4)(3)①(6)			

領域別集中講義Ⅲ（精 神 医 学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（評価責任者）
精 神 医 学	教　　授	川　嵜　弘　詔（責任者）
	准 教 授	尾　籠　晃　司（実務責任者）
	講　　師	衞　藤　暢　明
	非常勤講師	楯　林　英　晴（福岡県精神保健福祉センター所長）
総合医学研究センター	教　　授	西　村　良　二

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

No １．

⑴　器質性精神障害、特に認知症について説明することができる。

⑵　精神作用物質とは何か、その摂取による乱用、依存、後遺障害について説明することができる。

⑶　依存症、後遺症に対する基本的な治療法について説明することができる。

⑷　睡眠覚醒障害の分類を理解し、その概念について述べることができる。

No ２．

⑴　統合失調症と気分障害の概念を理解し、症状・診断・経過・治療について説明することができる。

⑵　シナプスにおける神経伝達物質の流れと、神経伝達の異常による統合失調症と気分障害の発症について説明することができる。

⑶　抗精神病薬と抗うつ薬の種類と作用機序について説明することができる。

⑷　抗精神病薬と抗うつ薬の適応について説明することができる。

⑸　抗精神病薬と抗うつ薬の副作用について説明することができる。

No ３．

⑴　小児自閉症について説明できる。

⑵　Asperger 症候群について説明できる。

⑶　多動性障害について説明できる。

⑷　チック障害について説明できる。

No ４．

⑴　精神保健福祉法に関連する入院形態を知り、症例に応じ選択することができる。

⑵　精神保健福祉法に関連する社会復帰施設について説明することができる。

⑶　精神科リハビリテーションの技法について説明することができる。

⑷　成年後見人制度について説明することができる。

No ５．

⑴　パニック障害、PTSD、解離性障害について症状、病態、治療を説明することができる。

⑵　摂食障害など近年注目を浴びている病態について、症状、予後、治療について説明することができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

印刷物、パワーポイントを使って講義を行う。

〈事前事後学習の方法〉

事前：キーワード、行動目標を確認して講義にのぞむ。

事後：指定教科書を読み、講義の内容を確認する。

Ⅶ．参考書・文献

厚生省精神保健福祉法規研究会＝監修：精神保健福祉法詳解　中央法規出版

野村総一郎、樋口輝彦　編：標準精神医学　第７版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	10	月	1	尾籠	D-15	3)①～③	器質性精神障害、アルコール、薬物依存、睡眠覚醒障害	せん妄、認知症、うつ病、症候性精神障害、器質性精神障害、身体表現性障害、キューブラ・ロス、死の受容、ターミナルケア、精神作用物質、乱用、依存（精神、身体）、後遺障害、耐性、アルコール関連障害、抗不安薬、睡眠薬乱用、依存、有機溶剤関連障害、覚せい剤関連障害、集団精神療法、共依存、REM睡眠、ナルコレプシー、睡眠時無呼吸症候群、ピックウィック症候群、n－CPAP、睡眠相遅延症候群	講義
2				2	川嵜	D-15	1)⑤ 2)② 3)④	統合失調症、気分障害の診断と治療	統合失調症、ブロイラーの４徴候、シュナイダーの一級症状、幻覚、妄想、思考障害、陽性症状、陰性症状、気分障害、うつ病、躁うつ病、セロトニン、ノルアドレナリン、ドーパミン、セロトニン症候群、抗うつ薬、抗精神病薬、向精神薬	〃
						F-2	8)④⑭			
3				3	西村	D-15	3)⑪⑫	児童精神医学	広汎性発達障害、Kanner、学習障害、チック障害、被虐待児症候群、ADHD	〃
4				4	非常勤講師 楯林	D-15	1)③	精神保健福祉法と精神科リハビリテーション	精神保健福祉法、任意入院、措置入院、医療保護入院、精神保健指定医、家族心理教育、生活技能訓練、ノーマライゼーション	〃
5				5	衞藤	D-15	3)⑦～⑨	ストレス反応と神経症性障害	不安障害、強迫性障害、急性ストレス反応、PTSD、認知行動療法、精神療法	〃

領域別集中講義Ⅲ（放射線科学・臨床検査医学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
放射線医学	教　授	吉満研吾（責任者）
	〃	長町茂樹（放射線部）
	准教授	高野浩一（実務責任者）
	助　教	坂本桂子
臨床検査医学	教　授	松永　彰（責任者）
総合診療部	教　授	鍋島茂樹
腫瘍・血液・感染症内科	准教授	田中俊裕

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1）放射線のヒトへの影響と防護について理解し、説明できる。
2）核医学検査の適応と画像所見について説明できる。
3）臨床検査の基準範囲、病態識別値の意味を説明する。
4）検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率、陽性的中率、尤度比）を説明する。
5）放射線治療の原理、治療法、適応について説明できる。
6）神経疾患の総合画像診断について述べることが出来る。
7）総合画像診断の役割について述べることが出来る。
8）尿検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
9）末梢血液検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
10）血液凝固検査の方法、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
11）血液生化学検査診断の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
12）免疫血清学的検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
13）一般細菌の塗沫・培養法、適応と異常所見を説明し、結果を解釈する。
14）ウイルス検査、抗体検査を説明する。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1）教科書、プリントによる講義
2）指定した教科書の該当項目を事前に読んで理解する。
3）講義後、教科書、M3時に配布した講義テキスト（Radiology 2017）、Ｍ４講義テキスト（検査診断学）、プリントを読み直して理解する。

Ⅵ．教科書

西谷・遠藤・松井・伊東　編：標準放射線医学　第７版　医学書院
河合　忠　他編集：異常値の出るメカニズム　第６版　医学書院

Ⅶ．参考書・文献

高木　康、山田俊幸　編：標準臨床検査医学　第４版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	11	火	1	長町	E-6		放射線管理・核医学・放射線治療	線量限度、被曝管理、シンチグラフィ、PET、放射線治療	講義
						F-2	5)			
2				2	坂本	E-6		胸部放射線診断	画像診断の役割	〃
3				3	高野	D-2	2)	神経放射線学	神経疾患、画像診断	〃
4				4	吉満	D-7	2)	腹部疾患の画像診断	腹部疾患、画像診断	〃
				5						自習
5		12	水	1	松永	F-2	3)①～⑦	検査の基本	検査診断、基準範囲、検体の採取と保存	講義
						F-3	4)①			
6				2	〃	F-2	3)⑧⑪⑭⑮	尿検査・血液化学検査	尿一般、血清蛋白、糖、脂質	〃
7				3	鍋島	F-2	3)⑧	微生物検査	細菌検査、ウイルス検査	〃
8				4	田中	F-2	3)⑬	血液検査	血液一般、凝固・線溶系	〃
				5						自習

領域別集中講義Ⅲ（眼　科　学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学　教　授　髙松　泰（評価責任者）
眼　科　学　教　授　内尾英一（責任者）
講　師　尾崎弘明（実務責任者）
〃　佐伯有祐
助　教　日吉篤史

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．医師国家試験出題ガイドラインの眼科関連項目を理解し説明できる。
２．必修項目については禁忌枝を判断できる。
３．必修項目はなぜ必修なのか理解し説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

１．医師国家試験の過去問を用いた講義となる
２．医師国家試験の眼科関連問題を解いておく

Ⅵ．教科書

標準眼科学　第13版　医学書院
現代の眼科学　第12版　金原出版

Ⅶ．参考書・文献

特になし

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	13	木	1	日吉	D-13	1)～2)	国試対策	過去問解説	講義
2				2	佐伯	D-13	3)～4)	〃	〃	〃
3				3	尾崎	D-13	3)～4)	〃	〃	〃
				4						自習
				5						〃

領域別集中講義Ⅲ（皮膚科学・形成外科学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
皮膚科学	教　授	今福信一（責任者）
	講　師	山口和記（実務責任者）
	〃	柴山慶継
	〃	内藤玲子
形成外科学	教　授	大慈弥裕之（責任者）
	講　師	川上善久

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．炎症性皮膚疾患のうち一般的なものについて特徴を説明できる。
2．代表的な皮膚腫瘍の名称と特徴を説明できる。
3．皮膚疾患のいくつかを通して、皮膚科特有の検査法についてその対象疾患と方法について説明できる。
4．創傷治療のメカニズムを理解できる。
5．植皮、皮弁の特徴を説明できる。
6．切開、縫合法、Ｚ形成術、マイクロサージャリーを説明できる。
7．熱傷、顔面外傷、外表先天異常、再建外科を説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

・小テストによる要点の確認、スライド・教科書・プリントによる講義。
・皮膚科は肉眼所見が第一であるので、豊富な臨床写真を各疾患の説明に呈示する。したがってアトラスは推奨できる。
・国家試験問題の解説をしつつ、臨床症例を呈示して内容の理解を深める。
・指定した教科書の割り当て部分を事前に読んでおくこと。

Ⅵ．教科書

清水　宏　著：あたらしい皮膚科学　第３版　中山書店　2018
大塚藤男　著・編：DERMATOLOGY　皮膚科学　第10版　金芳堂　2016
標準形成外科学　第６版　医学書院　2011

Ⅶ．参考書・文献

1．富田　靖　監修：標準皮膚科学　第10版　医学書院　2013
2．塩谷信幸　監修：創傷治癒　ブレーン出版　2005

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	14	金	1	川上	G4	2)	形成外科学全般	創傷治癒、形成外科基本手技、熱傷、顔面外傷、先天異常	講義
2				2	今福	D3	1)2)4)(6)(7)	皮膚科学総論、感染症、角化症	構造・機能、診断・治療、細菌、ウイルス・真菌・性感染症、遺伝性および炎症性角化症	講義・小テスト
3				3	山口	D3	4)(1)～(5)	紅斑症、膠原病、皮膚アレルギー疾患	紅斑症、膠原病、水疱症、膿疱症、血管炎、湿疹、蕁麻疹、薬疹	〃
4				4	内藤	D3	4)(6)	肉芽腫症、口腔粘膜疾患、内科疾患と皮膚	サルコイドーシス、扁平苔癬、白板症、代謝異常症、糖尿病、神経皮膚症候群、デルマドローム	〃
5				5	柴山	D3	4)(8)	皮膚腫瘍、母斑、悪性リンパ腫	悪性黒色腫、有棘細胞癌、色素性母斑、菌状息肉症	〃

領域別集中講義Ⅲ（整形外科学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　　授	髙　松　　泰（評価責任者）
整形外科学	教　　授	山　本　卓　明（責任者）
	〃	塩　田　悦　仁（実務責任者）（リハビリテーション部）
	准　教　授	伊　﨑　輝　昌
	講　　師	佐　伯　和　彦
	〃	西　尾　　淳
	〃	金　澤　和　貴
	〃	木　山　貴　彦
	助　　教	木　下　浩　一
	〃	田　中　祥　継
	〃	田　中　　潤
	〃	萩　尾　友　宣（運動器先端医療開発講座）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

１．脊椎・脊髄疾患による症候がどのようなものかを述べ、病巣の高位・横断診断の決定法を説明できる。

２．骨・関節の機能解剖を説明できる。

３．整形外科が扱う外傷一般の処置を説明できる。

４．骨腫瘍と代謝性骨疾患の診断と治療について述べることができる。

５．基本的な治療計画を立てることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

スライド、ビデオを活用した視聴覚教育を行う。

〈事前事後学習の方法〉

・次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

・授業後は配布したプリント、および指定した参考書を読み復習すること。

Ⅵ．教科書

特になし

Ⅶ．参考書・文献

TEXT 整形外科学　第４版　南山堂、標準整形外科学　第13版　医学書院

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	18	火	1	伊﨑・金澤 田中祥	D-4	4) (1) ①～⑧ (2) ①	肩関節疾患・小児整形・手の外科	肩関節疾患・小児疾患・末梢神経	講義
2				2	塩田・西尾 木下	D-4	4) (1) ①～③ ⑤～⑦ ⑮ (3)	リハビリテーション・骨軟部腫瘍・股関節外科・股関節と骨盤の外傷	社会復帰・骨軟部腫瘍・股関節疾患	〃
						E-3	5)④			
						F-2	14)			
3				3	佐伯・萩尾	D-4	4) (1) ①～⑦	膝関節障害・足の外科・関節リウマチ	膝関節変性疾患・足関節疾患・関節炎(感染を含む)	〃
						E-4	3) (2)			
4				4	木山・田中潤	D-4	4)(1) ①～③ ⑤ ⑨～⑭ (2)②	膝関節の外傷・脊椎疾患	外傷・障害	〃
				5						自習

領域別集中講義Ⅲ（麻酔科学・救命救急医学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
麻酔科学	教　授	山浦　健（責任者）
	准教授	東　みどり子
	講　師	重松研二（手術部）
	助　教	廣田一紀
救命救急医学	教　授	石倉宏恭（責任者）
	准教授	岩朝光利
	〃	松尾邦浩（筑紫病院）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．二次救命処置の必要性を判断し、対処できる。
2．二次救命処置の理論的根拠を説明できる。
3．急性中毒の症状、診断、治療法を述べることができる。
4．多発外傷患者の症状、診断、治療法を述べることができる。
5．厚生労働省脳死判定基準を述べることができる。
6．術前・術中の状態を正しく評価し、麻酔法を選択できる。
7．気道管理について説明できる。
8．アナフィラキーショックについて説明できる。
9．深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症について説明できる。
10．がん性疼痛の治療について、オピオイドも含めて説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

1．M4で使用した講義資料・教科書
2．医師国家試験問題

Ⅵ．教科書

特に指定しない。

Ⅶ．参考書・文献

弓削孟文　監修：古家　仁、稲田英一、後藤隆久　編集：標準麻酔科学　第６版　医学書院　2011
土肥修司・澄川耕二　編集：TEXT 麻酔・蘇生学　改訂４版　南山堂　2014
日本救急医学会：標準救急医学　第５版　医学書院　2014
矢崎義雄　総編集：内科学　第10版　朝倉書店　2013

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
	9	19	水	1						自習
1				2	岩朝	E-5	1)2)3)	救命救急医学	国試既出問題の解説	講義
						F-1	5)6)37)			
						F-3	6)			
2				3	石倉	E-5		〃	〃	〃
						F-1	5)6)37)			
						F-3	6)			
3				4	松尾	E-5		〃	〃	〃
						F-1	5)6)37)			
						F-3	6)			
				5						自習
4		20	木	1	山浦	F-2	9)	外科的治療と周術期管理	国試既出問題の解説	講義
5				2	東	F-2	10)	麻酔	〃	〃
6				3	重松	F-2	10)	〃	〃	〃
7				4	廣田	F-2	8)16)	薬物治療の基本原則・緩和ケア	〃	〃
				5						自習

領域別集中講義Ⅲ（泌尿器科学）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
泌尿器科学	教　授	田中正利（責任者）
	准教授	松岡弘文（実務責任者）
	〃	石井　龍（筑紫病院）
	講　師	中村信之
	〃	入江慎一郎

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．主要な泌尿器科疾患について、画像を供覧しながら必修の基本項目について解説することができる。

2．腎・尿路結石症の原因、症状、診断法、合併症、治療法および再発予防について説明することができる。

3．上皮小体を対象とした画像診断、手術適応および術前術後管理について述べることができる。

4．前立腺肥大症と閉塞による腎障害の病態生理を説明できる。

5．神経因性膀胱・尿失禁の原因、病態、症状、合併症、診断法および治療法について述べることができる。

6．腎・尿路・男性性器の先天異常の主たるものを列挙し、それぞれの発生機序、症状、合併症、診断法および治療法について述べることができる。

7．腎・尿路・男性性器の感染性疾患を列挙し、それぞれの原因、病態、合併症、診断法および治療法について説明することができる。

8．腎・尿路・男性性器の腫瘍を列挙し、それぞれの頻度、好発年齢、病理、病期分類、転移経路、腫瘍マーカー、症状、進展度判定法および治療法についての知識を整理して述べることができる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

・画像およびまとめのスライドを使用して解説する。

・質問形式・テスト形式で問いかけることもある。

〈事前事後学習の方法〉

・事前にＭ４の講義テキストを復習し、最近の国試問題に目を通しておくこと。

・今回の講義プリントとＭ４の講義テキストで泌尿器科学の要点を整理すること。そして国試問題や予習問題を利用して繰り返し学習すること。

Ⅵ．教科書

教科書は特に指定しない。次ページの参考書あるいは市販のものから選択してよい。

ポケットサイズ、試験対策本、まとめ等は不適。

Ⅶ. 参考書・文献

赤座英之　監修：並木幹夫、堀江重郎　編：標準泌尿器科学　第９版　医学書院　2014

吉田　修　監修：ベッドサイド泌尿器科学　改訂第４版　南江堂　2013

吉田　修　監修：新図説泌尿器科学講座　メジカルビュー社　1999

日本臨床腫瘍学会　編：新臨床腫瘍学　改訂第４版　南江堂　2015

医療情報科学研究所　編：病気がみえる　vol. 8　腎・泌尿器　第２版　Medic Media　2014

McAninch, J. W. et al : Smith & Tanagho’s General Urology（第18版）McGraw-Hill　2013

A. J. Wein. et al : Campbell-Walsh Urology（第11版）Elsevier　2016

Pollack, H. M. et al : Clinical Urography（第２版）W. B. Saunders　2000

Docimo, S. G. et al : Clinical Pediatric urology（第５版）Informa　2007

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	21	金	1	田中	D-8	4) (5)① (8)②	尿路性器感染症 尿路性器腫瘍１	腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、性感染症、前立腺癌	講義・資料 スライド
						D-9	2) (1) 4) (3)①			
						E-2	4) (4)			
2				2	石井	D-8	4) (9)	尿路性器腫瘍２	腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、膀胱腫瘍、精巣腫瘍	〃
						D-9	4) (3)②			
3				3	松岡	D-8	4)(7) ①	尿路先天異常	水腎症、尿管瘤、異所開口尿管、尿道下裂、性分化異常など	〃
						D-9	1)①〜④ 3)(1) ② 4)(1) ③			
						D-12	4)(4) ④			
4				4	中村	D-8	4) (3)② 4) (7)② 4) (8)①	その他の泌尿器疾患1	尿路結石、腎血管疾患、上皮小体、尿路性器外傷など	〃
5				5	入江	D-8	1)② 2)①④ 3) (3)④ 4) (8)③	その他の泌尿器疾患2	前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿失禁など	〃
						D-9	1)①②③ 2) (1) 3) (2) ②④ 3) (4) ③④ 4) (1)②			
						F-1	28)			

領域別集中講義Ⅲ（耳鼻咽喉・口腔系）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙　松　　泰	（評価責任者）
耳鼻咽喉科学	教　授	坂　田　俊　文	（責任者）
	講　師	末　田　尚　之	（実務責任者）
歯科口腔外科学	教　授	近　藤　誠　二	（責任者）

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

授業の予習を実施できている。

医師国家試験に必要な情報を述べることができる。

学習過程で生じた疑問点を授業中に解決できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

講義へ出席し、聴講する。

講義中の質疑応答。

模擬臨床問題への解答。

Ｍ４で配布した講義テキストと指定参考書から医師国家試験に必要な情報を抽出する。

Ⅵ．教科書

洲崎春海　他：SUCCESS 耳鼻咽喉科　第２版　2017

Ⅶ．参考書・文献

森満　保：イラスト耳鼻咽喉科　2012

野村恭也　他：新耳鼻咽喉科学　2013

高橋茂樹　他：STEP 耳鼻咽喉科　2013

※上記以外の教科書、参考書についても、2010年以降の出版物に限る。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	25	火	1	近藤	D-14	1)2) 3)(1) 4)(1)(2)	口腔疾患	頭頸部解剖、口腔機能 口腔疾患、口腔ケア	講義・スライド
2				2	坂田	D-14	1)2) 3)(1)(2) 4)(1)	耳科学	外耳、中耳、内耳、めまい	〃
3				3	〃	D-14	1)2) 3)(1)(2) 4)(1)	鼻科学	鼻・副鼻腔	〃
4				4	末田	D-14 D-12	1) 4)(1)(2) 3)(2) 4)(10)①	頭頸部腫瘍	頭頸部腫瘍、診断、治療	〃
5				5	〃	D-14	1) 3)(1)(2) 4)(1)(2)	咽頭喉頭学	咽頭喉頭、気管	〃

領域別集中講義Ⅲ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント）

Ⅰ．担当教員名

腫瘍・血液・感染症内科学	教　授	髙松　泰（評価責任者）
衛生・公衆衛生学	教　授	有馬久富（責任者）
	准教授	吉村　力
	講　師	前田俊樹
	〃	辻　雅善
	助　教	川添美紀
	〃	佐藤　敦
法医学	教　授	久保真一
麻酔科学	教　授	山浦　健

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

1．健康疾病の概念、公衆衛生や予防の考え方、健康の保持増進、環境保全、産業保健などの項目につき、それぞれの考え方を対比的に説明できるとともに、その社会的な意味を述べることができる。

2．医師の権利／義務、患者の権利／義務、医の倫理、介護、インフォームドコンセント、医療安全、地域医療などの項目につき、それぞれの概要を対比的に説明できると共に、一人の医師としてそれぞれの事柄が、どのような場合に意味を持ち得るかを、具体的にイメージできる。

3．感染症や生活習慣病、保健／医療／福祉の資源、母子保健や老人保健の現状、人口統計や疾病統計、学校保健や精神保健などの項目につき、それぞれの概要を対比的に説明できるとともにわが国の概要がどのようなものであるかを、大まかな数値を示して、指摘することができる。

4．人口統計や疾病統計、疫学研究方法、疫学指標などの項目につき、それぞれの概念を比較し、関係づけられるとともに、具体的な数値を示された場合には、そこから予測／関係付け／公式化などを行うことができる。

5．保健／医療／福祉の制度や関連法規、産業保健関連法規、などの項目につき、それぞれの制度や決まりの概要を説明できるとともに、それらの中でも重要な部分や利用に関して、具体的に述べることができる。

6．セーフティマネージメント、食品や作業環境の衛生管理、予防と介護などの項目につき、それぞれの考え方の特徴を指摘できるとともに、臨床医学の考え方との接点を、説明できる。

7．死亡診断書や死体検案書の書き方について、具体的に説明できる。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

・要点やキーワードをまとめたプリント、スライドなどを活用した講義により、理解の定着をはかる。

・国家試験問題演習により、問題解答のコツを理解する。

・数値などから推論することが必要な疫学と統計に関しては実際に手を動かして計算を行い、回答を得る。

〈事前事後学習の方法〉

・Ｍ３とＭ４のときに学習した教科書とノートに目を通す。

・授業中に出て来た重要項目を復習する。

Ⅵ. 教科書

特に指定しない。

Ⅶ. 参考書・文献

１．医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる

２．厚生労働統計協会　編：図説国民衛生の動向

３．厚生労働統計協会　編：国民衛生の動向

４．対話からの社会医学・公衆衛生学マイクロレクチャー　http://social-med.blogspot.jp/

５．死亡診断書記入マニュアル（厚生労働省）

６．国試対策問題編集委員会　編：CBT・医師国家試験のためのレビューブック公衆衛生

その他、必要に応じて授業中に助言する。

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	9	26	水	1	有馬	B-1	4)～6)	公衆衛生学の全体像把握	健康、疾病予防、健康増進法	講義プリント
2				2	〃	B-1	4)	疫学・予防医学1	疫学、コホーと研究、症例対照研究、バイアス、交絡因子	〃
3				3	佐藤	B-1	3)	疫学・予防医学2	介入研究、メタアナリシス、EBM、スクリーニング	〃
4				4	〃	B-1	5)	成人保健 食品・栄養と健康	成人保健：健康増進法、生活習慣病予防、メタボリックシンドローム 食品・栄養と健康：食中毒対策、食事摂取基準、国民健康・栄養調査	〃
				5						自習
5		27	木	1	前田	A-5 B-1	1) 7)	地域保健福祉医療	地域保健・地域医療、保健所、チーム医療、保健・医療・福祉との連携	講義プリント
6				2	〃	B-1	8)	社会保障と医療保障	社会保障制度、医療保険、公費医療、医療法、医療従事者	〃
7				3	辻	B-1	4) ①～③	人口保健統計	人口静態統計、人口動態統計、平均余命と平均寿命、主要死因の推移	〃
8				4	〃	B-1	6) ③④	産業保健 環境保健	産業保健：労働安全衛生法、産業医の職務、労働衛生の3管理、職業性疾病、産業中毒 環境保健：生態系と生物濃縮、地球環境問題、環境汚染、廃棄物処理、居住・生活環境と健康	〃
				5						自習

第６学年

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
9	9	28	金	1	川　添	A-7 B-1	1) 7)	母子保健	母子保健法、母体保護法、児童福祉法、女性労働者の保護・子育て支援、児童虐待	講義 プリント
10				2	〃	A-7 B-1	1) 6)	学校保健	学校医の職務、学校保健安全法、健康診断、学校感染症、学校精神保健	〃
11				3	久　保	A-1	1)～3)	医師法・死亡診断書１	医師の権利・義務、医の倫理	〃
12				4	〃	B-2	1)2)	医師法・死亡診断書２	死亡診断書・死体検案書の作成とその考え方	〃
				5						自習
13	10	1	月	1	吉　村	B-1	8)	高齢者保健	高齢化社会、高齢者医療確保法、介護保健制度	講義 プリント
14				2	〃	B-1	7)～9)	感染症対策 精神保健 国際保健	感染症法、予防接種法 精神保健福祉法 国際保健	〃
15				3	山　浦	A6	1)～3)	セーフティマネージメント	医療安全、医療安全体制、医療事故、過誤、医療従事者の安全	〃
				4						自習
				5						〃
		2	火	1						〃
				2						〃
				3						〃
				4						〃
				5						〃
		3	水	1						〃
				2						〃
				3						〃
				4						〃
				5						〃

総　合　講　義

Ⅰ．担当教員名

病理学	教授	竹下盛重	
腫瘍・血液・感染症内科学	教授	髙松　泰	（科目責任者）
	非常勤講師	正木充生	（正木内科医院）
内分泌・糖尿病内科学	准教授	野見山　崇	
	講師	田邉真紀人	
心臓・血管内科学	教授	三浦伸一郎	
呼吸器内科学	教授	藤田昌樹	
腎臓・膠原病内科学	講師	伊藤建二	
神経内科・健康管理科	助教	合馬慎二	
小児科学	准教授	井上貴仁	（西新病院）
	講師	太田栄治	（総合周産期母子医療センター）
	助教	橋本淳一	（筑紫病院）
皮膚科学	講師	内藤玲子	
放射線医学	教授	吉満研吾	
脳神経外科学	准教授	東　登志夫	
眼科	講師	尾崎弘明	
耳鼻咽喉科学	助教	大西克樹	
泌尿器科	講師	中村信之	
産科婦人科学	講師	村田将春	（総合周産期母子医療センター）
麻酔科	講師	重松研二	（手術部）
救命救急センター	講師	喜多村泰輔	
医学教育推進講座	教授	安元佐和	（副責任者）
	准教授	八尋英二	
	講師	田中　崇	

Ⅱ．到達目標（Learning Outcome）

M1～M6の授業カリキュラムで修得した知識の総合的な理解を深める。

Ⅲ．コンピテンシー（学生の到達度を評価できる能力）（Competencies）

各講義科目において、最重要ポイントや分野のトピックについて理解することが出来る。

Ⅳ．学習方略・事前事後学習の方法（Learning Strategies）

〈学習方略〉

1）M1～M4における基礎、臨床講義、M5のBSL実習を通じて習得した臨床知識を背景に講義に臨む。講義はスライド、プリント等を使用して行う。

2）比較的、長時間の質疑応答時間を設けていることから、知識の不十分な点に関しては、教官への質問を積極的に行う。

〈事前事後学習の方法〉

講義科目に関しては、事前に過去の教材や教科書等で予習をしておく。本講義を通じて得た知識は、M6後半の知識の整理、統合に活用する。

Ⅴ．成績評価および方法（Evaluation）

質疑応答時間枠の講義を除いては、３分の２以上の出席を卒業要件とする。また、講義内容は総合試験の出題範囲とする。

評価は合否で行う。

Ⅵ．教科書

関連各科の推薦教科書（関連各科の系統講義のページを参照）

Ⅶ．参考書・文献

同上

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
1	10	22	月	1	田中	D-7		消化器病学	消化器疾患	講義
2				2	伊藤 中村	D-8	4) (1)～(6)	腎臓・膠原病学 泌尿器科学	腎炎・ネフローゼ・腎不全 尿路性器疾患	〃
						D-9				
3				3	野見山 田邉	D-12	4) (1)～(6)	内分泌・代謝病学	内分泌緊急症・糖尿病性ケトアシドーシス	〃
4				4	村田	D-10	1)～5)	産科婦人科学	周産期を理解しよう	〃
5				5	藤田	D-6		呼吸器病学	呼吸器疾患	〃
6		23	火	1	三浦	D-5	4) (1)～(5)	循環器病学	心電図・心不全・虚血性心疾患・大動脈疾患	〃
7				2	合馬 東	D-2		神経内科学 脳神経外科学	脳血管障害	〃
8				3	非常勤講師 正木	D-1	1) 4)	血液・腫瘍学	白血病・貧血・血小板	〃
9				4	井上貴 太田・橋本	D-2	4) (7)	小児医学	小児のてんかん、新生児、循環器、川崎病	〃
						D-5	4) (6)			
						E-4	3) (5)③			
						E-7	1)			
10				5	内藤 重松 喜多村	D-3		皮膚科 麻酔科学 救命救急医学		〃
						F-2	8)～13)			
						G-3	(4)			
11		24	水	1	尾崎 大西	D-13	4) (1)④ ⑥	眼科学 耳鼻咽喉科学	緑内障・糖尿病網膜症 難聴・めまい・腫瘍	〃
						D-14	3) (1) (2) 4) (1) (2)			
12				2	竹下	E-3	2)	病理学	腫瘍性病変の組織像	〃

No.	月	日	曜	限	担当者	コアカリ		項目	キーワード	授業形態
13	10	24	水	3	吉満 八尋	F-2 A-1	5) 1)～3)	放射線科学 医療倫理・技法 ・その他	画像診断	講義
14				4	八尋	F-3	5) 6)	医療倫理・技法 ・その他	生命倫理、EBM	〃
15				5	髙松			質疑応答 個人指導		〃

研究室配属
集合場所

医学部研究棟本館　（医学部）

〔微生物・免疫学〕
340　研究室
341　一研
342　資料室
343　二研
344　教授室
346　講師室
347　研究室

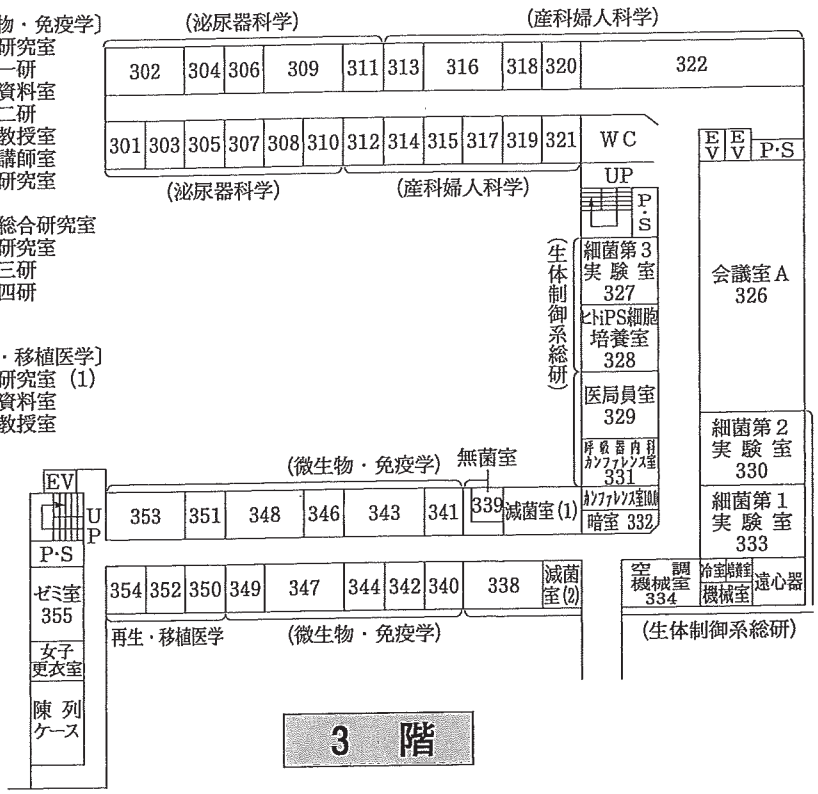
348　総合研究室
349　研究室
351　三研
353　四研

〔再生・移植医学〕
350　研究室（1）
352　資料室
354　教授室

〔呼吸器内科学〕
329　呼吸器内科医局員室
331　呼吸器内科
　　カンファレンス室

〔泌尿器科学〕
301　医局員室（1）
302　医局
303　医局員室（2）
304　一研
305　准教授室
306　資料室
307　教授室
308　医局長室
309　二研
310　講師室
311　医局員室（3）

〔産科婦人科学〕
312　医局員室（1）
313　医局員室（2）
314　准教授室
315　医局長室
316　医局
317　教授室
318　医局員室（3）
319　教授室
320　医局員室（4）
321　准教授室（5）
322　一研



3　階

〔生化学〕
440　一研
441　准教授室
442　資料室
443　二研
444　教授室
445　四研
446　三研

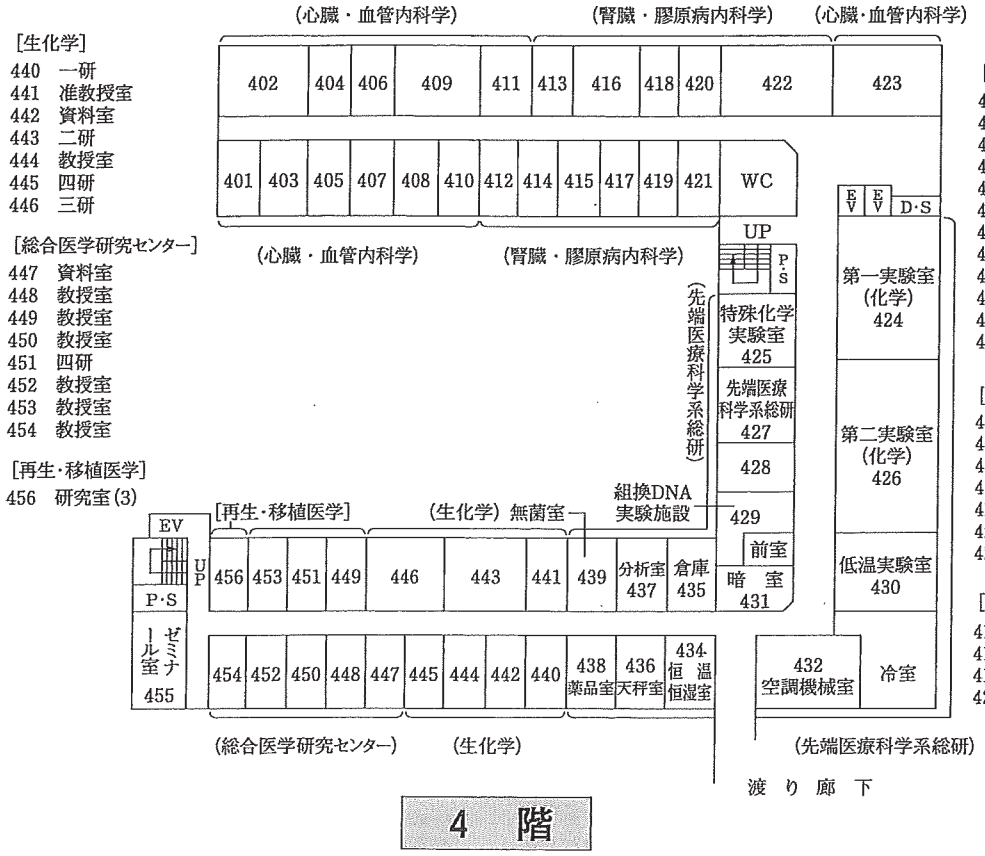
〔総合医学研究センター〕
447　資料室
448　教授室
449　教授室
450　教授室
451　四研
452　教授室
453　教授室
454　教授室

〔再生・移植医学〕
456　研究室（3）

〔心臓・血管内科学〕
401　講師室（3）
402　教授室
403　講師室（1）
404　資料室（1）
405　准教授室
406　講師室（2）
407　医局員室（2）
408　資料室（2）
409　医局員室（3）
410　医局員室（4）
411　医局員室（1）
423　一研

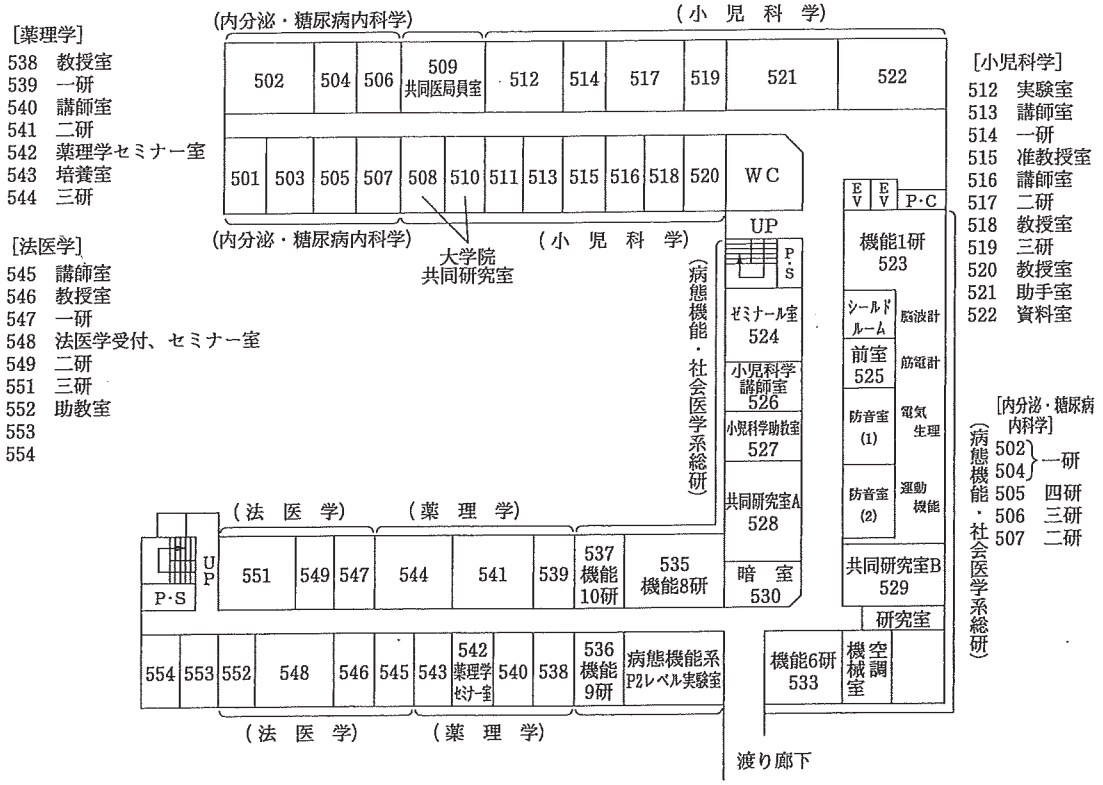
〔腎臓・膠原病内科学〕
412　講師室
414　医局員室（2）
416　医局
417　教授室
419　資料室
421　准教授室
422　研究室

〔呼吸器内科学〕
413　教授室
415　教員室
418　医局
420　資料室



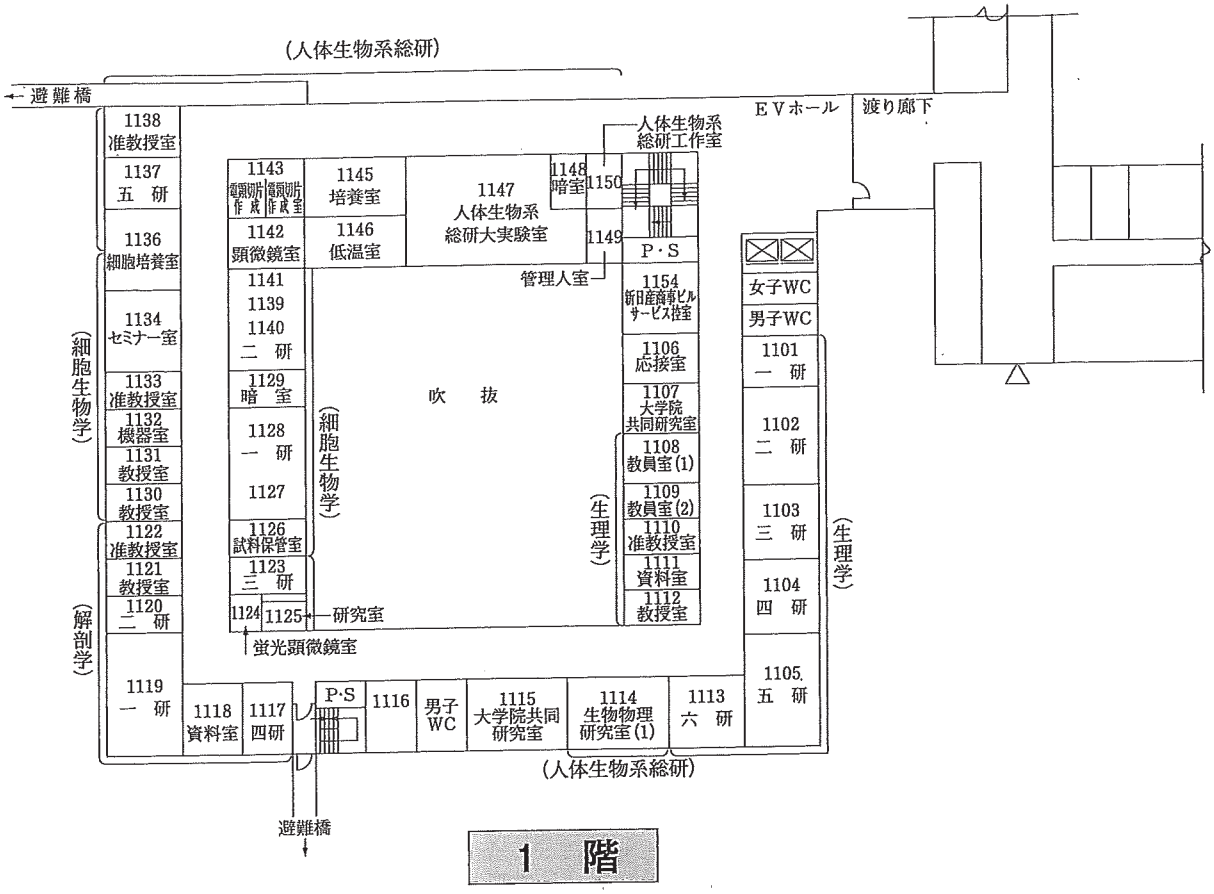
4　階

医学部研究棟本館　（医学部）

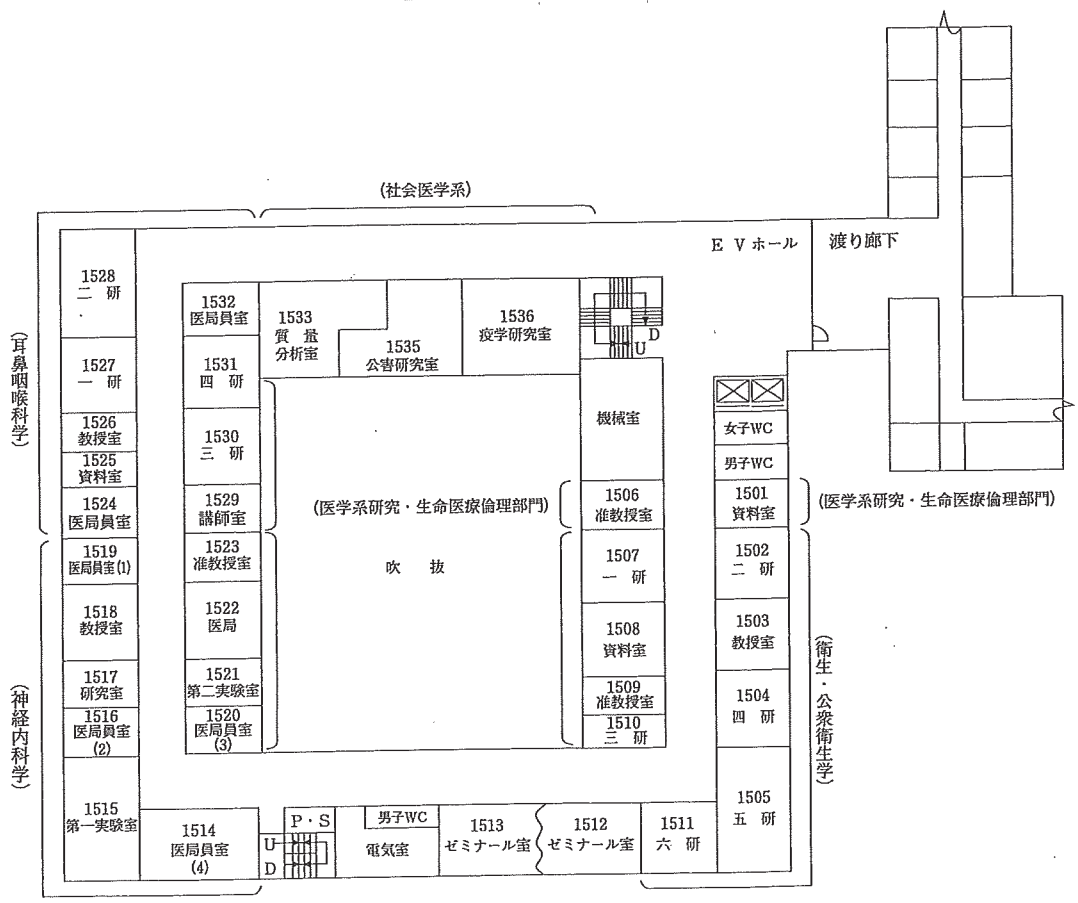


5　階

医学部研究棟別館 （医学部）

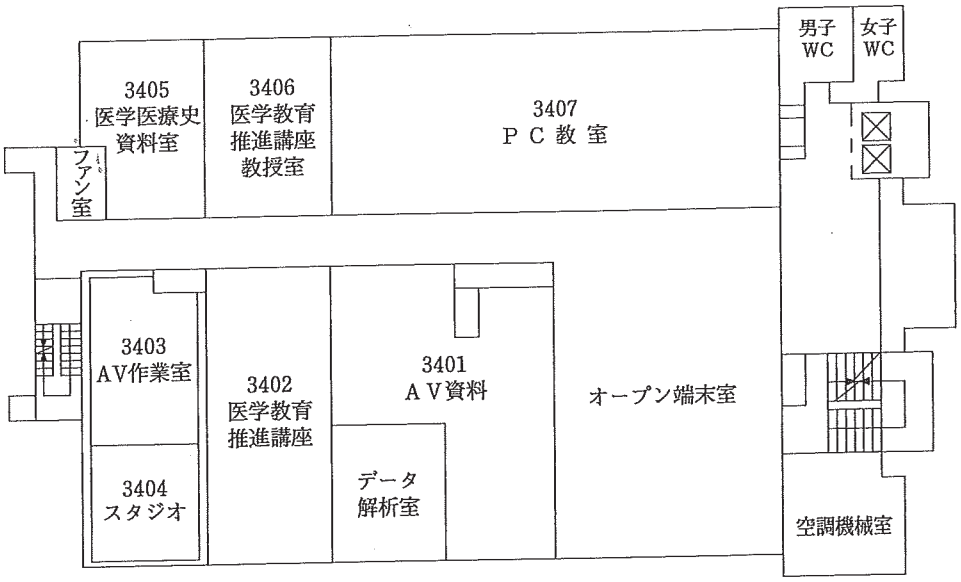


1 階



5 階

医学情報センター棟 （医学部）



4 階

講 義 予 定 表

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
3	30	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
3	31	土	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
4	1	日	1	入学式									
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	2	月	1	ガイダンス（教務・学生部関係）		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 石倉	薬理学 II	田頭	脳神経病学	坪井	領域別集中講義 I（循環器病学）	三浦
			2			〃	〃	〃	岩本	〃	〃	〃	志賀
			3			〃	〃	〃	田頭	精神医学	川嵜	〃	和田
			4			〃	〃	〃	非常勤講師 児島	〃	大串	〃	森井
			5									〃	吉兼
	3	火	1	制限科目登録		免疫学	廣松	病理学総論	竹下			領域別集中講義 I（循環器病学）	自習
			2			〃	〃	〃	〃	医療情報社会学	志村	領域別集中講義 I（内分泌・代謝病学）	野見山
			3			一般・神経生理学	井上隆	〃	〃	精神医学	吉良	〃	元永
			4			〃	〃	〃	竹下 濵田・濵崎	〃	衞藤	〃	柳瀬
			5									〃	自習
	4	水	1	Web履修登録		一般・神経生理学	井上隆	公衆衛生学	有馬	法医学	久保	領域別集中講義 I（内分泌・代謝病学）	田邉
			2			〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員	〃	松永
			3					臨床医学入門 II	井上	脳神経病学	坪井	領域別集中講義 I（腎臓・膠原病学）	伊藤
			4					〃	〃	〃	〃	〃	中島
			5									〃	自習

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	5	木	1			免疫学	廣松	薬理学 II	田頭	精神医学	川嵜 (矢野)	領域別集中講義 I (腎臓・膠原病学)	三宅
			2			〃	〃	〃	〃	〃	尾籠	〃	安野
			3			生化学実習・演習	芝口 全員	〃	岩本	医療情報社会学	田中	〃	升谷
			4			〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 小河原	領域別集中講義 I (消化器病学)	植木
			5									〃	竹田津
	6	金	1			解剖学 II	立花 入江	病理学総論	竹下	脳神経病学	井上	領域別集中講義 I (消化器病学)	自習
			2			〃	解剖スタッフ全員 非常勤講師 小川	〃	〃	〃	東	〃	釈迦堂
			3			〃	〃	〃	竹下 二村・林	循環器病学	朔	〃	吉田
			4			〃	〃	〃	濵田 全員	〃	北島	〃	石橋
			5			〃	〃					領域別集中講義 I (腫瘍・輸血・血液・感染症学)	自習

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	9	月	1			組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 石倉	薬理学 II	田頭	脳神経病学	安部	領域別集中講義 I (腫瘍・輸血・血液・感染症学)	髙松
			2			〃	〃	〃	〃	〃	緒方	〃	田中
			3			〃	〃	〃	岩本	精神医学	川嵜	〃	髙田
			4			〃	〃	〃	〃	〃	西村	〃	戸川
			5									〃	自習
	10	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学総論	鍋島	医療情報社会学	志村		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 谷原		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		一般・神経生理学	本田	〃	上杉	精神医学	飯田		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									
	11	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	本田	公衆衛生学	前田	法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習 I		〃	沼田	〃	非常勤講師 松田	CBT 演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	有馬	グローバル人材演習	全員	臨床医学入門 II	大久保	脳神経病学	野中		
			4	生化学	安永 白須	〃	〃	〃	村田	〃	東		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	12	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	田頭	精神医学	川嵜	領域別集中講義Ⅰ試験	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	芝口 全員	〃	岩本	医療情報社会学	志村		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	田村		
			5		生物学実験								
	13	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学総論	上杉	脳神経病学	津川		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	藤岡		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	上杉 中島	循環器病学	森井		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						
	14	土	1	フレッシュマンキャンプ（4／14～4／15）									
			2										
			3										
			4										
			5										

※4月14日（土）2限　M5 統合講義（内分泌・糖尿病内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	16	月	1	解剖学Ⅰ	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学Ⅱ	非常勤講師 喜多紗	脳神経病学	安部	領域別集中講義Ⅱ(呼吸器病学)	藤田
			2		〃	〃	〃	〃	喜多知	〃	野中	〃	山下
			3	医学概論Ⅰ	安元 八尋・田中	〃	白澤 石倉	〃	岩本	精神医学	尾籠	〃	藤田
			4	生化学	安永	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			5		〃							〃	自習
	17	火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ		免疫学	廣松	病理学総論	鍋島	医療情報社会学	髙田	領域別集中講義Ⅱ(呼吸器病学)	石井
			2	第2外国語ⅠA		〃	〃	〃	鍋島 青木	〃	志村	〃	串間
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		一般・神経生理学	沼田	〃	竹下	精神医学	西村	領域別集中講義Ⅱ(脳神経病学)	津川
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	藤岡
			5	人文・社会科学科目								〃	坪井
	18	水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ		一般・神経生理学	沼田	公衆衛生学	前田	法医学	柏木	領域別集中講義Ⅱ(脳神経病学)	非常勤講師 福原
			2	人文・社会科学科目/物理科学入門/生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	非常勤講師 楯林	CBT演習	全員	〃	岩朝
			3	医学入門(先端医療ザ・プロフェッショナル)	川嵜	グローバル人材演習	全員	臨床医学入門Ⅱ	安元	脳神経病学	鍋島	〃	野中
			4	医学概論Ⅰ(研究室配属)	全員	〃	〃	〃	柳瀬 三浦	〃	緒方	〃	東
			5	人文・社会科学科目								〃	森下

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	19	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	田頭	精神医学	永野	領域別集中講義Ⅱ(産科婦人科学)	城田
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	川口	〃	〃
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	安永・全員 非常勤講師 大野	〃	岩本	医療情報社会学	野田	〃	宮本
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	鍋島	〃	村田
			5		生物学実験							〃	〃
	20	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学総論	竹下	脳神経病学	柳本	領域別集中講義Ⅱ(産科婦人科学)	讃井
			2	第2外国語ⅠB(ドイツ語はⅠA)		〃	〃	〃	〃	〃	三嶋	〃	〃
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	循環器病学	桑野	領域別集中講義Ⅱ(小児医学)	橋本
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	竹下 林	〃	〃	〃	山﨑
			5	人文・社会科学科目		〃	〃					〃	中村

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	23	月	1	解剖学Ⅰ	入江	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学Ⅱ	田頭	脳神経病学	津川	領域別集中講義Ⅱ(小児医学)	太田
			2		〃	〃	〃	〃	安永・田頭 岩本	〃	藤原	〃	野村
			3	医学概論Ⅰ	井上	〃	白澤 石倉	〃	柴田	精神医学	原田	〃	佐々木
			4	生化学	芝口	〃	〃	〃	〃	〃	衞藤	〃	井原
			5		〃							〃	石井
	24	火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ		免疫学	廣松	病理学総論	鍋島	医療情報社会学	志村		
			2	第2外国語ⅠA		〃	仇	〃	鍋島 二村	〃	鍋島		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		一般・神経生理学	倉原(海) 井上隆	〃	鍋島	精神医学	衞藤		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	二村	〃	非常勤講師 木村		
			5	人文・社会科学科目									
	25	水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ		一般・神経生理学	倉原(海) 井上隆	公衆衛生学	前田	法医学	柏木		
			2	人文・社会科学科目/物理科学入門/生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	非常勤講師 山田	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	鍋島	グローバル人材演習	全員	臨床医学入門Ⅱ	村田・井上 大久保	脳神経病学	非常勤講師 平川		
			4	生化学	安永 芝口	〃	〃	〃	(予備)	〃	合馬		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	26	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	岩本 田頭	精神医学	非常勤講師 本田	領域別集中講義Ⅱ試験	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	箱田		
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	安永・全員 非常勤講師 大野	〃	〃	脳神経病学	三嶋		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	小林		
			5		生物学実験								
	27	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学総論	鍋島 二村	脳神経病学	森下		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 辻		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	鍋島	循環器病学	岩田		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	非常勤講師 片岡	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
4	30	月	1	解剖学Ⅰ	入江	振替休日							
			2		〃								
			3	医学概論Ⅰ	安元 八尋・田中								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
5	1	火	1	フレッシュマン・イングリッシュⅠ		免疫学	全員	病理学総論	鍋島	医療情報社会学	田中	臨床修練Ⅱ	
			2	第2外国語ⅠA		〃	〃	〃	二村	〃	志村		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		一般・神経生理学	井上隆	〃	濵崎 二村	精神医学	飯田		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 内村		
			5	人文・社会科学科目									
	2	水	1	フレッシュマン・イングリッシュⅡ		一般・神経生理学	市川	公衆衛生学	吉村	法医学	柏木		
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	佐藤	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	朔	グローバル人材演習	全員	臨床医学入門Ⅱ	石倉 坪井	脳神経病学	重森		
			4	医学概論Ⅰ (研究室配属)	全員	〃	〃	〃	諸鹿 藤田	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	3	木	1										
			2										
			3	憲		法		記		念		日	
			4										
			5										
	4	金	1										
			2										
			3	み		ど		り		の		日	
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	7	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	喜多知	脳神経病学	非常勤講師 大城	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	非常勤講師 原	〃	湧田		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	白澤 石倉	〃	田頭	精神医学	非常勤講師 杠		
			4	生化学	芝口	〃	〃	〃	非常勤講師 西	〃	尾籠		
			5		〃								
	8	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学総論	二村	脳神経病学	非常勤講師 継		
			2	第2外国語 IA		〃	栗原	〃	竹下	〃	津川		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		一般・神経生理学	上原明	〃	〃	〃	緒方		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	病理学各論	竹下	〃	柳本		
			5	人文・社会科学科目									
	9	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	上原明	公衆衛生学	全員	法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	非常勤講師 宮﨑	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	山浦	グローバル人材演習	全員	臨床医学入門 II	升谷 宮本	脳神経病学	合馬		
			4	生化学	芝口	〃	〃	〃	竹田津 髙松	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	10	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	薬理学Ⅱ	田頭			臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃				
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	白須・全員 非常勤講師 大野	〃	岩本				
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃				
			5		生物学実験								
	11	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学総論	非常勤講師 丸山				
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	竹下 濵田				
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	非常勤講師 伊東				
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	病理学各論	髙松				
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						
	12	土	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ									
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ									
			3	ミクロの生物科学									
			4	物理学実験									
			5		生物学実験								

※5月12日（土）2限　M5 統合講義（腫瘍・血液・感染症内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	14	月	1	解剖学 I	全員 非常勤講師 小川	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II	非常勤講師 喜多紗	脳神経病学	松本徳	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	田頭	〃	岩朝		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	白澤 角田	〃	〃	〃	藤岡		
			4	生化学	安永	〃	〃	〃	岩本	〃	高野		
			5		芝口								
	15	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	廣松	病理学各論	竹下				
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		一般・神経生理学	上原明	〃	〃				
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	竹下 濵﨑				
			5	人文・社会科学科目									
	16	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	上原明	公衆衛生学	全員				
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃				
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	髙松	グローバル人材演習	廣瀬	臨床医学入門 II	久保田				
			4	医学概論 I (研究室配属)	全員	〃	安元	〃	(予備)				
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	17	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	全員	薬理学Ⅱ	喜多知			臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	非常勤講師 後藤				
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	白須 全員	〃	田頭・鈴木 喜多知				
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃				
			5		生物学実験								
	18	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	公衆衛生学	全員	医療情報社会学試験			
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃				
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃				
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	21	月	1	解剖学 I	全員 非常勤講師 小川	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	非常勤講師 中林	内分泌・代謝病学	松永	精神医学試験		臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	〃				
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	非常勤講師 山本	薬理学 II	全員				
			4	生化学	芝口	〃	〃	〃	〃				
			5		〃								
	22	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		免疫学	非常勤講師 原田	病理学各論	竹下				
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		一般・神経生理学	全員	〃	竹下 青木				
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	三浦				
			5	人文・社会科学科目									
	23	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	上原明	公衆衛生学	吉村	脳神経病学試験			
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃				
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	石倉	グローバル人材演習	安元	〃	川添				
			4	生化学	安永 芝口	〃	非常勤講師 伊藤	〃	〃				
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	24	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	廣松	公衆衛生学	有馬	泌尿器科学	田中	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	非常勤講師 友岡	〃	古屋		
			3	ミクロの生物科学				〃	辻	循環器病学	三浦		
			4	物理学実験				〃	佐藤	〃	〃		
			5		生物学実験								
	25	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 長谷川	病理学各論	上杉	検査診断学	松永		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	辻	循環器病学	自習		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	非常勤講師 守山	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

※5月26日（土）2限　M5 統合講義（消化器内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	28	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	病理学総論試験		泌尿器科学	松岡	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃			〃	石井		
			3	医学概論 I	川嵜(矢野)	〃	〃			耳鼻咽喉科学	坂田		
			4	生化学	安永	〃	〃			〃	〃		
			5		〃								
	29	火	1	フレッシュマン・イングリッシュI		微生物学	廣松	病理学各論	上杉	耳鼻咽喉科学	妻鳥		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習II		一般・神経生理学	全員	〃	上杉 古賀	救命救急医学	石倉		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	非常勤講師 加藤	〃	松本		
			5	人文・社会科学科目									
	30	水	1	フレッシュマン・イングリッシュII		一般・神経生理学	井上隆	公衆衛生学実習		法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目/物理科学入門/生涯スポーツ演習 I		〃	〃			CBT演習	全員		
			3	医学入門(先端医療ザ・プロフェッショナル)	小玉	グローバル人材演習	全員			麻酔科学	山浦		
			4	医学概論 I(研究室配属)	全員	〃	〃			〃	重松		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
5	31	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	非常勤講師 一戸	公衆衛生学実習		泌尿器科学	入江	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	平		
			3	ミクロの生物科学						循環器病学	杉原		
			4	物理学実験						〃	〃		
			5	生物学実験									
6	1	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 長谷川	病理学各論	渡辺	検査診断学	田中		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	鍋島	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	川添	循環器病学	寺谷		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	非常勤講師 三浦	〃	吉兼		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						
	2	土	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ									
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）									
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			4	人文・社会科学科目									
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	4	月	1	解剖学 I	遠藤	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	内分泌・代謝病学	松永	泌尿器科学	田中	臨床修練 II	
			2		入江	〃	〃	〃	〃	〃	松岡		
			3	医学概論 I	川嵜(矢野)	〃	白澤 石倉	薬理学 II	全員	耳鼻咽喉科学	坂田		
			4	生化学	安永	〃	白澤 角田	〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	5	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学各論	鍋島	耳鼻咽喉科学	佐藤		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		一般・神経生理学	全員	〃	〃	救命救急医学	星野		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	鍋島 濵﨑・青木	〃	松尾		
			5	人文・社会科学科目									
	6	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	井上隆	公衆衛生学実習		法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目/物理科学入門/生涯スポーツ演習 I		〃	〃			CBT演習	全員		
			3	医学入門(先端医療ザ・プロフェッショナル)	長谷川	グローバル人材演習	全員			麻酔科学	山浦		
			4	医学概論 I(研究室配属)	全員	〃	〃			〃	岩下		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	7	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学	全員	公衆衛生学実習		泌尿器科学	中村	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃			〃	宮島		
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	安永			循環器病学	和田		
			4	物理学実験		〃	〃			〃	白井		
			5		生物学実験			臨床医学入門Ⅱ (地域医療体験・BSL実習)	安元・八尋 田中・出石				
	8	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	公衆衛生学	全員	検査診断学	大久保		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	循環器病学	吉兼		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	11	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	内分泌・代謝病学	小林	泌尿器科学	松岡	第1回模擬試験	
			2		〃	〃	〃	〃	松永	〃	松﨑		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	〃	薬理学 II	全員	耳鼻咽喉科学	坂田 (永田)		
			4	生化学	安永	〃	白澤 角田	〃	〃	〃	非常勤講師 深浦		
			5		〃								
	12	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学各論	濵﨑	耳鼻咽喉科学	竹内		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	鍋島 濵﨑	〃	非常勤講師 山野		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	〃	橋本	救命救急医学	非常勤講師 小谷		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	白澤 角田	〃	二村	〃	矢野		
			5	人文・社会科学科目									
	13	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	井上隆	公衆衛生学	全員	法医学	柏木	臨床修練 II	
			2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	宮本	グローバル人材演習	全員	〃	〃	麻酔科学	東		
			4	生化学	安永 芝口	〃	〃			〃	安部		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	14	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	公衆衛生学	全員	泌尿器科学	上杉	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	林		
			3	ミクロの生物科学		生化学実習・演習	安永	〃	〃	循環器病学	松村		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	自習		
			5		生物学実験								
	15	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	公衆衛生学	全員	検査診断学	松永		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃	循環器病学	岩田		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃	〃	西川		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

※6月16日（土）2限　M5 統合講義（循環器内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	18	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	内分泌・代謝病学	野見山	泌尿器科学	松岡	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	中村		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	白澤 角田	薬理学 II	全員	耳鼻咽喉科学	妻鳥		
			4	生化学	安永	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	19	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	廣松	病理学各論	二村	耳鼻咽喉科学	非常勤講師 白石		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃	〃	大西		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	〃	原岡	救命救急医学	岩朝		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 友尻		
			5	人文・社会科学科目									
	20	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	井上隆	内分泌・代謝病学	野見山	法医学	柏木		
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習 I		〃	全員	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	大慈弥	グローバル人材演習	全員	〃	濵之上	麻酔科学	非常勤講師 生野		
			4	医学概論 I (研究室紹介)	全員	〃	〃	〃	〃	〃	平田		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	21	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	内分泌・代謝病学	田邉	泌尿器科学	入江	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	田中		
			3	ミクロの生物科学				〃	〃	循環器病学	非常勤講師 福田		
			4	物理学実験				〃	非常勤講師 桶田	〃	峰松		
			5		生物学実験								
	22	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学各論	自習	検査診断学	大久保		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	辻	循環器病学	林田		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	非常勤講師 神田	〃	桑野		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	25	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	内分泌・代謝病学	元永	泌尿器科学	田中	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	〃	〃	入江		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	〃	薬理学 II	全員	耳鼻咽喉科学	竹内		
			4	生化学	安永	〃	白澤 角田	〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	26	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	伊藤	病理学各論	竹下	耳鼻咽喉科学	末田		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	二村 濵田	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	〃	〃	救命救急医学	川野		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	白澤 角田	〃	竹山	〃	非常勤講師 梅村		
			5	人文・社会科学科目									
	27	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	全員	内分泌・代謝病学	非常勤講師 明比	法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	和田	グローバル人材演習	全員	〃	早稲田	麻酔科学	東		
			4	生化学	安永 芝口	〃	〃	〃	田邉	〃	重松		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
6	28	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		微生物学	廣松	内分泌・代謝病学	非常勤講師 勝田	循環器病学	小川	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	田邉	〃	〃		
			3	ミクロの生物科学				〃	柳瀬	〃	池		
			4	物理学実験				〃	小林	〃	〃		
			5		生物学実験								
	29	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ 全員	病理学各論	濵田	検査診断学	鍋島		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	佐藤	循環器病学	非常勤講師 勝田		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	非常勤講師 早川	〃	非常勤講師 安永		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	2	月	1	解剖学 I	立花	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	全員	薬理学 II 試験		泌尿器科学	林	臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃			〃	石井		
			3	医学概論 I	安元 八尋・田中	〃	〃			耳鼻咽喉科学	末田		
			4	生化学	安永	〃	白澤 角田			〃	〃		
			5		芝口								
	3	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I		微生物学	全員	病理学各論	濵田	耳鼻咽喉科学	坂田		
			2	第2外国語 IA		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤 角田	〃	濵田 青木	救命救急医学	川野		
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	〃	宮川		
			5	人文・社会科学科目									
	4	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	全員	内分泌・代謝病学	自習	法医学	髙山		
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習 I		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	井上	グローバル人材演習	全員	〃	柳瀬	麻酔科学	廣田		
			4	医学概論 I (研究室紹介)	全員	〃	〃	〃	〃	〃	山浦		
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	5	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ				内分泌・代謝病学	柳瀬	救命救急医学	石倉	臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ				〃	入江	〃	外間		
			3	ミクロの生物科学				〃	田邉	〃	入江		
			4	物理学実験				〃	阿部	〃	喜多村		
			5		生物学実験								
	6	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員	病理学各論	竹下林	検査診断学	小牧		
			2	第2外国語ⅠB（ドイツ語はⅠA）		〃	〃	〃	升谷	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	公衆衛生学	有馬	〃	大久保		
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃	〃	松永		
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	9	月	1	解剖学 I	遠藤	組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤	臨床医学入門 II (地域医療体験・BSL実習)	安元・八尋 田中・出石	循環器病学試験		臨床修練 II	
			2		〃	〃	〃	〃	〃				
			3	医学概論 I	安元・八尋 田中・全員	〃	〃	〃	〃				
			4	生化学	芝口	〃	〃	〃	〃				
			5		〃			〃	〃				
	10	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I				臨床医学入門 II (地域医療体験・BSL実習) 学外実習					
			2	第2外国語 IA									
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学	白澤						
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I		〃	〃						
			5	人文・社会科学科目									
	11	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II		一般・神経生理学	全員			泌尿器科学試験			
			2	人文・社会科学科目／物理科学入門／生涯スポーツ演習 I		〃	井上隆						
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	髙田								
			4	生化学	安永 芝口								
			5	人文・社会科学科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	12	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ				臨床医学入門Ⅱ(地域医療体験・BSL実習)学外実習				臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ									
			3	ミクロの生物科学									
			4	物理学実験									
			5	生物学実験									
	13	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 坂田	臨床医学入門Ⅱ(地域医療体験・BSL実習)	担当教員全員 学年全担任	耳鼻咽喉科学試験			
			2	第2外国語ⅠB(ドイツ語はⅠA)		〃	〃	〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃	〃	〃				
			4	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃				
			5	人文・社会科学科目		〃	〃	〃	〃				

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	16	月	1	解剖学 I	立花	海の日							
			2		〃								
			3	医学概論 I	安元・八尋 田中・全員								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	17	火	1	フレッシュマン・イングリッシュ I				臨床医学入門 II (地域医療体験・BSL実習)	担当教員全員 学年全担任	麻酔科学試験		臨床修練 II	
			2	第2外国語 IA				〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／数学入門／生涯スポーツ演習 II				臨床医学入門 II	安元 山崎				
			4	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習 I				〃	看護部				
			5	人文・社会科学科目									
	18	水	1	フレッシュマン・イングリッシュ II				臨床医学入門 II	看護部				
			2	人文・社会科学科目 / 物理科学入門 / 生涯スポーツ演習 I				〃	〃				
			3	医学入門 (先端医療ザ・プロフェッショナル)	有馬			〃	〃				
			4	医学概論 I (研究室紹介)	全員			〃	〃				
			5	人文・社会科学科目				〃	(予備)				

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	19	木	1	人文・社会科学科目/生涯スポーツ演習Ⅰ		免疫学試験		臨床医学入門Ⅱ(地域医療体験・BSL実習)	安元・八尋 田中・出石			臨床修練Ⅱ	
			2	フレッシュマン・イングリッシュⅢ				〃	〃				
			3	ミクロの生物科学				〃	〃				
			4	物理学実験				〃	〃				
			5	生物学実験				〃	〃				
	20	金	1	フレッシュマン・イングリッシュⅣ		解剖学Ⅱ	解剖スタッフ全員 坂田	臨床医学入門Ⅱ(地域医療体験・BSL実習)	安元・八尋 田中・出石	救命救急医学試験			
			2	第2外国語ⅠB(ドイツ語はⅠA)		〃	〃	〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／化学入門／生涯スポーツ演習Ⅰ		〃	〃						
			4	人文・社会科学科目		〃	〃						
			5	人文・社会科学科目		〃	〃						

※7月21日（土）2限　M5 統合講義（神経内科・健康管理科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	23	月	1	解剖学 I	遠藤			内分泌・代謝病学試験		検査診断学試験		臨床修練 II	
			2		〃								
			3	医学概論 I	安元・八尋 田中・全員								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	24	火	1					夏季休業		夏季休業			
			2										
			3										
			4										
			5										
	25	水	1	試験									
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	26	木	1	試験		組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学試験		夏季休業		夏季休業		臨床修練 II	
			2										
			3										
			4										
			5										
	27	金	1			解剖学 II	解剖スタッフ全員 井上、坪井						
			2			〃	〃						
			3			〃	〃						
			4			〃	解剖スタッフ 全員						
			5			〃	〃						
	28	土	1			夏季休業							
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
7	30	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	31	火	1										
			2										
			3	試験		夏季休業		夏季休業		夏季休業		臨床修練 II	
			4										
			5										
	1	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	2	木	1										
			2										
			3										
			4										
			5	試験		夏季休業		夏季休業		夏季休業		臨床修練 II	
	3	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	6	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	7	火	1										
			2										
			3	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		臨床修練II	
			4										
			5										
	8	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

講義予定

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	9	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		臨床修練 II	
			2										
			3										
			4										
			5										
	10	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

講義予定

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	13	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	14	火	1										
			2										
			3	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			4										
			5										
	15	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	16	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	17	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	20	月	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業		夏季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	21	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	22	水	1							法医学	原		
			2							CBT演習	全員		
			3							症候・病態学演習	鍋島		
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	23	木	1	夏季休業		夏季休業		夏季休業		産科婦人科学	非常勤講師 長沼	領域別集中講義Ⅰ再試験（予定）	
			2							〃	〃		
			3							小児医学	廣瀬伸		
			4							〃	井上		
			5										
	24	金	1					病理学各論中間試験		症候・病態学演習	鍋島		
			2							〃	〃		
			3							産科婦人科学	城田		
			4							〃	伊東裕		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	27	月	1	夏季休業		夏季休業		放射線科学	非常勤講師 納冨	産科婦人科学	伊東裕	夏季休業	
			2					〃	〃	〃	〃		
			3					〃	浦川	小児医学	橋口		
			4					〃	〃	〃	小川		
			5										
	28	火	1			一般・神経生理学試験		放射線科学	長町	整形外科学	塩田	領域別集中講義Ⅱ再試験（予定）	
			2					〃	〃	〃	〃		
			3					〃	吉満	腫瘍・輸血・血液学	髙松		
			4					〃	高野	〃	有馬		
			5										
	29	水	1					放射線科学	長町	法医学	原		
			2					〃	〃	CBT演習	全員		
			3					〃	赤井	症候・病態学演習	安元		
			4					〃	〃	〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
8	30	木	1	夏季休業				放射線科学	赤井	産科婦人科学	城田	Post-CC OSCE	
			2					〃	高野	〃	宮本		
			3					〃	吉満	小児医学	井上		
			4					〃	髙良	〃	堤		
			5										
	31	金	1			微生物学中間試験		放射線科学	東原	症候・病態学演習	出石 八尋		
			2					〃	〃	〃	〃		
			3					〃	赤井	産科婦人科学	伊東智		
			4					〃	〃	〃	非常勤講師 詠田		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	3	月	1	医学概論 II（看護・BSL 実習）		微生物学	廣松			産科婦人科学	宮原		
			2			〃	〃			〃	伊東智		
			3			臓器・病態生理学	市川			小児医学	廣瀬伸		
			4			〃	〃			〃	〃		
			5										
	4	火	1			臓器・病態生理学	市川	放射線科学試験		整形外科学	木下	第 2 回模擬試験	
			2			〃	〃			〃	〃		
			3			組織細胞生物学各論	白澤 角田			腫瘍・輸血・血液学	鍋島		
			4			〃	〃			〃	長町		
			5										
	5	水	1			微生物学	廣松	呼吸器病学	石井	法医学	中村		
			2			〃	〃	〃	〃	CBT 演習	全員		
			3			臓器・病態生理学	市川	消化器病学	竹山	症候・病態学演習	坂中		
			4			〃	〃	〃	向坂	〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	6	木	1	医学概論 II（看護・BSL 実習）		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	釈迦堂	産科婦人科学	南		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3			寄生虫学	石井	呼吸器病学	非常勤講師 福山	小児医学	太田		
			4			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5										
	7	金	1			臓器・病態生理学	井上隆	病理学各論	上杉	症候・病態学演習	三嶋		
			2			〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3					〃	〃	産科婦人科学	宮本		
			4					〃	上杉 中島	〃	井槌		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	10	月	1	夏季休業		微生物学	廣松	消化器病学	東原	産科婦人科学	非常勤講師 加藤	領域別集中講義Ⅲ（精神医学）	尾籠
			2			〃	〃	〃	横山	〃	非常勤講師 髙橋	〃	川嵜
			3			臓器・病態生理学	井上隆	腎臓・膠原病学	升谷	小児医学	堤	〃	西村
			4			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 楯林
			5									〃	衞藤
	11	火	1			臓器・病態生理学	井上隆	腎臓・膠原病学	伊藤	整形外科学	佐伯	領域別集中講義Ⅲ（放射線科学・臨床検査医学）	長町
			2			〃	上原明	〃	〃	〃	非常勤講師 坂口	〃	坂本
			3			組織細胞生物学各論	白澤 石倉	皮膚科学	今福	腫瘍・輸血・血液学	熊川	〃	高野
			4			〃	〃	〃	〃	〃	志村	〃	吉満
			5									〃	自習
	12	水	1			微生物学	廣松	呼吸器病学	岩﨑	法医学	ウォーターズ	領域別集中講義Ⅲ（放射線科学・臨床検査医学）	松永
			2			〃	〃	〃	今村	CBT演習	全員	〃	〃
			3			臓器・病態生理学	上原明	消化器病学	向坂	症候・病態学演習	濵之上	〃	鍋島
			4			〃	〃	〃	横山	〃	〃	〃	田中
			5									〃	自習

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	13	木	1	夏季休業		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	植木	産科婦人科学	吉永	領域別集中講義Ⅲ（眼科学）	日吉
			2			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	佐伯
			3			寄生虫学	石井	呼吸器病学	藤田	小児医学	橋本	〃	尾崎
			4			〃	全員	〃	〃	〃	稲富	〃	自習
			5									〃	〃
	14	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	上原明	病理学各論	石井	症候・病態学演習	増井	領域別集中講義Ⅲ（皮膚科学・形成外科学）	川上
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	林	〃	〃	〃	今福
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	〃	林 中島	産科婦人科学	村田	〃	山口
			4	化学実験		〃	〃	〃	林	〃	非常勤講師 小濱	〃	内藤
			5									〃	柴山

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	17	月	1	解剖学Ⅰ	遠藤	敬老の日							
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	18	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	倉原(海)	腎臓・膠原病学	升谷	整形外科学	信藤	領域別集中講義Ⅲ(整形外科学)	伊崎・金澤 田中祥
			2	第2外国語ⅠA(ドイツ語はⅠB)		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	塩田・西尾 木下
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤 石倉	皮膚科学	今福	腫瘍・輸血・血液学	赤井	〃	佐伯 萩尾
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	大賀	〃	緒方	〃	木山 田中潤
			5	人文・社会科学科目								〃	自習
	19	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	廣松	呼吸器病学	白石素	法医学	久保	領域別集中講義Ⅲ(麻酔科学・救命救急医学)	自習
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員	〃	岩朝
			3	医学概論Ⅱ	今泉	臓器・病態生理学	倉原(海)	消化器病学	安波	症候・病態学演習	太田	〃	石倉
			4	医学概論Ⅱ(心肺蘇生実習)	喜多村	〃	〃	〃	(予備)	〃	〃	〃	松尾
			5	人文・社会・総合系列科目								〃	自習

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	20	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	田中	産科婦人科学	勝田	領域別集中講義Ⅲ（麻酔科学・救命救急医学）	山浦
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	荒木	〃	東
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	全員	呼吸器病学	藤田	小児医学	廣瀬龍	〃	重松
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	廣田
			5	生物学実験								〃	自習
	21	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	本田	病理学各論	林 中島	症候・病態学演習	串間	領域別集中講義Ⅲ（泌尿器科学）	田中
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	伊東	〃	〃	〃	石井
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	公衆衛生学	（予備）	産科婦人科学	荒木	〃	松岡
			4	化学実験		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 日髙	〃	中村
			5									〃	入江

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
9	24	月	1	解剖学Ⅰ	遠藤	振替休日							
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	25	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	本田	腎臓・膠原病学	升谷	整形外科学	西尾	領域別集中講義Ⅲ (耳鼻咽喉・口腔系)	近藤
			2	第2外国語ⅠA(ドイツ語はⅠB)		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 諫山	〃	坂田
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤 角田	皮膚科学	今福	腫瘍・輸血・血液学	佐々木	〃	〃
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	白澤	〃	内藤	〃	田中	〃	末田
			5	人文・社会科学科目								〃	〃
	26	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	栗原	呼吸器病学	永田	法医学	久保	領域別集中講義Ⅲ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	有馬
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員	〃	〃
			3	医学概論Ⅱ	久保	臓器・病態生理学	本田	消化器病学	内藤	症候・病態学演習	非常勤講師 長尾	〃	佐藤
			4	医学概論Ⅱ (心肺蘇生実習)	杉村	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			5	人文・社会・総合系列科目								〃	自習

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	27	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	加藤	産科婦人科学	村田	領域別集中講義Ⅲ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント）	前田
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	荒木	〃	〃
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	非常勤講師 波部	呼吸器病学	藤田	小児医学	野村	〃	辻
			4	物理学実験		〃	〃	〃	石井	〃	〃	〃	〃
			5		生物学実験							〃	自習
	28	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	井上隆	病理学各論	竹下	症候・病態学演習	武岡	領域別集中講義Ⅲ（公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント）	川添
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	公衆衛生学	（予備）	産科婦人科学	讃井	〃	久保
			4	化学実験		〃	〃	〃	〃	〃	村田	〃	〃
			5									〃	自習

※9月29日（土）2限　M5 統合講義（循環器内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	1	月	1	解剖学Ⅰ	入江	微生物学	清水	消化器病学	石井	産科婦人科学	深川	領域別集中講義Ⅲ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	吉村
			2		〃	〃	栗原	〃	〃	〃	讃井	〃	〃
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田	臓器・病態生理学	内田	腎臓・膠原病学	伊藤	小児医学	野村	〃	山浦
			4	生化学	安永	〃	〃	〃	安野	〃	廣瀬伸	〃	自習
			5		〃							〃	〃
	2	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	内田	腎臓・膠原病学	伊藤	整形外科学	前山	領域別集中講義Ⅲ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	自習
			2	第2外国語ⅠA(ドイツ語はⅠB)		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 尾上	〃	〃
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤 角田	皮膚科学	山口	腫瘍・輸血・血液学	茂木	〃	〃
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	非常勤講師 野口	〃	非常勤講師 正木	〃	〃
			5	人文・社会科学科目								〃	〃
	3	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	佐藤	呼吸器病学	石井	法医学	松末	領域別集中講義Ⅲ (公衆衛生学・法医学・セーフティマネージメント)	自習
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	伊藤	〃	〃	CBT演習	全員	〃	〃
			3	医学概論Ⅱ	田村	薬理学Ⅰ	岩本	消化器病学	(予備)	症候・病態学演習	堀端	〃	〃
			4	医学概論Ⅱ(心肺蘇生実習)	喜多村	〃	〃	〃	高田	〃	〃	〃	〃
			5	人文・社会・総合系列科目								〃	〃

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	4	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	森原	産科婦人科学	四元		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	〃	〃	倉員		
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	石井	呼吸器病学	渡辺	小児医学	山﨑		
			4	物理学実験		〃	全員	〃	〃	〃	〃		
			5	生物学実験									
	5	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	内田	病理学各論	竹下	症候・病態学演習	津川	領域別集中講義Ⅲ試験	
			2	第2外国語ⅠB		〃	全員	〃	竹下 濵田・濵﨑	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	〃	青木 古賀	産科婦人科学	四元		
			4	化学実験		〃	〃	〃	非常勤講師 秋山	〃	勝田		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	8	月	1	体育の日									
			2										
			3										
			4										
			5										
	9	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	安野	整形外科学	吉村	領域別集中講義Ⅲ試験	
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤 角田	皮膚科学	國見	腫瘍・輸血・血液学	茂木		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	山口	〃	植木		
			5	人文・社会科学科目									
	10	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	全員	呼吸器病学	早稲田	法医学	松末		
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	吉村	CBT演習	全員		
			3	医学概論Ⅱ	徳永	薬理学Ⅰ	岩本	消化器病学	竹田津	症候・病態学演習	非常勤講師 長尾		
			4	医学概論Ⅱ（心肺蘇生実習）	杉村	〃	喜多知	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	11	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	(予備)	産科婦人科学	深川		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	久能	〃	倉員		
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	石井	呼吸器病学	松本	小児医学	石井		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	井原		
			5		生物学実験								
	12	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	全員	病理学各論	鍋島	症候・病態学演習	大賀		
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	〃	青木	再生・移植医学	小玉		
			4	化学実験		〃	〃	〃	坪井	〃	〃		
			5										

※10月13日（土）２限　Ｍ５ 統合講義（呼吸器内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	15	月	1	解剖学Ⅰ	入江	微生物学	伊藤	消化器病学	石橋	腫瘍・輸血・血液学	非常勤講師 柴田		
			2		〃	〃	〃	〃	吉村	〃	廣田		
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉	臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	中島	小児医学	鶴澤		
			4	生化学	白須	〃	〃	〃	安野	〃	藤田		
			5		〃								
	16	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	上杉	整形外科学	非常勤講師 井上		
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃	〃	〃	〃	非常勤講師 原		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	全員	皮膚科学	今福	腫瘍・輸血・血液学	田中		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									
	17	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	伊藤	呼吸器病学	濵武	法医学	久保	領域別集中講義Ⅲ再試験（予定）	
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学概論Ⅱ	須長	薬理学Ⅰ	岩本	消化器病学	石橋	症候・病態学演習	久保田		
			4	医学概論Ⅱ（心肺蘇生実習）	喜多村	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	18	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	(予備)	整形外科学	木山	領域別集中講義Ⅲ再試験(予定)	
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	船越	〃	坂本		
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	全員	呼吸器病学	藤田	小児医学	佐々木		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	〃	〃	〃		
			5		生物学実験								
	19	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	全員	病理学各論	鍋島 青木	症候・病態学演習	尾籠		
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	二村	〃	衞藤		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	〃	〃	再生・移植医学	白石 中村		
			4	化学実験		〃	〃	〃	〃	〃	小玉		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	22	月	1	解剖学Ⅰ	入江	微生物学	廣松	消化器病学	石橋	腫瘍・輸血・血液学	髙松	総合講義	田中
			2		〃	〃	〃	〃	阿部	〃	〃	〃	伊藤 中村
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉	臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	非常勤講師 安部	小児医学	伊藤	〃	野見山 田邉
			4	生化学	白須	〃	〃	〃	〃	〃	瀬戸上	〃	村田
			5		〃							〃	藤田
	23	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員	消化器病学	吉村	整形外科学	前山	総合講義	三浦
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃	腎臓・膠原病学	中島	〃	〃	〃	合馬 東
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤 角田	皮膚科学	今福	腫瘍・輸血・血液学	髙松	〃	非常勤講師 正木
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	非常勤講師 中村	〃	〃	〃	井上貴 太田・橋本
			5	人文・社会科学科目								〃	内藤・重松 喜多村
	24	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	副島	皮膚科学	内藤	法医学	柏木	総合講義	尾崎 大西
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	非常勤講師 名嘉眞	CBT演習	全員	〃	竹下
			3	医学概論Ⅱ	安元 八尋	薬理学Ⅰ	非常勤講師 喜多紗	消化器病学	竹田津	法医学	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山	〃	吉満 八尋
			4	生化学	安永 白須	〃	田頭	〃	〃			〃	八尋
			5	人文・社会・総合系列科目								〃	髙松

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	25	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		組織細胞生物学各論	全員	消化器病学	長谷川	整形外科学	伊崎		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃	〃	小島	〃	〃		
			3	マクロの生物科学		寄生虫学	石井	呼吸器病学	串間	小児医学	橋口		
			4	物理学実験		〃	廣松	〃	〃	〃	太田		
			5		生物学実験								
	26	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	全員	病理学各論	二村	症候・病態学演習	鍋島		
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃	〃	二村 古賀	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石	〃	非常勤講師 戸田	再生・移植医学	非常勤講師 上本		
			4	化学実験		〃	〃	〃	古賀	〃	小玉		
			5										

※10月27日（土）２限　Ｍ５ 統合講義（腎臓・膠原病内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
10	29	月	1	解剖学Ⅰ	入江	微生物学	廣松	消化器病学	久能	腫瘍・輸血・血液学	佐々木		
			2		〃	〃	〃	〃	船越	〃	〃		
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉	臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	升谷	小児医学	中村		
			4	生化学	安永	〃	〃	〃	非常勤講師 安部	〃	小川		
			5		〃								
	30	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学	中島	整形外科学	田中		
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃	〃	三宅	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	全員	〃	〃	腫瘍・輸血・血液学	熊川		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	消化器病学	愛洲	〃	田中		
			5	人文・社会科学科目									
	31	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	廣松	皮膚科学	國見	法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	副島	〃	大賀	CBT演習	全員		
			3	医学概論Ⅱ	志村	薬理学Ⅰ	岩本	消化器病学	中島	法医学	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山		
			4	医学概論Ⅱ（研究室紹介）	全員	〃	〃	〃	吉田				
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	1	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				腎臓・膠原病学	升谷				
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	三宅				
			3	マクロの生物科学		微生物学	副島	消化器病学	前川	小児医学	吉兼		
			4	物理学実験		〃	〃	〃	船越	〃	〃		
			5	生物学実験									
	2	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	5	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	6	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	胡	病理学各論	古賀	整形外科学	金澤	第3回模擬試験	
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	井上隆	〃	竹下 二村	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤			腫瘍・輸血・血液学	髙松		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃			〃	非常勤講師 正木		
			5	人文・社会科学科目									
	7	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	副島	皮膚科学	柴山	法医学	久保		
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃	〃	〃	CBT演習	全員		
			3	医学概論Ⅱ	志村	薬理学Ⅰ	田頭	消化器病学	阿部	法医学	久保・柏木 原・松末 ウォーターズ 髙山		
			4	医学概論Ⅱ（研究室紹介）	全員	〃	田頭 喜多知	〃	〃				
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	8	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		寄生虫学	全員			CBTネット模試			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	〃						
			3	マクロの生物科学		微生物学	廣松						
			4	物理学実験		〃	〃						
			5		生物学実験								
	9	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	全員			再生・移植医学	坂田		
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃			〃	吉松		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石			〃	小玉		
			4	化学実験		〃	〃			〃	〃		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	12	月	1	解剖学Ⅰ	フェリル	微生物学	副島			腫瘍・輸血・血液学	佐々木		
			2		〃	〃	〃			〃	茂木		
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉	臓器・病態生理学	全員			小児医学	宮本		
			4	生化学	安永	〃	〃			〃	安元		
			5		〃								
	13	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員			整形外科学	塩田		
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃			〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤			腫瘍・輸血・血液学	緒方 小田		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃			〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									
	14	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	全員	公衆衛生学試験					
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃						
			3	医学概論Ⅱ	安元	薬理学Ⅰ	田頭 喜多知						
			4	生化学	安永 白須	〃	全員						
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	15	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		寄生虫学	石井						
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ		〃	全員						
			3	マクロの生物科学		微生物学	全員						
			4	物理学実験		〃	〃						
			5		生物学実験								
	16	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学	全員	腎臓・膠原病学試験		産科婦人科学試験			
			2	第2外国語ⅠB		〃	〃						
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	安元・八尋 田中・出石						
			4	化学実験		〃	〃						
			5										

※11月17日（土）2限　M5 統合講義（小児科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	19	月	1	解剖学Ⅰ	坂田	微生物学	全員	呼吸器病学試験		症候・病態学演習試験			
			2		〃	〃	〃						
			3	医学生のための生命科学	白澤 石倉	臓器・病態生理学	全員						
			4	生化学	白須	〃	〃						
			5		〃								
	20	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員					総合試験Ⅰ	
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃						
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ		組織細胞生物学各論	白澤						
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃						
			5	人文・社会科学科目									
	21	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		微生物学	全員						
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ		〃	〃						
			3	医学概論Ⅱ	安元 田中	臓器・病態生理学	岩本 井上隆						
			4	医学概論Ⅱ（研究室紹介）	全員	〃	井上隆						
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	22	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ						法医学試験			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ									
			3	マクロの生物科学									
			4	物理学実験									
			5	生物学実験									
	23	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		勤労感謝の日							
			2	第2外国語ⅠB									
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			4	化学実験									
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	26	月	1	解剖学Ⅰ	フェリル	微生物学	全員	病理学各論試験		再生・移植医学試験			
			2		〃	〃	〃						
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田	臓器・病態生理学	全員						
			4	生化学	白須	〃	〃						
			5		安永								
	27	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ		臓器・病態生理学	全員						
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）		〃	〃						
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			5	人文・社会科学科目									
	28	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ				皮膚科学試験		小児医学試験			
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			3	医学概論Ⅱ	安元 八尋								
			4	生化学	白須								
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
11	29	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ									
			3	マクロの生物科学									
			4	物理学実験									
			5	生物学実験									
	30	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				消化器病学中間試験		整形外科学試験			
			2	第2外国語ⅠB									
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ		臨床医学入門Ⅰ	全員						
			4	化学実験		〃	〃						
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	3	月	1	解剖学Ⅰ	立花			消化器病学	八尾	腫瘍・輸血・血液学試験			
			2		〃			〃	久能				
			3	医学生のための生命科学	白澤 土井			感染症学	髙田				
			4	生化学	白須			〃	非常勤講師 下野				
			5		安永								
	4	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				眼科学	内尾	CBT演習	自習		
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）				〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ				感染症学	戸川	〃	全員		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	髙田	〃	〃		
			5	人文・社会科学科目									
	5	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		薬理学Ⅰ試験		形成外科学	大慈弥	CBT演習	自習		
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	川上	〃	〃		
			3	医学概論Ⅱ	小玉 和田			歯科口腔外科学	近藤	〃	〃		
			4	生化学	安永 白須			〃	梅本	〃	〃		
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	6	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				形成外科学	秋田	CBT演習	自習		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	〃	〃	〃		
			3	マクロの生物科学				眼科学	佐伯	〃	〃		
			4	物理学実験				〃	日吉	〃	〃		
			5	生物学実験									
	7	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				眼科学	原田	CBT演習	自習		
			2	第2外国語ⅠB				〃	〃	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ				歯科口腔外科学	吉野	〃	〃		
			4	化学実験				〃	喜多	〃	〃		
			5										

※12月8日（土）2限　M5 統合講義（内分泌・糖尿病内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	10	月	1	解剖学Ⅰ	非常勤講師 福田			消化器病学	久能	CBT演習	自習	総合試験Ⅱ	
			2		〃			〃	二村	〃	〃		
			3	医学生のための生命科学	白澤 土井			感染症学	戸川	〃	〃		
			4	生化学	安永			〃	〃	〃	〃		
			5		〃								
	11	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				眼科学	尾崎				
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）				〃	内尾				
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ				感染症学	鍋島				
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	〃				
			5	人文・社会科学科目									
	12	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ		寄生虫学試験		形成外科学	森田				
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	稲本				
			3	医学概論Ⅱ	喜多村 西川			歯科口腔外科学	近藤				
			4	医学概論Ⅱ（研究室紹介）	全員			〃	〃				
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	13	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				形成外科学	髙木				
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	鈴木				
			3	マクロの生物科学				眼科学	非常勤講師 皆良田				
			4	物理学実験				〃	日吉				
			5		生物学実験								
	14	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		組織細胞生物学各論試験		眼科学	尾崎	全国共用試験（CBT）			
			2	第2外国語ⅠB				〃	〃				
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ				歯科口腔外科学	喜多				
			4	化学実験				〃	〃				
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	17	月	1	解剖学Ⅰ	非常勤講師 福田	微生物学試験		消化器病学	二村	臨床修練入門 (診断学実習概説)	伊崎		
			2		〃			〃	〃	〃	宮原大		
			3	医学生のための 生命科学	白澤 角田			感染症学	髙田	〃	吉田		
			4	生化学	安永			〃	〃	〃	藤岡		
			5		〃								
	18	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				眼科学	内尾	臨床修練入門 (診断学実習概説)	河村 安元		
			2	第2外国語ⅠA(ドイツ語はⅠB)				〃	有田	〃	野原 愛洲		
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ				感染症学	髙田	〃	戸川		
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	戸川	〃	森井		
			5	人文・社会科学科目									
	19	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ				形成外科学	森永	臨床修練入門 (診断学実習概説)	古屋		
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ				〃	大慈弥	〃	神村		
			3	医学概論Ⅱ	非常勤講師 石井			歯科口腔外科学	瀬戸	〃	〃		
			4	生化学	安永 白須			〃	〃	〃	宮原聡		
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	20	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ				形成外科学	大慈弥	臨床修練入門(診断学実習概説)	緒方		
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ				〃	〃	〃	〃		
			3	マクロの生物科学				眼科学	内尾	〃	首藤		
			4	物理学実験				〃	大島	〃	〃		
			5	生物学実験									
	21	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ		臓器・病態生理学試験		眼科学	尾崎	臨床修練入門(診断学実習概説)	髙松	冬季休業	
			2	第2外国語ⅠB				〃	岡村	〃	〃		
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ				歯科口腔外科学	梅本	〃	〃		
			4	化学実験				〃	非常勤講師 原	〃	前田		
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	24	月	1	解剖学 I	遠藤	振替休日							
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 土井								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	25	火	1			冬季休業		冬季休業				冬季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	26	水	1							冬季休業			
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	27	木	1	冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	28	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
12	31	月	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
1	1	火	1										
			2										
			3	冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業	
			4										
			5										
	2	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	3	木	1	冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業		冬季休業	
			2										
			3										
			4										
			5										
	4	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	7	月	1	解剖学Ⅰ	非常勤講師 福田	研究室配属		冬季休業		追・再試験		冬季休業	
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 角田								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	8	火	1	インターミディエイト・イングリッシュⅠ				眼科学	内尾			第4回模擬試験	
			2	第2外国語ⅠA（ドイツ語はⅠB）				〃	岡村				
			3	人文・社会科学科目／生体の化学／生涯スポーツ演習Ⅰ									
			4	人文・社会・総合系列科目／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			5	人文・社会科学科目									
	9	水	1	インターミディエイト・イングリッシュⅡ									
			2	人文・社会科学科目／物理の世界／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			3	医学概論Ⅱ	安元 八尋								
			4	生化学	安永 白須								
			5	人文・社会・総合系列科目									

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	10	木	1	人文・社会科学科目／生涯スポーツ演習Ⅱ		研究室配属				追・再試験			
			2	インターミディエイト・イングリッシュⅢ									
			3	マクロの生物科学				眼科学	佐伯				
			4	物理学実験				〃	非常勤講師 加藤				
			5	生物学実験									
	11	金	1	インターミディエイト・イングリッシュⅣ				眼科学	尾崎				
			2	第2外国語ⅠB				〃	有田				
			3	人文・社会科学科目／統計入門／生涯スポーツ演習Ⅱ									
			4	化学実験									
			5										

※1月12日（土）2限　M5 統合講義（感染症）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	14	月	1	成人の日									
			2										
			3										
			4										
			5										
	15	火	1	解剖学 I	非常勤講師 福田	研究室配属				追・再試験			
			2		〃								
			3	医学生のための生命科学	白澤 土井								
			4	生化学	安永								
			5		〃								
	16	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	17	木	1	試験		研究室配属				追・再試験			
			2										
			3										
			4										
			5										
	18	金	1					消化器病学試験					
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	21	月	1	試験		研究室配属		感染症学試験		臨床修練入門 (診断学実習・ スキルスラボ演習・病棟実習)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	22	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	23	水	1					形成外科学試験					
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	24	木	1	試験		研究室配属				臨床修練入門（診断学実習・スキルスラボ演習・病棟実習）			
			2										
			3										
			4										
			5										
	25	金	1					歯科口腔外科学試験					
			2										
			3										
			4										
			5										

※1月26日（土）2限　M5 統合講義（内分泌・糖尿病内科）

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	28	月	1	試験		研究室配属		眼科学試験		臨床修練入門 (診断学実習・ スキルスラボ演習・病棟実習)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	29	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	30	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
1	31	木	1			研究室配属				臨床修練入門 (診断学実習・ スキルスラボ演習・病棟実習)			
			2										
			3										
			4										
			5										
2	1	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
2	4	月	1							臨床修練入門 (診断学実習・ スキルスラボ演習・病棟実習)			
			2										
			3										
			4										
			5										
	5	火	1										
			2										
			3										
			4										
			5										
	6	水	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

				M 1		M 2		M 3		M 4		M 6	
月	日	曜	限	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	科目	担当者
	7	木	1			全国共用試験（OSCE体験）				全国共用試験（OSCE）			
			2										
			3										
			4										
			5										
	8	金	1										
			2										
			3										
			4										
			5										

※２月16日（土）～２月28日（木）M1　追・再試験

※２月16日（土）～３月４日（月）M2、M3　追・再試験

※３月11日（月）～３月29日（金）M4　BSL